

平成 30 年度

岩倉市市民意向調査報告書

－ 第 5 次岩倉市総合計画策定に向けて－

平成 31 年 3 月

岩倉市

目次

はじめに 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象者	1
3. 調査方法	1
4. 調査期間	1
5. 調査票の回収状況	2
6. 標本誤差の範囲	3
7. グラフの見方の注意点	4
8. 地域ごとの分析	4
I. 回答者の属性	5
(1) 性別 (問1)	5
(2) 年齢 (問2)	6
(3) 居住地区 (問3)	7
(4) 職業 (問4)	8
(5) 世帯のタイプ (問5)	9
(6) 居住年数 (問6)	12
(7) 同居人 (問7)	14
II. 岩倉市の住みやすさ	17
1. 住環境と魅力	17
(1) 周辺の生活環境 (問8)	17
(2) 岩倉市の魅力 (問9)	38
2. 施策に対する満足度と重要度	48
(1) 施策に対する満足度 (問10)	48
(2) 施策に対する重要度 (問10)	54
(3) 施策に対する満足度と重要度の評価 (ポートフォリオ分析) (問10)	59
3. 住みやすさの評価と定住意向	65
(1) 住む場所としての評価 (問11)	65
(2) 総合的な住みやすさの評価 (問12)	75
(3) 定住意向 (問13)	79
(4) 定住理由 (問13)	83
(5) 移転理由 (問13)	84
(6) 住環境の問題点 (問14)	85
(7) まちづくりのルールについての考え (問15)	88
III. 健康福祉	93
(1) 健康状態 (問16)	93
(2) 自身の体力の評価 (問17)	96
(3) スポーツ・運動の実施 (問18)	97
(4) スポーツ・運動の阻害要因 (問18-1)	99

(5)	スポーツの将来展望 (問 19)	101
(6)	健康維持・増進のための行動 (問 20)	102
(7)	食生活での心がけ (問 21)	105
(8)	食育についての関心 (問 22)	107
(9)	力を入れるべき健康づくりの施策 (問 23)	110
(10)	子育てに関する施策への要望 (問 24)	113
(11)	高齢者福祉に関する施策への要望 (問 25)	117
(12)	地域福祉に関する施策への要望 (問 26)	121
IV.	生涯学習、男女共同参画、文化	125
(1)	生涯学習の目的・動機 (問 27)	125
(2)	生涯学習の参加状況と参加意向 (問 28)	126
(3)	男女共同参画に関する施策への要望 (問 29)	133
(4)	多文化共生に関する施策への要望 (問 30)	137
(5)	平和事業に関する認知状況 (問 31)	141
V.	環境・防災・まちづくり	145
(1)	環境のための取組の実施状況 (問 32)	145
(2)	災害のための取組の実施状況 (問 33)	147
(3)	岩倉駅東地区のあり方 (問 34)	149
(4)	岩倉駅東地区への関わり方 (問 35)	152
VI.	市民協働・行政経営	155
(1)	自治基本条例の認知度 (問 36)	155
(2)	市民参加条例の認知度 (問 37)	156
(3)	市民の意見の市政への反映で重要なこと (問 38)	157
(4)	市政への参加経験 (問 39)	158
(5)	市政参加の意向 (問 40)	159
(6)	近所づきあいの程度 (問 41)	162
(7)	近所づきあいの満足度 (問 42)	164
(8)	市民活動や地域活動の参加状況 (問 43)	167
(9)	行政経営に対する要望 (問 44)	172
(10)	行政サービスと市民負担のバランス (問 45)	174
(11)	情報提供媒体の利用状況 (問 46)	176
(12)	情報提供に対する要望 (問 47)	181
VII.	まとめ—第5次総合計画策定に向けた主な課題	185
VIII.	資料編	193
1.	自由回答件数 (分野別)	193
2.	自由回答一覧	194
3.	調査票	212

はじめに 調査の概要

はじめに 調査の概要

1. 調査の目的

岩倉市では、平成 23 年度を初年度、平成 32 年度を目標年次とした「第 4 次岩倉市総合計画」を策定し、この計画に基づいて、まちづくり・市政を推進してきました。

目標年次を 2 年後に控える中で、平成 30 年度から新たに「第 5 次岩倉市総合計画」の策定作業を行っています。

本調査は、「第 5 次岩倉市総合計画」を策定にするにあたり、市民の市政に対する評価や要望等を把握し、市民の意向を十分に反映した総合計画づくりをする上での基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

なお、調査票の設計にあたっては、過去に実施した市民意向調査結果との比較分析ができるように配慮しています。

2. 調査対象者

平成 30 年 8 月 1 日時点で岩倉市在住の 18 歳以上の市民から 4,000 人（外国籍の住民 203 人を含む）を、層化無作為抽出法を用いて抽出しました。

3. 調査方法

郵送により調査対象者へ配布・回収を行いました。

4. 調査期間

平成 30 年 8 月 24 日から 9 月 10 日まで

5. 調査票の回収状況

回収状況は下記の表に示すとおりです。

配布数 4,000 票に対して、回収数は 1,292 票で、回収率は 32.3%でした。なお、未記入などの無効票を除いた有効回収数は 1,289 票で、有効回収率は 32.2%でした。

図表 0-1 調査票の回収状況（年齢別）

	配布数 (票)	回収数 (票)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
全体	4,000	1,292	1,289	32.2%
20歳代以下	591	94	94	15.9%
30歳代	645	159	159	24.7%
40歳代	765	223	223	29.2%
50歳代	588	208	208	35.4%
60歳代	543	215	215	39.6%
70歳以上	868	378	378	43.5%
不明	-	12	12	-
未回収	-	2	-	-

図表 0-2 調査票の回収状況（小学校区別）

	配布数 (票)	回収数 (票)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
全体	4,000	1,292	1,289	32.2%
岩倉北小学校区	1,188	435	435	36.6%
岩倉南小学校区	784	248	248	31.6%
岩倉東小学校区	392	93	93	23.7%
五条川小学校区	608	209	209	34.4%
曾野小学校区	1,028	292	292	28.4%
不明	-	12	12	-
未回収	-	2	-	-

※配布数には外国籍 203 人を含む。外国籍の住民の有効回収数は 11 票。

6. 標本誤差の範囲

この調査は、市民の中から 4,000 人を対象として抽出した標本調査であるため、その結果や誤差については、統計理論を用いて推定することができます。標本調査において生じる誤差である標本誤差は、以下の数式により求めることができます。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
n : 回収数
p : 結果の比率
k : 定数
σ : 標本誤差

ここで、信頼区間を、社会調査において一般的に用いられている 0.95 (95%) とすると、定数 k は 1.96 となります。これをもとに、小学校区及び年齢別について、標本誤差 σ を算出すると、次とおりとなります。

図表 0-3 標本誤差の範囲（年齢別）

p (回答比率)	n	10%/90%	20%/80%	30%/70%	40%/60%	50%/50%
全体	1,289	1.6%	2.1%	2.5%	2.6%	2.7%
20歳代以下	94	6.1%	8.1%	9.3%	9.9%	10.1%
30歳代	159	4.7%	6.2%	7.1%	7.6%	7.8%
40歳代	223	3.9%	5.2%	6.0%	6.4%	6.5%
50歳代	208	4.1%	5.4%	6.2%	6.6%	6.8%
60歳代	215	4.0%	5.3%	6.1%	6.5%	6.7%
70歳以上	378	3.0%	4.0%	4.6%	4.9%	5.0%

図表 0-4 標本誤差の範囲（小学校区別）

p (回答比率)	n	10%/90%	20%/80%	30%/70%	40%/60%	50%/50%
全体	1,289	1.6%	2.1%	2.5%	2.6%	2.7%
岩倉北小学校区	435	2.8%	3.7%	4.3%	4.6%	4.7%
岩倉南小学校区	248	3.7%	5.0%	5.7%	6.1%	6.2%
岩倉東小学校区	93	6.1%	8.1%	9.3%	9.9%	10.1%
五条川小学校区	209	4.1%	5.4%	6.2%	6.6%	6.8%
曾野小学校区	292	3.4%	4.6%	5.2%	5.6%	5.7%

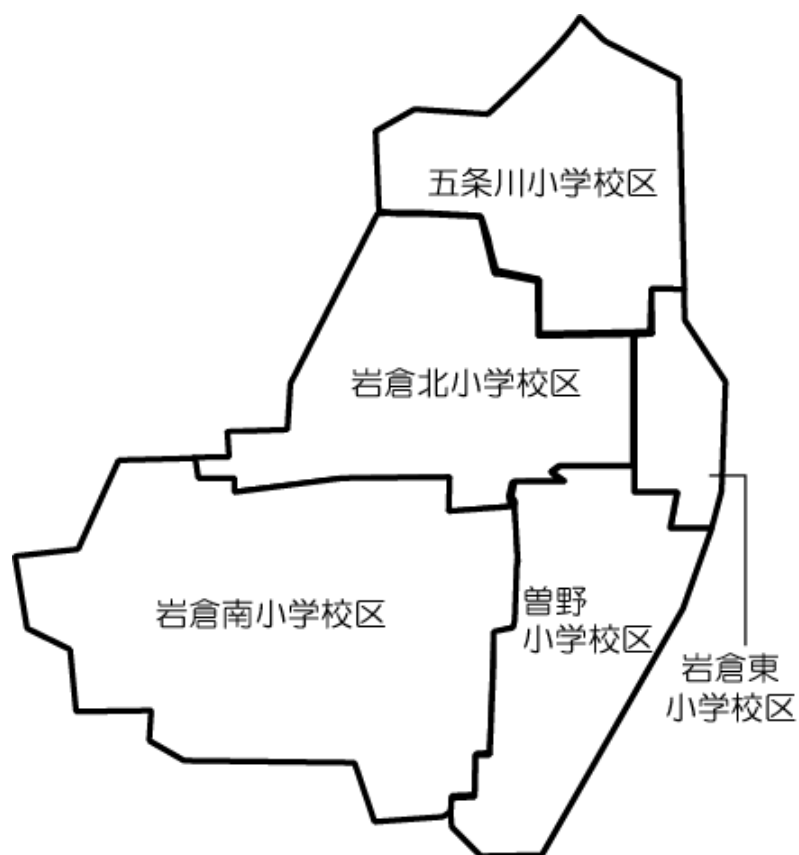
7. グラフの見方の注意点

- ・構成比(%)は、原則として小数点以下第2位を四捨五入して算出した数値であるため、合計が100.0%にならない場合があります。また、得点の算出については、小数点第3位以下を四捨五入して表示しています。
- ・クロス集計においては、表側の「回答なし」を省略しているため、単純集計における全体の回答者数と各項目の回答者数の合計は一致しません。
- ・複数回答(ダンゴグラフ)の場合、合計は100.0%を超えます。
- ・表、グラフ等の見出し及び文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度で省略している場合があります。

8. 地域ごとの分析

地域ごとの差異をみるために、小学校区を単位とする分析も行っています。なお、小学校区の位置については下の図のとおりです。

図表 0-5 小学校区の位置



I . 回答者の属性

I. 回答者の属性

(1) 性別 (問1)

問1 あなたの性別を教えてください。【○は1つだけ】

回答者の性別は、女性が男性を上回っています。

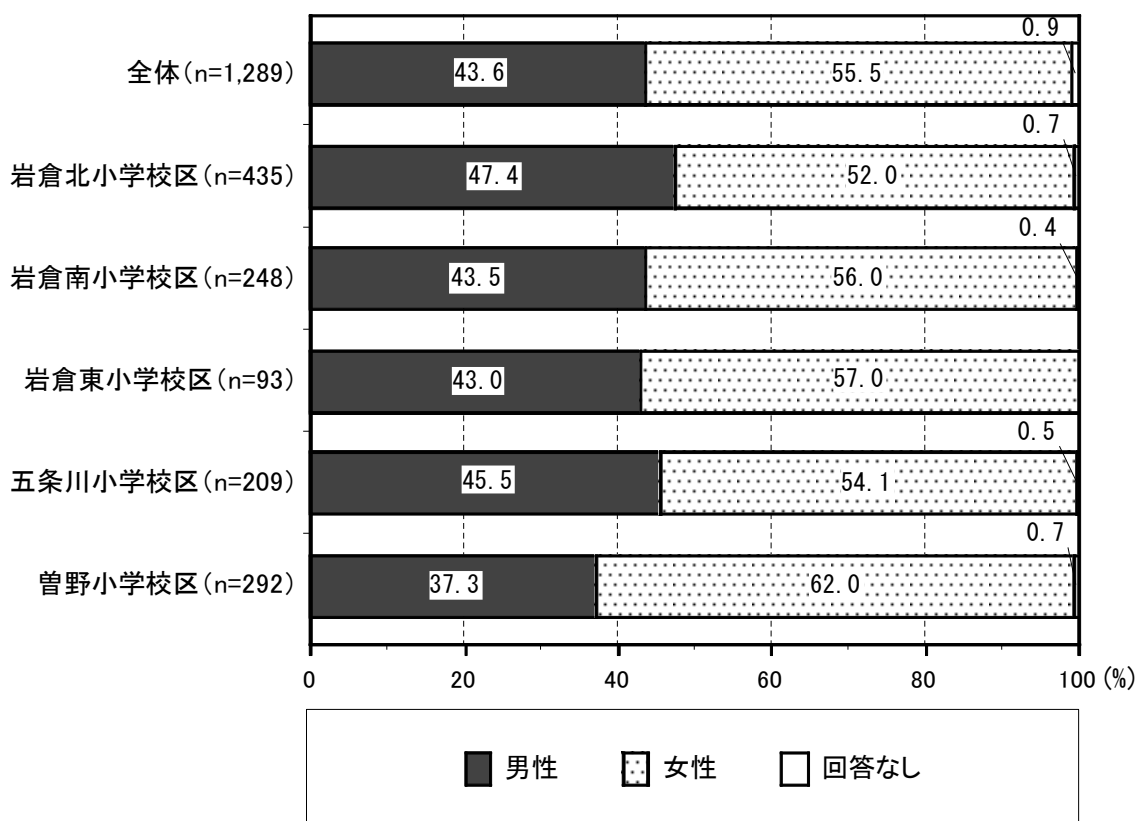
【全体】

- 「男性」が43.6%、「女性」と55.5%、「女性」の割合が多くなっています。
- 調査時点の市内の男女比がほぼ同じであるのに対し、今回の調査では、「女性」の割合が「男性」の割合を11.9ポイント上回っています。

【小学校区別】

- 小学校区別で見ると、岩倉北小学校区では、「男性」と「女性」との差が4.6ポイントと、他の小学校区と比べて男女の差が小さくなっています。
- 岩倉南、岩倉東、曾野小学校区では、「女性」と「男性」の差が10ポイントを超えています。

図表 I-1 性別 (小学校区別)



(2) 年齢 (問2)

問2 あなたの年齢を教えてください。【○は1つだけ】

回答者の年齢層は、若年層（20歳代と30歳代）が19.6%、壮年層（40歳代と50歳代）が33.4%、高齢者層（60歳以上）が46.0%となっています。

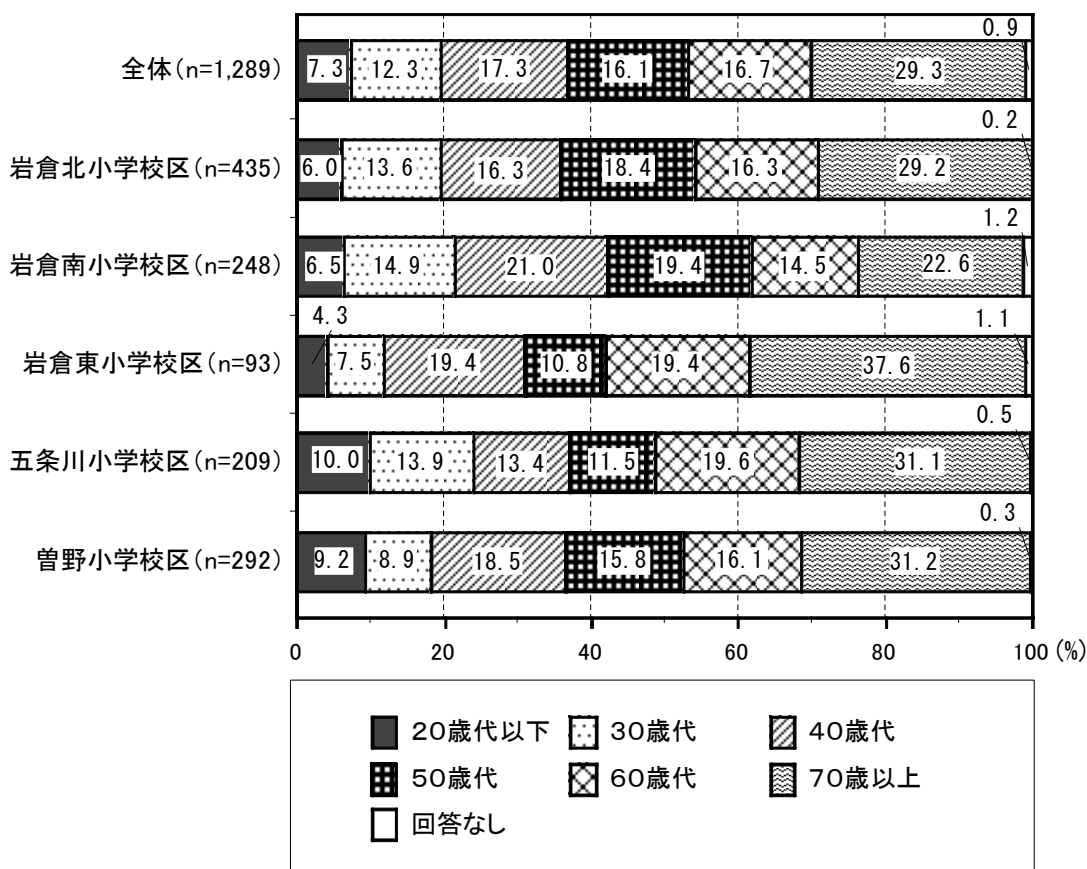
【全体】

- 「20歳代以下」が7.3%、「30歳代」は12.3%で、これらを合わせた若年層は19.6%となっています。
- 「40歳代」が17.3%、「50歳代」は16.1%で、これらを合わせた壮年層は33.4%となっています。
- 「60歳代」が16.7%、「70歳以上」が29.3%で、これらを合わせた高齢者層は46.0%となっています。

【小学校区別】

- 小学校区別にみると、若年層の割合は、五条川小学校区が23.9%であるのに対して、岩倉東小学校区では11.8%となっており、12.1ポイントの差がみられます。
- 高齢者の割合は、岩倉東小学校区が57.0%、五条川小学校区が50.7%と半数を超えており、岩倉東小学校区は、最も低い岩倉南小学校区の37.1%より約20ポイント高くなっています。

図表 I-2 年齢 (小学校区別)



(3) 居住地区 (問3)

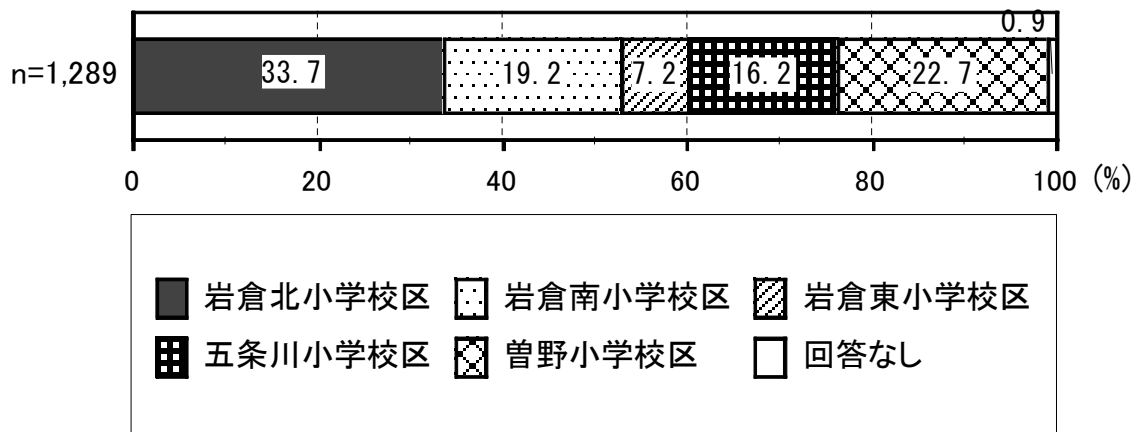
問3 あなたの住まいは、どの小学校区にありますか。【○は1つだけ】

回答者が住む小学校区は、「岩倉北小学校区」が33.7%で最も多く、次いで「曾野小学校区」、「岩倉南小学校区」の順となっています。

【全体】

○回答者が住む小学校区は、「岩倉北小学校区」が33.7%で最も多く、次いで「曾野小学校区」が22.7%、「岩倉南小学校区」が19.2%の順となっています。

図表 1-3 居住する小学校区



(4) 職業 (問4)

問4 あなたの職業を教えてください。【○は1つだけ】

回答者のうち、就業者の割合は53.0%となっています。

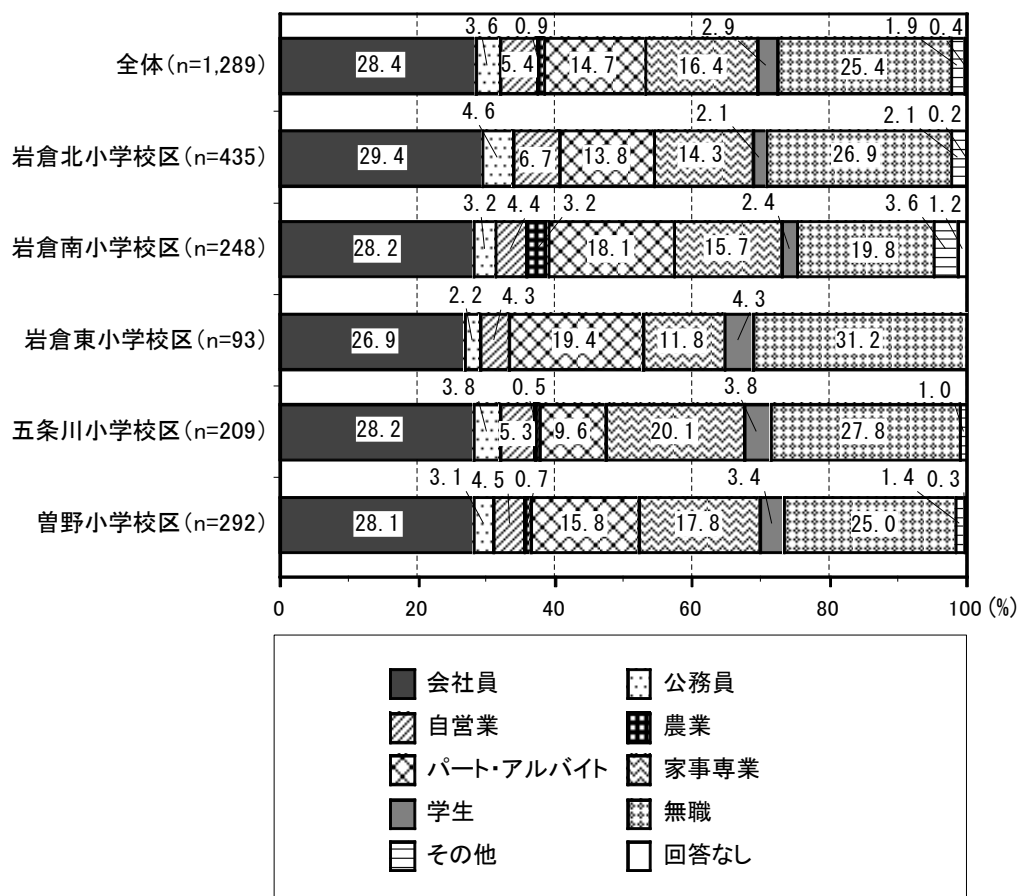
【全体】

- 回答者のうち、「会社員」は28.4%、「公務員」は3.6%、「自営業」は5.4%、「農業」は0.9%、「パート・アルバイト」は14.7%で、これらを合わせた就業者の割合は53.0%となっています。
- 回答者のうち、「無職」は25.4%、「家事専業」は16.4%、「学生」は2.9%となっています。

【小学校区別】

- 「会社員」や「自営業」については、小学校区間で大きな差異はみられません。
- 「パート・アルバイト」は、岩倉東小学校区が19.4%で最も高く、最も低い五条川小学校区の9.6%と、9.8ポイントの差がみられます。
- 「家事専業」は、五条川小学校区が20.1%で最も高く、最も低い岩倉東小学校区の11.8%とは、8.3ポイントの差がみられます。
- 「無職」は、岩倉東小学校区が31.2%で最も高く、最も低い岩倉南小学校区の19.8%とは、11.4ポイントの差がみられます。

図表 I-4 職業 (小学校区別)



(5) 世帯のタイプ (問5)

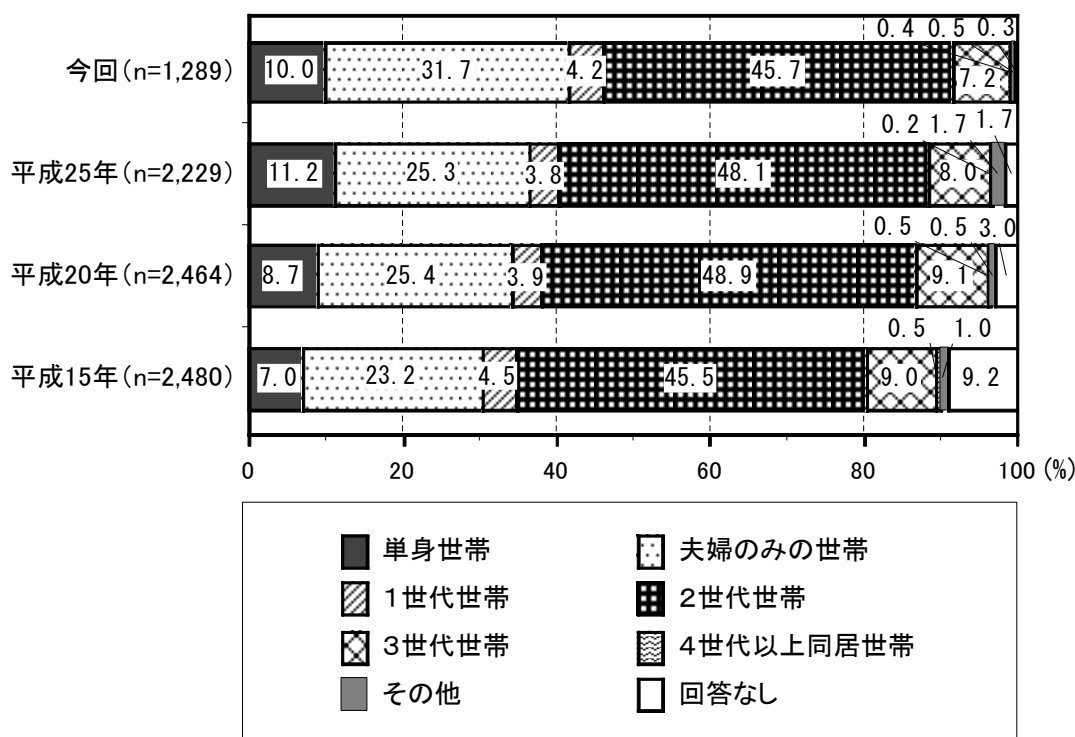
問5 あなたの世帯のタイプは次のどれに属しますか。【○は1つだけ】

「2世代同居世帯(親と子どもの世帯)」が45.7%と最も多くを占め、次いで「夫婦のみの世帯」が31.7%で、合わせて70%以上を占めています。

【全体】

○「2世代同居世帯(親と子どもの世帯)」(以後「2世代世帯」という。)が45.7%と最も多くを占め、次いで「夫婦のみの世帯」が31.7%で、合わせて70%以上を占めています。次いで、「単身世帯」が10.0%、「3世代同居世帯」(以後「3世代世帯」という。)が7.2%、「1世代世帯(夫婦のみの世帯を除く。例:兄弟の実・姉妹のみの世帯など)」(以後「1世代世帯」という。)が4.2%の順となっています。

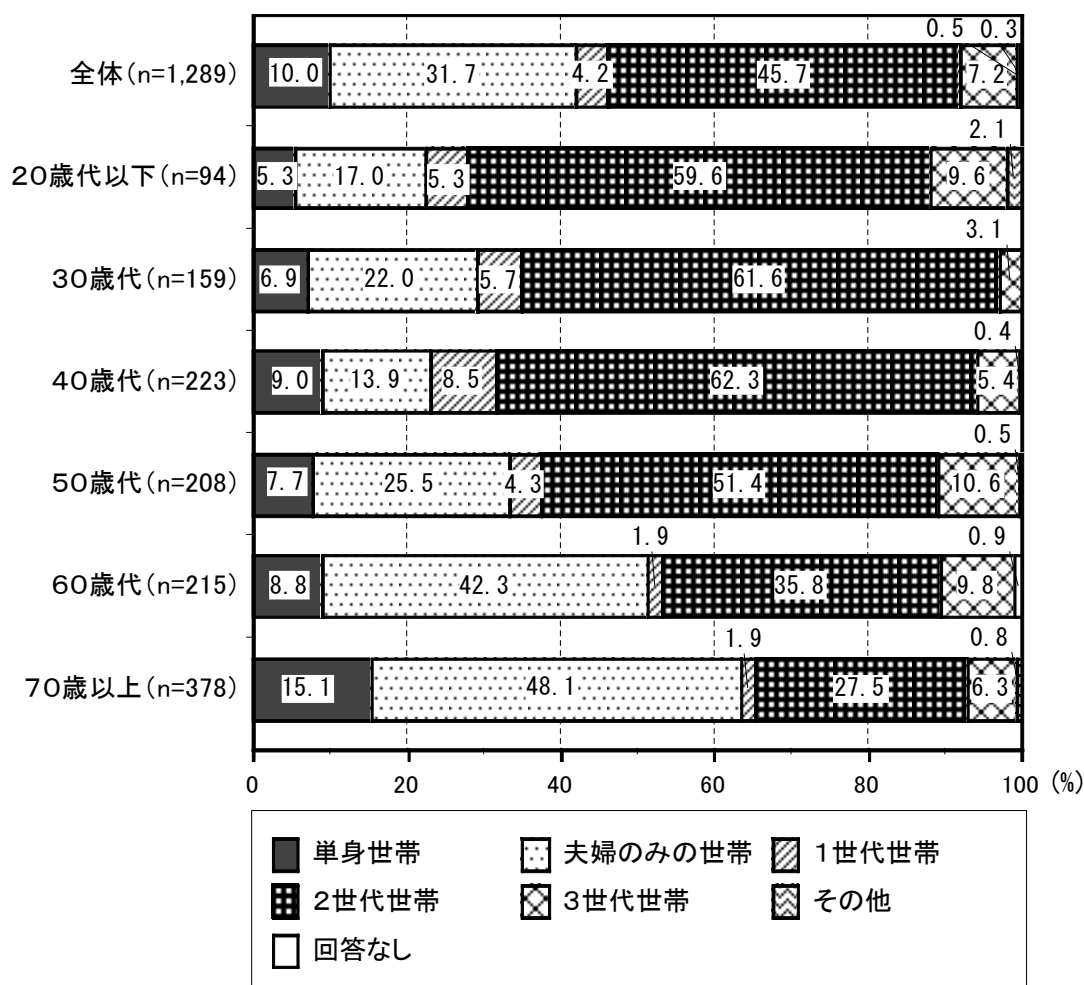
図表 I-5 世帯のタイプ (経年変化)



【年齢別】

- 「2世代世帯」は、40歳代が62.3%で最も多く、次いで30歳代が61.6%、20歳代で59.6%の順で、50歳代でも51.4%と半数を超えています。
- 一方で、20歳代から40歳代にかけての年齢層では「夫婦のみの世帯」が少なく、最も少ない40歳代では13.9%、20歳代でも17.0%となっています。
- 60歳代と70歳以上の高齢者層では、「2世代世帯」がそれぞれ、35.8%、27.5%と、他の年齢層と比べて低くなっています。
- 「単身世帯」、「夫婦のみの世帯」及び「1世代世帯」を合わせた“1世代のみの世帯”の割合は、60歳代で53.0%、70歳以上で65.1%と半数を超えており、他の年齢層と比べて高くなっています。
- 特に「単身世帯」についてみると、70歳以上は15.1%と他の年齢層に比べてやや高くなっており、「夫婦のみの世帯」についても60歳代で42.3%、70歳以上で48.1%と、他の年齢層と比べて高くなっています。
- 70歳以上において、「単身世帯」、「夫婦のみの世帯」及び「1世代世帯」を合わせた“1世代のみの世帯”割合は、平成25年調査の59.1%から今回調査で65.1%へ6.0ポイント増加しています。

図表 I-6 世帯のタイプ（年齢別）

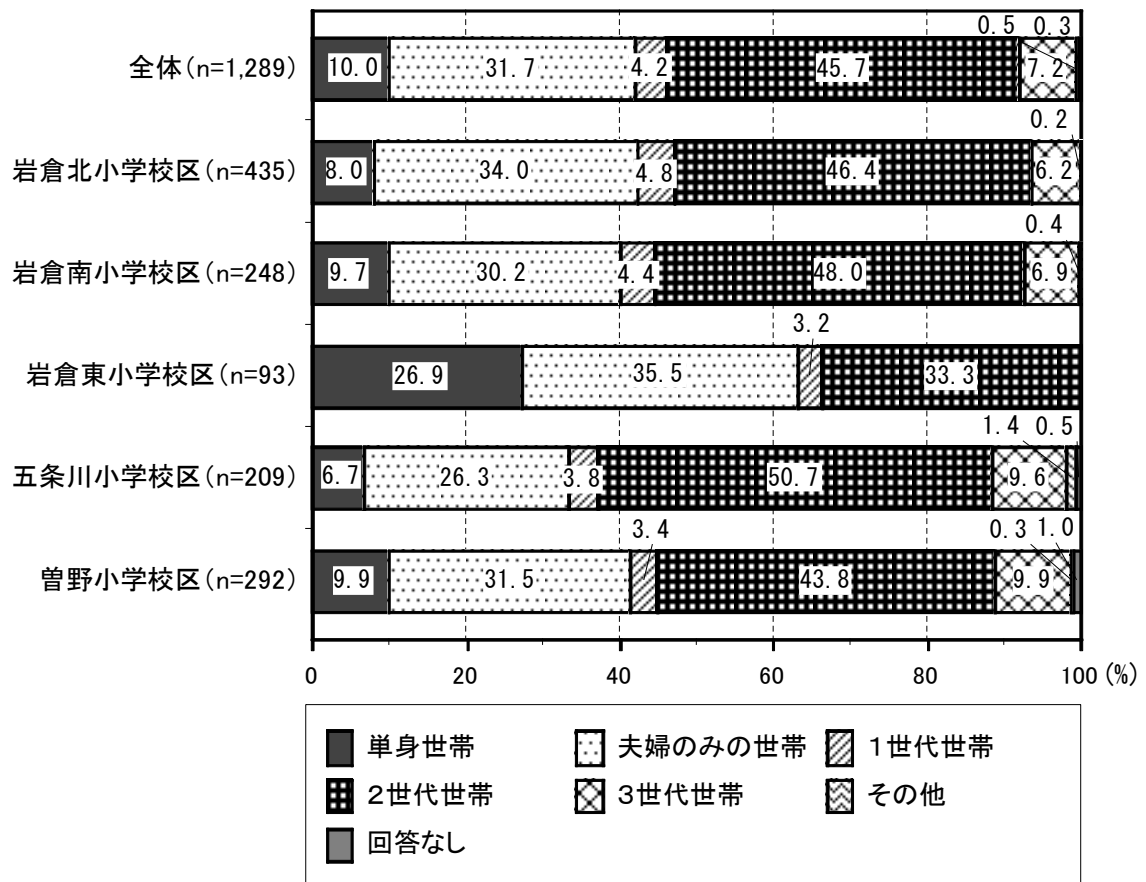


【小学校区別】

○岩倉東小学校区では、「単身世帯」(26.9%)と「夫婦のみの世帯」(35.5%)を合わせて60%を超えており、他の小学校区よりも高くなっています。また、「2世代世帯」が33.3%と、他の小学校区に比べて10ポイント以上低くなっている点が特徴として挙げられます。

○岩倉東小学校区には、昭和40年年齢層初頭に日本住宅公団が建設した岩倉団地が立地しており、入居者の子どもが独立して、親世代のみが団地での居住を継続する事例が多くみられることが背景にあると考えられます。

図表 I-7 世帯のタイプ (小学校区別)



(6) 居住年数 (問6)

問6 岩倉市にお住まいになって何年になりますか。【○は1つだけ】

居住年数は「30年以上」が50.0%で最も高く、次いで「20年以上30年未満」が15.9%となっており、「20年以上」が65.9%となっています。

平成20年調査、平成25年調査と比較して大きく変化した項目はみられません。

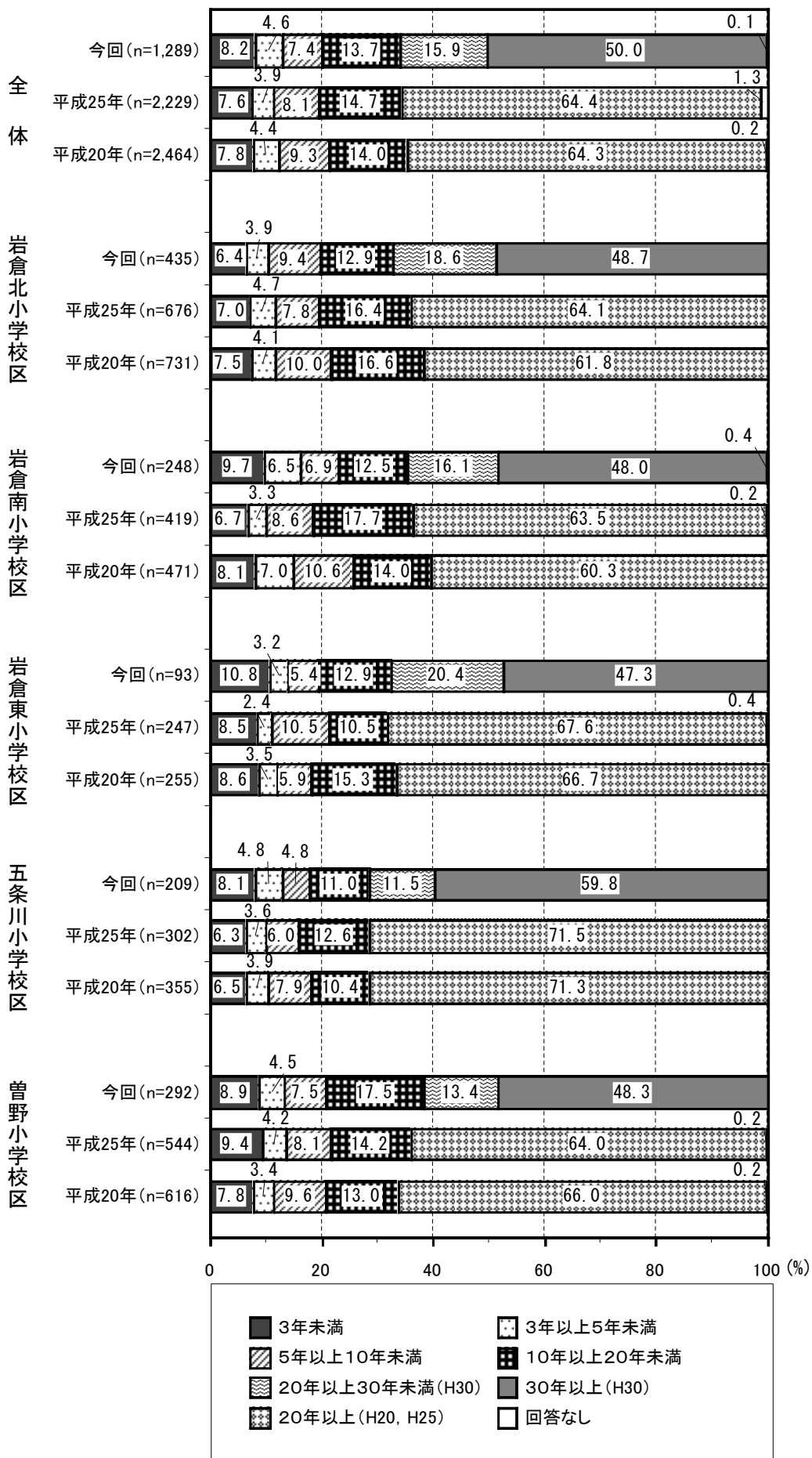
【全体】

- 居住年数は「30年以上」が50.0%で最も高く、次いで「20年以上30年未満」が15.9%となっており、「20年以上」が65.9%となっています。
- 「10年以上20年未満」は13.7%、「20年以上」の65.9%と合わせて79.6%が、岩倉市に10年以上居住しています。
- 全体の割合をみると、平成20年調査、平成25年調査と比較して大きく変化した項目はみられません。

【小学校区別】

- 小学校区別にみると、五条川小学校区では「30年以上」との回答が59.8%で最も高く、唯一半数を超えています。
 - 「3年未満」との回答は、岩倉東小学校区が10.8%で最も高くなっています。
-

図表 I-8 居住年数（小学校区別）



(7) 同居人 (問7)

問7

あなたの家では、どのような方が同居されていますか。あなた自身を含めてお答えください。【あてはまるものすべてに○】

「70歳以上の高齢者」の同居人がいるとの回答は、41.8%となっています。「乳幼児」が12.2%、「小学生」、「中学生」、「高校生」、「大学生・専門学校生」がそれぞれ10%程度となっています。

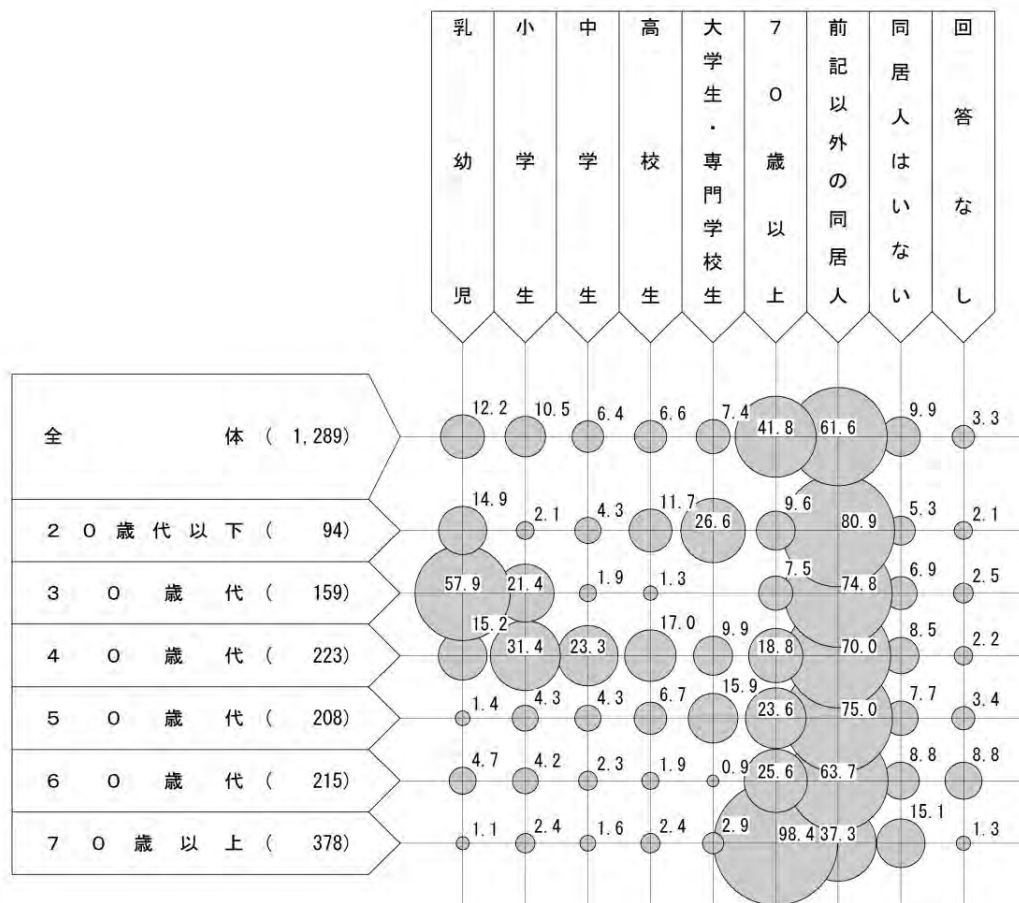
【全体】

- 「70歳以上の高齢者」の同居人がいるとの回答は、41.8%となっています。
- 「乳幼児」が12.2%、「小学生」が10.5%、「中学生」が6.4%、「高校生」が6.6%、「大学生・専門学校生」が7.4%と、それぞれ10%程度となっています。

【年齢別】

- 「70歳以上の高齢者」の同居人がいるとの回答は、回答者が70歳以上の場合、98.4%となっています。
- 「乳幼児」は30歳代、「小学生」は30歳代と40歳代、「中学生」と「高校生」は40歳代、「大学生・専門学校生」は20歳代と50歳代で、それぞれ全体平均を上回っています。
- 「同居人はいない」との回答は、70歳代以上のみ1割を超えています。

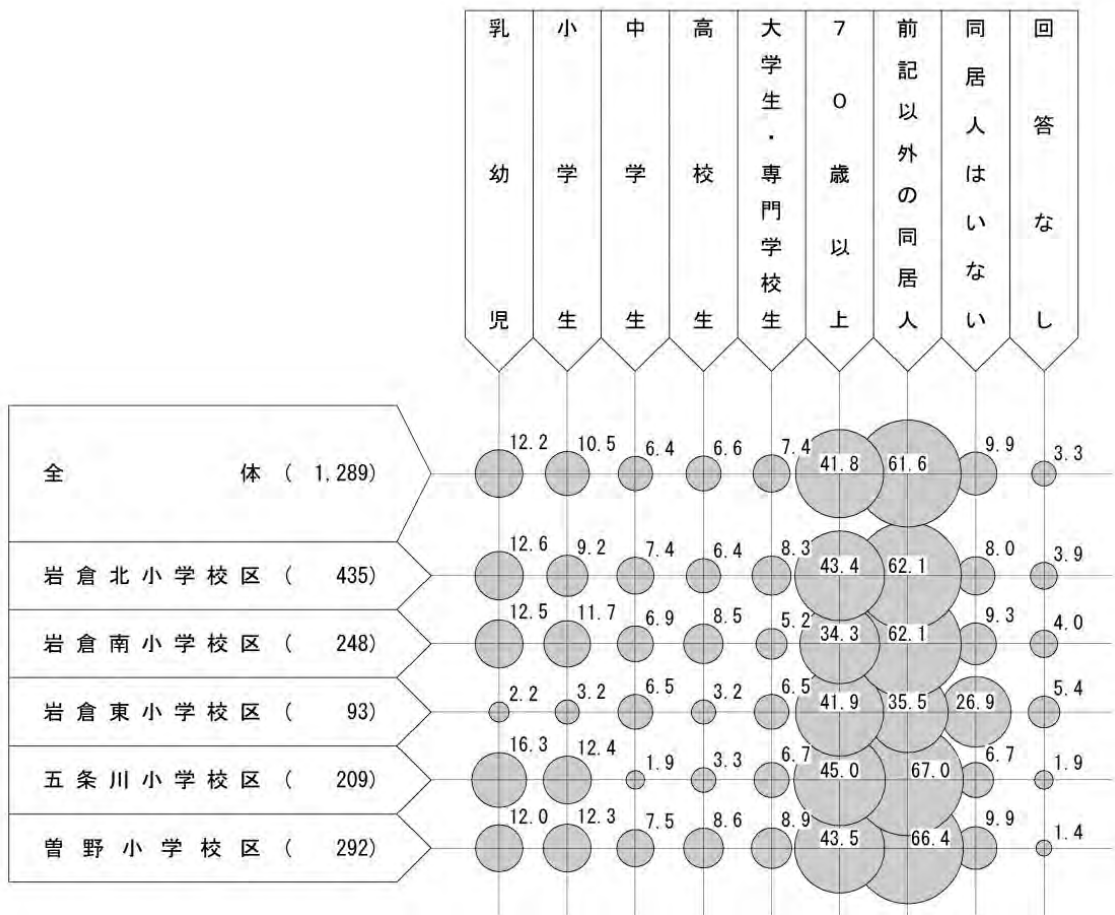
図表 1-9 同居人 (年齢別)



【小学校区別】

- 小学校区別にみると、岩倉東小学校区では「乳幼児」及び「小学生」が全体平均と比較して5ポイント以上低くなっており、五条川小学校区では「中学生」が、他の小学校区が6%以上であるのに対し、唯一1%台となっています。
- 「70歳以上の高齢者」との回答は、岩倉南小学校区が全体平均よりも5ポイント以上低く30%台となっていることを除き、40%を超えています。
- 「同居人はいない」との回答は、岩倉東小学校区が26.9%と突出して高くなっています。岩倉東小学校区では、70歳代以上の高齢者の回答者が多かったことも考慮すると、単身の高齢者である回答者が多いものと考えられます。

図表 I-10 同居人（小学校区別）



Ⅱ．岩倉市の住みやすさ

II. 岩倉市の住みやすさ

1. 住環境と魅力

(1) 周辺の生活環境（問8）

問8

お住まいの周辺の生活環境について、おたずねします。

【①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

プラス評価となっているのは、26項目中22項目で「ごみの収集場所の近さ」が最も高くなっています。

評価がマイナスであったのは4項目で、平成25年調査と変化はなく、道路交通に関する項目が多くみられます。

【全体】

○プラス評価となっているのは、26項目中22項目となっています。

○「ごみの収集場所の近さ」(0.74)が最も高く、以下「住まいの日当たりや風通しの良さ」(0.64)、「大気汚染・水質汚濁など工場公害の少なさ」(0.61)、「医院・診療所までの近さ」(0.49)、「日常の買い物の便利さ」(0.49)、「電車・バスの運行本数の多さ」(0.45)の順となっています。

○評価がマイナスであったのは、26項目中4項目となっています。

○「道路の歩行者の通行の安全性」(-0.06)、「空き地などの雑草の手入れの状態」(-0.09)、「道路の広さ」(-0.09)、「道路の自転車の通行の安全性」(-0.22)となっています。

○評価がマイナスの項目は平成25年調査と変化がなく、道路交通に関する項目が多くみられます。

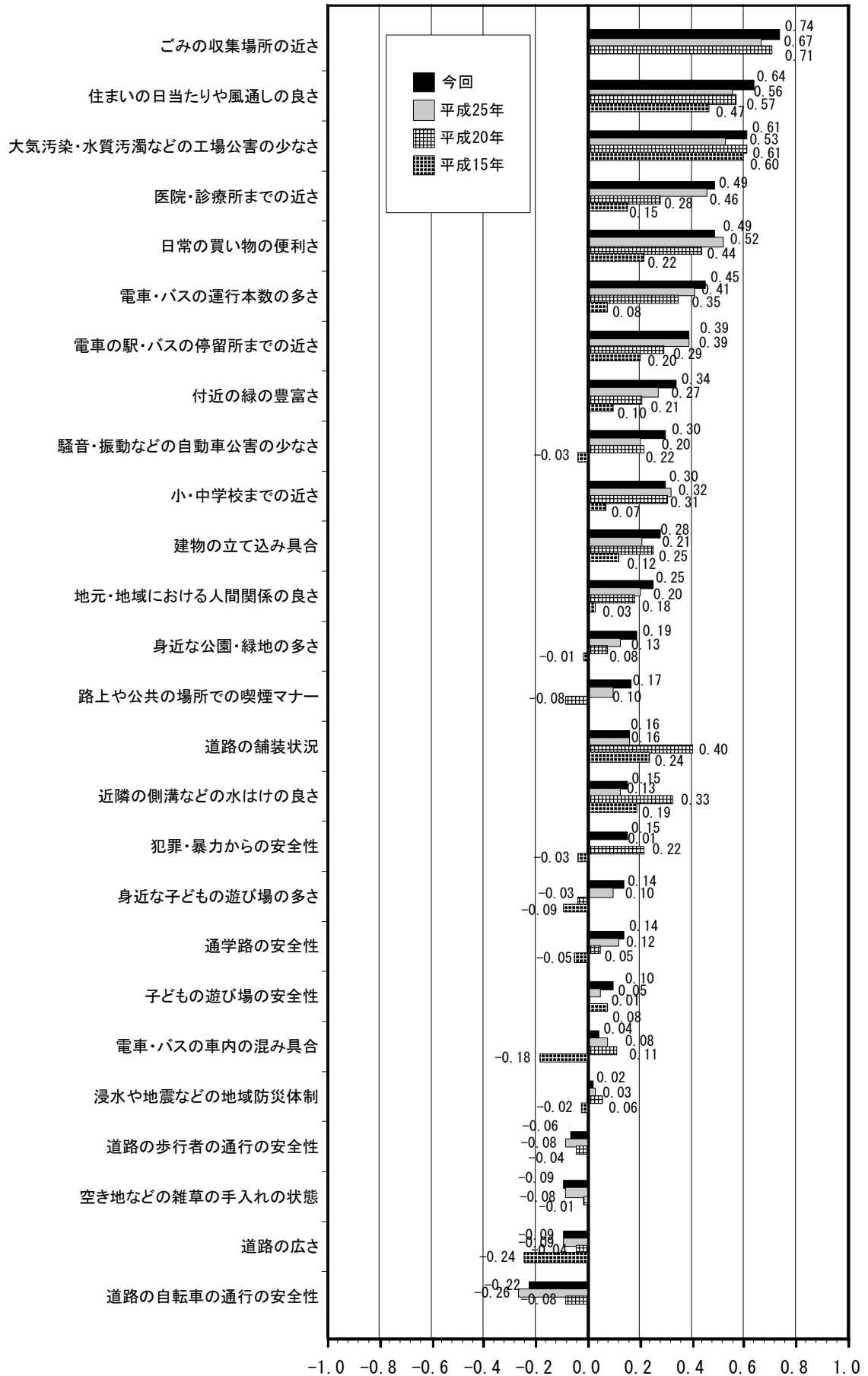
図表 II-1 周辺生活環境の評価

順位	項目	得点
1	ごみの収集場所の近さ	0.74
2	住まいの日当たりや風通しの良さ	0.64
3	大気汚染・水質汚濁などの工場公害の少なさ	0.61
4	医院・診療所までの近さ	0.49
5	日常の買い物の便利さ	0.49
6	電車・バスの運行本数の多さ	0.45
7	電車の駅・バスの停留所までの近さ	0.39
8	付近の緑の豊富さ	0.34
9	騒音・振動などの自動車公害の少なさ	0.30
10	小・中学校までの近さ	0.30
11	建物の立て込み具合	0.28
12	地元・地域における人間関係の良さ	0.25
13	身近な公園・緑地の多さ	0.19
14	路上や公共の場所での喫煙マナー	0.17
15	道路の舗装状況	0.16
16	近隣の側溝などの水はけの良さ	0.15
17	犯罪・暴力からの安全性	0.15
18	身近な子どもの遊び場の多さ	0.14
19	通学路の安全性	0.14
20	子どもの遊び場の安全性	0.10
21	電車・バスの車内の混み具合	0.04
22	浸水や地震などの地域防災体制	0.02
23	道路の歩行者の通行の安全性	-0.06
24	空き地などの雑草の手入れの状態	-0.09
25	道路の広さ	-0.09
26	道路の自転車の通行の安全性	-0.22

【経年比較】

- 平成 25 年調査と比較すると、ポイント数が上昇したのが 18 項目、変化がみられなかったのが 3 項目、下落したのは 5 項目となっています。全体的に、住環境に対する評価は上昇傾向にあるといえます。
 - 上昇幅が大きかった項目としては、「犯罪・暴力からの安全性」(0.14)、「騒音・振動など自動車公害の少なさ」(0.10)、「大気汚染・水質汚濁など工場公害の少なさ」(0.08) など、生活上の安全・安心に関する事項が多くみられます。
 - 下落した項目は、「電車・バスの車内の混み具合」(-0.04)、「日常の買い物の便利さ」(-0.03)、「小・中学校までの近さ」(-0.02)、「浸水や地震などの地域防災体制」及び「空き地などの雑草の手入れの状態」(-0.01) となっており、各項目の下落幅はいずれも、上昇した項目の上昇幅と比べて小さくなっています。
 - 平成 28 年版『いわくらの統計』によると、市内の犯罪認知件数は、平成 20 年の 1,114 件から平成 28 年には 480 件に減少しており、こうした治安状況の改善が、「犯罪・暴力からの安全性」の評価の上昇につながったものと考えられます。
 - 『いわくらの統計』によると、公害苦情件数は、平成 18 年の 154 件から平成 27 年には 84 件と減少傾向であり、社会全体で公害の防止や環境に配慮した取組が広まったことで、「騒音・振動など自動車公害の少なさ」及び「大気汚染・水質汚濁など工場公害の少なさ」の評価につながったと考えられます。
 - 『いわくらの統計』によると、岩倉駅の 1 日あたりの乗降者数は平成 20 年から平成 28 年にかけて大きく変化していないものの、石仏駅では 2,995 人から 3,631 人にまで増加しており、「電車・バスの混み具合」の評価の低下は、こうした公共交通機関の利用者の増加を反映したものと考えられます。
-

図表 II-2 周辺生活環境の評価（経年比較）



図表 II-3 周辺生活環境の評価（経年比較）

項目	全体			
	順位	評点		
		今回	平成 25 年	差
医院・診療所までの近さ	4	0.49	0.46	0.03
身近な子どもの遊び場の多さ	18	0.14	0.10	0.04
身近な公園・緑地の多さ	13	0.19	0.13	0.06
子どもの遊び場の安全性	20	0.10	0.05	0.05
付近の緑の豊富さ	8	0.34	0.27	0.07
ごみの収集場所の近さ	1	0.74	0.67	0.07
騒音・振動などの自動車公害の少なさ	9	0.30	0.20	0.10
大気汚染・水質汚濁などの 工場公害の少なさ	3	0.61	0.53	0.08
路上や公共の場所での喫煙マナー	14	0.17	0.10	0.07
空き地などの雑草の手入れの状態	24	-0.09	-0.08	-0.01
浸水や地震などの地域防災体制	22	0.02	0.03	-0.01
近隣の側溝などの水はけの良さ	16	0.15	0.13	0.02
犯罪・暴力からの安全性	16	0.15	0.01	0.14
通学路の安全性	18	0.14	0.12	0.02
小・中学校までの近さ	9	0.30	0.32	-0.02
電車の駅・バスの停留所までの近さ	7	0.39	0.39	0.00
電車・バスの運行本数の多さ	6	0.45	0.41	0.04
電車・バスの車内の混み具合	21	0.04	0.08	-0.04
道路の歩行者の通行の安全性	23	-0.06	-0.08	0.02
道路の自転車の通行の安全性	26	-0.22	-0.26	0.04
道路の広さ	24	-0.09	-0.09	0.00
道路の舗装状況	15	0.16	0.16	0.00
日常の買い物の便利さ	4	0.49	0.52	-0.03
住まいの日当たりや風通しの良さ	2	0.64	0.56	0.08
建物の立て込み具合	11	0.28	0.21	0.07
地元・地域における人間関係の良さ	12	0.25	0.20	0.05

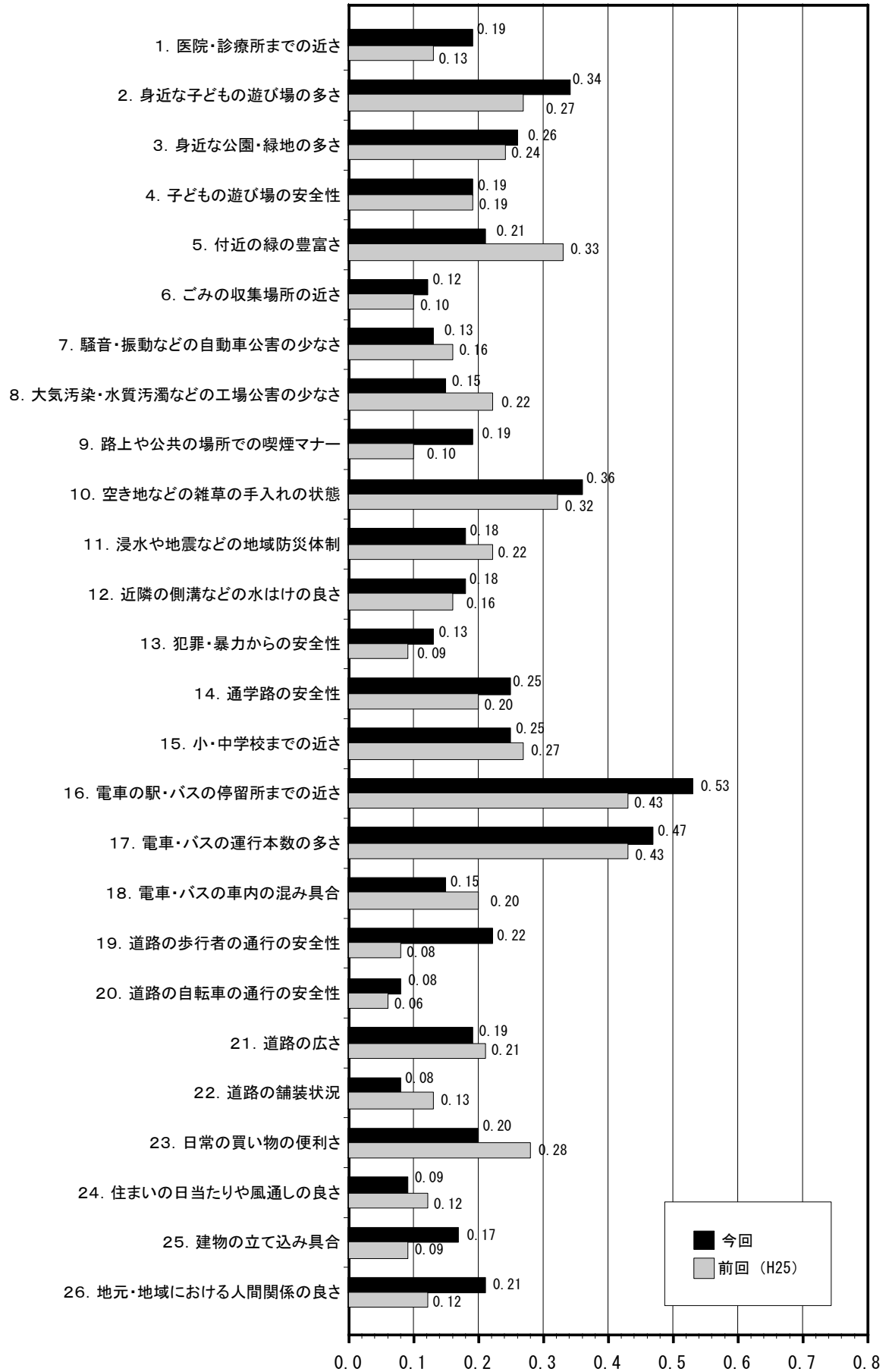
【小学校区間の格差】

- 岩倉東小学校区の評価が最も高く、岩倉南小学校区の評価が最も低い項目が全26項目中13項目にのぼっており、これまでの調査と同様に、岩倉東小学校区の評価が高い傾向は続いています。
- 平成25年調査と比較して、評価ポイントが最も高い小学校区と最も低い小学校区との間の格差が拡大した項目は15項目、変化していない項目は1項目、格差が縮小した項目は10項目となっています。
- 小学校区間の格差の拡大幅をみると、「歩行者の通行の安全性」(0.14)が最も大きく、次いで「駅・バス停への近さ」(0.10)、「地元・地域との人間関係」、「喫煙マナー」(0.09)、「建物の立て込み具合」(0.08)の順となっています。
- 小学校区間の格差の縮小幅をみると、「付近の緑の豊富さ」(0.12)、「日常の買い物の便利さ」(0.08)、「工場公害の少なさ」(0.07)、「電車・バスの混み具合」、「道路の舗装状況」(0.05)の順となっています。
- 都市的施設の整備や都市としての成熟により、住環境に対する評価は高まっており、マイナス評価の項目も減少傾向にある一方で、小学校区間の格差は拡大しています。
- 道路環境や交通の利便性、医院や子どもの遊び場等への近さといった施設の立地状況や立地する施設の規模等の要因によって生じる格差のみならず、そうした要因に左右されない、近所との関係や喫煙マナーといった項目も上位の項目としてみられます。

図表 II-4 前回（平成25年調査）から増加・減少した項目数（小学校区別）

	全体	岩倉北	岩倉南	岩倉東	五条川	曾野
0.10以上 ポイントが上昇した項目数	2	4	3	5	6	6
0.01以上0.10未満の範囲で ポイントが上昇した項目数	16	14	13	12	14	17
ポイントが 変化しなかった項目数	3	1	0	1	0	1
0.01以上0.10未満の範囲で ポイントが下落した項目数	5	7	10	8	6	2
合計	26	26	26	26	26	26
うち増加	18	18	16	17	20	23

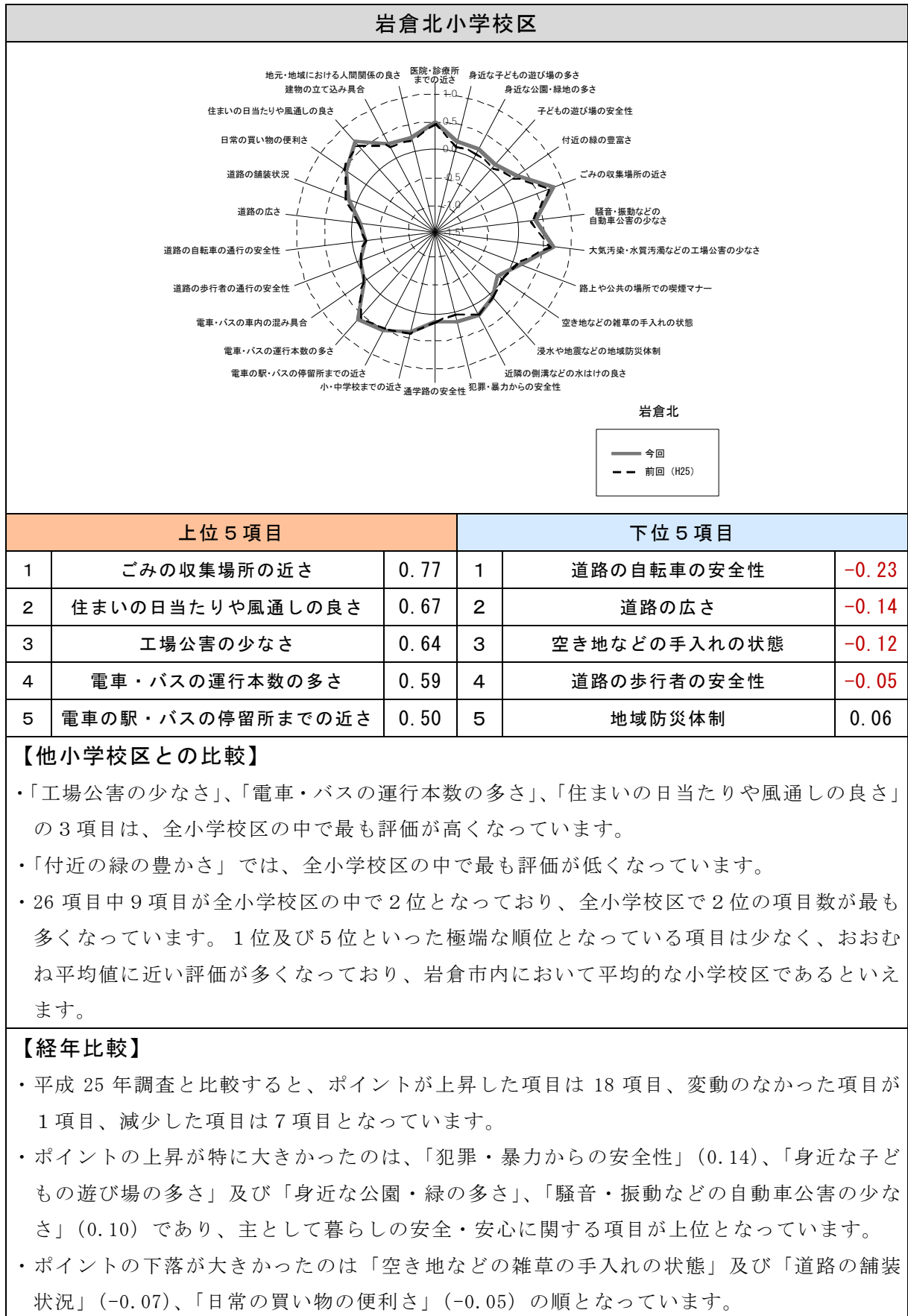
図表 II-5 周辺生活環境の小学校区間の格差（経年比較）



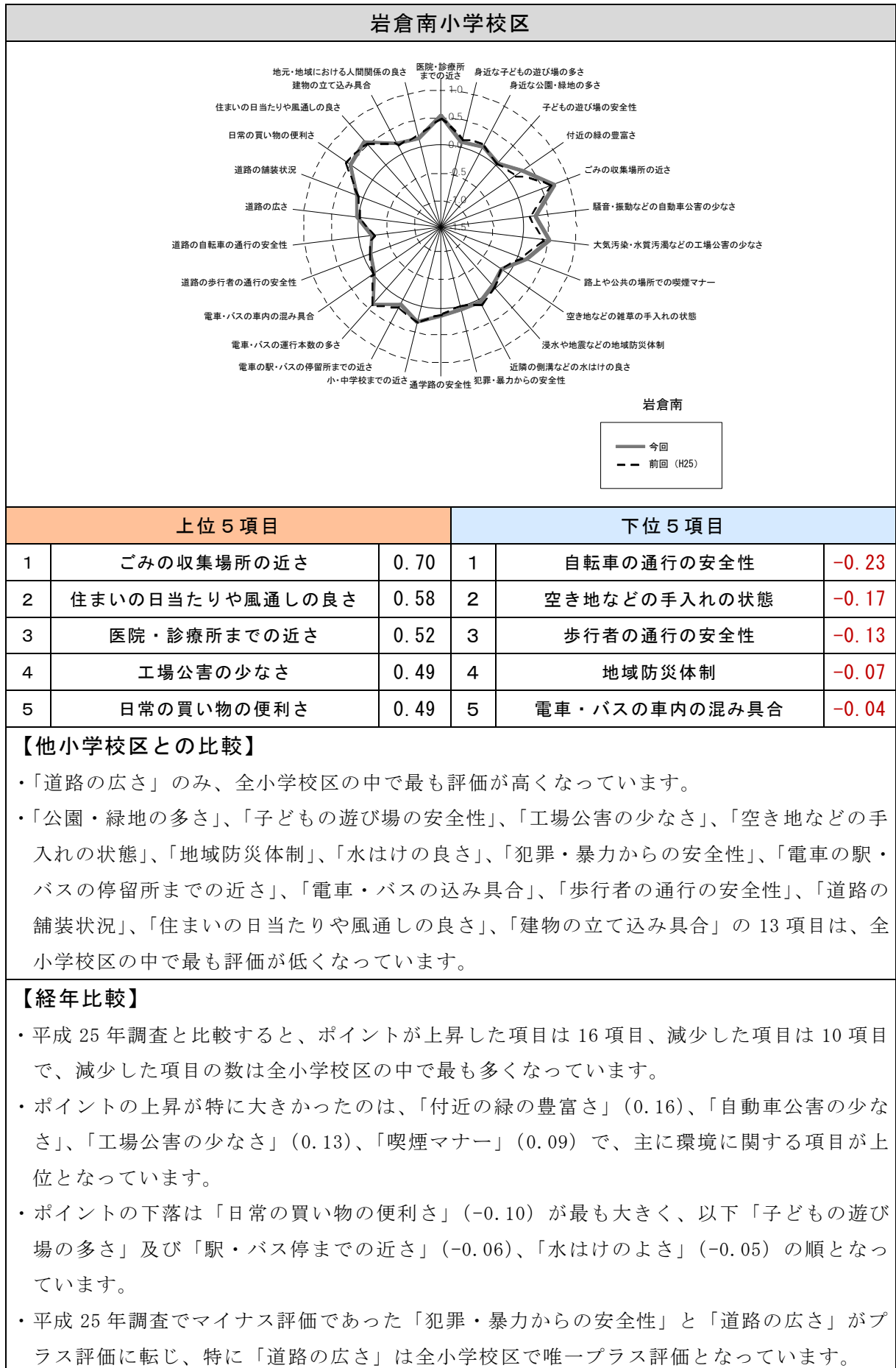
図表 II-6 周辺生活環境評価の評点（小学校区別）

	全体	岩倉北	岩倉南	岩倉東	五条川	曾野
医院・診療所までの近さ	0.49	0.49	0.52	0.61	0.42	0.48
身近な子どもの遊び場の多さ	0.14	0.18	0.08	0.41	0.12	0.07
身近な公園・緑地の多さ	0.19	0.19	0.15	0.41	0.22	0.16
子どもの遊び場の安全性	0.10	0.13	0.05	0.24	0.11	0.06
付近の緑の豊富さ	0.34	0.28	0.30	0.49	0.45	0.36
ごみの収集場所の近さ	0.74	0.77	0.70	0.82	0.75	0.70
騒音・振動などの自動車公害の少なさ	0.30	0.32	0.24	0.26	0.24	0.37
大気汚染・水質汚濁などの 工場公害の少なさ	0.61	0.64	0.49	0.64	0.62	0.64
路上や公共の場所での喫煙マナー	0.17	0.15	0.17	0.06	0.25	0.16
空き地などの雑草の手入れの状態	-0.09	-0.12	-0.17	0.19	-0.09	-0.07
浸水や地震などの地域防災体制	0.02	0.06	-0.07	0.11	-0.02	0.03
近隣の側溝などの水はけの良さ	0.15	0.18	0.03	0.21	0.16	0.17
犯罪・暴力からの安全性	0.15	0.16	0.05	0.18	0.18	0.17
通学路の安全性	0.14	0.10	0.10	0.35	0.19	0.12
小・中学校までの近さ	0.30	0.34	0.28	0.47	0.32	0.22
電車の駅・バスの停留所までの近さ	0.39	0.50	0.08	0.61	0.24	0.52
電車・バスの運行本数の多さ	0.45	0.59	0.37	0.28	0.12	0.57
電車・バスの車内の混み具合	0.04	0.06	-0.04	0.10	-0.03	0.11
道路の歩行者の通行の安全性	-0.06	-0.05	-0.13	0.09	-0.08	-0.05
道路の自転車の通行の安全性	-0.22	-0.23	-0.23	-0.28	-0.20	-0.22
道路の広さ	-0.09	-0.14	0.04	-0.06	-0.10	-0.15
道路の舗装状況	0.16	0.16	0.12	0.17	0.20	0.16
日常の買い物の便利さ	0.49	0.44	0.49	0.63	0.43	0.53
住まいの日当たりや風通しの良さ	0.64	0.67	0.58	0.64	0.66	0.64
建物の立て込み具合	0.28	0.30	0.21	0.38	0.26	0.28
地元・地域における人間関係の良さ	0.25	0.25	0.17	0.13	0.34	0.31

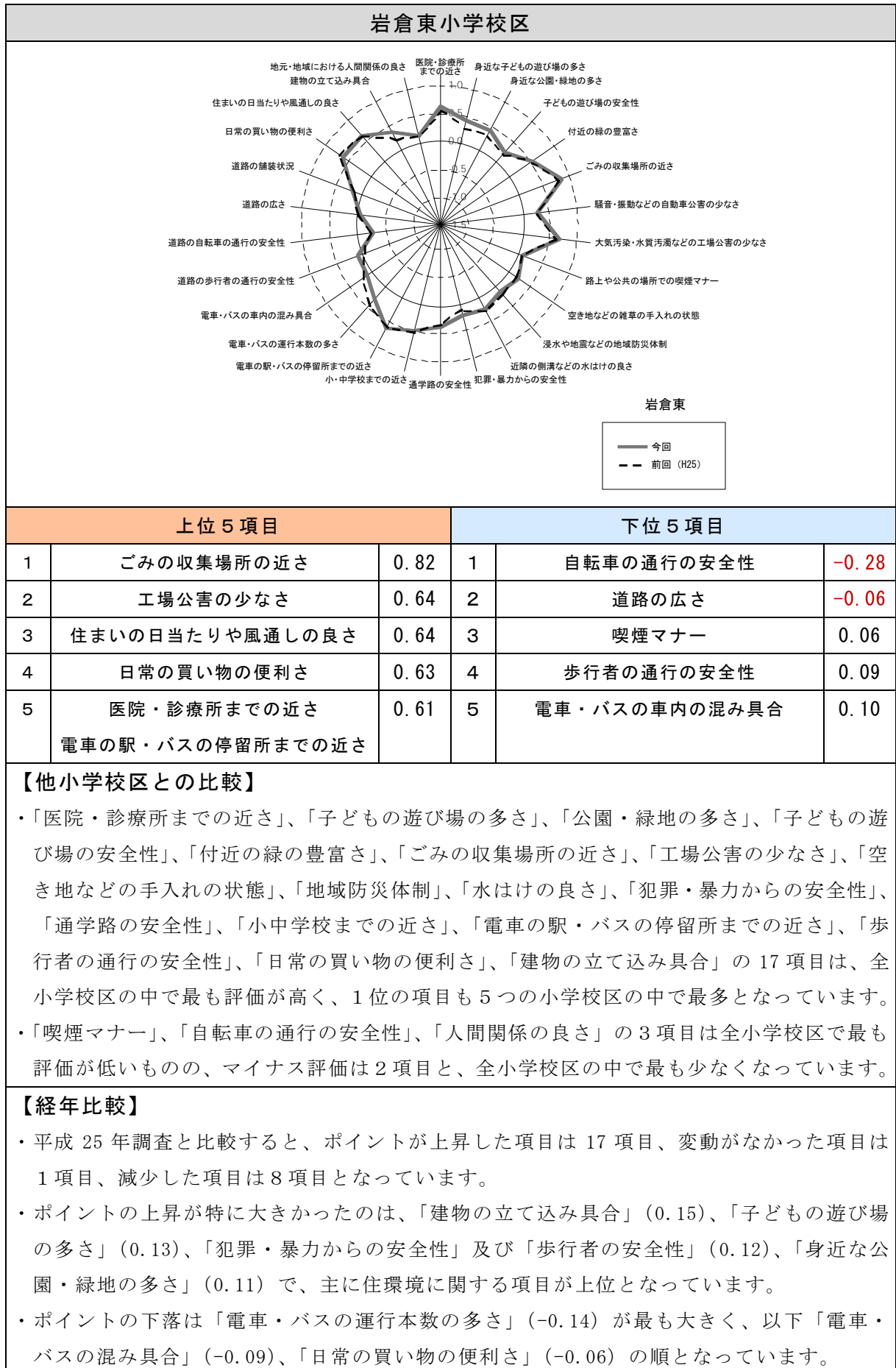
図表 II-7 周辺生活環境評価の分析（岩倉北小学校区）



図表 II-8 周辺生活環境評価の分析（岩倉南小学校区）



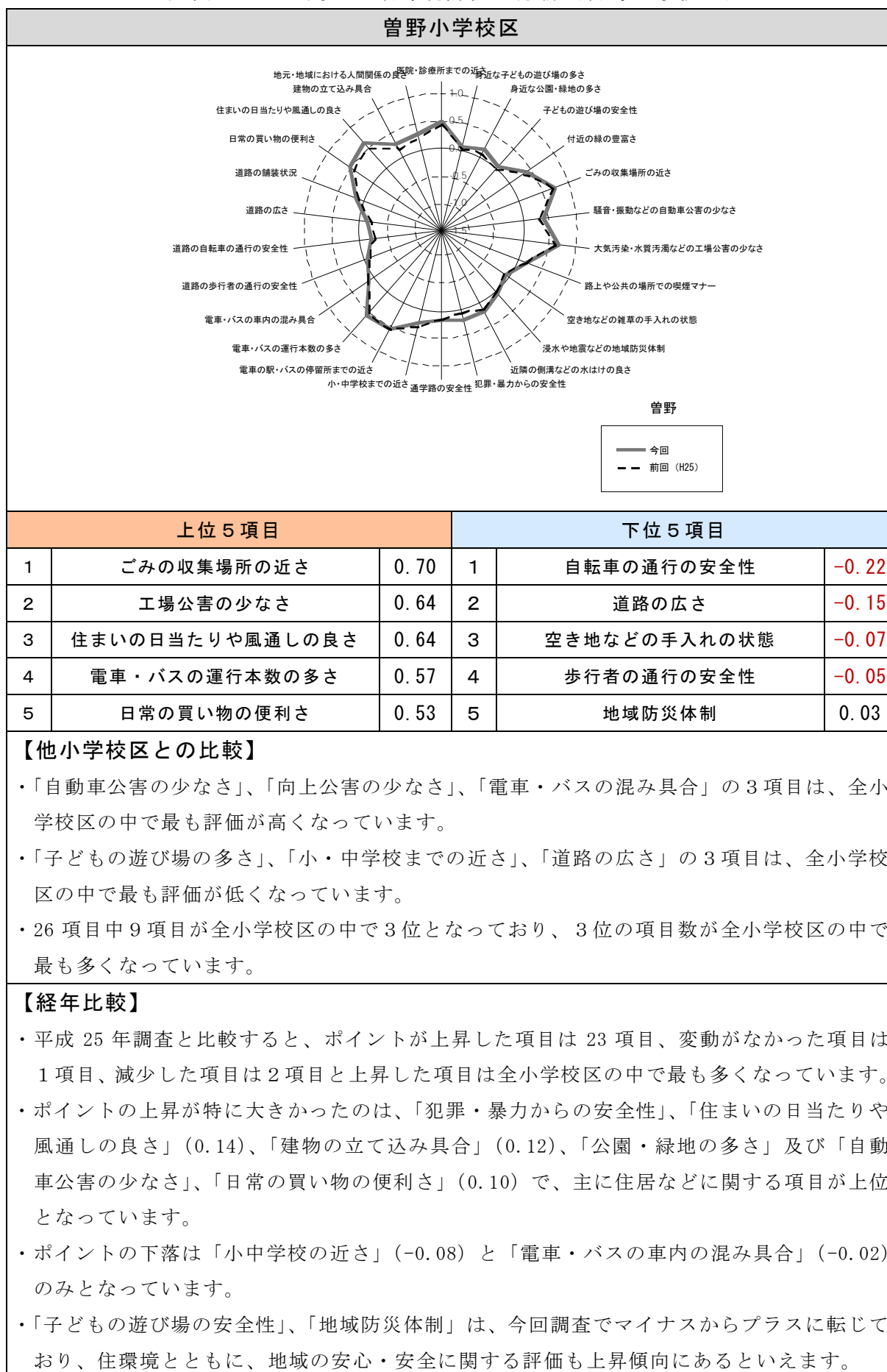
図表 II-9 周辺生活環境評価の分析（岩倉東小学校区）



図表 II-10 周辺生活環境評価の分析（五条川小学校区）



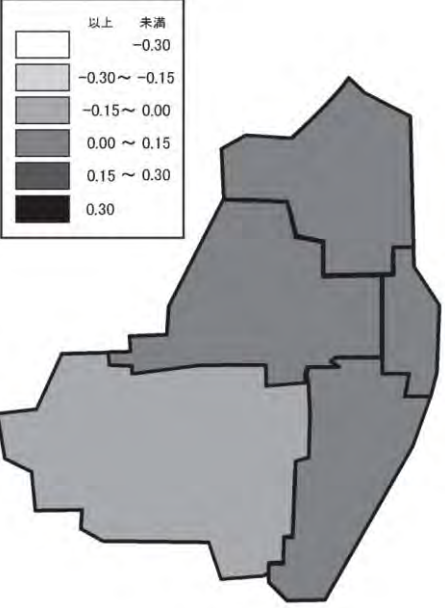
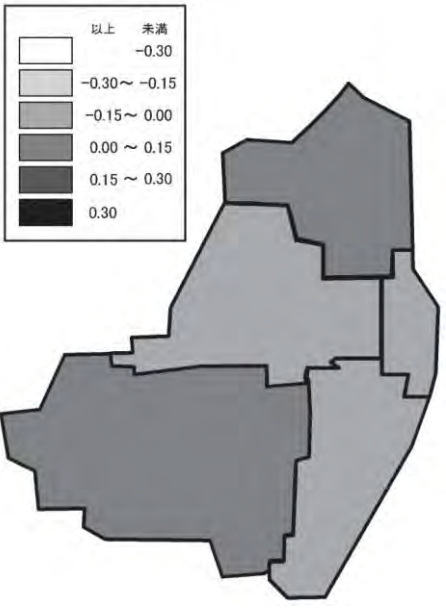
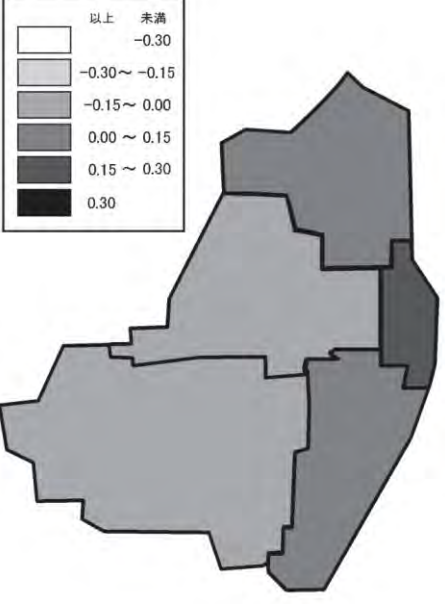
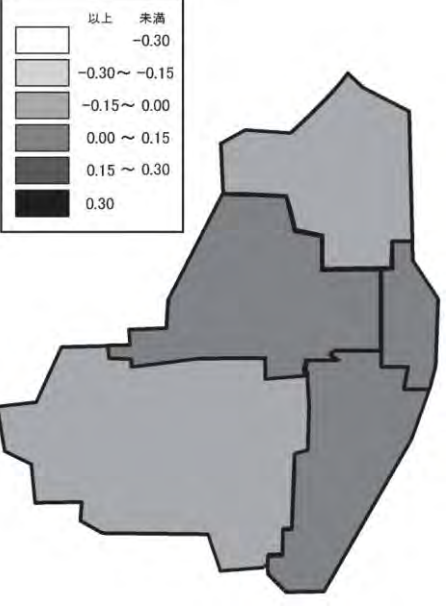
図表 II-11 周辺生活環境評価の分析（曾野小学校区）



図表 II-12 周辺生活環境評価の平均値との差（小学校区別）

凡例 (市全体の値との差)	順位	-	1 医院・診療所までの 近さ	順位	4
	全体	-		全体	0.49
濃淡は市全体としての値との差を示します					
小学校区間の評価差の平均値は 0.21 で、「16 電車の駅・バスの停留所までの近さ」は、差が 0.53 と 26 項目の中で最大となっています。			評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.61、最も低いのは五条川小学校区の 0.42 で、差は 0.19 と、平均値より小さくなっています。		
2 身近な子どもの遊び場の 多さ	順位	18	3 身近な公園・緑地の 多さ	順位	13
	全体	0.14		全体	0.19
評価が最も高いのは岩倉東小学校区の 0.41、最も低いのは曾野小学校区の 0.07 で、差は 0.34 と、26 項目中 4 番目に高くなっています。			評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.41、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.15 で、差は 0.26 と、26 項目中 3 番目に高くなっています。		

4 子どもの遊び場の 安全性	順位	20	5 付近の緑の豊富さ	順位	8
	全体	0.10		全体	0.34
<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.24、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.05 で、全小学校区でプラス評価となっています。</p>			<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.49、最も低いのは岩倉北小学校区の 0.28 で、岩倉東小学校区が際立って高くなっています。</p>		
6 ごみの収集場所の近さ	順位	1	7 騒音・振動などの 自動車公害の少なさ	順位	9
	全体	0.74		全体	0.30
<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.82、最も低いのは曾野及び岩倉南小学校区の 0.70 で、その差は 0.12 と、全 26 項目中 3 番目に小さくなっています。</p>			<p>評価が最も高いのは、曾野小学校区の 0.37、最も低いのは岩倉南及び五条川小学校区の 0.27 で、その差は 0.13 と、全 26 項目中 5 番目に小さくなっています。</p>		

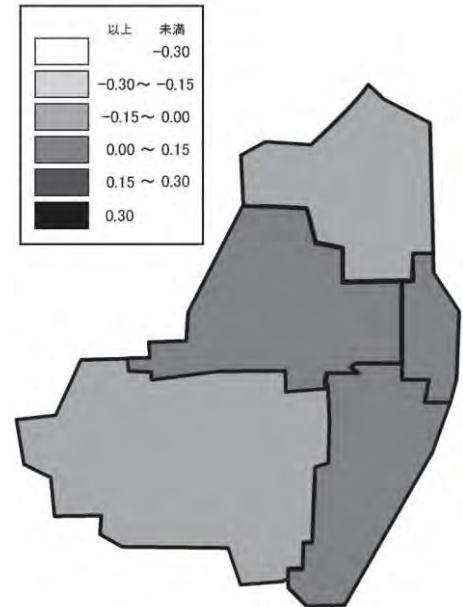
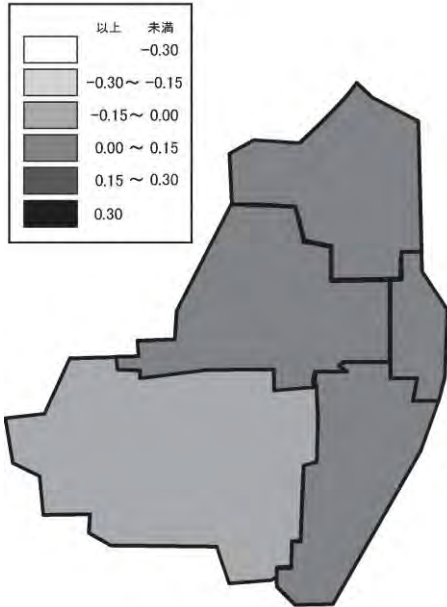
8 大気汚染・水質汚濁などの工場公害の少なさ	順位 全体	3 0.61	9 路上や公共の場所での喫煙マナー	順位 全体	14 0.17
					
<p>評価が最も高いのは、岩倉北及び岩倉東小学校区の 0.64、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.49 で、岩倉南小学校区の低さが目立ちます。</p>		<p>評価が最も高いのは、五条川小学校区の 0.25、最も低いのは岩倉東小学校区の 0.06 で、岩倉東小学校区が特に低くなっています。</p>			
10 空き地などの雑草の手入れの状態	順位 全体	24 -0.09	11 浸水や地震などの地域防災体制	順位 全体	22 0.02
					
<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.19、最も低い岩倉南小学校区の -0.17 を含めた 4 小学校区はマイナス評価で、小学校区間の差が全 26 項目中 3 番目に大きくなっています。</p>		<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.11、最も低いのは岩倉南小学校区の -0.07 で、五条川小学校区の -0.02 とともに、2 つの小学校区はマイナス評価となっています。</p>			

12 近隣の側溝などの 水はけの良さ	順位	16	13 犯罪・暴力からの 安全性	順位	16
	全体	0.15		全体	0.15
<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.21、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.03 で、岩倉南小学校区では市全体の 0.15 を 0.12 ポイント下回っており、際立って低くなっています。</p>			<p>評価が最も高いのは、岩倉東及び五条川小学校区の 0.18、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.05 で、市全体の 0.15 を 0.10 ポイント下回っており、際立って低くなっています。</p>		
14 通学路の安全性	順位	18	15 小・中学校までの 近さ	順位	9
	全体	0.14		全体	0.30
<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.35、最も低いのは岩倉北及び岩倉南小学校区の 0.10 で、その差は 0.25 となっています。</p>			<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.47、最も低いのは曾野小学校区の 0.22 で、その差は 0.25 となっています。</p>		

16 電車の駅・バスの 停留所までの近さ	順位	7	17 電車・バスの 運行本数の多さ	順位	6
	全体	0.39		全体	0.45
<p>Legend: 以上 未満 -0.30, -0.30~-0.15, -0.15~0.00, 0.00~0.15, 0.15~0.30, 0.30</p>			<p>Legend: 以上 未満 -0.30, -0.30~-0.15, -0.15~0.00, 0.00~0.15, 0.15~0.30, 0.30</p>		
<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.61、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.08、その差は 0.53 と全 26 項目中最大であり、駅などの立地状況で差が生じていると考えられます。</p>			<p>評価が最も高いのは、岩倉北小学校区の 0.59、最も低いのは五条川小学校区の 0.12 で、その差は 0.47 と、全 26 項目中 2 番目に大きくなっています。</p>		
18 電車・バスの車内の 混み具合	順位	21	19 道路の歩行者の 通行の安全性	順位	23
	全体	0.04		全体	-0.06
<p>Legend: 以上 未満 -0.30, -0.30~-0.15, -0.15~0.00, 0.00~0.15, 0.15~0.30, 0.30</p>			<p>Legend: 以上 未満 -0.30, -0.30~-0.15, -0.15~0.00, 0.00~0.15, 0.15~0.30, 0.30</p>		
<p>評価が最も高いのは曾野小学校区の 0.11、最も低いのは岩倉南小学校区の -0.04 で、五条川小学校区の -0.03 とともにマイナス評価です。</p>			<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.09、最も低い岩倉南小学校区の -0.13 を含め、4 つの小学校区でマイナス評価となっています。</p>		

20 道路の自転車の 通行の安全性	順位	26	21 道路の広さ	順位	24
	全体	-0.22		全体	-0.09
<p>評価が最も高いのは五条川小学校区の-0.20、最も低いのは岩倉東小学校区の-0.28と、全小学校区でマイナス評価であり、その差は0.08と全26項目で最も小さくなっています。</p>			<p>評価が最も高いのは、岩倉南小学校区の0.04で、唯一プラス評価となっており、最も低い曾野小学校区の-0.15を含む4つの小学校区ではマイナス評価となっています。</p>		
22 道路の舗装状況	順位	15	23 日常の買い物の 利便さ	順位	4
	全体	0.16		全体	0.49
<p>評価が最も高いのは、五条川小学校区の0.20、最も低いのは岩倉東小学校区の0.12で、その差は0.08と全26項目で最小となっています。</p>			<p>評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の0.63、最も低いのは五条川小学校区の0.43で、五条川と岩倉北小学校区が低くなっています。</p>		

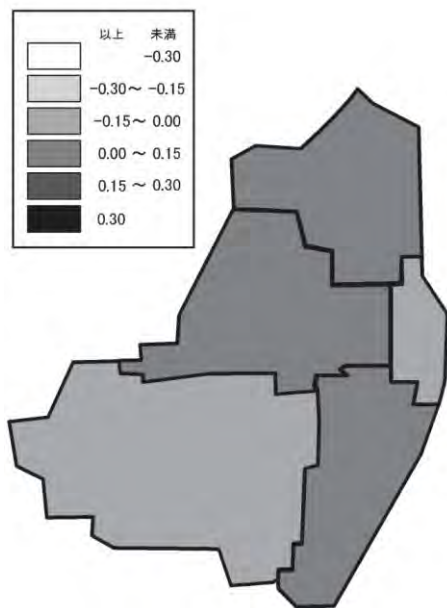
24 住まいの日当たりや 風通しの良さ	順位	2	25 建物の立て込み具合	順位	11
	全体	0.64		全体	0.28



評価が最も高いのは、岩倉北小学校区の 0.67、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.58 で、その差は 0.09 と、全 26 項目中 2 番目に小さくなっています。

評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.38、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.21 となっています。

26 地元・地域における 人間関係の良さ	順位	12
	全体	0.25

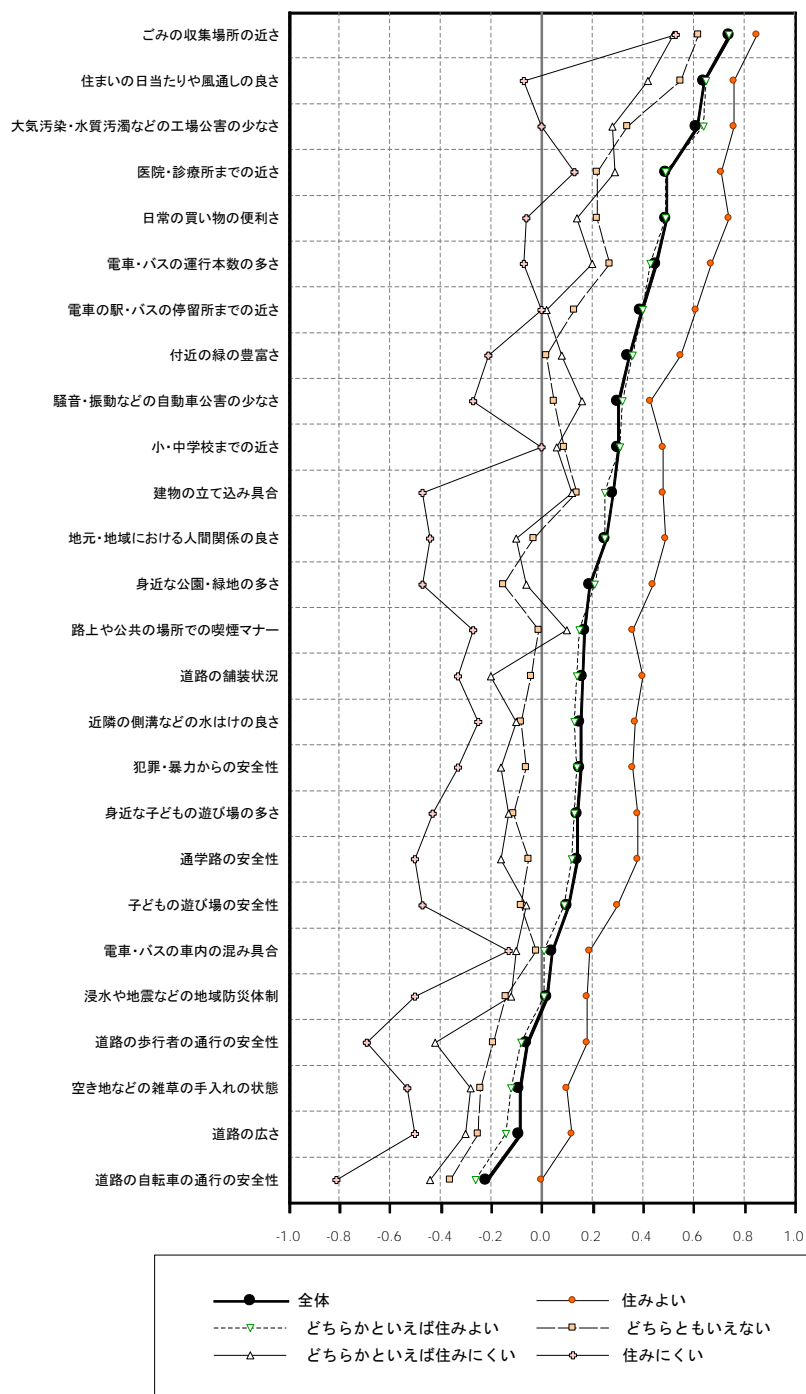


評価が最も高いのは、五条川小学校区の 0.34、最も低いのは岩倉東小学校区の 0.13、その差は 0.21 となっています。

【住みやすさの評価別】

- おおむね住みやすさの評価が高いほど、住環境の評価も高くなっています。
- 「住みよい」と評価した市民と「住みにくい」と評価した市民との評価の差が大きい項目の上位5項目は、「建物の立て込み具合」(0.95)、「人間関係の良さ」(0.93)、「公園・緑地の多さ」(0.91)、「通学路の安全性」(0.88)、「歩行者の通行の安全性」(0.81)となっています。総合的に住みやすいまちとしての評価をより多くの市民から得るためには、このような施策を重点的に推進することが効果的であると考えられます。

図表 II-13 周辺生活環境の評価（住みやすさの評価別）



(2) 岩倉市の魅力（問9）

岩倉市の街の魅力についておたずねします。

問9

【魅力がある点の魅力がない点それぞれについて、あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。】

選択された項目数をみると、「魅力がある点」の1人あたりの回答項目数は7.4項目と、前回（平成25年調査）の8.1項目から0.7項目減少しています。

「魅力がない点」の1人あたりの回答項目数は5.1項目となっており、平成25年調査の6.2項目から1.1項目減少しています。

「魅力がある点」と「魅力がない点」の双方とも、平成20年調査と比較して1人あたり回答項目数は増加したものの、平成25年調査と比べると減少しています。

【評価の方法】

- これまで実施してきた調査と同様に、「魅力がある点」と「魅力がない点」の双方についてそれぞれ26項目（平成15年調査：24項目、平成10年調査：23項目）を列挙し、該当するものすべてを回答してもらうことで、岩倉市の魅力について把握しました。
- 魅力がある点・ない点について、回答数の推移は次の表のとおりです。「その他」を含む26個の選択肢の選択数を、無回答を含む全ての回答者数で除することにより、1人あたりの選択数を算出しています。なお、平成10年調査及び平成15年調査は、項目の内容及び数が一部異なるため、参考値として掲載しています。
- なお、平成25年調査から、選択肢の順序を分類別（健康・福祉、環境・防災防犯、生涯学習・教育、都市基盤、産業、協働、その他の7分類）とし、関連する内容が選択しやすいよう変更しています。これにより1人あたりの回答項目数が増加したと考えられます。
- 平成25年調査以降、平成20年調査で「特別養護老人ホームなどの介護保険施設が整っている（整っていない）」、「保育園・児童館・老人憩の家・ふれあいセンターなどの福祉施設が整っている（不十分である）」、「介護保険サービスが整っている（整っていない）」を、今回調査では、「高齢者の福祉サービスが充実している（充実していない）」、「子育て支援サービスが充実している（充実していない）」、「障害者の福祉サービスが充実している（充実していない）」に変更し、対象者を明確にしました。

【選択項目数からみる評価】

- 選択された項目数をみると、「魅力がある点」の総回答数は、回答者数 1,289 人に対して 9,601 個で、1 人あたりの回答項目数は 7.4 項目と、前回（平成 25 年調査）の 8.1 項目から 0.7 項目減少しています。
- 「魅力がない点」の総回答数は、回答者 1,289 人に対して 6,582 項目で、1 人あたりの回答項目数は 5.1 項目となっており、平成 25 年調査の 6.2 項目から 1.1 項目減少しています。
- 「魅力がある点」と「魅力がない点」の双方とも、平成 20 年調査と比較して 1 人あたり回答項目数は増加したものの、平成 25 年調査と比べると減少しています。
- 「魅力がある点」の方が 1 人あたりの回答項目数が多く、かつ、1 人あたりの回答項目数の減少幅も小さいことから、岩倉市の「魅力のある点」の回答数が「魅力のない点」の回答数を上回っており、魅力がある点をより多く評価するという傾向は大きく変化していません。

図表 II-14 回答数の総数と 1 人あたりの回答数の推移（平成 20 年調査基準）

魅力がある点	項目数	回答者数	魅力がある点の回答数	1 人あたりの回答項目数	1 人あたりの回答項目数の増減（前回比）
平成 30 年	26	1,289	9,601	7.4	-0.7
平成 25 年	26	2,229	18,056	8.1	+2.3
平成 20 年	26	2,464	14,219	5.8	-
平成 15 年	24	2,480	8,704	3.5	-
平成 10 年	23	1,915	6,126	3.2	-

魅力がない点	項目数	回答者数	魅力がない点の回答数	1 人あたりの回答項目数	1 人あたりの回答項目数の増減（前回比）
平成 30 年	26	1,289	6,582	5.1	-1.1
平成 25 年	26	2,229	13,820	6.2	+1.7
平成 20 年	26	2,464	11,013	4.5	-
平成 15 年	24	2,480	6,804	2.7	-
平成 10 年	23	1,915	4,953	2.6	-

※平成 10 年及び平成 15 年調査は、選択肢の項目数及び内容が異なるため参考値。
回答者数には「無回答」の回答者も含む。「回答数」は「無回答」を除く、26 項目の総選択数。

① 魅力がある点（問9）

【全体、経年比較】

- 「回答なし」の 5.8%を除いた 94.2%の市民が、岩倉市に何らかの魅力があると回答しています。
- 「交通の便が良い」は 70.6%と、これまでの調査と同じく岩倉市における最大の魅力となっています。次いで、「市内のイベントが活発」が 64.8%で 2 位、「日常の買い物が便利」が 58.2%で 3 位となっており、前回（平成 25 年調査）から順位の変動はありません。
- 「自然環境に恵まれている」は 49.0%で 4 位となり、平成 20 年調査から継続して上昇傾向にあるほか、「田園環境に恵まれている」も 35.0%と 5 位となっており、自然や田園環境の豊かさも魅力として評価されています。
- 平成 20 年調査では 3 位であった「福祉施設が整っている（平成 25 年以降は高齢者福祉が充実している）」は平成 25 年調査以降 10 位圏外となった一方で、今回調査では新たに「医療施設が充実している」が 8 位となっており、医療・福祉環境に対する評価は大きく変化しています。

図表 II-15 岩倉市の魅力がある点の上位 10 項目（経年比較）

順位	平成 20 年	割合	順位	平成 25 年	割合	順位	平成 30 年	割合	前回比較
1	交通の便が良い	68.3	1	交通の便が良い	72.6	1	交通の便が良い	70.6	↓
2	市内のイベントが活発	58.8	2	市内のイベントが活発	65.8	2	市内のイベントが活発	64.8	↓
3	福祉施設が整っている	44.6	3	日常の買い物が便利	64.6	3	日常の買い物が便利	58.2	↓
4	自然環境に恵まれている	34.7	4	自然環境に恵まれている	47.4	4	自然環境に恵まれている	49.0	↑
5	田園環境に恵まれている	30.3	5	人々が親切で人間味がある	40.4	5	田園環境に恵まれている	35.0	↓
6	人々が親切で人情味がある	25.4	6	田園環境に恵まれている	38.9	6	人々が親切で人間味がある	34.8	↓
7	日常の買い物に便利	24.1	7	人間関係が良い	36.3	7	市が適当な規模でまとまりがある	33.9	↑
8	市が適当な規模でまとまりがある	22.4	8	文化・芸術活動が盛ん	34.1	8	医療施設が充実している	33.8	↑
9	道路の整備状況がよい	22.2	9	開発の余地がある	33.7	9	開発の余地がある	32.1	↑
10	開発の余地がある	21.4	10	市が適当な規模でまとまりがある	33.6	10	人間関係が良い	31.7	↓

※割合：各項目の選択数の、回答者総数（平成 30 年の場合 1,289 人）に対する割合。

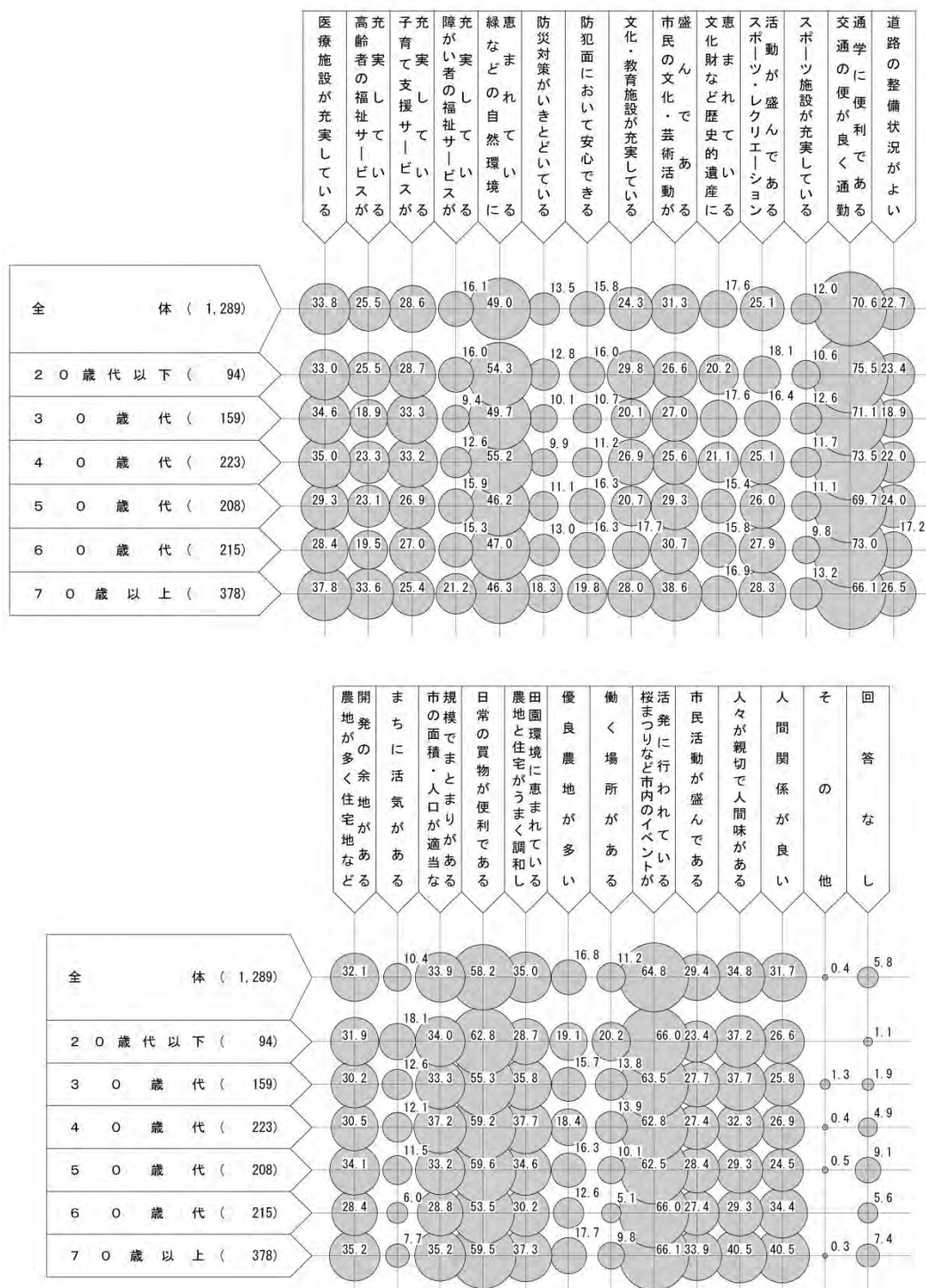
図表 11-16 岩倉市の魅力がある点

順位	平成 30 年	割合
1	交通の便が良く通勤・通学に便利である	70.6%
2	桜まつりやふれ愛まつりなど 市内のイベントが活発に行われている	64.8%
3	日常の買物が便利である	58.2%
4	緑などの自然環境に恵まれている	49.0%
5	農地と住宅がうまく調和し田園環境に恵まれている	35.0%
6	人々が親切で人間味がある	34.8%
7	市の面積・人口が適当な規模でまとまりがある	33.9%
8	医療施設が充実している	33.8%
9	農地が多く住宅地など開発の余地がある	32.1%
10	人間関係が良い	31.7%
11	市民の文化・芸術活動が盛んである	31.3%
12	市民活動が盛んである	29.4%
13	子育て支援サービスが充実している	28.6%
14	高齢者の福祉サービスが充実している	25.5%
15	スポーツ・レクリエーション活動が盛んである	25.1%
16	文化・教育施設が充実している	24.3%
17	道路の整備状況がよい	22.7%
18	文化財など歴史的遺産に恵まれている	17.6%
19	優良農地が多い	16.8%
20	障がい者の福祉サービスが充実している	16.1%
21	防犯面において安心できる	15.8%
22	防災対策がいきとどいている	13.5%
23	スポーツ施設が充実している	12.0%
24	働く場所がある	11.2%
25	まちに活気がある	10.4%
26	その他	0.4%

【年齢別】

- 年齢別にみると、年齢によって大きな差異が生じている項目が複数みられます。年齢による評価の差が最も大きい項目は、「人間関係が良い」で、最も高い70歳以上が40.5%であるのに対し、最も低い50歳代は24.5%と、16.0ポイントの差が生じています。
- 以下、「働く場所がある」(15.1)、「文化・芸術活動が盛ん」(13.0)、「文化・教育施設が充実している」及び「まちに活気がある」(12.1)の順となっています。

図表 II-17 岩倉市の魅力がある点（年齢別）

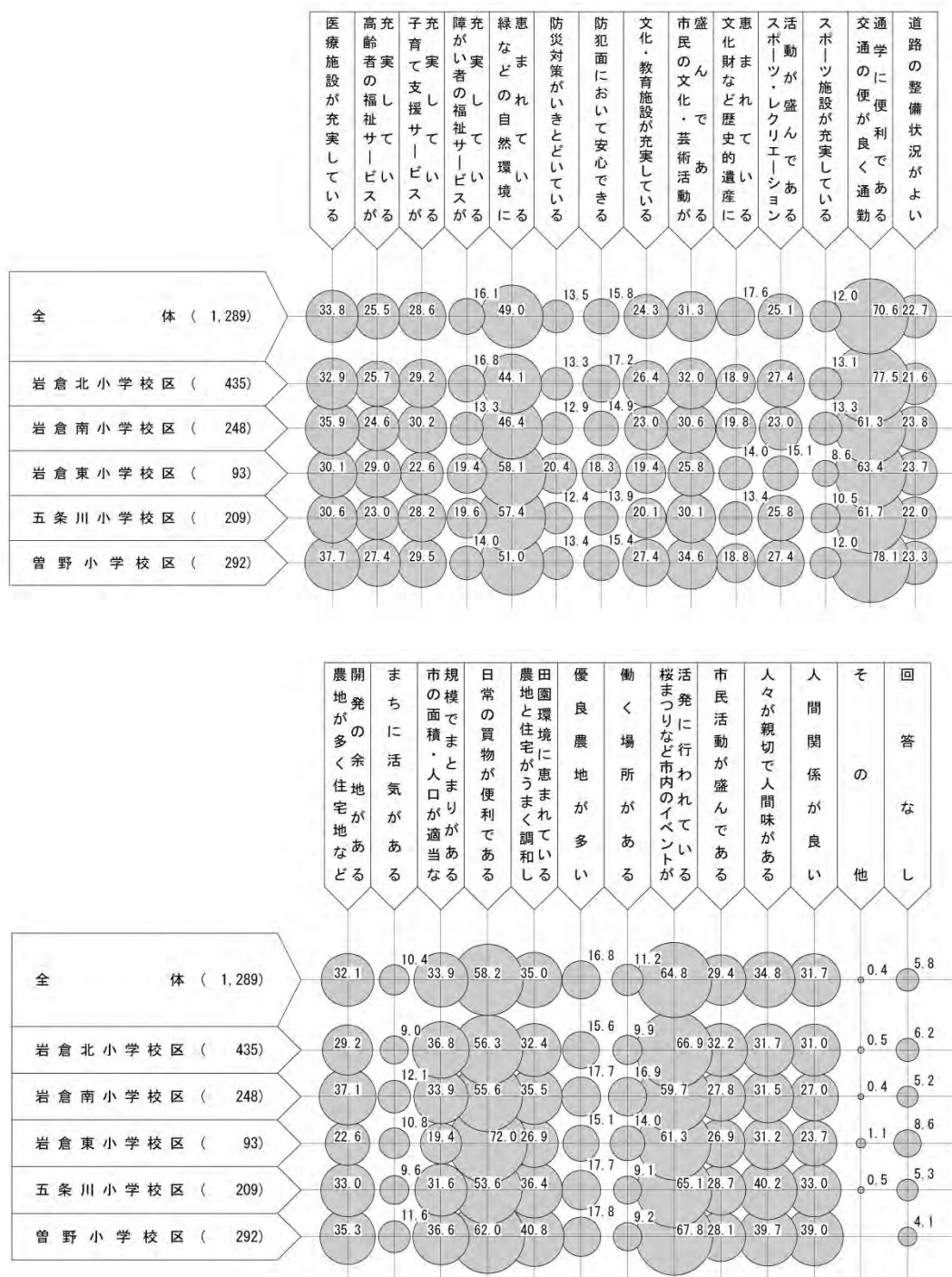


【小学校区別】

○小学校区別にみると、小学校区ごとに大きな差異が生じている項目が複数みられます。小学校区による評価の差が最も大きい項目は、「日常の買物が便利」で、最も高い岩倉東小学校区が72.0%であるのに対し、最も低い五条川小学校区では53.6%と、18.4ポイントの差が生じています。

○以下、「市が適当な規模でまとまりがある」(17.4)、「交通の便が良い」(16.8)、「人間関係が良い」(15.3)、「開発の余地がある」(14.5)の順となっています。

図表 II-18 岩倉市の魅力がある点（小学校区別）



② 魅力がない点（問9）

【全体、経年比較】

- 「回答なし」の14.4%を除いた、85.6%の市民が岩倉市に魅力がない点について指摘しています。ただし、ほとんどの項目で回答の割合は低下しています。
- 「防犯面における不安が多い」は42.4%で最も高くなっています。平成20年から28年にかけて岩倉市の犯罪認知件数は1,114件から480件に減少したこともあってか、平成25年調査と比べて回答割合は8.6ポイント低下しています。
- 「まちに活気がない」が41.7%で2位、「働く場所がない」が37.4%で3位となっており、ベッドタウン的性格が強いという本市の弱点が反映された点であるといえます。
- 「スポーツ施設が充実していない」は、平成20年調査で8位であったものが、平成25年調査及び今回調査では4位となっており、魅力がない点という認識が広がりつつあります。
- 「医療施設が充実していない（平成20年調査は「整っていない）」は平成20年調査から一貫して第5位となっていますが、今回調査では「魅力がある点」でも第8位となっており、市民の間で評価が分かれる項目であるといえます。

図表 II-19 岩倉市の魅力がない点の上位10項目（経年比較）

順位	平成20年	割合	順位	平成25年	割合	順位	平成30年	割合	前回比較
1	防犯面における不安が多い	39.5	1	防犯面における不安が多い	51.0	1	防犯面における不安が多い	42.4	↓
2	まちに活気がない	36.1	2	働く場所がない	49.5	2	まちに活気がない	41.7	↓
3	働く場所がない	34.0	3	まちに活気がない	48.3	3	働く場所がない	37.4	↓
4	小売店が少なく不便	30.9	4	スポーツ施設が充実していない	41.2	4	スポーツ施設が充実していない	35.2	↓
5	医療施設が整っていない	30.8	5	医療施設が充実していない	38.4	5	医療施設が充実していない	28.5	↓
6	道路の整備状況が悪い	21.8	6	防災対策がいきとどいていない	32.4	6	道路の整備状況が悪い	28.0	↑
7	市域が狭く開発の余地が少ない	21.7	7	道路の整備状況が悪い	27.9	7	防災対策がいきとどいていない	26.8	↓
8	スポーツ施設が整っていない	20.1	8	歴史的遺産に恵まれていない	27.2	8	歴史的遺産に恵まれていない	22.2	↓
9	介護保険施設が整っていない	18.8	9	文化・教育施設が充実していない	25.3	9	文化・教育施設が充実していない	21.4	↓
10	防災対策がいきとどいていない	18.6	10	市域が狭く開発の余地が少ない	23.1	10	市域が狭く開発の余地が少ない	20.6	↓

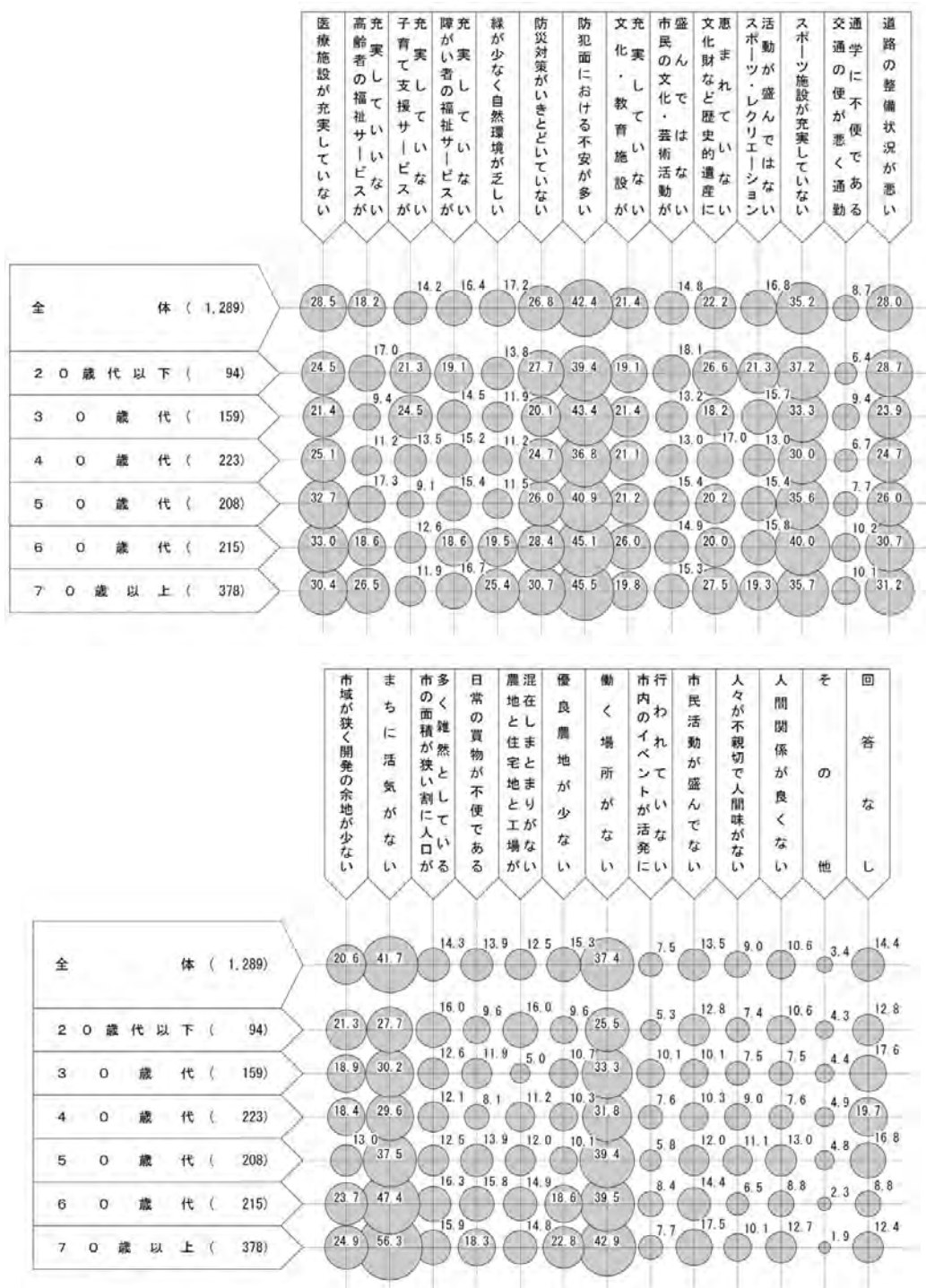
図表 11-20 岩倉市の魅力がない点

順位	平成 30 年	割合
1	防犯面における不安が多い	42.4%
2	まちに活気がない	41.7%
3	働く場所がない	37.4%
4	スポーツ施設が充実していない	35.2%
5	医療施設が充実していない	28.5%
6	道路の整備状況が悪い	28.0%
7	防災対策がいきとどいていない	26.8%
8	文化財など歴史的遺産に恵まれていない	22.2%
9	文化・教育施設が充実していない	21.4%
10	市域が狭く開発の余地が少ない	20.6%
11	高齢者の福祉サービスが充実していない	18.2%
12	緑が少なく自然環境が乏しい	17.2%
13	スポーツ・レクリエーション活動が盛んではない	16.8%
14	障がい者の福祉サービスが充実していない	16.4%
15	優良農地が少ない	15.3%
16	市民の文化・芸術活動が盛んではない	14.8%
17	市の面積が狭い割に人口が多く雑然としている	14.3%
18	子育て支援サービスが充実していない	14.2%
19	日常の買物が不便である	13.9%
20	市民活動が盛んでない	13.5%
21	農地と住宅地と工場が混在しまとまりがない	12.5%
22	人間関係が良くない	10.6%
23	人々が不親切で人間味がない	9.0%
24	交通の便が悪く通勤・通学に不便である	8.7%
25	市内のイベントが活発に行われていない	7.5%
26	その他	3.4%

【年齢別】

- 年齢別にみると、年齢によって大きな差異が生じている項目が複数みられます。年齢による評価の差が最も大きい項目は、「まちに活気がない」で、最も高い70歳以上が56.3%であるのに対し、最も低い20歳代以下は27.7%と、28.6ポイントもの差が生じています。
- 以下、「働く場所がない」(17.4)、「高齢者福祉が充実していない」(17.1)、「子育て支援が充実していない」(15.4)、「自然環境が乏しい」(14.2)の順となっています。

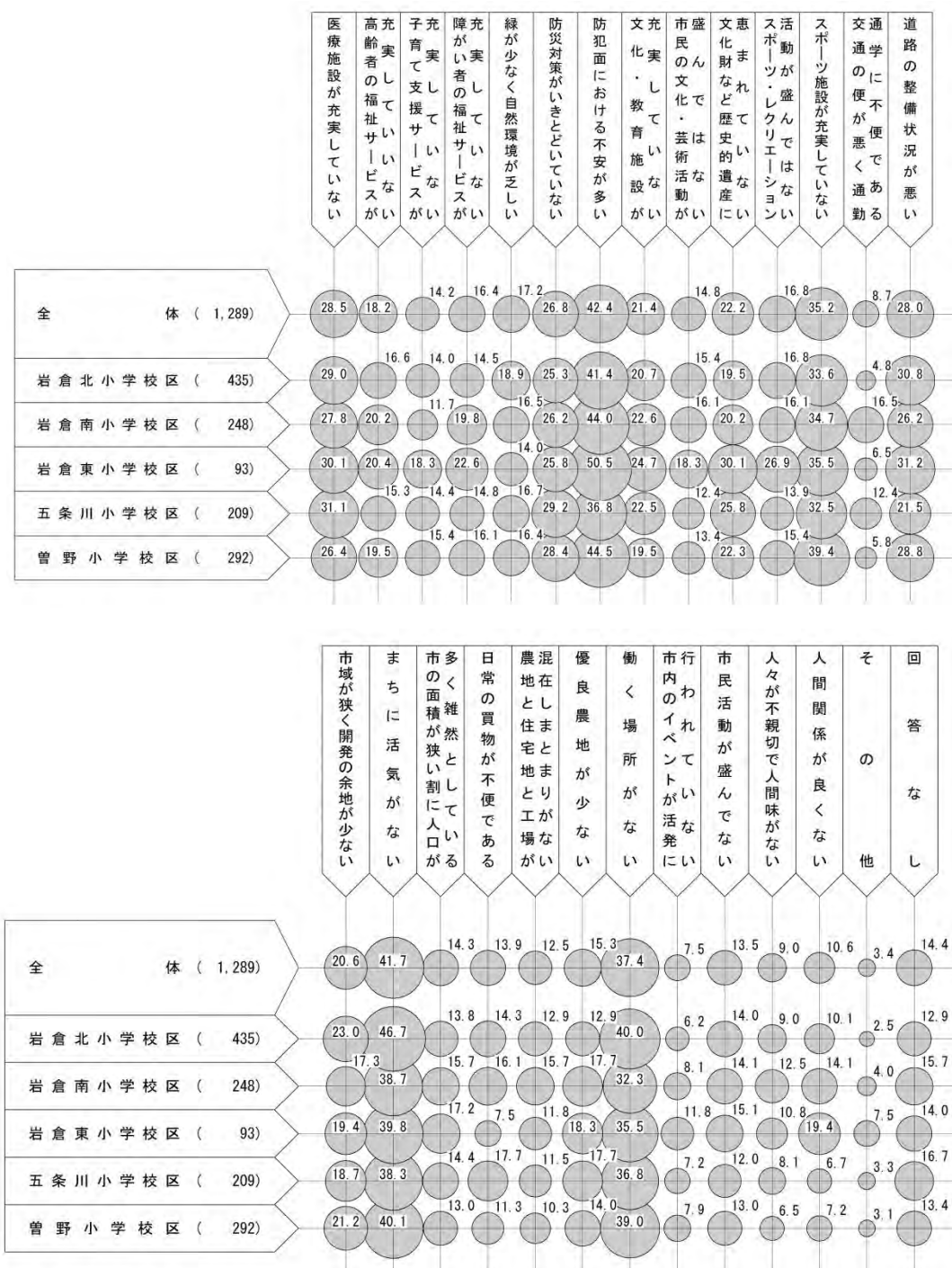
図表 II-21 岩倉市の魅力がない点（年齢別）



【小学校区別】

- 小学校区別にみると、小学校区ごとに大きな差異が生じている項目が複数みられます。小学校区による評価の差が最も大きい項目は、「防犯面における不安が多い」で、最も高い岩倉東小学校区が 50.5%であるのに対し、最も低い五条川小学校区では 36.8%と、13.7 ポイントの差が生じています。
- 以下、「スポーツ・レクリエーション活動が活発ではない」(13.0)、「人間関係が良くない」(12.7)、「交通の便が悪く、通勤通学に不便」(11.7)、「歴史的遺産に恵まれていない」(10.6) の順となっています。

図表 II-22 岩倉市の魅力がない点（小学校区別）



2. 施策に対する満足度と重要度

(1) 施策に対する満足度（問10）

問10

岩倉市が行っている施策について、満足度と重要度をおたずねします。
【①～④について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

満足度がプラスの評価の項目は、41項目中36項目となっています。

「五条川や桜並木などの自然環境の保全」、「電車やバスなどの公共交通の利便性」、「安全な水道水の安定した供給の確保」、「ごみ収集・処理体制」、「消防・救急体制」といった項目は、満足度の得点が特に高くなっています。

5項目は満足度がマイナスとなっており、特に産業に関する項目では評価が低いものが複数みられます。

倉市の施策に関する各項目の満足度及び重要度について、下記の方法で5段階の評価を得点化し、平均得点を算出しました。また、この得点を指標として、満足度と重要度の分析を行いました。なお、平均得点は、+2に近いほど満足度または重要度が高いことを示し、-2に近いほど満足度が低い（不満度が高い）、または重要度が低いことを示しています。

◆ 満足度・重要度の平均得点の算出方法

図表 II-23 評価と得点

満足度	重要度	得点（評点）
満足	非常に重要	+2点
やや満足	重要	+1点
普通	普通	0点
やや不満	あまり重要でない	-1点
不満	重要でない	-2点

◆ 満足度の平均得点

$$= \{ \text{「満足」の回答数} \times (+2 \text{点}) + \text{「やや満足」の回答数} \times (+1 \text{点}) + \text{「普通」の回答数} \times (0 \text{点}) \\ + \text{「やや不満」の回答数} \times (-1 \text{点}) + \text{「不満」の回答数} \times (-2 \text{点}) \} \div \text{総回答数}$$

◆ 重要度の平均得点

$$= \{ \text{「非常に重要」の回答数} \times (+2 \text{点}) + \text{「重要」の回答数} \times (+1 \text{点}) + \text{「普通」の回答数} \times (0 \text{点}) \\ + \text{「あまり重要でない」の回答数} \times (-1 \text{点}) + \text{「重要でない」の回答数} \times (-2 \text{点}) \} \div \text{総回答数}$$

※総回答数は、無回答を除く当該項目の回答数

【全体】

- 満足度がプラスの評価の項目は、41 項目中 36 項目となっています。そのうち、満足度の上位及び下位の 10 項目は下表のとおりです。
- 「五条川や桜並木などの自然環境の保全」、「電車やバスなどの公共交通の利便性」、「安全な水道水の安定した供給の確保」、「ごみ収集・処理体制」、「消防・救急体制」といった項目は、満足度の得点が 0.5 ポイントを上回っており、特に高くなっています。
- 一方で、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」、「産業振興」、「計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成」、「小売商業の振興」、「観光・交流の振興」の 5 項目は満足度がマイナスとなっており、特に産業に関する項目では評価が低いものが複数みられます。

図表 II-24 施策に対する満足度の上位 10 項目

順位	満足度上位 10 項目	得点
1	五条川や桜並木などの自然環境の保全	0.86
2	電車・バスなどの公共交通の利便性	0.75
3	安全な水道水の安定した供給の確保	0.73
4	ごみ収集・処理体制	0.68
5	消防・救急体制	0.52
6	下水道整備などの生活排水処理	0.38
7	健康づくりへの支援	0.37
8	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.30
9	生涯学習の充実	0.29
10	公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	0.25

図表 II-25 施策に対する満足度の下位 10 項目

順位	満足度下位 10 項目	得点
1	歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	-0.22
2	産業振興	-0.18
3	計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	-0.09
	小売商業の振興	-0.09
5	観光・交流の振興	-0.03
6	地震や浸水などの防災対策	0.02
	農地の保全活用などの農業振興策	0.02
	消費生活相談体制	0.02
9	図書館の充実	0.03
10	地域の防犯活動への支援や防犯対策	0.07

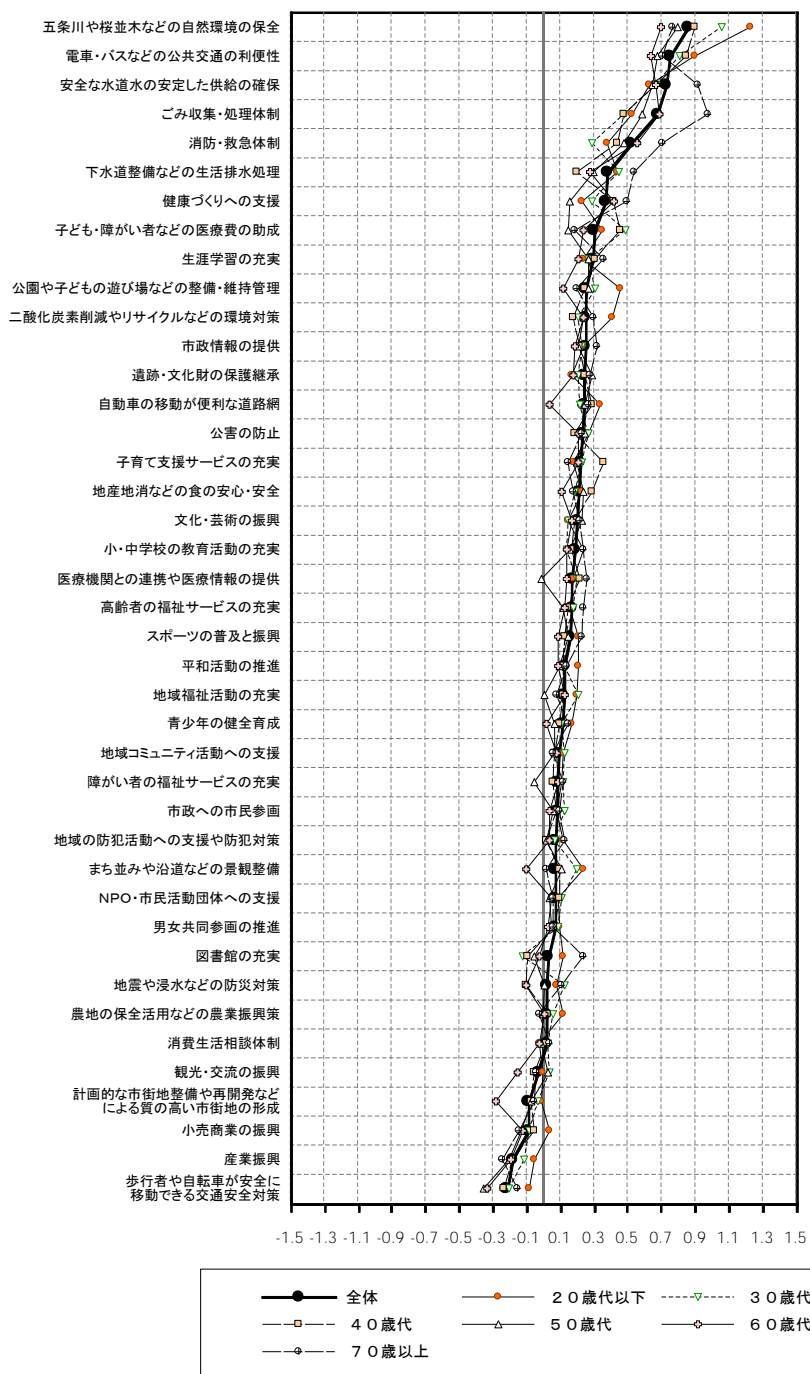
図表 11-26 施策に対する満足度

順位	項目	得点
1	五条川や桜並木などの自然環境の保全	0.86
2	電車・バスなどの公共交通の利便性	0.75
3	安全な水道水の安定した供給の確保	0.73
4	ごみ収集・処理体制	0.68
5	消防・救急体制	0.52
6	下水道整備などの生活排水処理	0.38
7	健康づくりへの支援	0.37
8	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.30
9	生涯学習の充実	0.29
10	公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	0.25
11	二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策	0.25
12	市政情報の提供	0.25
13	遺跡・文化財の保護継承	0.24
14	自動車の移動が便利な道路網	0.24
15	公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止	0.23
16	子育て支援サービスの充実	0.22
17	地産地消などの食の安心・安全	0.21
18	文化・芸術の振興	0.20
19	小・中学校の教育活動の充実	0.19
20	医療機関との連携や医療情報の提供	0.17
21	高齢者の福祉サービスの充実	0.17
22	スポーツの普及と振興	0.16
23	平和活動の推進	0.13
24	地域福祉活動の充実	0.12
25	青少年の健全育成	0.11
26	地域コミュニティ活動への支援	0.09
27	障がい者の福祉サービスの充実	0.08
28	市政への市民参画（市民意見の反映）	0.08
29	地域の防犯活動への支援や防犯対策	0.07
30	まち並みや沿道などの景観整備	0.07
31	NPO・市民活動団体への支援	0.07
32	男女共同参画の推進	0.07
33	図書館の充実	0.03
34	地震や浸水などの防災対策	0.02
35	農地の保全活用などの農業振興策	0.02
36	消費生活相談体制	0.02
37	観光・交流の振興	-0.03
38	計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	-0.09
39	小売商業の振興	-0.09
40	産業振興	-0.18
41	歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	-0.22

【年齢別】

- 年齢別にみると、年齢によって大きな差異が生じている項目が複数みられます。年齢による評価の差が最も大きい項目は、「五条川や桜並木などの自然環境の保全」で、最も高い20歳代以下の1.23に対し、最も低い60歳代は0.70と、0.53ポイントの差が生じています。
- 以下、「ごみ収集・処理体制」(0.50)、「消防・救急体制」(0.42)、「図書館の充実」(0.36)、「公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理」と「下水道整備などの生活排水処理」(0.37)の順となっています。

図表 II-27 施策に対する満足度（経年比較）

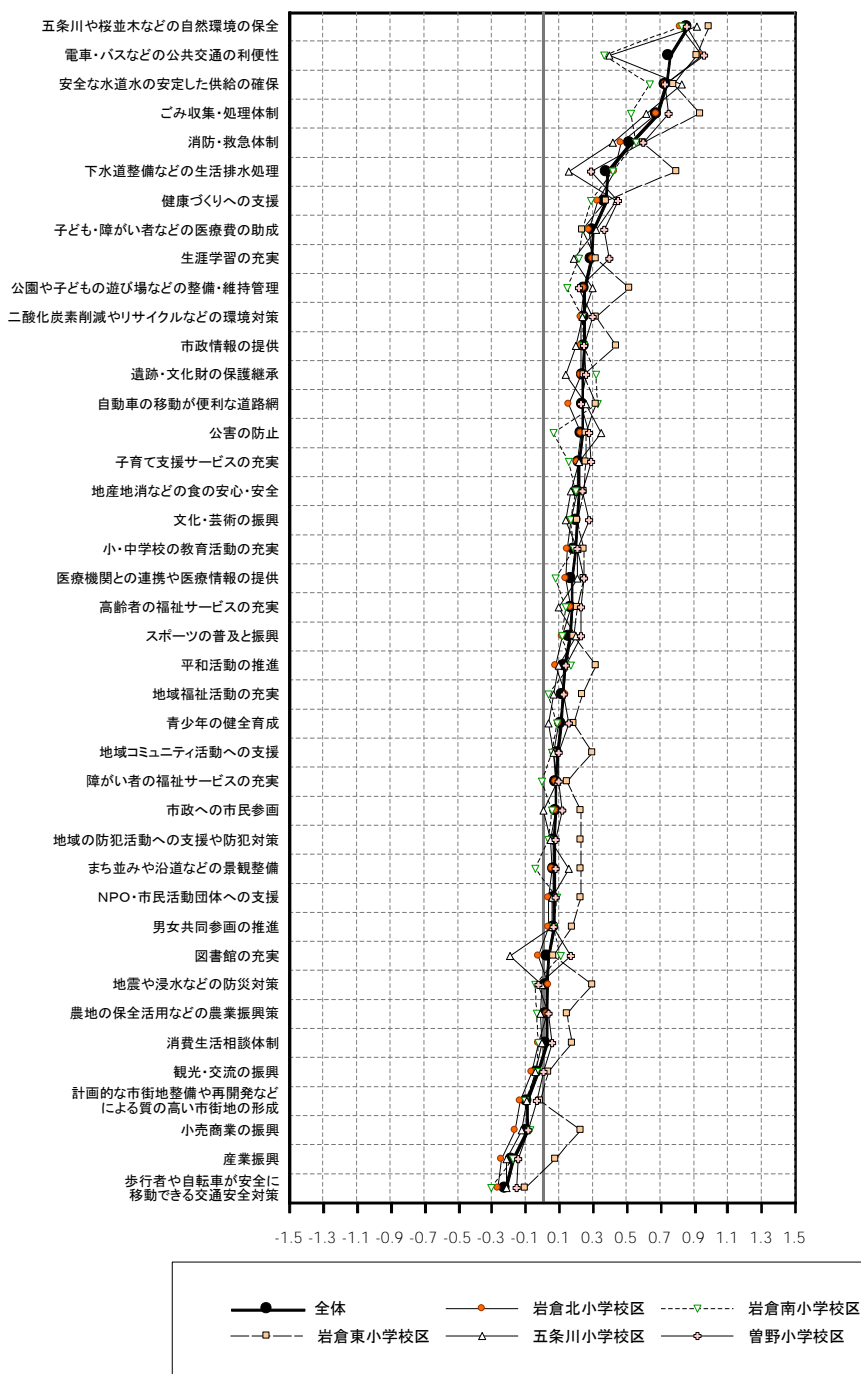


【小学校区別】

○小学校区別でみると、一部の項目で、満足度の評価に大きな格差が生じていることがわかります。小学校区間の評価の差が最も大きい項目は、「下水道整備などの生活排水処理」で、最も高い岩倉東小学校区の 0.80 に対し、最も低い五条川小学校区では 0.16 と、0.64 ポイントの差が生じています。

○以下、「電車・バスなどの公共交通の利便性」(0.59)、「ごみ収集・処理体制」(0.41)、「小売商業の振興」(0.39)、「公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理」(0.37) の順となっています。

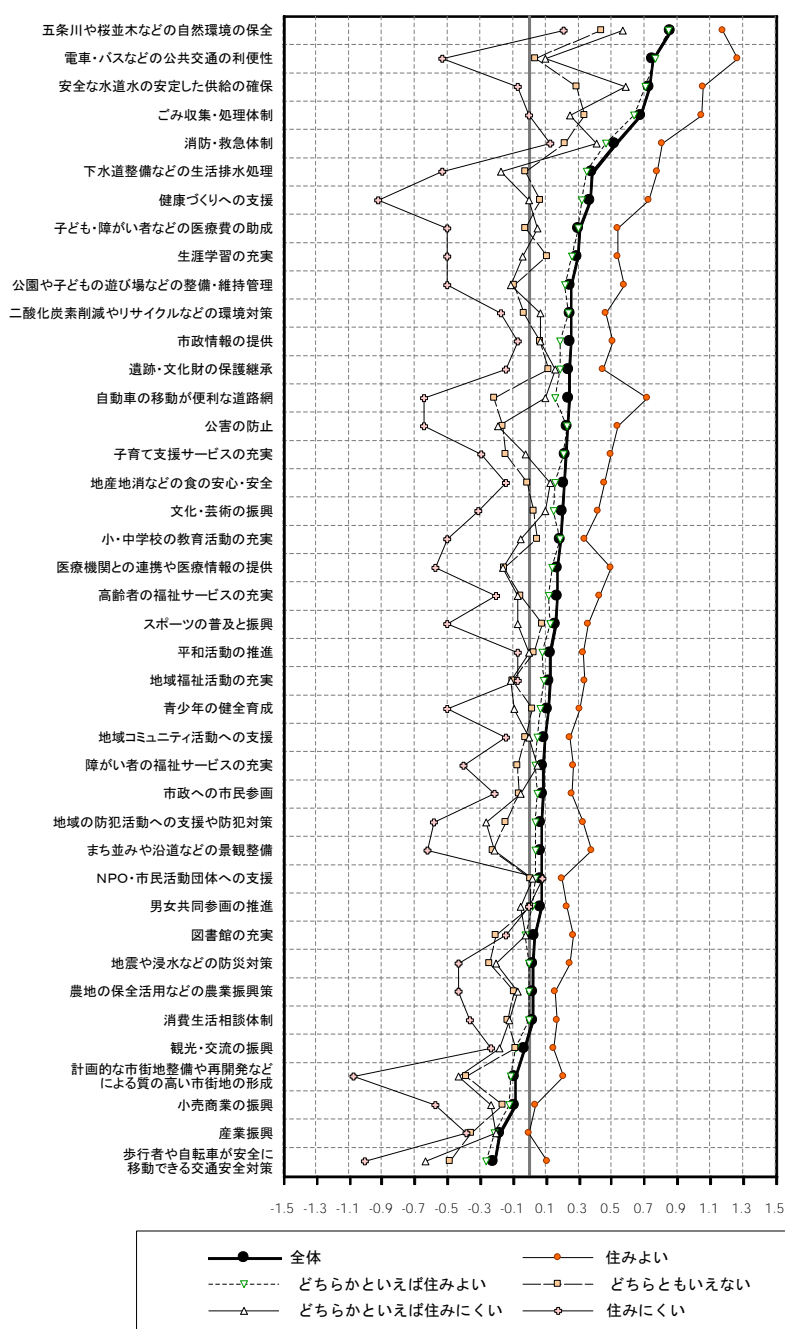
図表 II-28 施策に対する満足度（小学校区別）



【住みやすさの評価別】

- おおむね住みやすさの評価が高いほど、施策の満足度も高くなっています。
- 「住みよい」と評価した市民と「住みにくい」と評価した市民との評価の差が大きい上位5項目は、「電車やバスなどの公共交通の利便性」(1.80)、「下水道整備などの生活排水処理」(1.31)、「健康づくりへの支援」(1.65)、「自動車の移動が便利な道路網」(1.36)、「計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成」(1.27)となっています。総合的に住みやすいまちとしての評価をより多くの市民から得るためには、このような施策を重点的に推進することが効果的であると考えられます。

図表 II-29 施策に対する満足度（住みやすさの評価別）



(2) 施策に対する重要度 (問 10)

問 10

岩倉市が行っている施策について、満足度と重要度をおたずねします。

【①～④について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

全項目がプラス評価となっており、程度に差はあるものの、どの施策もそれぞれ「重要である」と認識されていることがわかります。

【全体】

- 全項目がプラス評価となっており、程度に差はあるものの、どの施策もそれぞれ「重要である」と認識されていることがわかります。なお、重要度の上位及び下位の10項目は下表のとおりです。
- 「防災対策」、「水道水の安定した供給」、「消防・救急体制」、「生活排水処理」、「ごみ収集・処理体制」といった暮らしの公衆衛生をはじめとする暮らしの安全・安心を担保する項目が上位となっています。また、「子育て支援サービスの充実」が8位に入っていることも特徴です。

図表 II-30 施策に対する重要度の上位10項目

順位	重要度上位10項目	得点
1	地震や浸水などの防災対策	1.21
	安全な水道水の安定した供給の確保	1.21
3	消防・救急体制	1.20
4	下水道整備などの生活排水処理	1.10
5	ごみ収集・処理体制	1.06
6	電車・バスなどの公共交通の利便性	1.05
7	地域の防犯活動への支援や防犯対策	1.04
8	子育て支援サービスの充実	1.03
	歩行者や自転車及安全に移動できる交通安全対策	1.03
10	医療機関との連携や医療情報の提供	1.02

図表 II-31 施策に対する重要度の下位10項目

順位	重要度下位10項目	得点
1	NPO・市民活動団体への支援	0.18
2	男女共同参画の推進	0.23
3	観光・交流の振興	0.25
4	地域コミュニティ活動への支援	0.25
5	文化・芸術の振興	0.26
6	消費生活相談体制	0.31
7	遺跡・文化財の保護継承	0.32
8	農地の保全活用などの農業振興策	0.35
9	生涯学習の充実	0.36
10	平和活動の推進	0.38

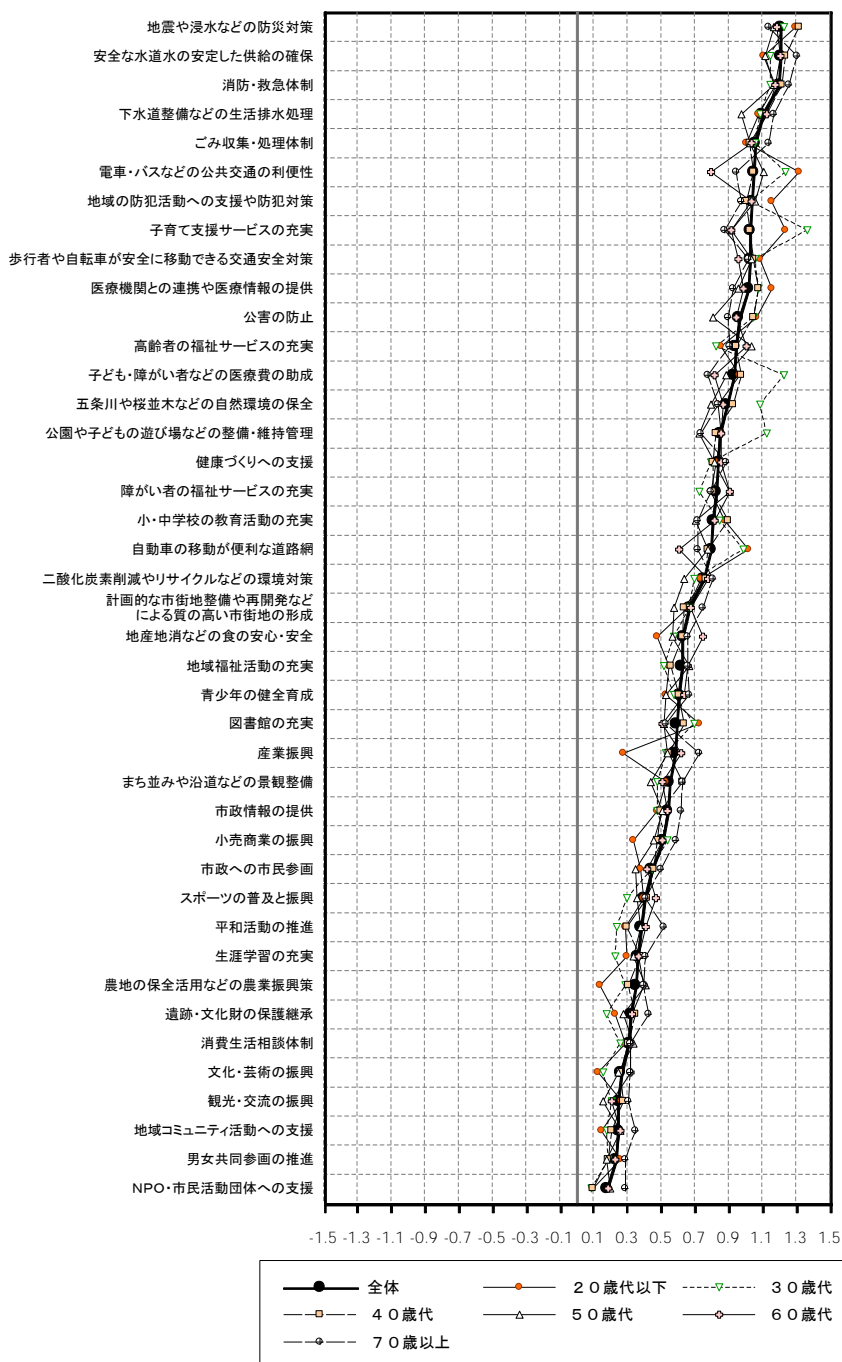
図表 11-32 施策に対する重要度

順位	項目	得点
1	地震や浸水などの防災対策	1.21
2	安全な水道水の安定した供給の確保	1.21
3	消防・救急体制	1.20
4	下水道整備などの生活排水処理	1.10
5	ごみ収集・処理体制	1.06
6	電車・バスなどの公共交通の利便性	1.05
7	地域の防犯活動への支援や防犯対策	1.04
8	子育て支援サービスの充実	1.03
9	歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	1.03
10	医療機関との連携や医療情報の提供	1.02
11	公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止	0.96
12	高齢者の福祉サービスの充実	0.94
13	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.93
14	五条川や桜並木などの自然環境の保全	0.89
15	公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	0.85
16	健康づくりへの支援	0.84
17	障がい者の福祉サービスの充実	0.83
18	小・中学校の教育活動の充実	0.81
19	自動車の移動が便利な道路網	0.80
20	二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策	0.75
21	計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	0.67
22	地産地消などの食の安心・安全	0.63
23	地域福祉活動の充実	0.62
24	青少年の健全育成	0.61
25	図書館の充実	0.59
26	産業振興	0.58
27	まち並みや沿道などの景観整備	0.55
28	市政情報の提供	0.54
29	小売商業の振興	0.51
30	市政への市民参画（市民意見の反映）	0.44
31	スポーツの普及と振興	0.40
32	平和活動の推進	0.38
33	生涯学習の充実	0.36
34	農地の保全活用などの農業振興策	0.35
35	遺跡・文化財の保護継承	0.32
36	消費生活相談体制	0.31
37	文化・芸術の振興	0.26
38	観光・交流の振興	0.25
39	地域コミュニティ活動への支援	0.25
40	男女共同参画の推進	0.23
41	NPO・市民活動団体への支援	0.18

【年齢別】

- 年齢別にみると、重要度の評価に大きな差異が生じている項目が複数みられます。年齢による差が最も大きい項目は「電車・バスなどの公共交通の利便性」で、最も高い20歳代以下の1.32に対し、最も低い60歳代は0.80と、0.52の差が生じています。
- 以下、「子育て支援サービスの充実」(0.49)、「子ども・障がい者などの医療費の助成」及び「産業振興」(0.45)、「自動車の移動が便利な道路網」(0.41)の順となっています。

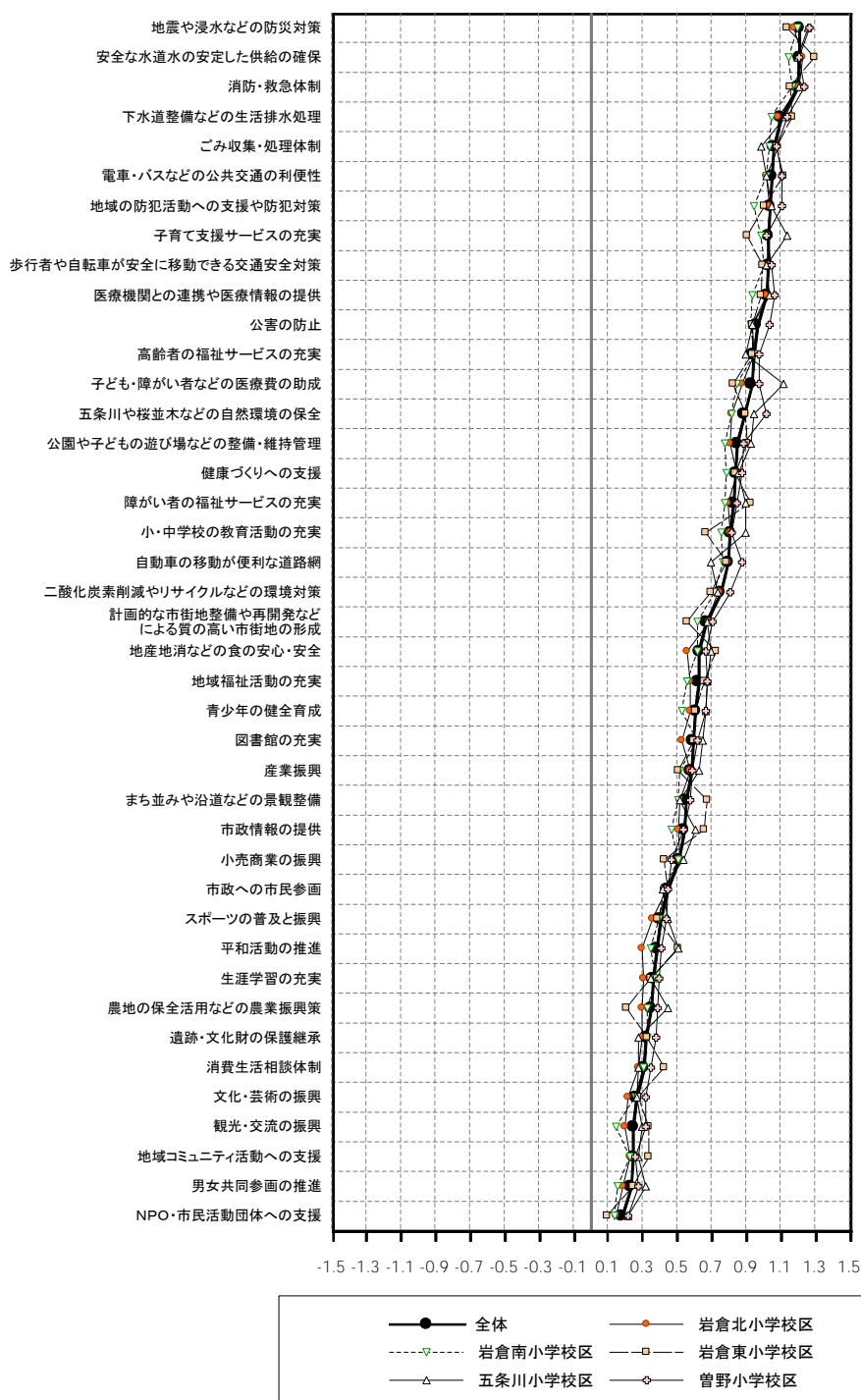
図表 II-33 施策に対する重要度（年齢別）



【小学校区別】

○小学校区別にみると、重要度の評価に大きな差異が生じている項目は少ないものの、いくつか存在しています。小学校区による差が最も大きい項目は、「子ども・障がい者などの医療費の助成」で、最も高い五条川小学校区の 1.12 に対し、最も岩倉東小学校区は 0.83 と、0.29 の差が生じています。以下、「農地の保全活用などの農業振興策」(0.24)、「子育て支援サービスの充実」及び「小・中学校の教育活動の充実」(0.23)、「平和活動の推進」(0.21) の順となっています。

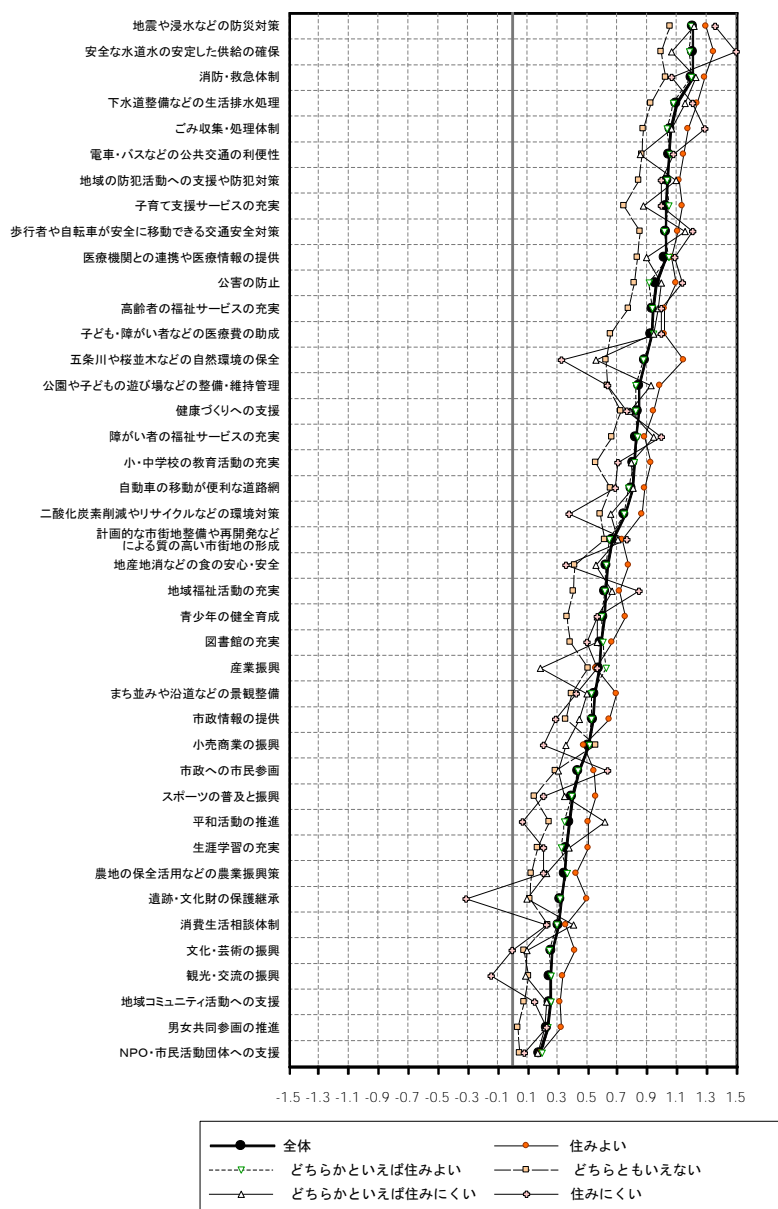
図表 II-34 施策に対する重要度（小学校区別）



【住みやすさの評価別】

- 住みやすさの評価が高いほど、施策の重要度も高くなる傾向がみられますが、「住みにくい」と回答した市民による重要度の得点が、「住みやすい」と回答した市民の重要度の得点を上回る項目として、「安全な水道水の安定した供給の確保」(0.15)、「地域福祉活動の充実」(0.13)、「ごみ収集・処理体制」及び「障害者の福祉サービスの充実」(0.13)、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」(0.10)をはじめとする11の項目があります。
- 評価の差が大きい上位3項目をみると、「五条川や桜並木など自然環境の保全」(0.82)、「遺跡・文化財の保護継承」(0.81)、「二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策」(0.49)となっており、いずれも「住みよい」と回答した市民からの評価が、「住みにくい」と回答した市民の評価を上回っています。

図表 II-35 施策に対する重要度（住みやすさの評価別）



(3) 施策に対する満足度と重要度の評価（ポートフォリオ分析）（問 10）

重要度から満足度を差し引いた“優先度”の得点についてみると、優先度の得点は「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」が 1.25 で最も高くなっています。

「子育て支援サービスの充実」を除いた上位 7 項目は、重要度、満足度ともに全体平均を下回っている「重点改善施策項目」となっており、改善が急務だと考える市民が多いことがわかります。

【全体】

- 岩倉市の施策に対する市民の満足度の平均得点を横軸、重要度の平均得点を縦軸として施策を位置付け、その特性によって分類を行います。
 - 41 項目全体の満足度得点の平均値は、「0.20」となっています。満足度得点の平均値を示す図の縦の太線より右側にある項目は、41 項目全体の平均得点より高い項目（相対的に満足度の高い施策項目）であり、左側にある項目は、満足度が全体平均よりも低い項目（相対的に満足度の低い施策項目）です。
 - 41 項目全体の重要度得点の平均値は、「0.70」となっています。重要度得点の平均値を示す図の横の太線より上側にある項目は、重要度が 41 項目全体の平均得点よりも高い項目（相対的に重要度の高い施策項目）であり、下側にある項目は重要度が全体平均よりも低い項目（相対的に重要度の低い施策項目）です。
 - 着目すべきは、図の左上にある、重要度が高いと評価されているにもかかわらず、満足度が低くなっている項目です。この項目は、当該項目について重要だと考えているにもかかわらず、現状には満足していない人が多く、重点的に改善を図ることが求められる施策（重点改善施策項目）であるといえます。
 - 重要度から満足度を差し引いた“優先度”の得点についてみると、優先度の得点は「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」が 1.25 で最も高く、次いで「地震や浸水などの防災対策」、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」、「医療機関との連携や医療情報の提供」、「子育て支援サービスの充実」の順となっています。「子育て支援サービスの充実」を除いた上位 7 項目は、重要度、満足度ともに全体平均を下回っている「重点改善施策項目」となっており、改善が急務だと考える市民が多いことがわかります。
-

図表 II-36 施策に対する優先度の上位 20 項目（重要度と満足度の差）

順位	項目	優先度 (重要度-満足度)	満足度	重要度
1	交通安全対策	1.25	-0.22	1.03
2	防災対策	1.19	0.02	1.21
3	防犯対策	0.97	0.07	1.04
4	医療機関との連携	0.85	0.17	1.02
5	子育て支援の充実	0.81	0.22	1.03
6	高齢者福祉の充実	0.77	0.17	0.94
7	障がい者福祉の充実	0.76	-0.09	0.67
8	質の高い市街地の形成	0.76	-0.18	0.58
9	産業振興	0.75	0.08	0.83
10	公害の防止	0.73	0.23	0.96
11	生活排水処理	0.72	0.38	1.10
12	消防・救急体制	0.68	0.52	1.20
13	医療費の助成	0.63	0.30	0.93
14	小中学校教育の充実	0.62	0.19	0.81
15	公園の整備・維持管理	0.60	0.25	0.85
16	小売商業の振興	0.60	-0.09	0.51
17	便利な道路網	0.56	0.24	0.80
18	図書館の充実	0.56	0.03	0.59
19	地域福祉活動の充実	0.50	0.25	0.75
20	青少年の健全育成	0.50	0.12	0.62

	平均より満足度が低く重要度が高い 重点改善施策項目
--	------------------------------

【施策の優先度】

- 日々の暮らしの安全・安心に関わる項目についての優先度は高くなっており、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」、「地震や浸水などの防災対策」、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」がトップ3となっています。
- 医療・福祉分野の施策項目では、「医療機関との連携」、「子育て支援サービスの充実」、「高齢者の福祉サービスの充実」、「障がい者の福祉サービスの充実」が上位10項目のうち、4項目を占めています。
- その他に、「計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成」、「産業振興」、「公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止」といった都市的な環境の改善に対する項目も上位10項目に入っています。
- なお、重要度が平均値よりも低い項目をみると、「NPO・市民活動団体の支援」や「男女共同参画の推進」、「観光・交流の振興」、「地域コミュニティ活動への支援」、「文化芸術の振興」といった、生活の質を向上及び成熟した社会において不可欠な要素の充足に関する項目が多くみられます。こうした施策項目も重要度評価はプラスであり、喫緊の課題として捉えられているとはいええないものの、軽視されているものではありません。

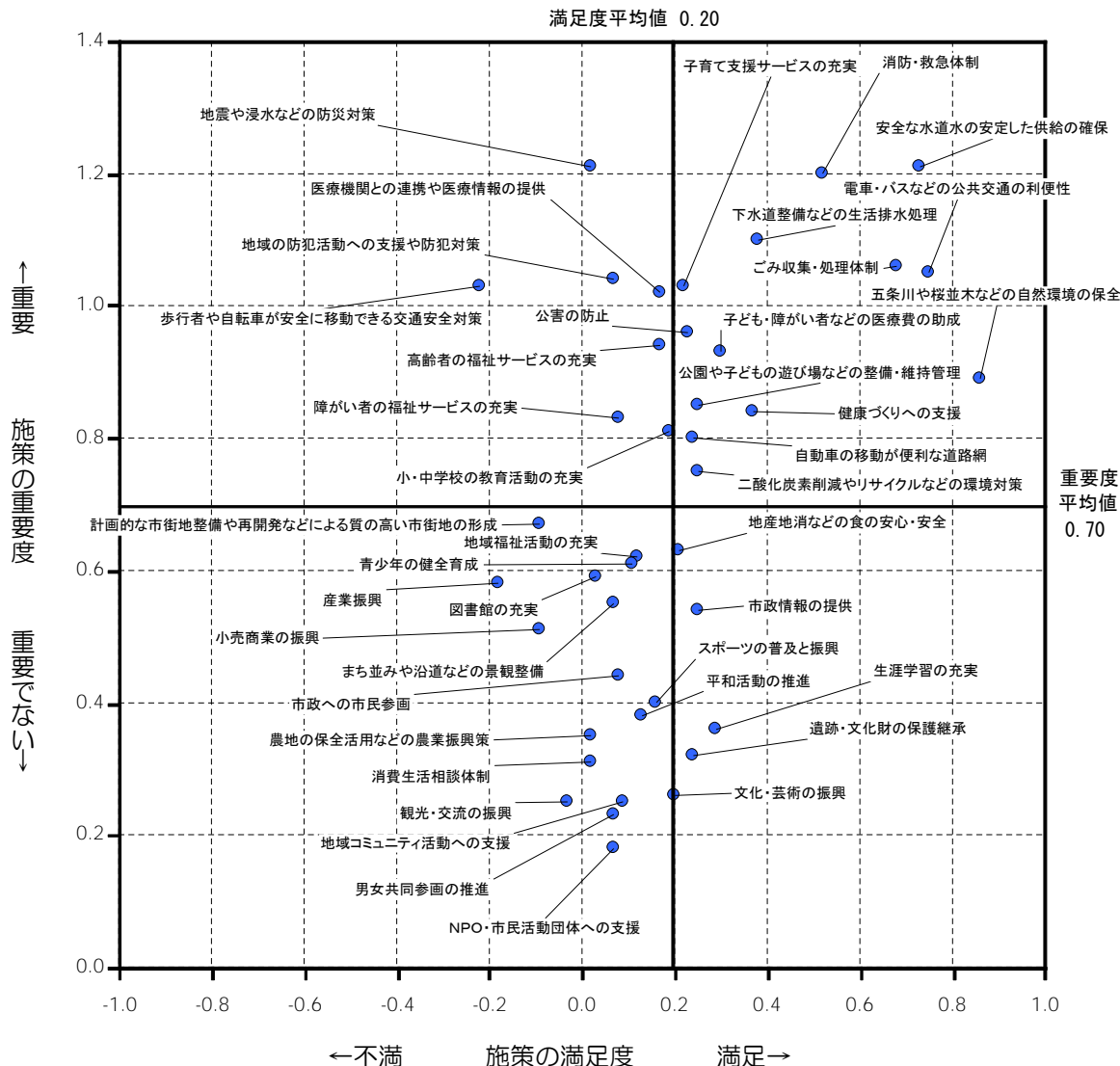
図表 II-37 施策に対する優先度（重要度と満足度の差）

	項目	満足度 (a)	順位	重要度 (b)	順位	優先度 (b-a)	順位	位置
1	健康づくりへの支援	0.37	7	0.84	16	0.47	24	B
2	医療機関との連携や医療情報の提供	0.17	20	1.02	10	0.85	4	A
3	高齢者の福祉サービスの充実	0.17	21	0.94	12	0.77	6	A
4	子育て支援サービスの充実	0.22	16	1.03	9	0.81	5	B
5	障がい者の福祉サービスの充実	0.08	28	0.83	17	0.75	9	A
6	地域福祉活動の充実	0.12	24	0.62	23	0.50	19	C
7	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.30	8	0.93	13	0.63	13	B
8	五条川や桜並木などの自然環境の保全	0.86	1	0.89	14	0.03	41	B
9	公園や子どもの遊び場などの 整備・維持管理	0.25	12	0.85	15	0.60	15	B
10	公害（騒音・振動・水質汚濁など） の防止	0.23	15	0.96	11	0.73	10	B
11	二酸化炭素削減やリサイクルなどの 環境対策	0.25	10	0.75	20	0.50	19	B
12	ごみ収集・処理体制	0.68	4	1.06	5	0.38	26	B
13	地震や浸水などの防災対策	0.02	34	1.21	1	1.19	2	A
14	消防・救急体制	0.52	5	1.20	3	0.68	12	B
15	地域の防犯活動への支援や防犯対策	0.07	31	1.04	7	0.97	3	A
16	歩行者や自転車が安全に移動できる	-0.22	41	1.03	8	1.25	1	A

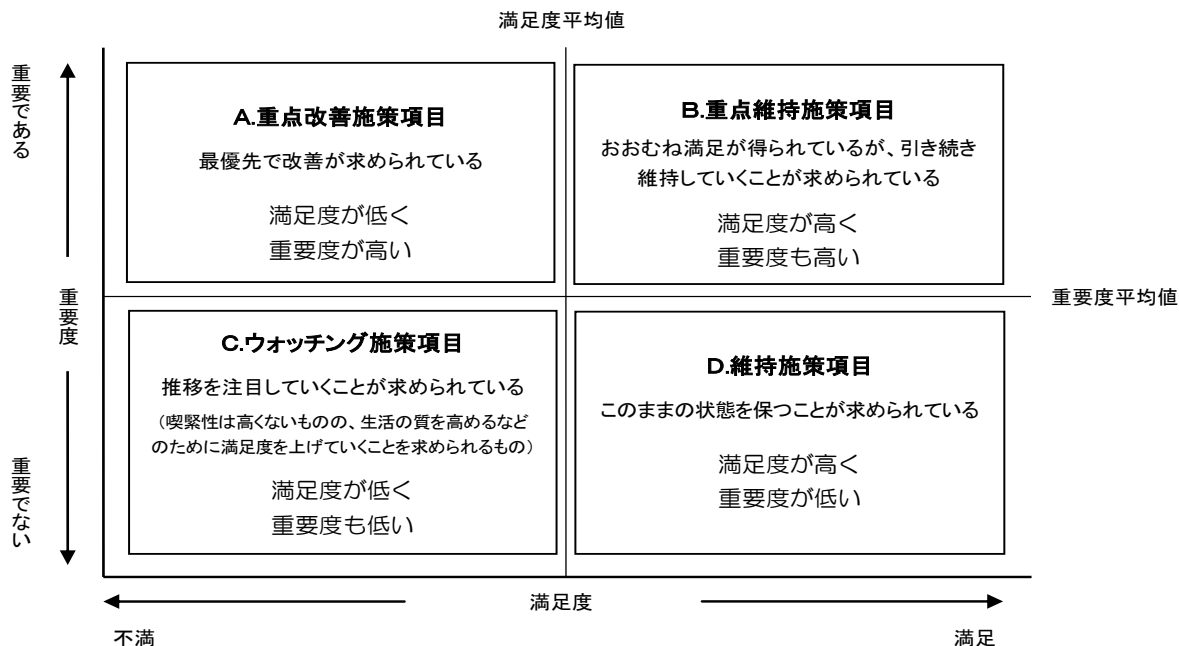
	交通安全対策							
17	生涯学習の充実	0.29	9	0.36	33	0.07	39	D
18	遺跡・文化財の保護継承	0.24	13	0.32	35	0.08	38	D
19	文化・芸術の振興	0.20	18	0.26	37	0.06	40	D
20	図書館の充実	0.03	33	0.59	25	0.56	18	C
21	青少年の健全育成	0.11	25	0.61	24	0.50	19	C
22	スポーツの普及と振興	0.16	22	0.40	31	0.24	34	C
23	小・中学校の教育活動の充実	0.19	19	0.81	18	0.62	14	A
24	電車・バスなどの公共交通の利便性	0.75	2	1.05	6	0.30	29	B
25	自動車の移動が便利な道路網	0.24	14	0.80	19	0.56	17	B
26	計画的な市街地整備や再開発など による質の高い市街地の形成	-0.09	38	0.67	21	0.76	7	C
27	まち並みや沿道などの景観整備	0.07	29	0.55	27	0.48	22	C
28	安全な水道水の安定した供給の確保	0.73	3	1.21	2	0.48	23	B
29	下水道整備などの生活排水処理	0.38	6	1.10	4	0.72	11	B
30	農地の保全活用などの農業振興策	0.02	35	0.35	34	0.33	28	C
31	地産地消などの食の安心・安全	0.21	17	0.63	22	0.42	25	D
32	産業振興	-0.18	40	0.58	26	0.76	7	C
33	小売商業の振興	-0.09	39	0.51	29	0.60	15	C
34	消費生活相談体制	0.02	36	0.31	36	0.29	31	C
35	観光・交流の振興	-0.03	37	0.25	39	0.28	32	C
36	NPO・市民活動団体への支援	0.07	30	0.18	41	0.11	37	C
37	地域コミュニティ活動への支援	0.09	26	0.25	38	0.16	35	C
38	市政への市民参画（市民意見の反映）	0.08	27	0.44	30	0.36	27	C
39	男女共同参画の推進	0.07	32	0.23	40	0.16	35	C
40	平和活動の推進	0.13	23	0.38	32	0.25	33	C
41	市政情報の提供	0.25	11	0.54	28	0.29	30	D

	優先度：1位～10位
	優先度：11位～20位

図表 II-38 ポートフォリオ分析



図表 II-39 ポートフォリオ分析図の見方



【小学校区別】

- 施策の優先度について小学校区別にみると、全体で上位6位までの項目については、各小学校区において10位以内となっており、大きな差異はみられません。
- 優先度1位の「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」については、岩倉北、岩倉南及び岩倉東の3小学校区で1位であるのに対し、五条川及び曾野小学校区では「地震や浸水などの防災対策」が1位となっています。
- 全体傾向と大きく異なるものとしては、岩倉北小学校区で全体12位の「消防・救急体制」が9位、岩倉東小学校区で全体13位の「子ども・障がい者などの医療費の助成」が9位、五条川小学校区で全体18位の「図書館の充実」が6位といったように、特定の小学校区のみにおいて上位にある項目は、小学校区固有の課題であるといえます。
- また、全体では20位以内であるものの、岩倉東小学校区では20位以下となっている項目が5項目存在しており、岩倉東小学校区は他の小学校区の傾向と比較すると、施策の優先度について異なった傾向がみられます。

図表 II-40 施策の優先度（小学校区別）

項目	全体	順位	岩倉北	順位	岩倉南	順位	岩倉東	順位	五条川	順位	曾野	順位
交通安全対策	1.25	1	1.30	1	1.31	1	1.10	1	1.23	2	1.20	2
防災対策	1.19	2	1.14	2	1.24	2	0.84	2	1.26	1	1.29	1
防犯対策	0.97	3	0.99	3	0.91	3	0.78	3	1.00	3	1.03	3
医療機関との連携	0.85	4	0.88	4	0.86	5	0.74	5	0.83	8	0.82	5
子育て支援の充実	0.81	5	0.82	5	0.83	6	0.65	8	0.92	5	0.73	10
高齢者福祉の充実	0.77	6	0.78	8	0.81	7	0.73	6	0.80	10	0.75	7
質の高い市街地形成	0.76	7	0.82	6	0.72	9	0.57	10	0.77	13	0.74	9
産業振興	0.76	7	0.82	6	0.69	10	0.43	18	0.84	7	0.73	10
障がい者福祉の充実	0.75	9	0.72	10	0.78	8	0.78	3	0.81	9	0.75	7
公害の防止	0.73	10	0.71	11	0.86	4	0.68	7	0.59	20	0.76	6
生活排水処理	0.72	11	0.66	13	0.63	12	0.37	24	0.97	4	0.85	4
消防・救急体制	0.68	12	0.74	9	0.61	15	0.56	11	0.79	12	0.64	14
医療費の助成	0.63	13	0.60	16	0.61	14	0.59	9	0.80	10	0.61	15
小中学校教育の充実	0.62	14	0.66	14	0.57	17	0.42	19	0.69	14	0.61	15
公園の整備・維持管理	0.60	15	0.56	17	0.63	13	0.39	22	0.63	16	0.67	12
小売商業の振興	0.60	15	0.68	12	0.58	16	0.20	31	0.66	15	0.55	18
便利な道路網	0.56	17	0.64	15	0.44	26	0.47	15	0.44	24	0.65	13
図書館の充実	0.56	18	0.55	18	0.51	20	0.53	12	0.84	6	0.45	23
地域福祉活動の充実	0.50	19	0.44	24	0.52	19	0.42	19	0.61	19	0.55	17
環境対策	0.50	19	0.52	19	0.48	24	0.38	23	0.50	22	0.51	19
青少年の健全育成	0.50	19	0.48	22	0.44	25	0.42	21	0.63	17	0.51	19

3. 住みやすさの評価と定住意向

(1) 住む場所としての評価（問 11）

問 11

次の観点から岩倉市を見た場合、どのように感じますか。

【①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

「子育てするまち」が 0.30 で最も高く、次いで「児童・生徒・学生が生活するまち」、「家庭を預かる主婦・主夫が生活するまち」、「健康で幸せに暮らすまち」、「高齢者が生活するまち」がプラス評価となっています。

一方で、「家族で休日や余暇を過ごすまち」は、唯一マイナス評価となっています。

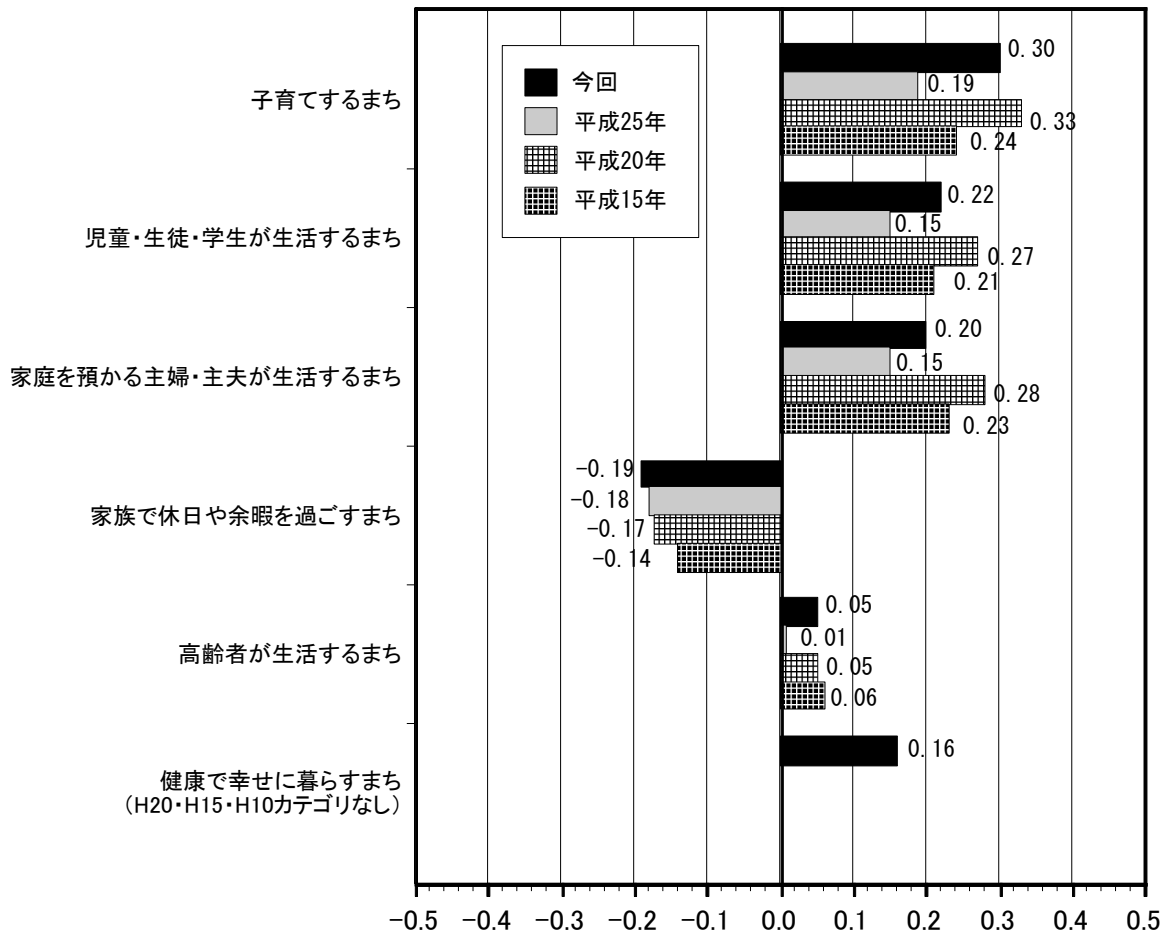
【全体】

- 岩倉市を生活の場としてどのように感じているのかについて、「子育てするまち」、「児童・生徒・学生が生活するまち」、「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」、「家族で休日や余暇を過ごすまち」、「お年寄りが生活するまち」、「健康で幸せに暮らすまち」の6つの観点からの評価し、「良い」を+1点、「普通」を0点、「悪い」を-1点として、その得点を求めます。
- 「子育てするまち」が 0.30 で最も高く、次いで「児童・生徒・学生が生活するまち」が 0.22、「家庭を預かる主婦・主夫が生活するまち」が 0.20、「健康で幸せに暮らすまち」が 0.16、「高齢者が生活するまち」が 0.05 でプラス評価となっています。一方で、「家族で休日や余暇を過ごすまち」は、-0.19 と唯一マイナス評価となっています。
- 「家族で休日や余暇を過ごすまち」のマイナス評価は、市域が狭く娯楽施設や公園等の大規模な整備が難しい状況にあることが、背景にあると考えられます。

【経年比較】

- 平成 25 年調査と比較すると、今回調査でプラス評価となっている 5 項目は、新たに追加された「健康で幸せにくらすまち」を除き、評価は上昇しています。ただし、平成 15 年調査と比較すると「家庭を預かる主婦・主夫が生活するまち」や「高齢者が生活するまち」との評価は、やや低下しています。
- 全体的な傾向として、子育てをする家庭や子どもがいる家庭が暮らすまちとしての評価は概ね上昇傾向にあります。

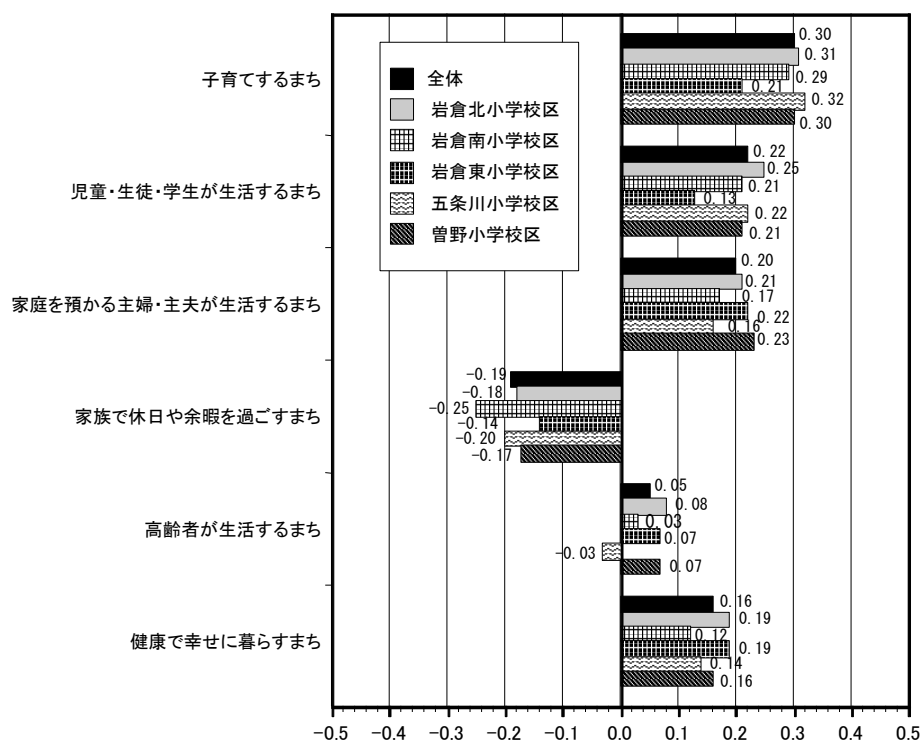
図表 II-41 住む場所としての評価（経年比較）



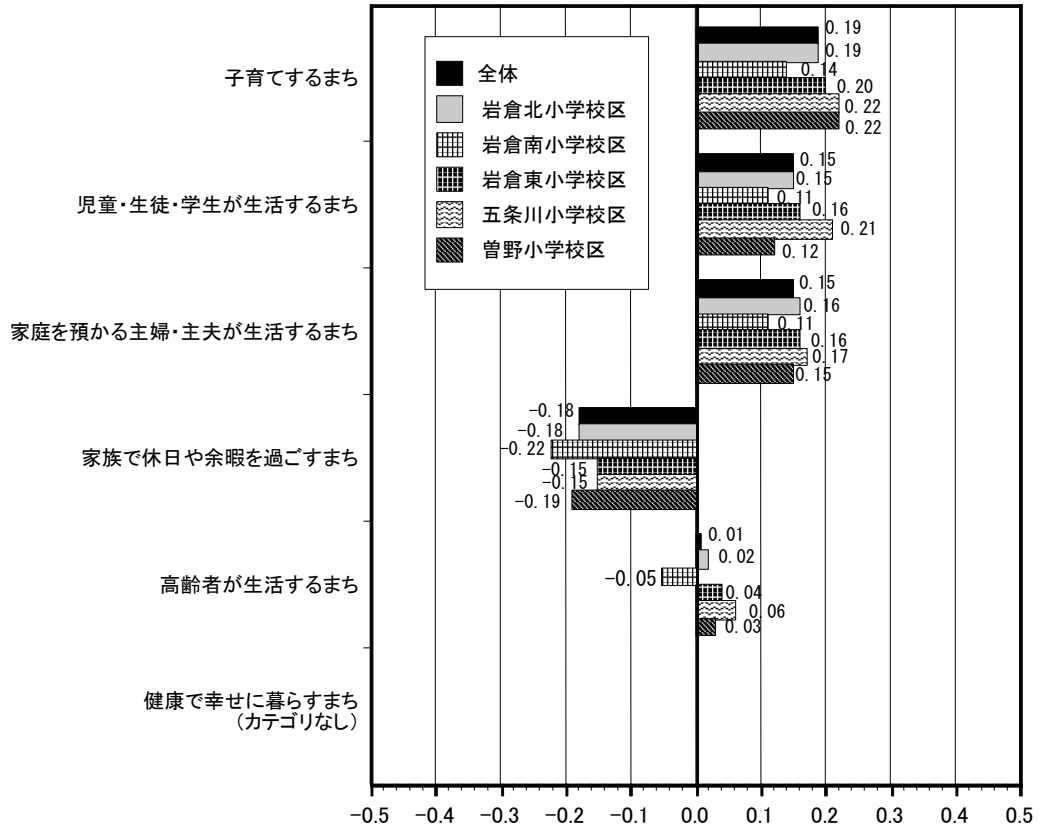
【小学校区別経年比較】

- 平成 20 年調査及び 25 年調査では、岩倉南小学校区がすべての項目で最も低くなっていたましたが、今回調査では、子どもに関する項目は岩倉東小学校区が最も低く、高齢者に関する項目は五条川小学校区が最も低くなるなど、従来の傾向とは大きく変化しています。
- 「子育てするまち」については、岩倉東小学校区の低下が際立っています。平成 20 年調査では 0.35 と、全小学校区で 2 番目に高かったものが、今回調査では 0.21 で全小学校区の中で最も低くなり、2 番目に低い岩倉南小学校区の 0.29 とは、0.08 ポイントもの差がみられるようになっています。
- 「児童・生徒・学生が生活するまち」についても、岩倉東小学校区は平成 20 年調査の 0.27 から 0.13 へと大幅に低下し、2 番目に低い岩倉南小学校区と 0.08 ポイントの差が生じています。岩倉東小学校区では、「子育てするまち」との評価を含め、子どもが生活する場所としての評価が低下傾向にあるといえます。
- 「家庭を預かる主婦・主夫が生活するまち」では、岩倉南小学校区が、他の小学校区と比較してやや低くなる傾向は変化していません。また、今回調査では五条川小学校区が最も低くなった点も特徴的です。
- 「高齢者が生活するまち」については、平成 20 年調査及び平成 25 年調査において、全小学校区の中で唯一マイナス評価であった岩倉南小学校区がプラスに転じた一方で、五条川小学校区で-0.03 と、評価がマイナスに転じています。
- 「家族で休日や余暇を過ごす所」については、全小学校区でマイナス評価となっており、小学校区ごとの傾向にも大きな変化はありません。
- 今回調査で新たに加わった「健康で幸せに暮らすまち」は、他の項目と比較して小学校区間の差は小さくなっています。

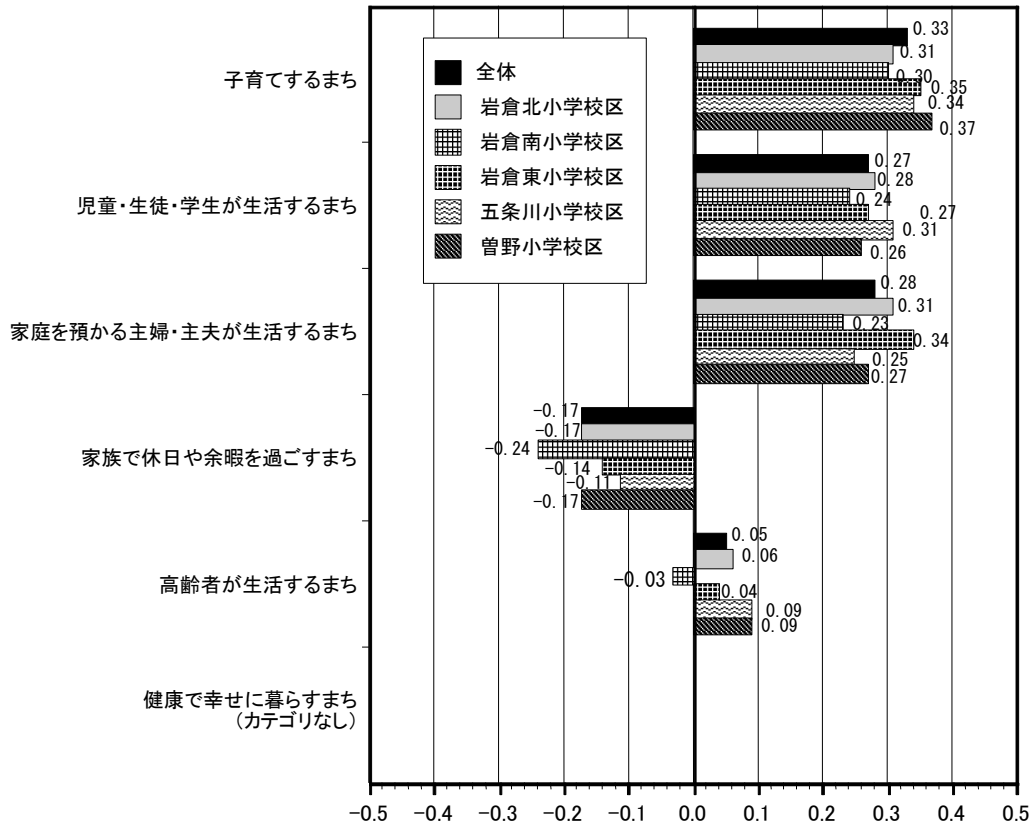
図表 II-42 住む場所としての評価（今回調査：小学校区別）



図表 II-43 住む場所としての評価（平成 25 年調査：小学校区別）



図表 II-44 住む場所としての評価（平成 20 年調査：小学校区別）

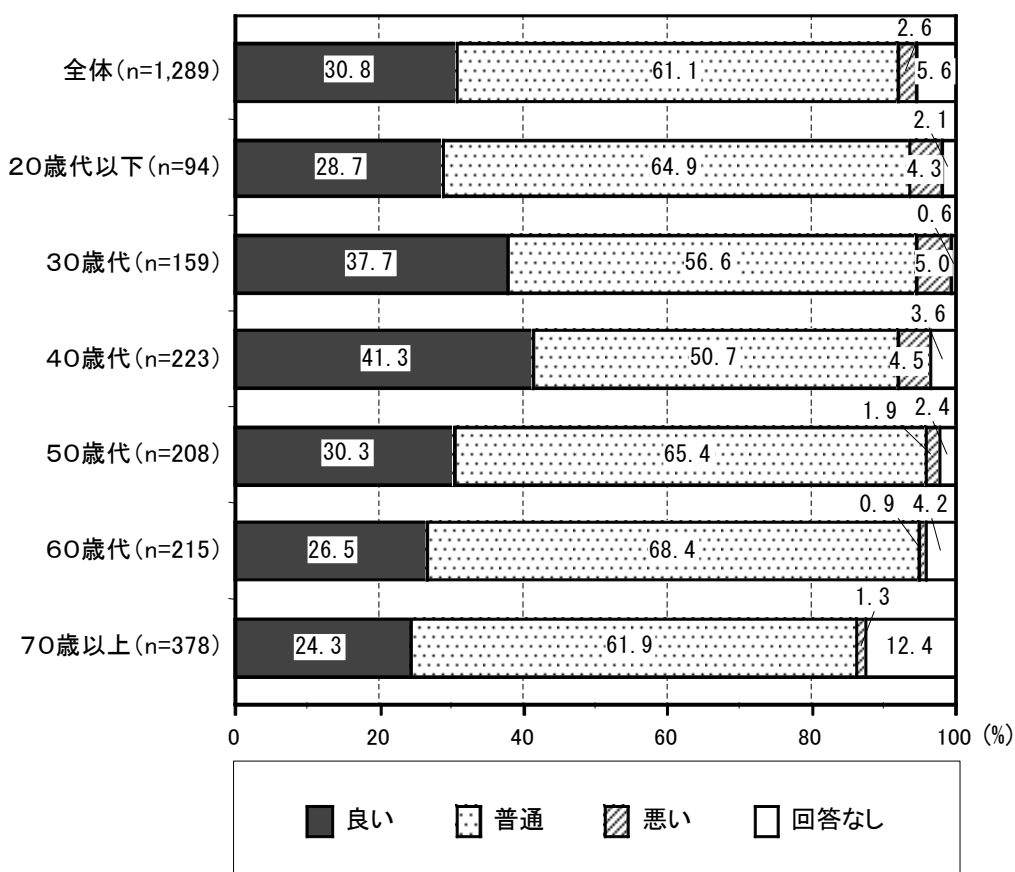


① 子育てするまち

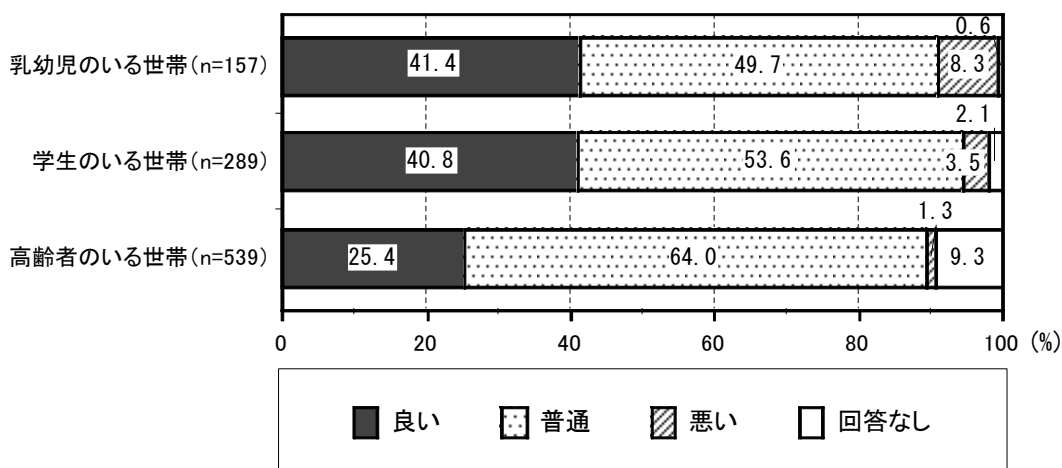
【年齢・世帯の構成者別】

- 「良い」との評価は、40歳代が41.3%で最も高く、次いで30歳代が37.7%となっています。
- 世帯の構成者別でみると、乳幼児のいる世帯では41.4%、学生のいる世帯では40.8%と、全体の30.8%を最大で10.6ポイント上回っており、実際に子育てをしている市民からの評価が高くなっています。

図表 II-45 「子育てするまち」としての評価（年齢別）



図表 II-46 「子育てするまち」としての評価（世帯の構成者別）

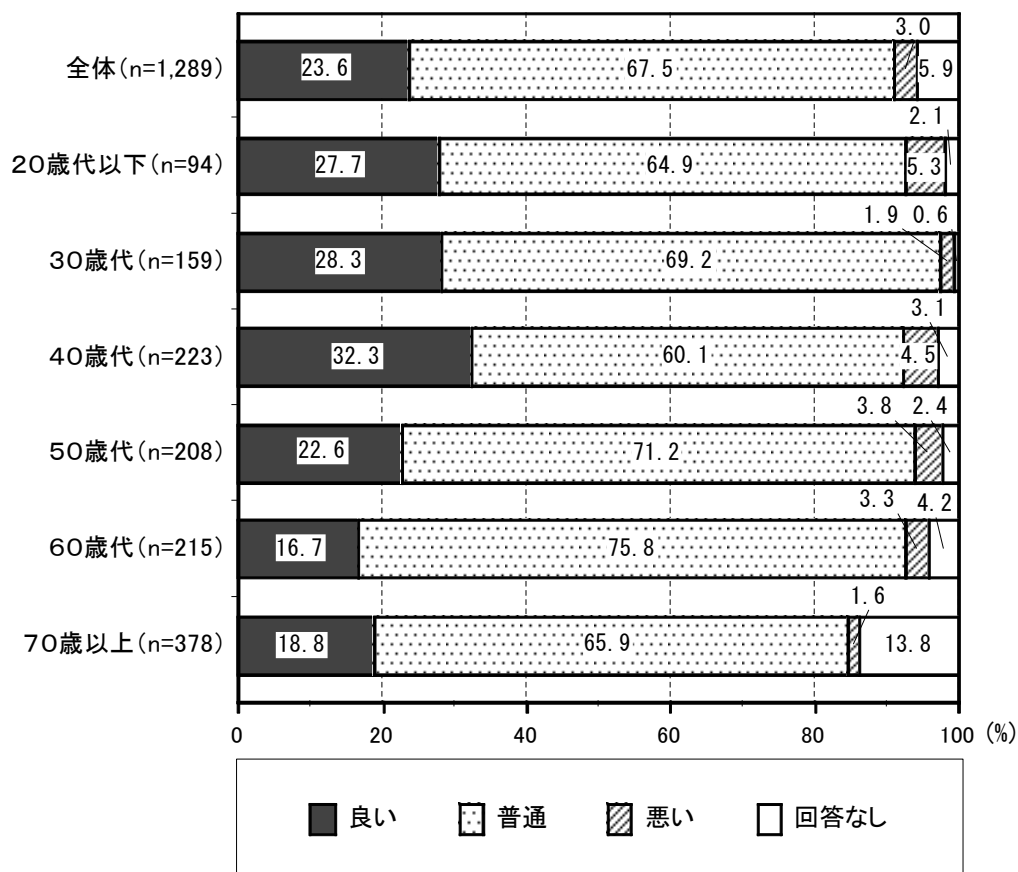


② 児童・生徒・学生が生活するまち

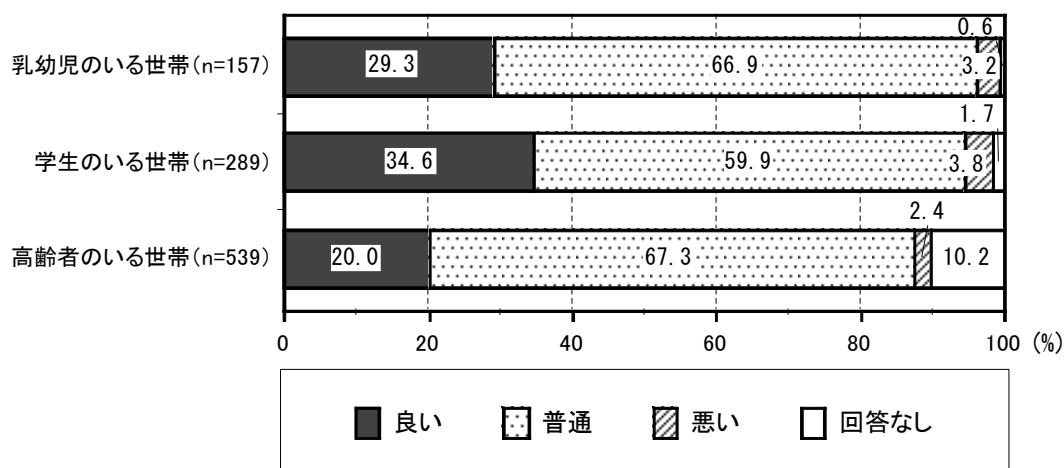
【年齢・世帯の状況別】

- 「良い」との評価は、40歳代が32.3%で最も高く、次いで30歳代が28.3%、20歳代以下が27.7%の順となっています。
- 世帯の構成者別でみると、学生のいる世帯では34.6%と、全体の23.6%を11.0ポイント上回っており、世帯に学生がいる市民からの評価が高くなっています。

図表 II-47 「児童・生徒・学生が生活するまち」としての評価（年齢別）



図表 II-48 「児童・生徒・学生が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）

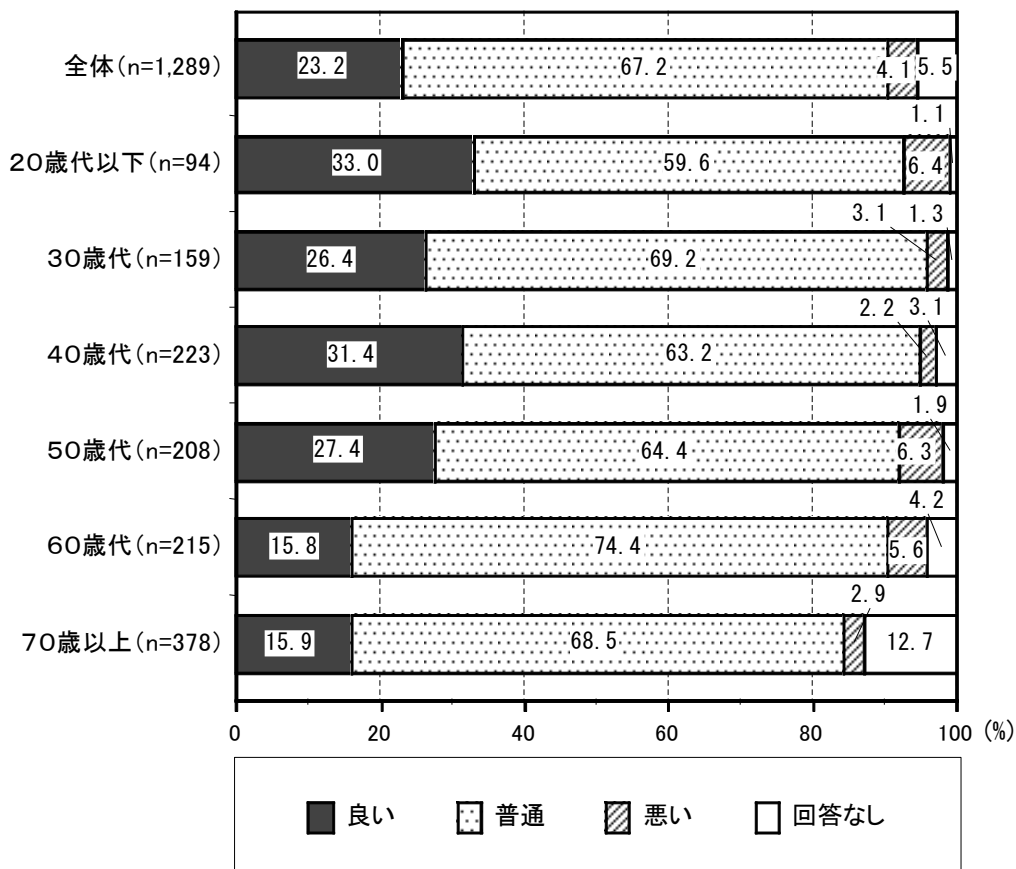


③ 主婦・主夫が生活するまち

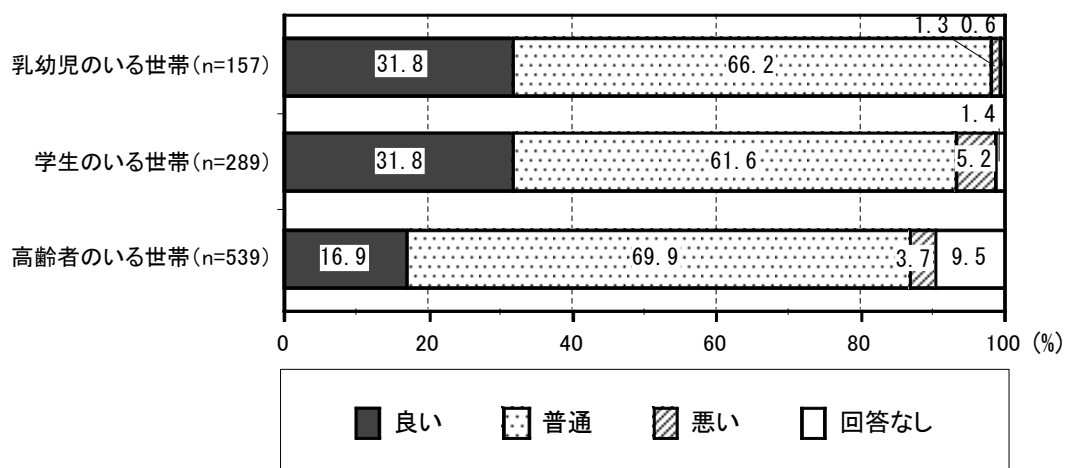
【年齢・世帯の状況別】

- 「良い」との評価は、20歳代以下が33.0%で最も高く、次いで40歳代が31.4%、50歳代が27.4%の順となっています。
- 世帯の構成者別でみると、乳幼児のいる世帯、学生のいる世帯ともに31.8%と、全体平均を8.6ポイント上回っています。

図表 II-49 「主婦・主夫が生活するまち」としての評価（年齢別）



図表 II-50 「主婦・主夫が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）

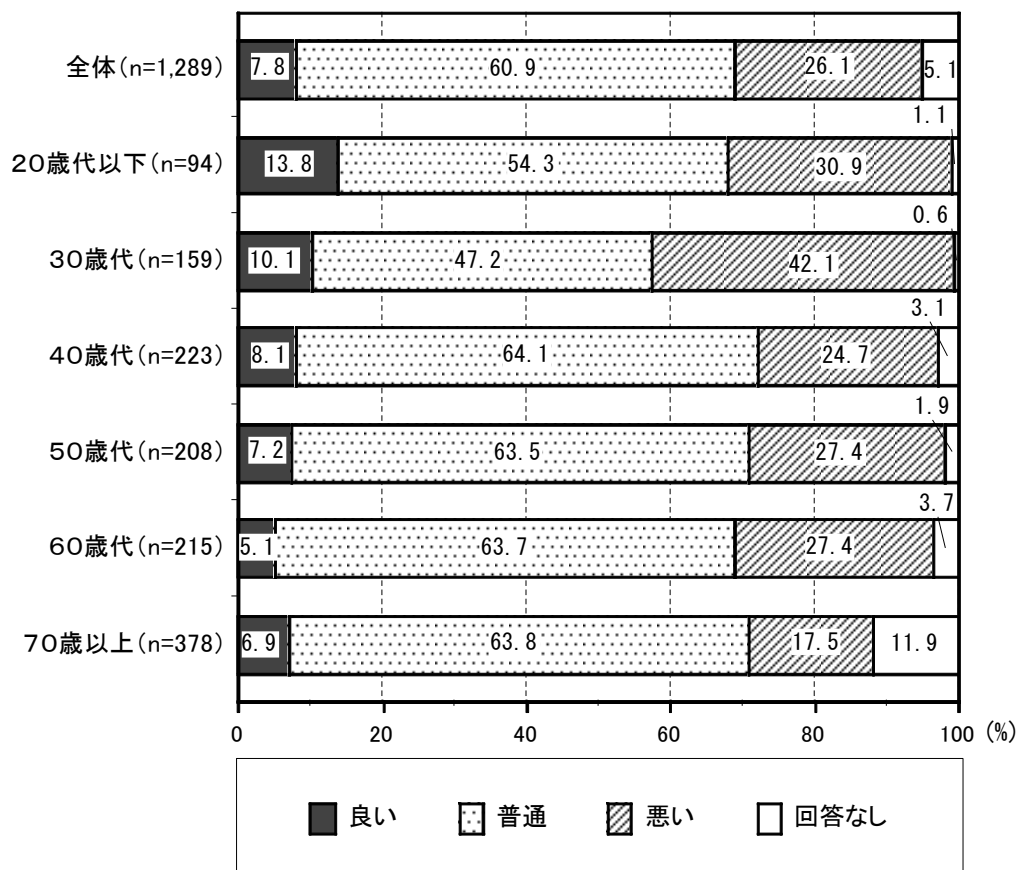


④ 家族で休日や余暇を過ごすまち

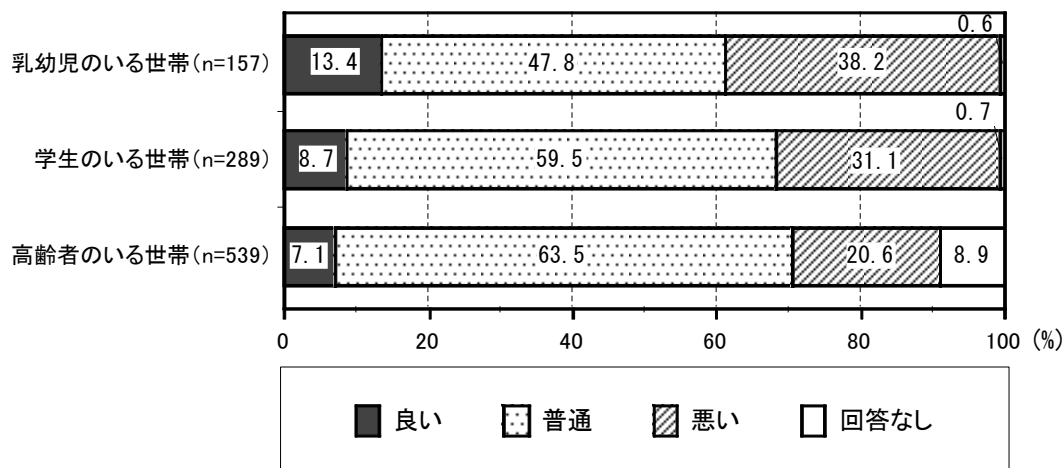
【年齢・世帯の状況別】

- 「良い」との評価は、20歳代以下が13.8%で最も高く、「悪い」との評価は30歳代が42.1%と、全体平均の26.1%を16.0ポイント上回っています。
- 世帯の構成者別でみると、乳幼児のいる世帯では「良い」との評価が13.4%と全体平均を5.6ポイント上回っている一方で、「悪い」との評価が38.2%と全体平均を12.1ポイント上回っており、評価が大きく分かれています。

図表 II-51 「家族で休日や余暇を過ごすまち」としての評価（年齢別）



図表 II-52 「家族で休日や余暇を過ごすまち」としての評価（世帯の構成者別）

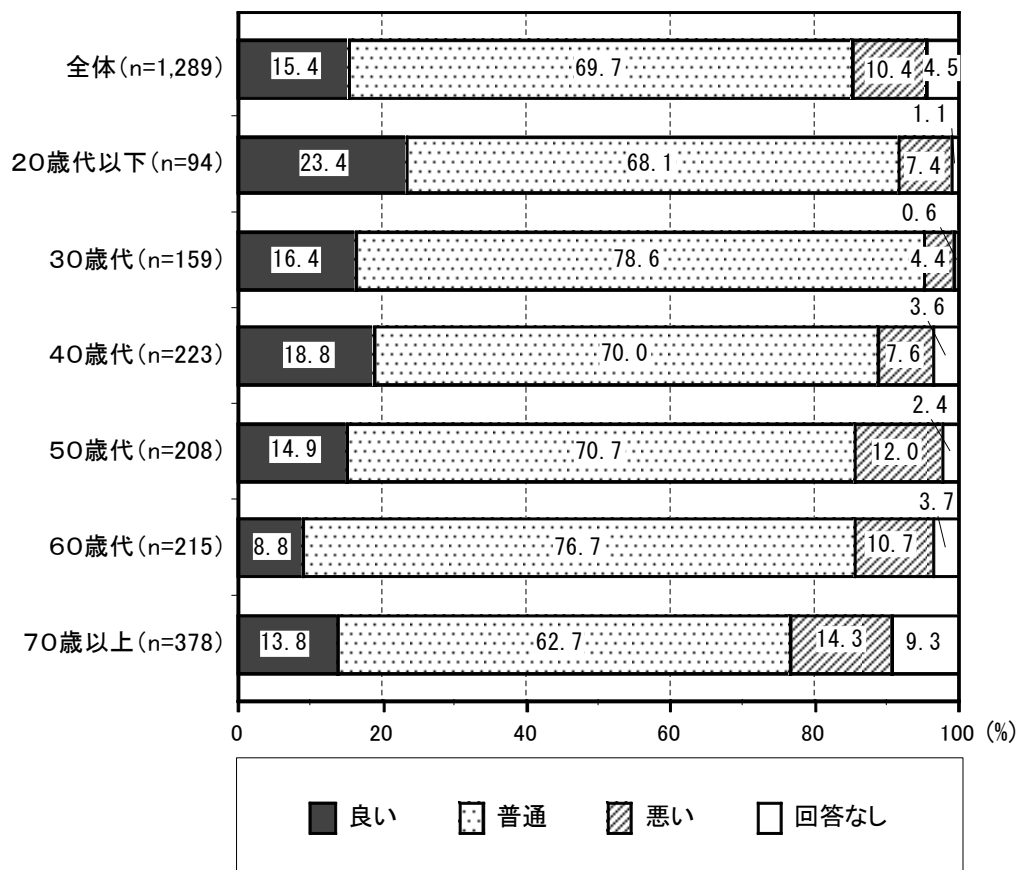


⑤ 高齢者が生活するまち

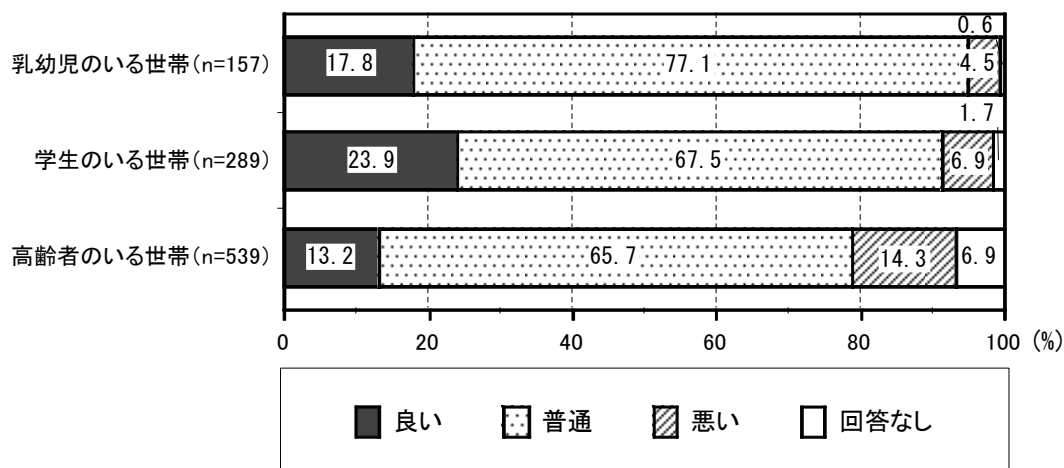
【年齢・世帯の状況別】

- 「良い」との評価は、20歳代以下が23.4%で最も高く、次いで40歳代が18.8%、30歳代が16.4%と、若い世代で評価が高い傾向がみられます。
- 一方で、60歳代は8.8%と最も低く、70歳以上でも13.8%と、全体平均の15.4%を下回っており、高齢者自身からの評価はやや低いといえます。また、高齢者のいる世帯でも13.2%と、全体平均を下回っています。

図表 II-53 「高齢者が生活するまち」としての評価（年齢別）



図表 II-54 「高齢者が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）

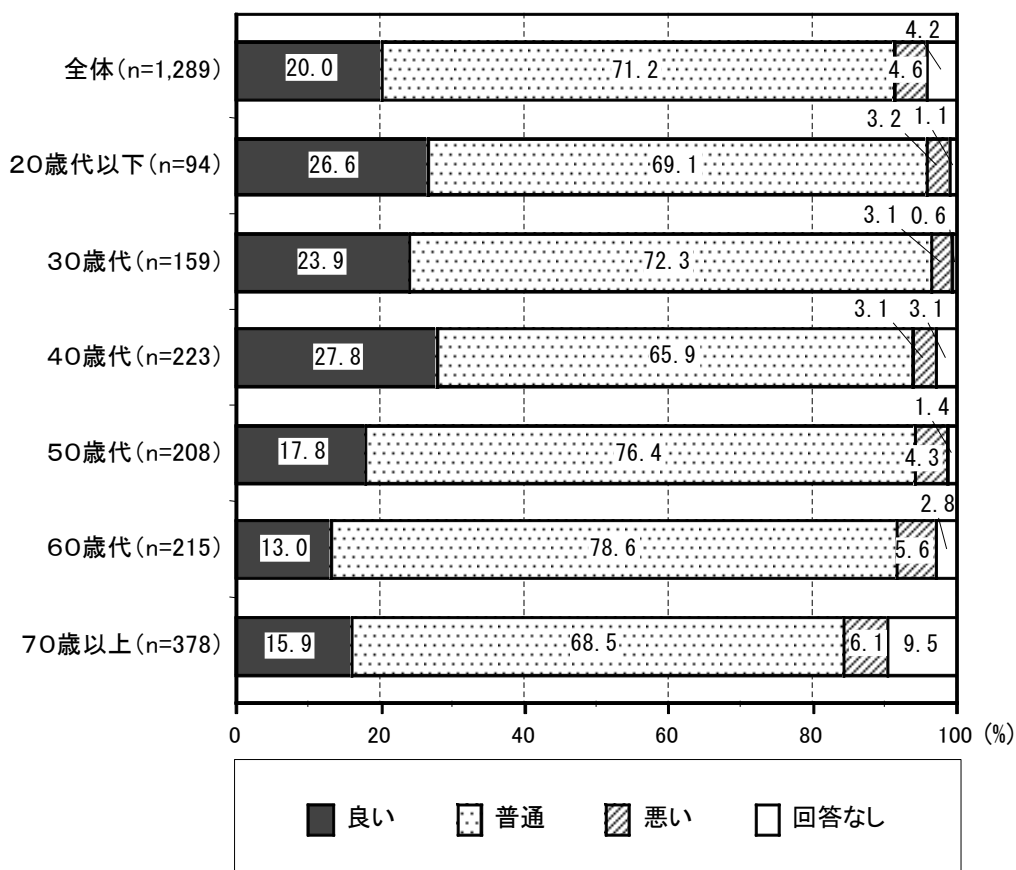


⑥ 健康で幸せに暮らすまち

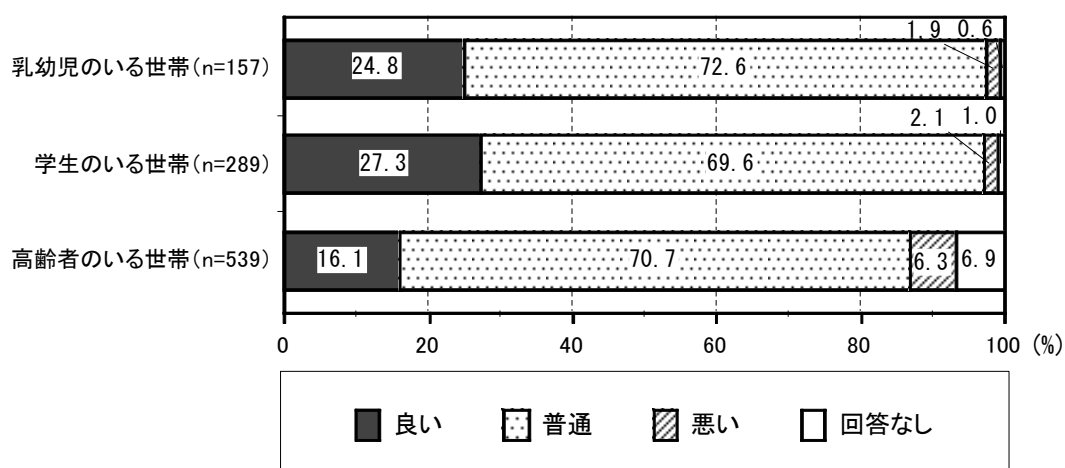
【年齢・世帯の状況別】

- 「良い」との評価は、40歳代が27.8%で最も高く、次いで20歳代以下が26.6%、30歳代が23.9%と、若い世代で評価が高い傾向がみられます。
- 一方で、60歳代では13.0%と最も低く、また、高齢者のいる世帯でも16.1%と、高齢者からみた評価はやや低いといえます。

図表 II-55 「健康で幸せに暮らすするまち」としての評価（年齢別）



図表 II-56 「健康で幸せに生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）



(2) 総合的な住みやすさの評価 (問 12)

問 12

総合的にみて岩倉市は住みよいまちだと思いますか。

【○は1つだけ】

「住みよい」が24.3%、「どちらかと言えば住みよい」が55.2%であり、これらを合わせた「岩倉市は住みよいと評価する」市民の割合は79.5%となっています。

「岩倉市は住みにくいと評価する」市民の割合は5.2%にとどまっており、岩倉市は多くの市民から住みよいまちであると評価されているといえます。

【全体】

- 「住みよい」が24.3%、「どちらかと言えば住みよい」が55.2%であり、これらを合わせた「岩倉市は住みよいと評価する」(以下“住みよいとの評価”という。)市民の割合は79.5%となっています。
- 一方、「どちらかと言えば住みにくい」が4.0%、「住みにくい」が1.2%となっており、これらを合わせた「岩倉市は住みにくいと評価する」市民の割合(以下“住みにくいとの評価”)は5.2%にとどまっており、岩倉市は多くの市民から住みよいまちであると評価されているといえます。
- 平成15年調査の結果と比較すると、「住みよい」との評価は20.4%から24.3%となり、“住みよいとの評価”も73.2%から79.5%へ6.3ポイント増加しており、特に“住みよいとの評価”については一貫して増加傾向にあります。

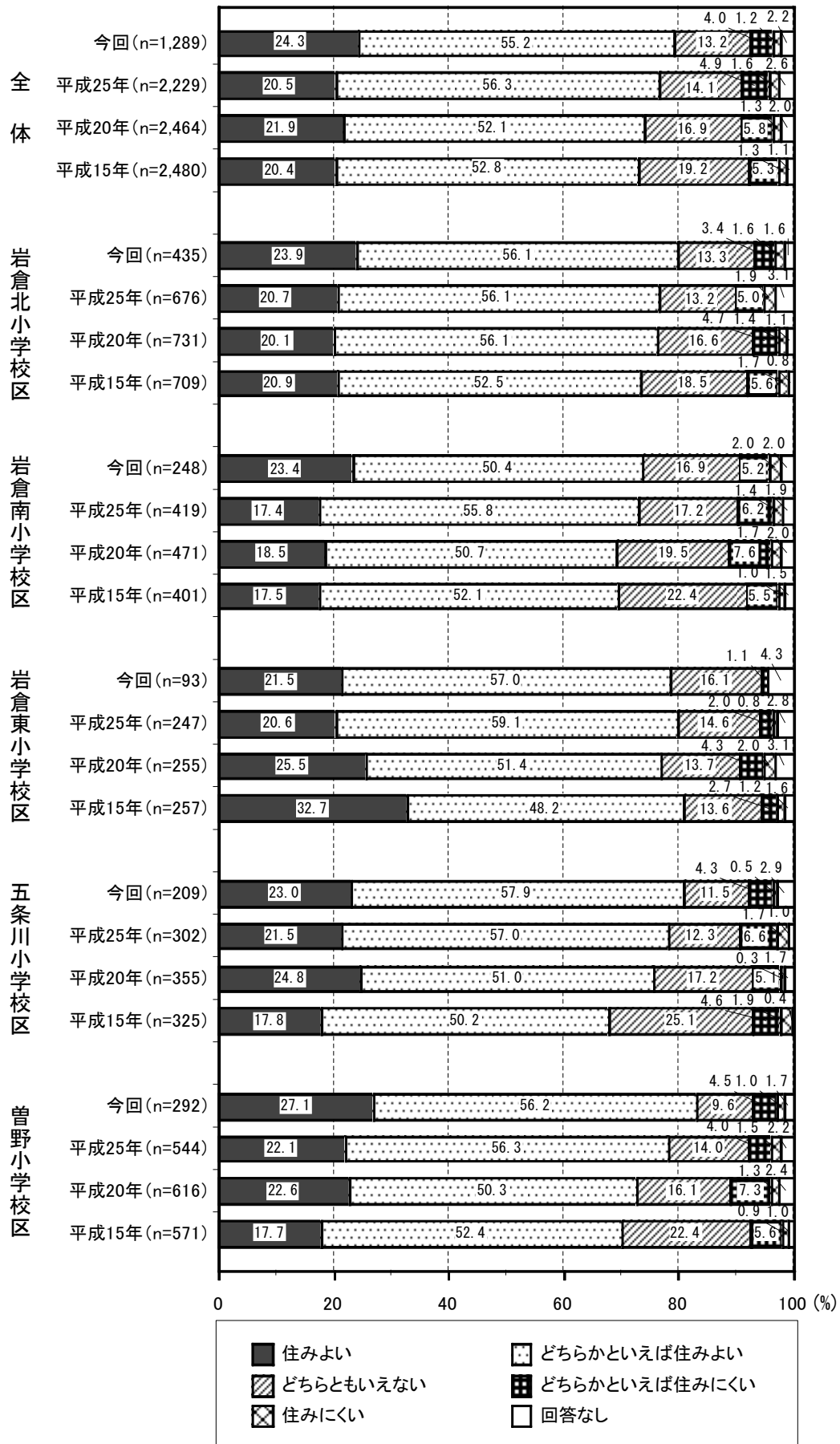
【経年比較】

- 平成25年調査と比較すると、「住みよい」との評価は20.5%から24.3%と3.8ポイント増加、「どちらかといえば住みよい」と合わせた“住みよいとの評価”も76.8%から79.5%へ2.7ポイント増加しています。
- 平成15年調査の結果と比較しても、「住みよい」との評価は20.4%から24.3%と3.9ポイント増加、“住みよいとの評価”も73.2%から79.5%へ6.3ポイント増加しています。特に“住みよいとの評価”については一貫して増加傾向にあります。

【小学校区別】

- “住みよいとの評価”について、小学校区ごとに比較すると、曾野小学校区が83.3%で最も高く、最も低い岩倉南小学校区の73.8%と9.5ポイントの差がみられます。
- 過去の調査結果と比較すると、“住みよいとの評価”は、岩倉東小学校区を除いて平成15年調査から一貫して増加傾向にあります。特に、曾野小学校区では70.1%から83.3%へ13.2ポイント、五条川小学校区でも68.0%から80.9%へと12.9ポイント増加しています。
- 岩倉東小学校区は“住みよいとの評価”が78.5%と、5つの小学校区内で最も高かった平成15年調査の80.9%からわずかに減少しています。

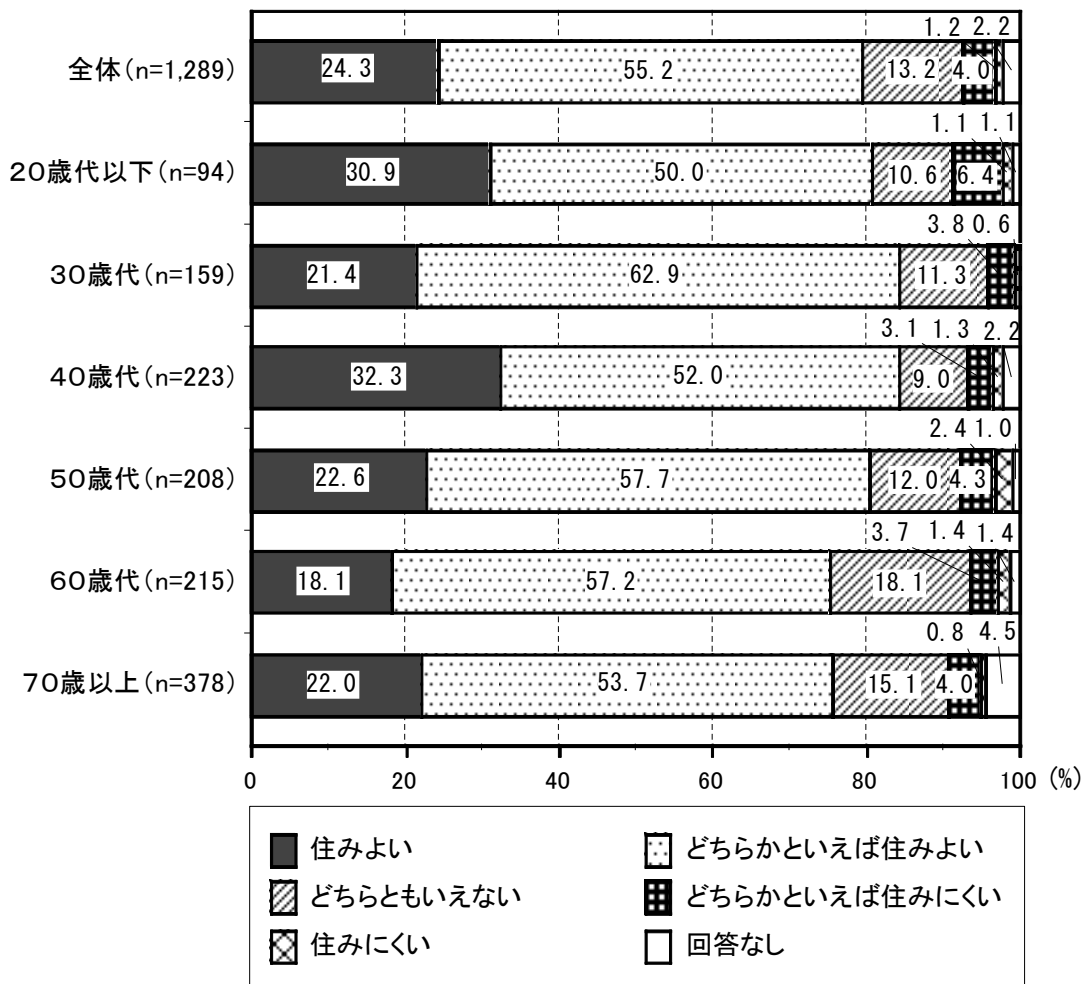
図表 II-57 総合的な住みやすさの評価（小学校区別 経年比較）



【年齢別】

○年齢別にみると、「住みよい」と回答した市民の割合は、40歳代が32.3%で、また“住みよいとの評価”は、30歳代と40歳代がともに84.3%で最も高く、20歳代以下及び50歳代も80%を超えている一方で、60歳代は75.3%、70歳以上でも75.7%と、他の年齢層と比べてやや低くなっています。

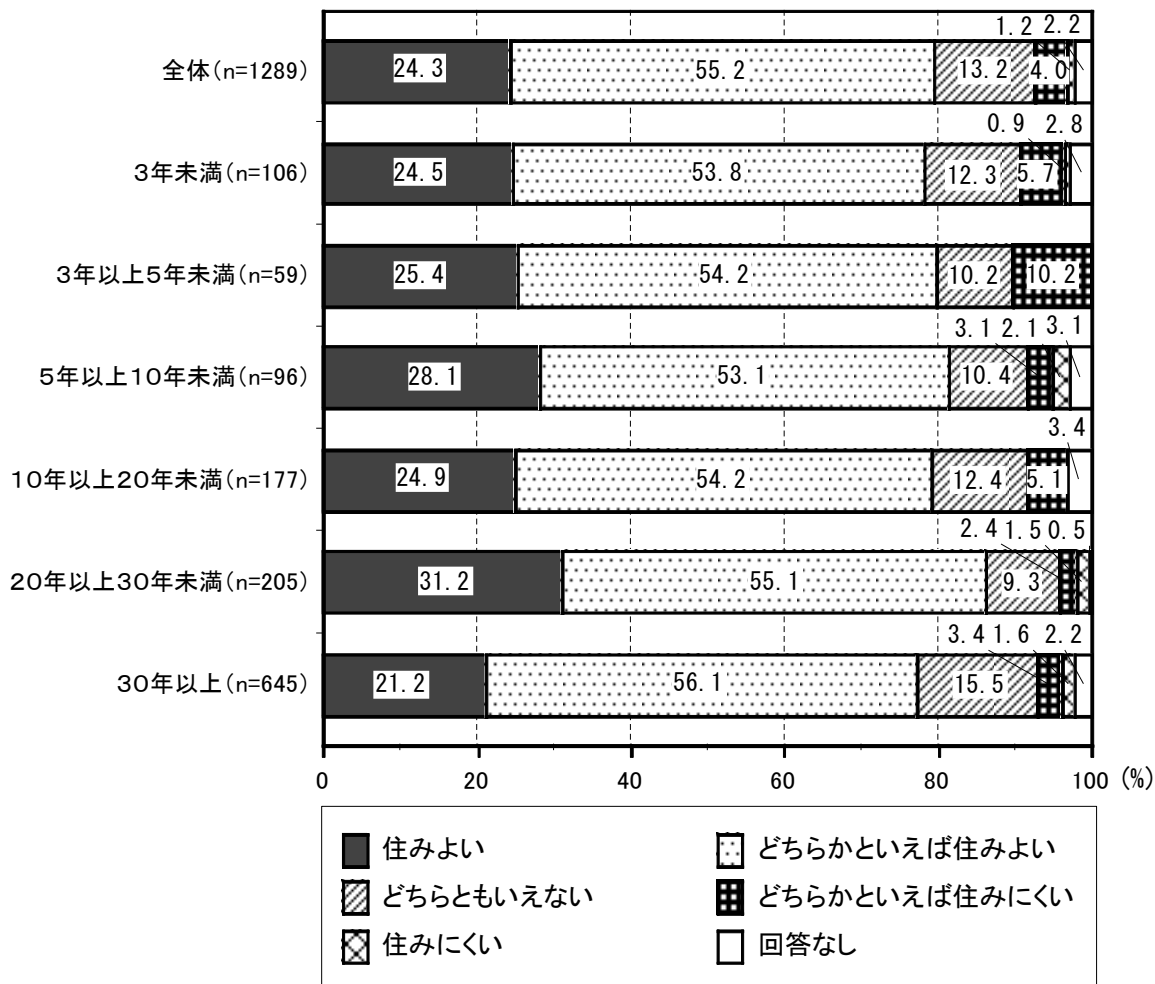
図表 II-58 総合的な住みやすさの評価（年齢別）



【居住年数別】

- 居住年数別にみると、“住みよいたの評価”の割合は、居住年数が20年以上30年未満で86.3%と最も高い一方で、30年以上では77.3%と80%を下回っています。
- 「住みよい」との評価についても、居住年数が20年以上30年未満では31.2%であるのに対し、30年以上では21.2%と10.0ポイントの差がみられます。

図表 II-59 総合的な住みやすさの評価（居住年数別）



(3) 定住意向 (問 13)

問 13

これからも岩倉市に住み続けたいと思いますか。

【○は1つだけ】

「永住したい」が 38.6%、「当分住み続けたい」が 33.8%となっています。これらを合わせた「定住意向を持つ市民」は、72.4%となっています。

“岩倉市から他市町村への移転意向を持つ市民”は 8.1%となっています。

平成 25 年調査で「定住意向を持つ市民」は 72.7%であったのに対し、今回調査では 72.4%と、ほとんど変化していません。

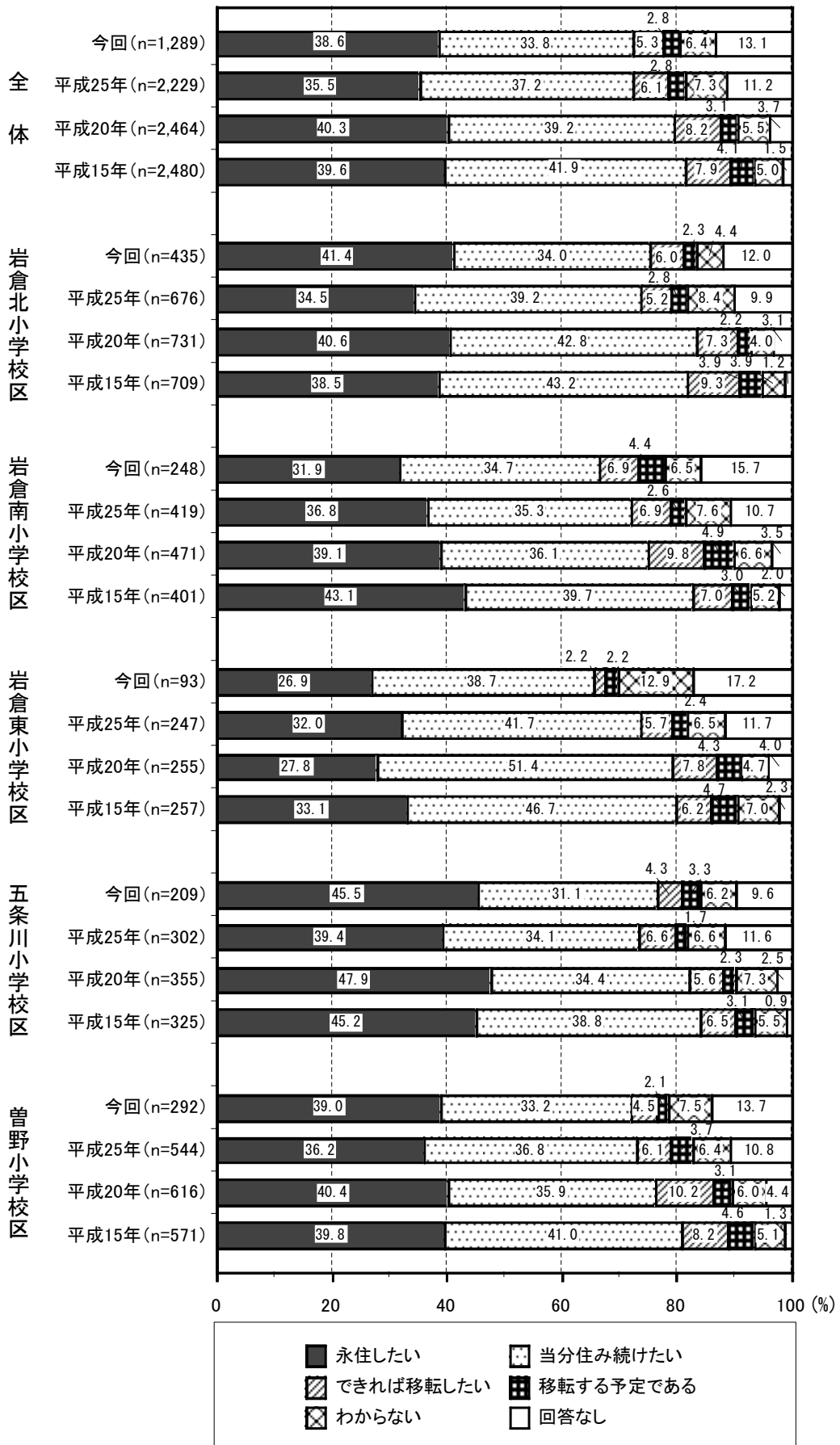
【全体】

- 「永住したい」が 38.6%、「当分住み続けたい」が 33.8%となっています。これらを合わせた「定住意向を持つ市民」（以下、“定住意向”という。）は、72.4%となっています。
- 「できれば移転したい」が 5.3%、「移転する予定である」は 2.8%であり、これらを合わせた「岩倉市から他市町村への移転意向を持つ市民」（以下、“移転意向”という。）は 8.1%となっています。
- 過去の調査結果と比較すると、平成 25 年調査では、「永住したい」が 35.5%、「当分住み続けたい」が 37.2%で、“定住意向”は 72.7%であったのに対し、今回調査では 72.4%と、ほとんど変化していません。
- 平成 15 年度調査と比較すると、「永住したい」が 39.6%、「当分住み続けたい」が 41.9%で、“定住意向”は 81.5%であり、今回調査よりも 9.1 ポイント高く、長期的にみると“定住意向”を持つ市民の割合は低下傾向にあるといえます。

【経年比較・小学校区別】

- 「永住したい」については、五条川小学校区が 45.5%で最も高く、全体平均の 38.6 を 6.9 ポイント上回っている一方で、岩倉南小学校は 31.9%と、全体平均を 6.7 ポイント下回っています。
- 平成 25 年調査と比べると、五条川小学校において、“定住意向”が平成 25 年調査の 73.5%から今回調査は 76.6%と、ごくわずかではあるものの、唯一上昇しています。
- 平成 15 年調査と比較すると、全ての小学校区において、“定住意向”は低下傾向にあります。特に、岩倉南小学校区では平成 15 年に 82.8%であったものが今回調査では 66.6%へ 16.2 ポイント減少し、岩倉東小学校区でも 79.8%から 65.6%と 14.2 ポイント減少しており、小学校区によっては大きく下落する傾向もみられます。

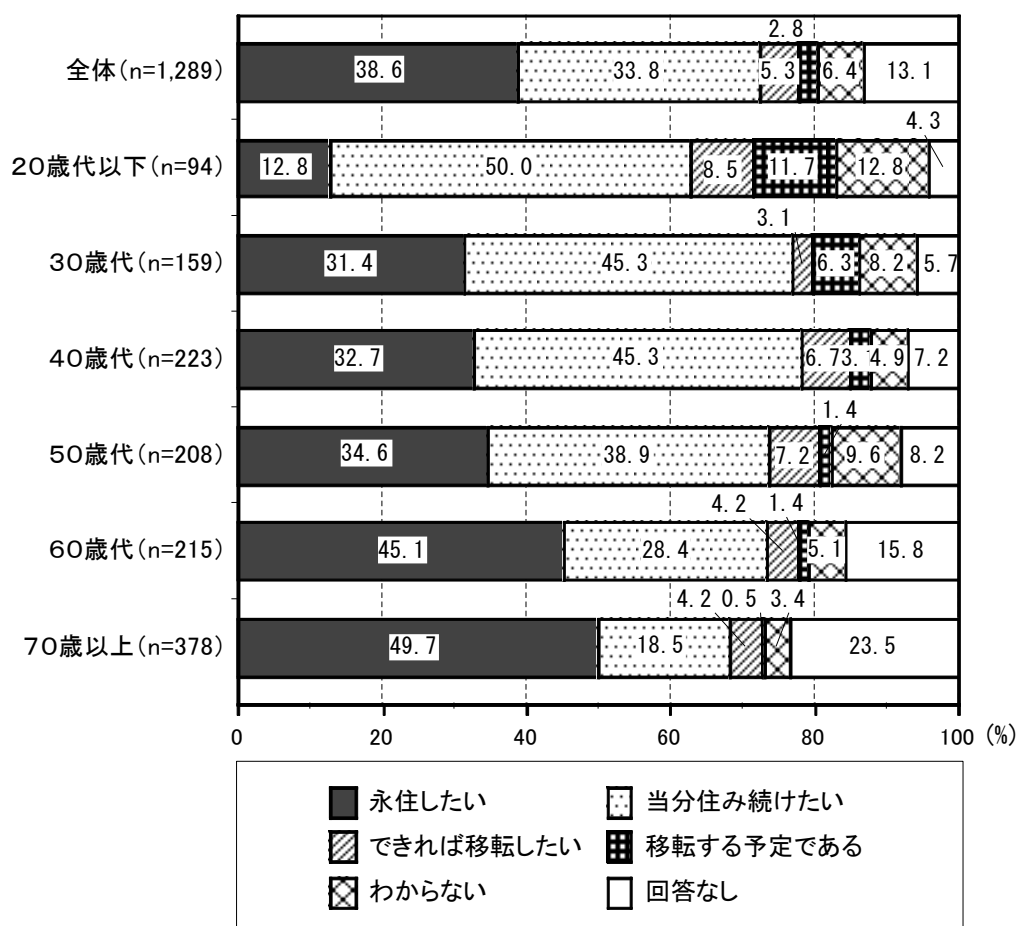
図表 II-60 定住意向（小学校区別 経年比較）



【年齢別】

- 年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「永住したい」と回答する割合は増加しており、20歳代以下が12.8%であるのに対して、70歳以上では49.7%と、36.9ポイントもの差がみられます。
- “定住意向”については、40歳代が78.0%で最も高く、次いで30歳代が76.7%となっており、最も低い20歳代以下の62.8%とは、最大で15.2ポイントの差が生じています。
- 一方で、“移転意向”については、20歳代以下が20.2%（「できれば移転したい」8.5%、「移転する予定である」11.7%）最も高く、年齢層が高いほど、“移転意向”の割合は低くなる傾向にあり、最も低い70歳以上では4.7%（「できれば移転したい」4.2%、「移転する予定である」0.5%）と、15.5ポイントの差がみられます。
- 「わからない」という回答の比率は、20歳代以下が12.8%と最も多く、年齢が高くなるにしたがって減少しています。
- 若年層は、就学、就職及び婚姻による移動が他の年齢層と比較して多く見込まれることから、“移転意向”や「わからない」という回答の占める割合が、他の年齢層と比べて多くなっているものと考えられます。
- “定住意向”を示す市民の割合が最も少ない20歳代以下でも62.8%が“定住意向”を示しており、“移転意向”の20.2%を42.6ポイント上回っています。

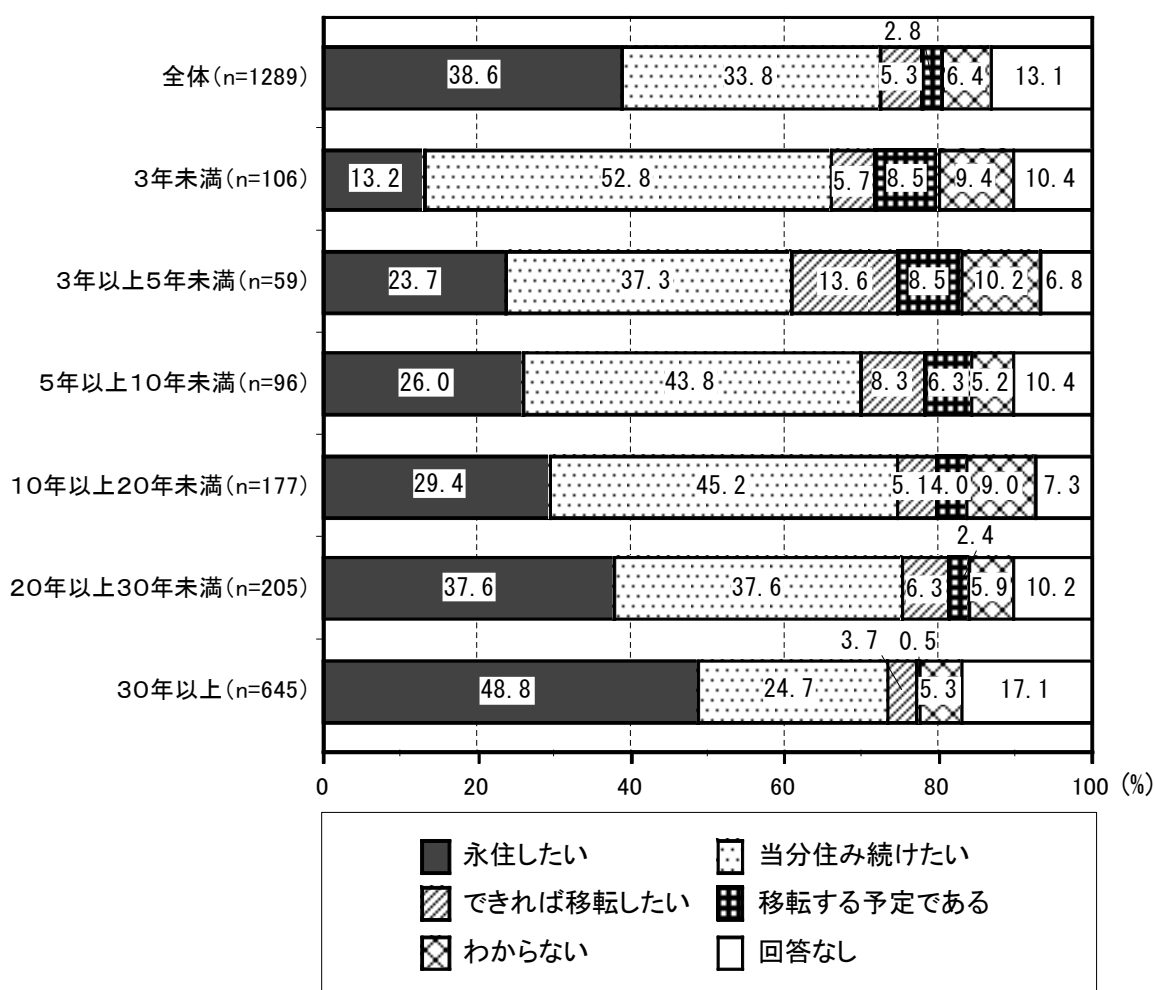
図表 II-61 定住意向（年齢別）



【居住年数別】

- 居住年数別にみると、居住年数が長くなるにしたがって「永住したい」との回答の割合が増加する傾向がみられ、居住年数が30年以上では48.8%と、半数近くとなっています。
- “定住意向”についても同様に、居住年数が長いほど、定住意向は高くなる傾向がみられ、居住年数が20年以上30年未満では“定住意向”が75.2%（「永住したい」37.6%、「当分住み続けたい」37.6%）と、70%を超えています。
- “移転意向”については、居住年数が3年以上5年未満で22.1%（「できれば移転したい」13.6%、「移転する予定である」8.5%）と最も高く、“定住意向”も61.0%と、全体平均を11.4ポイント下回っています。

図表 II-62 定住意向（居住年数別）



(4) 定住理由 (問 13)

問 13 永住したい、当分住み続けたい理由は何ですか。【○は3つまで】

「自分の家や土地があるから」が64.3%と最も多く、次いで「交通の便が良い」、「通勤・通学に便利」の順となっています。

【全体】

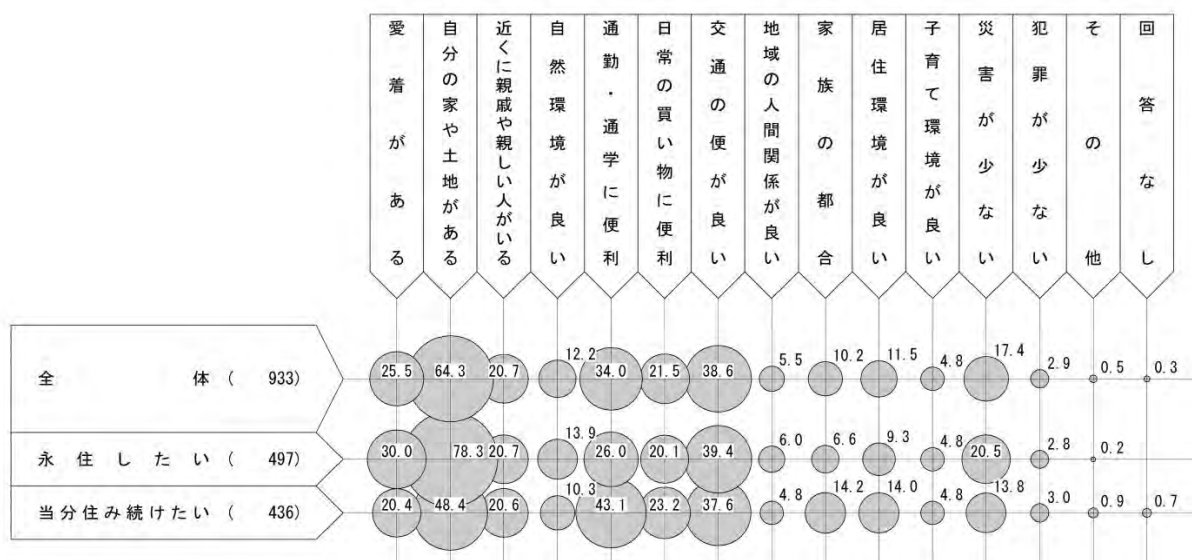
○「自分の家や土地があるから」が64.3%と最も多く、次いで「交通の便が良い」が38.6%、「通勤・通学に便利」が34.0%の順となっています。

【定住意向別】

○「永住したい」と回答した場合についてみると、「自分の家や土地がある」が78.3%と際立って高く、次いで「交通の便が良い」が39.4%、「愛着がある」が30.0%の順となっており、地縁や愛着が主たる理由となっています。

○「当分住み続けたい」と回答した場合についてみると、「自分の家や土地がある」が48.4%、「通勤・通学に便利」が43.1%、「交通の便が良い」が37.6%、「日常の買い物に便利」が23.2%の順となっており、利便性が主たる理由として挙げられています。

図表 II-63 定住理由 (定住意向別)



(5) 移転理由 (問 13)

問 13 できれば移転したい、移転する予定である理由は何ですか。【○は3つまで】

「愛着がない」と「家族の都合」が 25.0%で最も高く、次いで「自分の家や土地がない」、「日常の買い物に不便」の順となっています。

【全体】

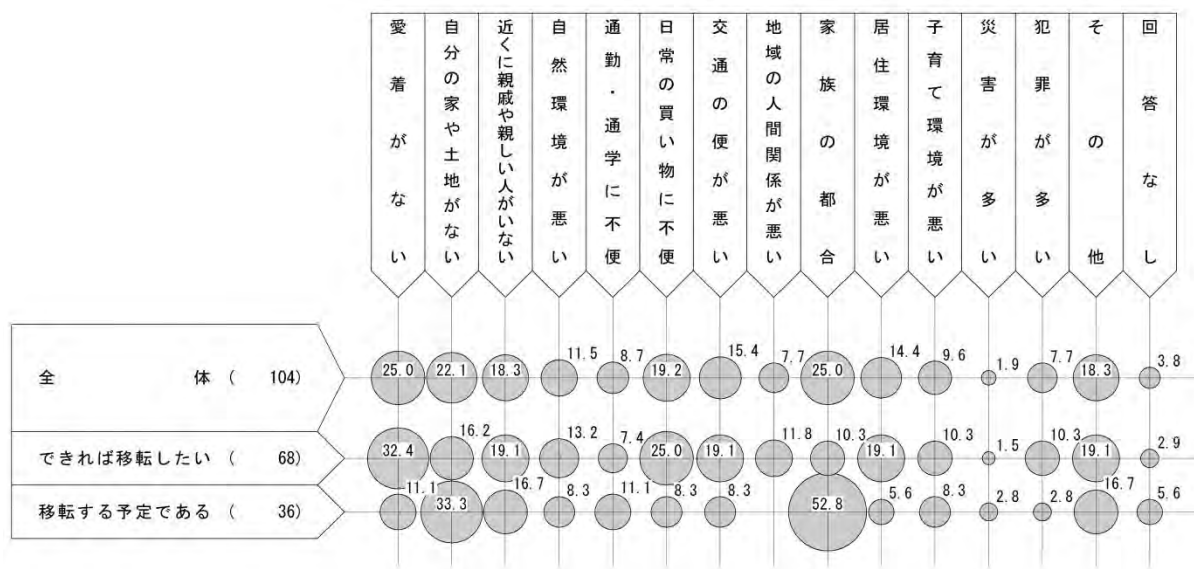
○「愛着がない」と「家族の都合」がともに 25.0%で最も高く、次いで「自分の家や土地がない」が 22.1%、「日常の買い物に不便」が 19.2%の順となっています。

【移転意向別】

○「できれば移転したい」と回答した場合についてみると、「愛着がない」が 32.4%で最も高く、次いで「日常の買い物に不便」が 25.0%、「近くに親せきや親しい人がいない」、「交通の便が悪い」、「居住環境が悪い」、「その他」が 19.1%の順となっており、地縁以外にも、買い物や交通など日常生活の利便性も理由として挙げられています。

○「移転する予定である」と回答した場合についてみると、「家族の都合」が 52.8%で最も高く、次いで「自分の家や土地がない」の 33.3%、「近くに親戚や親しい人がいない」と「その他」がともに 16.7%となっています。

図表 II-64 移転理由 (移転意向別)



(6) 住環境の問題点 (問 14)

問 14

お住まいの周辺の住環境について問題であると感じていることはありますか。【あてはまるものすべてに○】

63.4%の市民は、住環境について何らかの問題があると感じています。

問題として挙げられた割合が最も高いのは、「道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている」の35.1%で、次いで「農地が住宅に変わるなど身近な緑が減少している」、「建物の形態がバラバラで、美しくない」の順となっています。

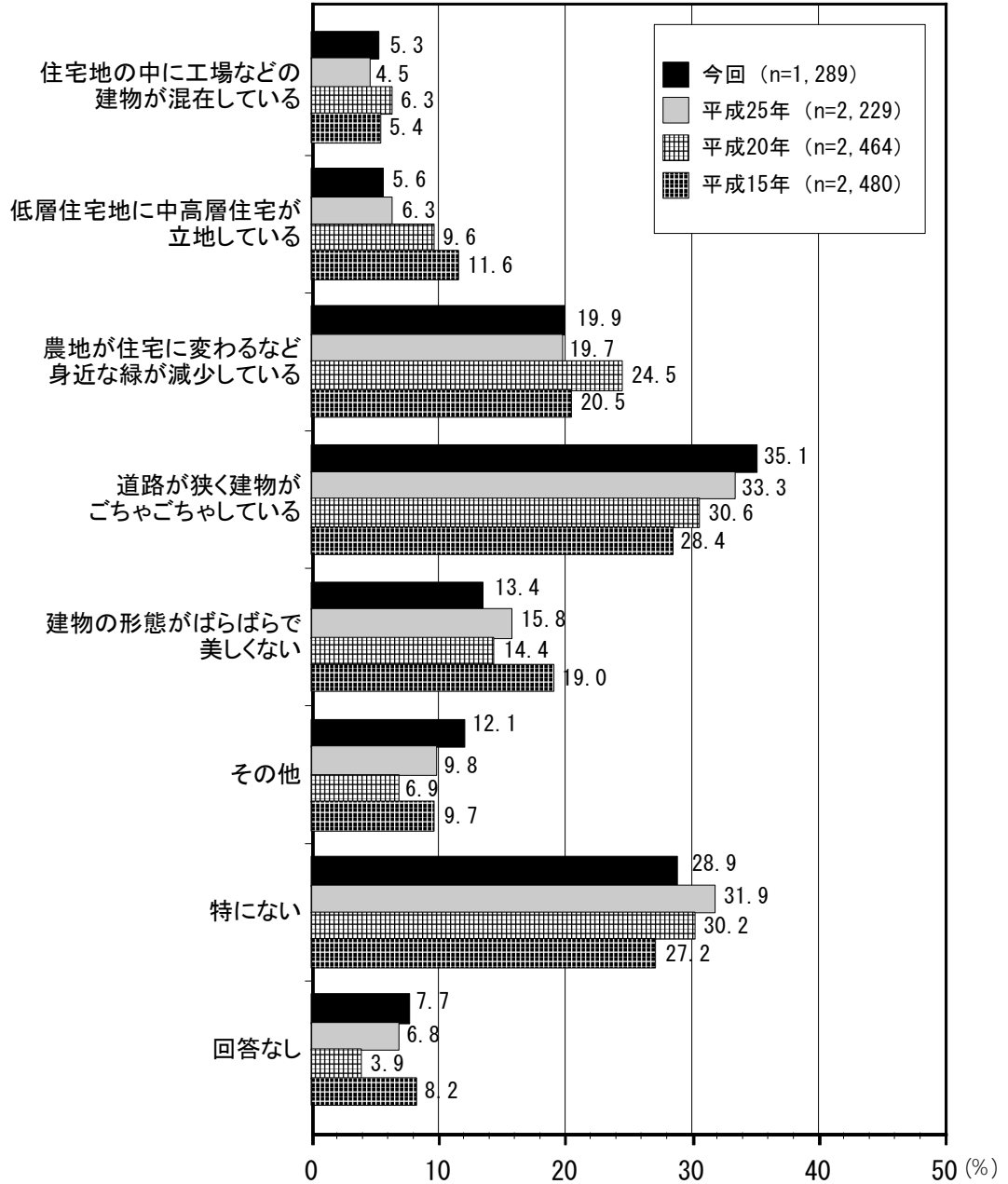
【全体】

- 住環境の問題点について、「特になし」は28.9%で、「回答なし」の7.7%を合わせた36.6%を除くと、63.4%の市民は、住環境について何らかの問題があると感じています。
- 問題として挙げられた割合が最も高いのは、「道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている」で35.1%、次いで「農地が住宅に変わるなど身近な緑が減少している」が19.9%、「建物の形態がバラバラで、美しくない」が13.4%の順となっています。
- 「低層住宅地に中高層住宅が立地している」は5.6%、「住宅地の中に工場などの建物が混在している」は5.3%とともに10%以下となっており、他の項目と比較してやや低くなっています。

【経年比較】

- 平成15年調査と比較して、「道路が狭く建物がごちゃごちゃしている」は平成15年から一貫して上昇傾向にあり、28.4%から35.1%へと6.7ポイント増加しています。
- その他の項目については、横ばいまたは減少傾向であり、特に「低層住宅地に中高層住宅が立地している」は11.6%から5.6%に6.0ポイント、「建物の形態がばらばらで美しくない」も19.0%から13.4%に5.6ポイント、それぞれ減少しています。

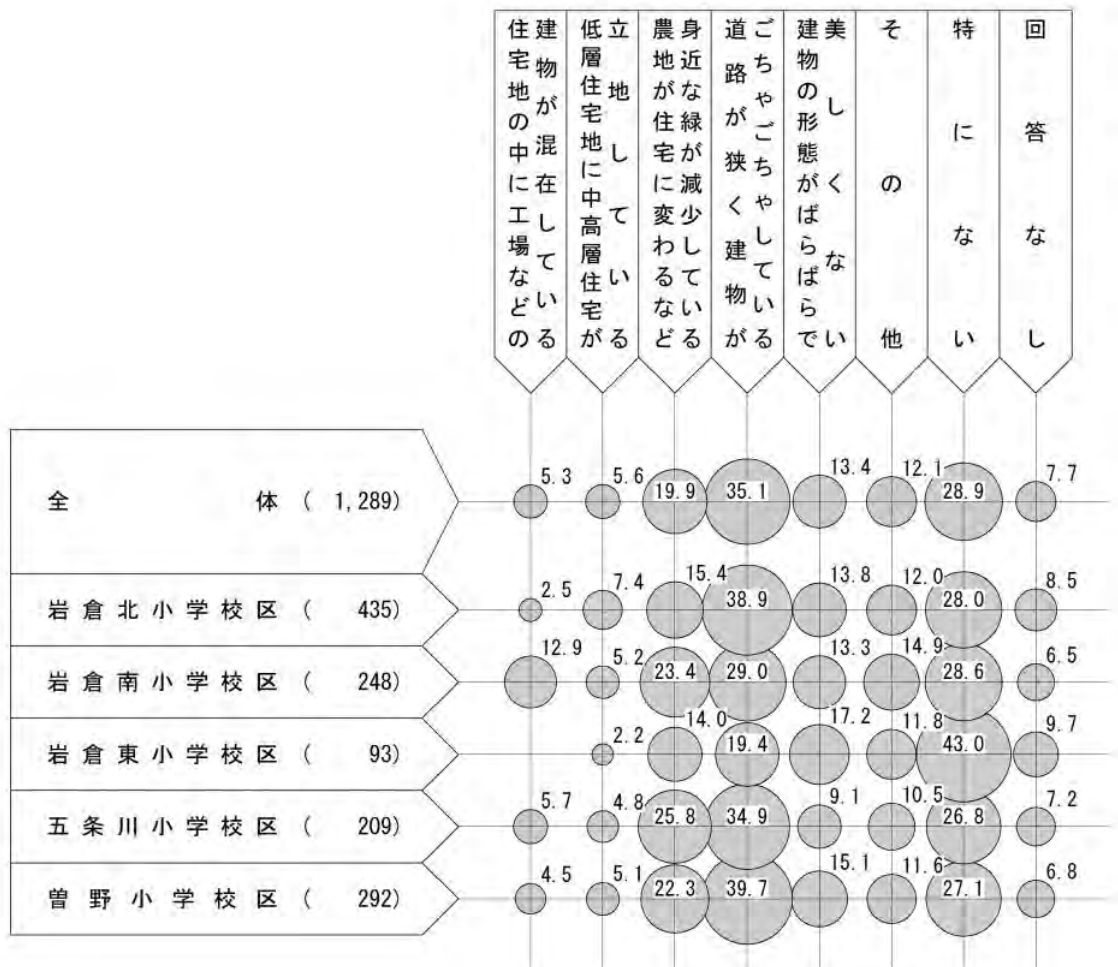
図表 II-65 住環境の問題点（経年比較）



【小学校区別】

- 「道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている」については、曾野小学校区が 39.7% で最も高く、岩倉北小学校区も 38.9% となっており、最も低い岩倉東小学校区の 19.4% とは最大で 20.3 ポイントの差がみられます。これは、「道路の広さ」が曾野小学校区の中で最も評価が低く、なおかつ 5 つの小学校区の中で最も評価が低いという、「2-4 住まい周辺の生活環境評価」の結果と同様の傾向を示しているといえます。
- 「農地が住宅に変わるなど緑が減少している」については、五条川小学校区が 25.8%、岩倉南小学校区が 23.4%、曾野小学校区が 22.3% と 20% を超えるのに対し、岩倉北小学校区は 15.4%、岩倉東小学校区では 14.0% と、二極化する傾向はみられます。
- 「住宅地の中に工場などの建物が混在している」は、岩倉南小学校区で 12.9% と、他の小学校区と比べてやや高くなっています。
- 岩倉東小学校区では、「特になし」が 43.0% と、他の小学校区と比べて高く、住環境について問題を指摘する市民が少ないといえます。

図表 11-66 住環境の問題点（小学校区別）



(7) まちづくりのルールについての考え (問 15)

問 15

地域の住環境を保全するため、建物の用途や高さの制限など、まちづくりのルールを定めることについてどのようにお考えですか。【○は1つだけ】

まちづくりのルールを設けることに肯定的な市民は 56.5%で、半数を超えています。まちづくりのルールを設けることに否定的な市民は 19.6%となっています。

【全体】

- 建物の用途や高さ制限などのまちづくりのルールについての考え方を尋ねたところ、「みんながルールづくりに賛成するならそれに従う」という消極的賛成の意見が 28.3%、「現在の住環境を保全するため、ぜひ必要である」(以下、「ぜひ必要である」という。)という積極的賛成が 28.2%と、ほぼ同数となっています。これらを合わせて、まちづくりのルールを設けることに肯定的な市民(以下、「ルールに肯定的な市民」という。)は 56.5%で、半数を超えています。
- 「厳しい規制は土地利用の自由度が阻害されるので反対」は 3.7%であり、「現在の規制で十分であり必要ない」の 15.9%と合わせても、まちづくりのルールを設けることに否定的な市民(以下、「ルールに否定的な市民」という。)の割合は 19.6%となっています。
- “ルールに肯定的な市民”の 56.5%に対し、“ルールに否定的な市民”は 19.6%であり、36.9ポイントもの差がみられます。
- なお、「わからない」との回答も 18.5%となっており、判断することができないと考える市民も 20%近くにはのぼっています。

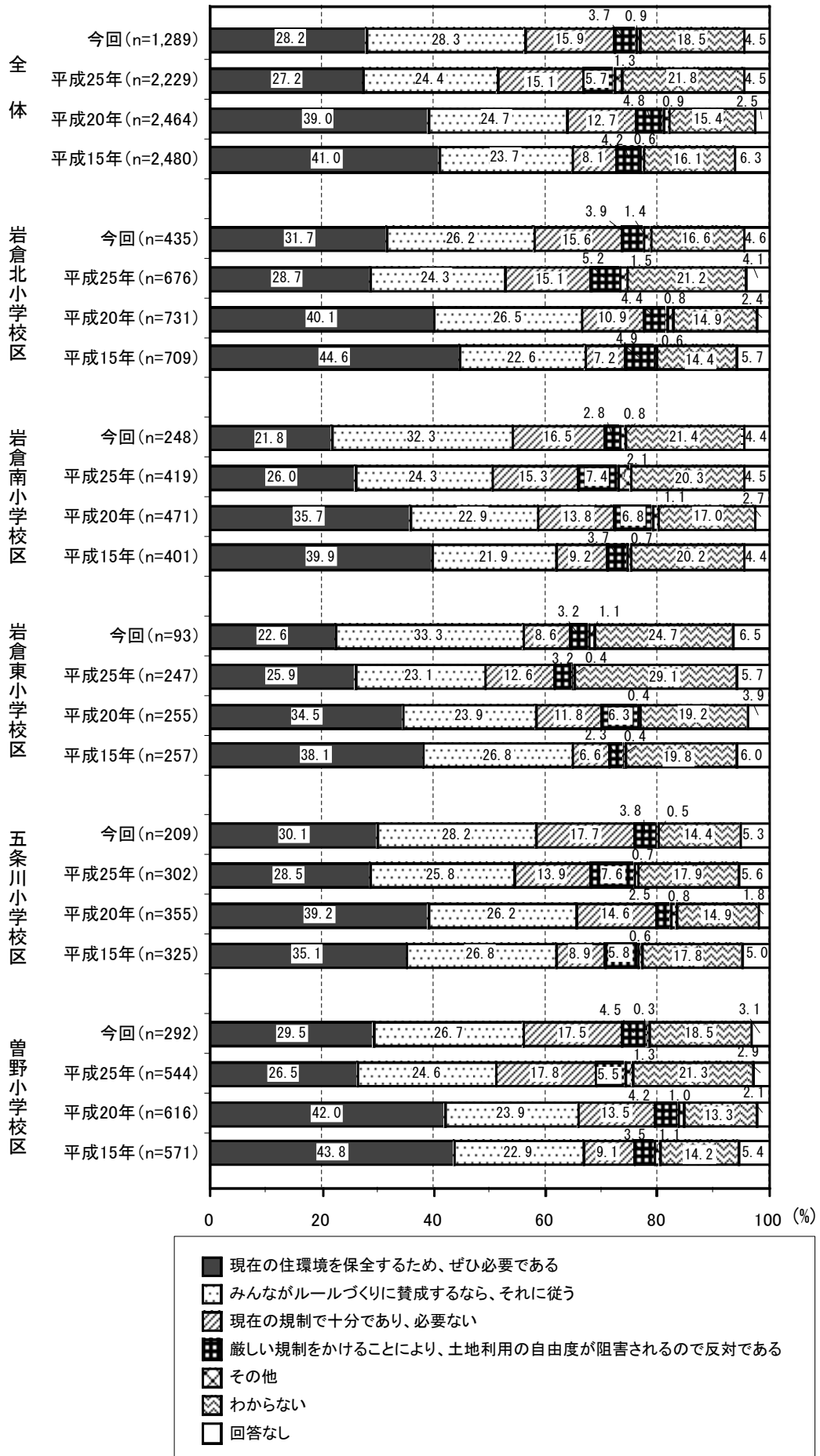
【経年比較】

- 平成 25 年調査と比較すると大きな傾向の変化はみられませんが、平成 15 年調査と比較すると、「ぜひ必要である」は 41.0%から 28.2%へと 12.8ポイント減少し、“ルールに肯定的な市民”の割合も 64.7%から 56.5%へと 8.2ポイント減少しています。一方で、「現在の規制で十分であり必要ない」は 8.1%から 15.9%へ 7.8ポイント増加し、“ルールに否定的な市民”の割合も 12.3%から 19.6%へと 7.3ポイント増加しており、ルールに対して肯定的な市民の割合は減少傾向にあるといえます。

【小学校区別】

- 「ルールに肯定的な市民」の割合について、小学校区間での大きな差はみられません。一方で、「ぜひ必要である」との積極的賛成の割合についてみると、岩倉北小学校区が 31.7%で最も高く、最も低い岩倉南小学校区の 21.8%と 9.9ポイントの差がみられます。
- 「ルールに否定的な市民」の割合については、岩倉東小学校区で 11.8%と全体平均を 7.8ポイント下回っている点が特徴的です。

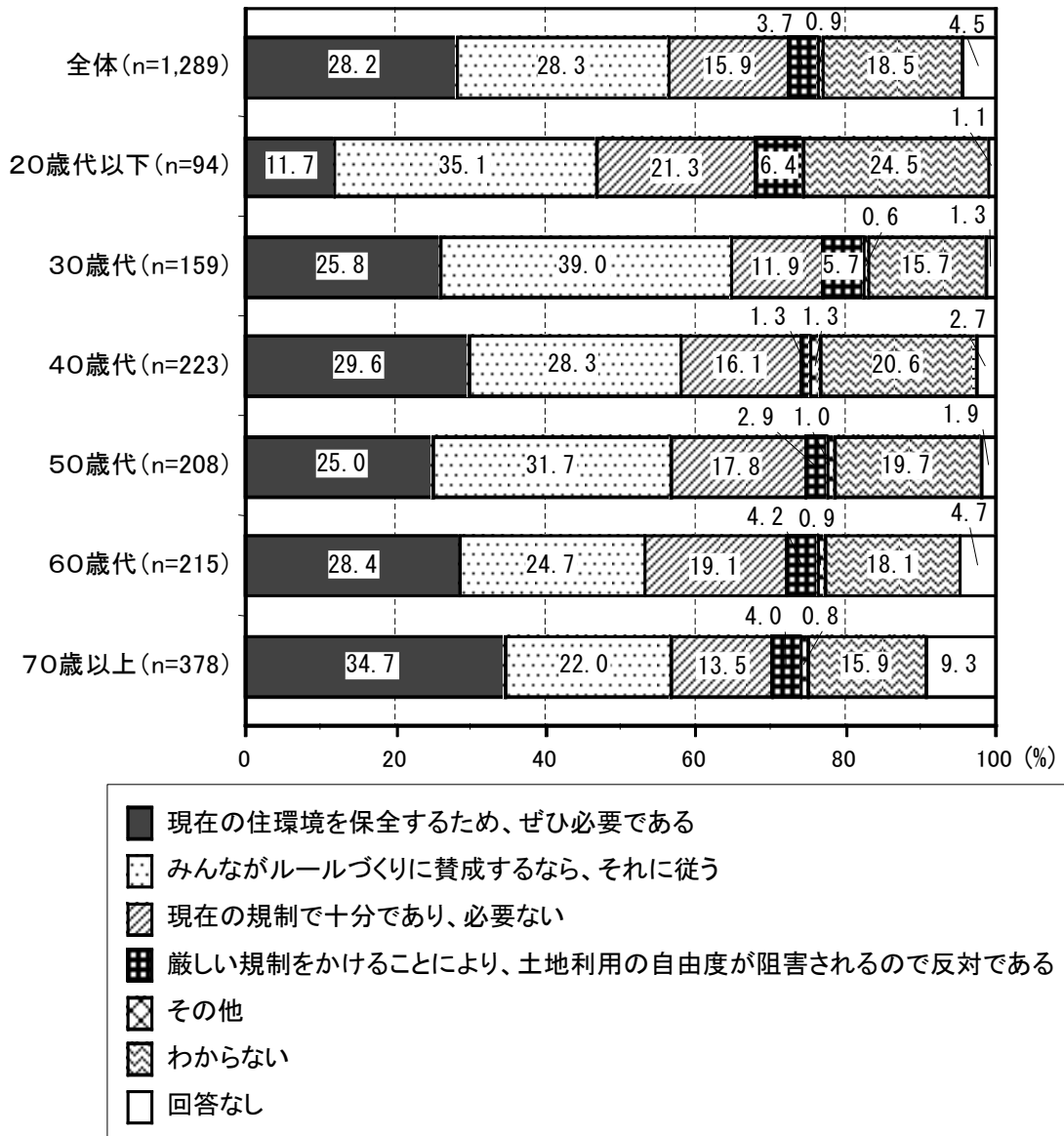
図表 II-67 まちづくりのルールに対する考え（小学校区別 経年比較）



【年齢別】

- 年齢別にみると、“ルールに肯定的な市民”の割合は、30歳代が64.8%で最も高く、最も低い20歳代以下の46.8%と18.0ポイントもの差がみられます。
- また、“ルールに否定的な市民の割合”は、20歳代以下が27.7%で最も高く、最も低い70歳以上の17.5%と10.2ポイントの差がみられます。
- また、「ぜひ必要である」という積極的な賛成意見に着目すると、年齢層が高いほど増加する傾向がみられ、70歳以上では34.7%と、唯一30%を超えています。

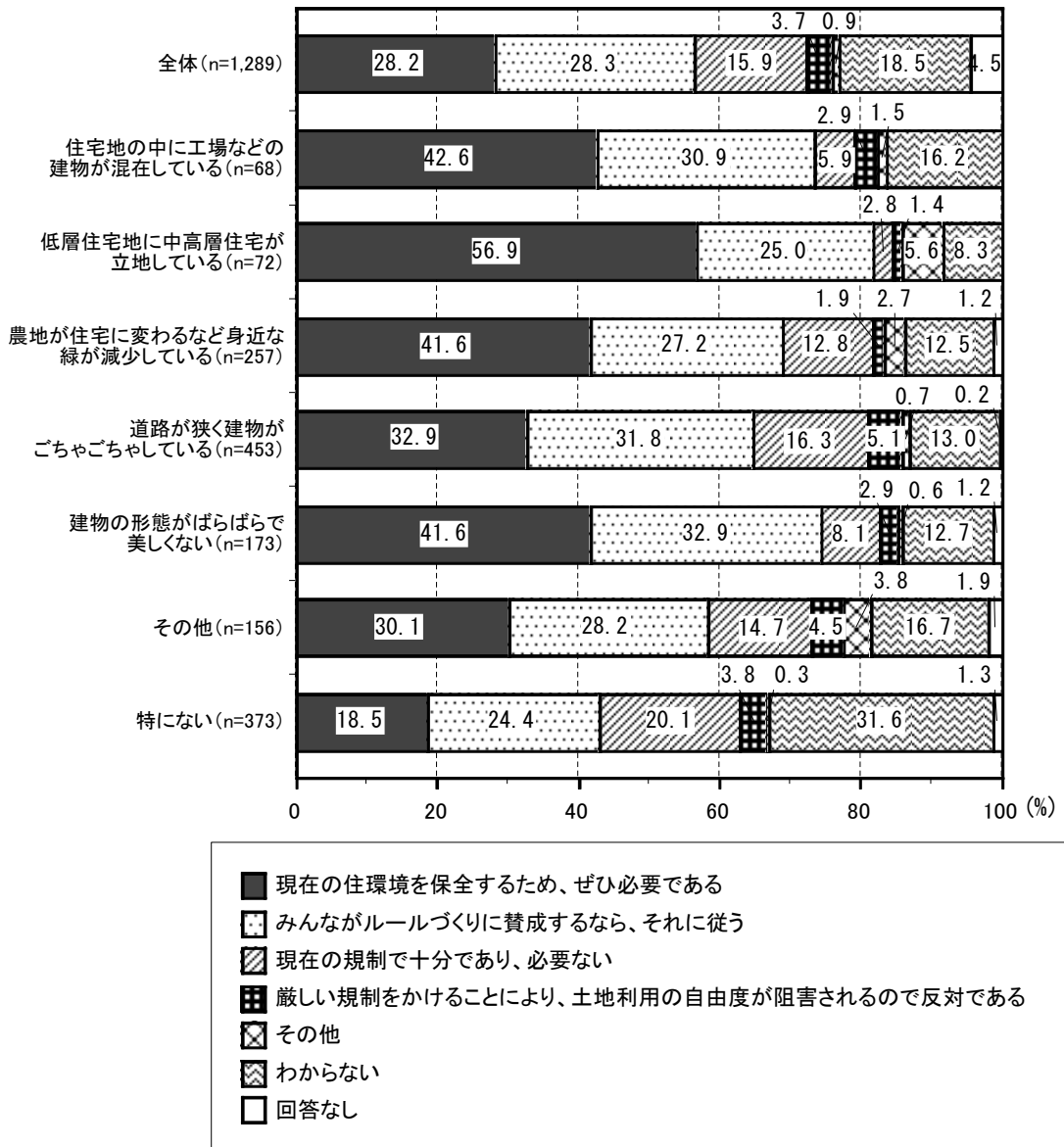
図表 II-68 まちづくりのルールに対する考え（年齢別）



【住環境の問題意識別】

- 住環境の問題意識別に“ルールに肯定的な市民の割合”をみると、「低層住宅地に中高層住宅が立地している」が81.9%で最も高く、次いで「建物の形態がばらばらで美しくない」が74.5%、「住宅地の中に工場などの建物が混在している」が73.5%の順となっています。特に「低層住宅地に中高層住宅が立地している」では、「ぜひ必要である」との積極的賛成が半数を超えており、際立って高くなっています。
- 住環境について問題意識を持っている場合はいずれも、“ルールに肯定的な市民”の割合が全体平均を上回っており、住環境についての問題認識とルール設定に対する意識には連関がみられます。
- 一方で、「特にない」と回答した場合についてみると、“ルールに肯定的な市民”の割合は42.9%と半数以下となっています。

図表 II-69 まちづくりのルールに対する考え（住環境の問題意識別）



Ⅲ. 健康福祉

III. 健康福祉

(1) 健康状態 (問 16)

問 16 現在のあなたやご家族の健康状態はいかがですか。【○は1つだけ】

「家族全員が健康である」との回答が 57.6%と半数を超えています。一方で、46.9%の市民が、本人または家族が健康上の問題を抱えていると回答しています。

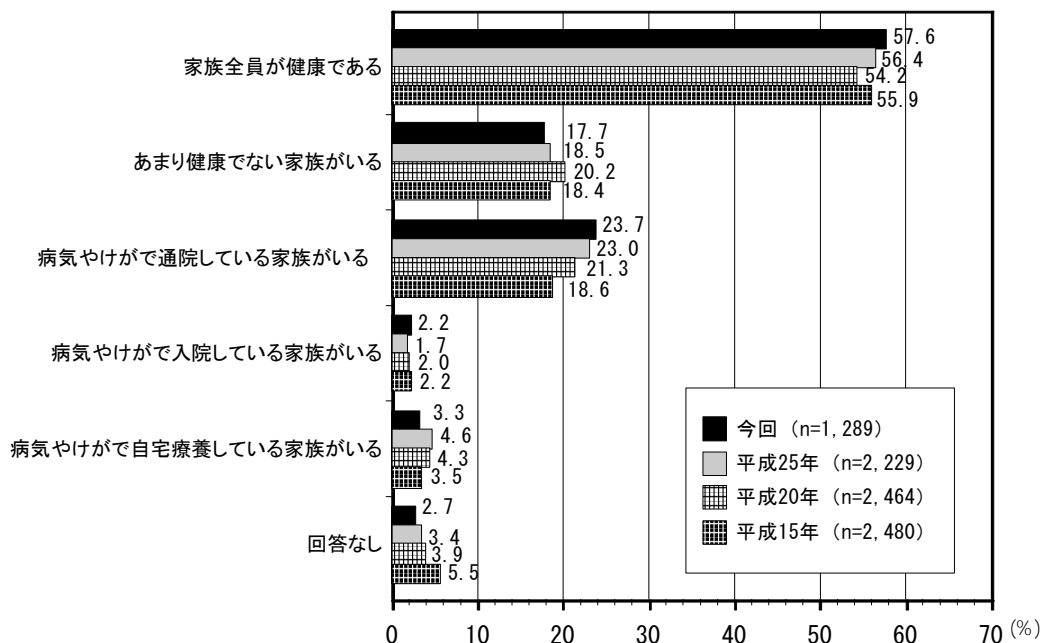
【全体】

- 「家族全員が健康である」との回答が 57.6%と半数を超えています。
- 「あまり健康でない家族がいる」が 17.7%、「病気やけがで通院している家族がいる」は 23.7%で、ともに 20%程度となっています。これらに、「病気やけがで入院している家族がいる」の 2.2%、「病気やけがで自宅療養している家族がいる」の 3.3%と合わせると 46.9%となり、半数近くの市民が、本人または家族が健康上の問題を抱えていると回答しています。

【経年比較】

- 「家族全員が健康である」との回答は、平成 15 年調査から 55%程度で推移しており、大きな変化はみられません。その他の項目についても、大きな変化がみられないものが大半となっています。
- 一方で、「病気やけがで通院している家族がいる」との回答は 23.7%と、平成 15 年調査の 18.6%から一貫して増加しており、平成 15 年調査と比較して 5.1 ポイント上昇しています。これは、高齢化の進展により、高齢者が増加していることも影響しているものと考えられます。

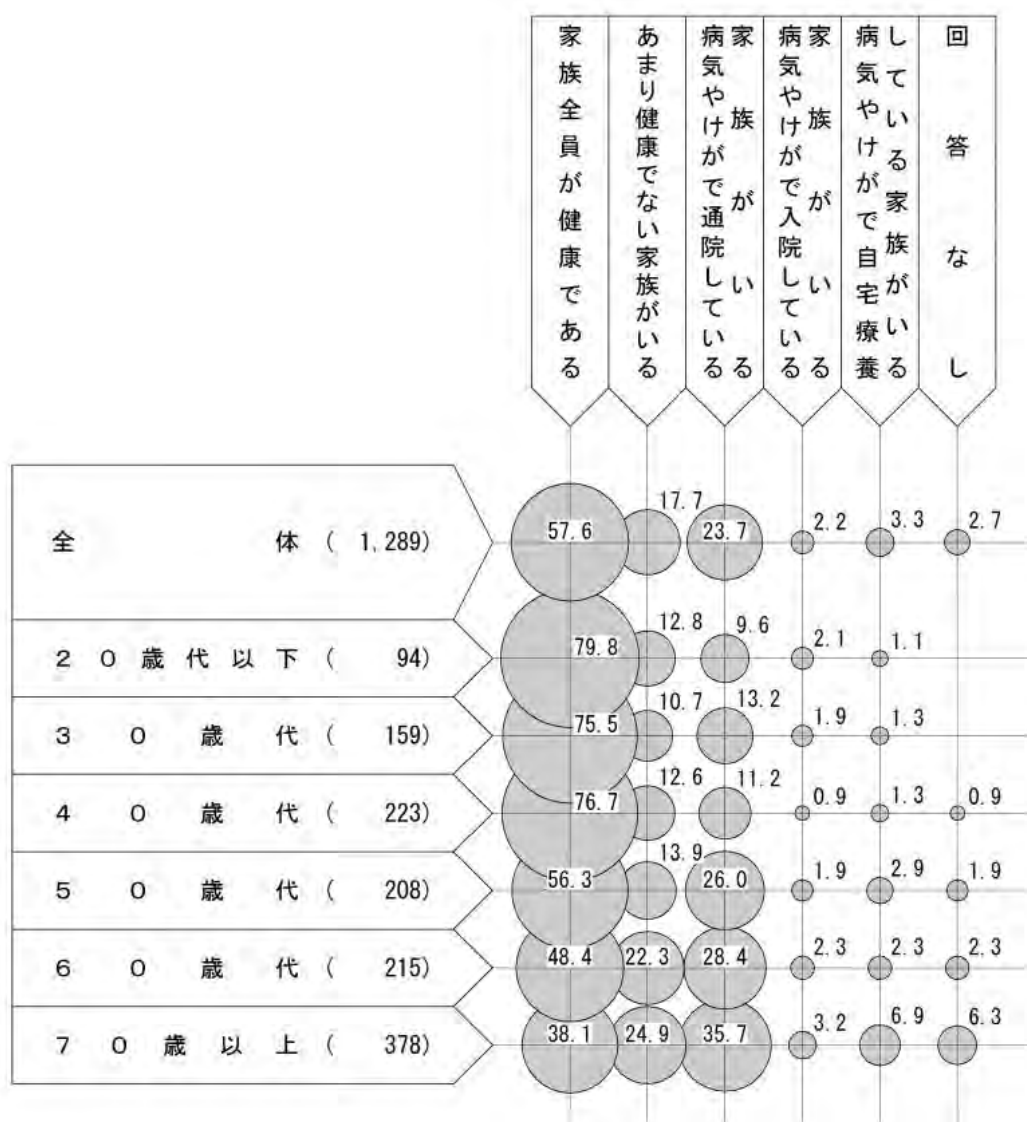
図表 III-1 健康状態 (経年比較)



【年齢別】

- 「家族全員が健康である」と回答した割合は、年齢層が高くなるほど低下する傾向がみられます。
- 「あまり健康でない家族がいる」、「病気やけがで通院している家族がいる」と回答した割合については、50歳代以上から顕著に増加する傾向がみられ、70歳以上では「あまり健康でない家族がいる」が24.9%、「病気やけがで通院している家族がいる」は35.7%と、最も低い20歳代とは、それぞれ20ポイント程度の差がみられます。

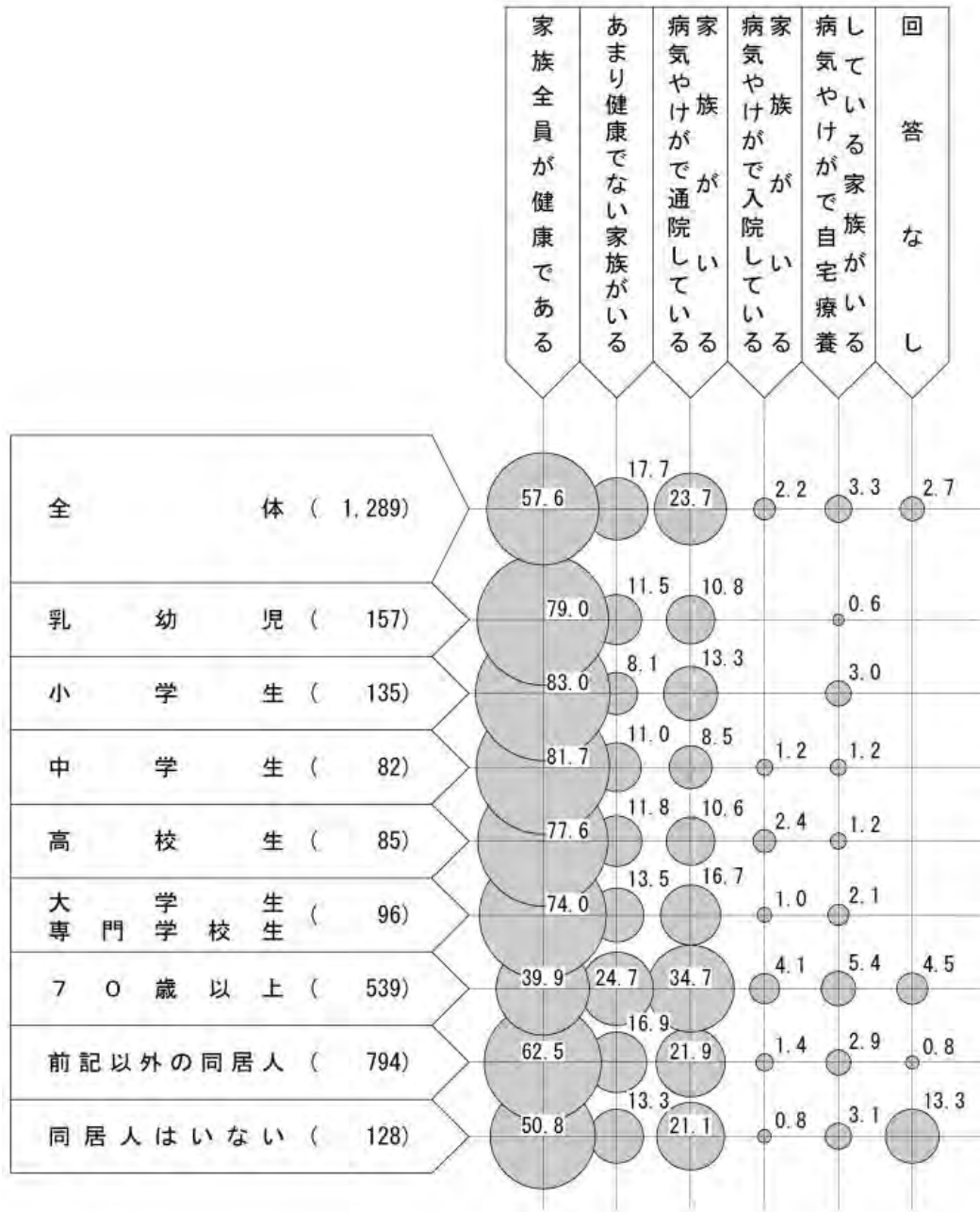
図表 III-2 健康状態（年齢別）



【世帯の構成者別】

- 「70歳以上」の同居人がいる場合、「家族全員が健康である」との回答は39.9%と、唯一半数以下となっています。
- 「70歳以上」の同居人がいる場合、「あまり健康でない家族がいる」が24.7%、「病気やけがで通院している家族がいる」の割合は34.7%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。

図表 III-3 健康状態（世帯の構成者別）



(2) 自身の体力の評価 (問 17)

問 17

あなたは、ご自分の体力についてどのように感じていますか。

【○は1つだけ】

63.6%の市民が「自身の体力に関して特に不安を感じていない」と回答しており、全体の3分の2近くを占めています。

【全体】

○「体力に自信がある」と回答した割合は 8.5%であり、「体力は普通である」の 55.1%と合わせて、63.6%の市民が「自身の体力に関して特に不安を感じていない」と回答しており、全体の3分の2近くを占めています。

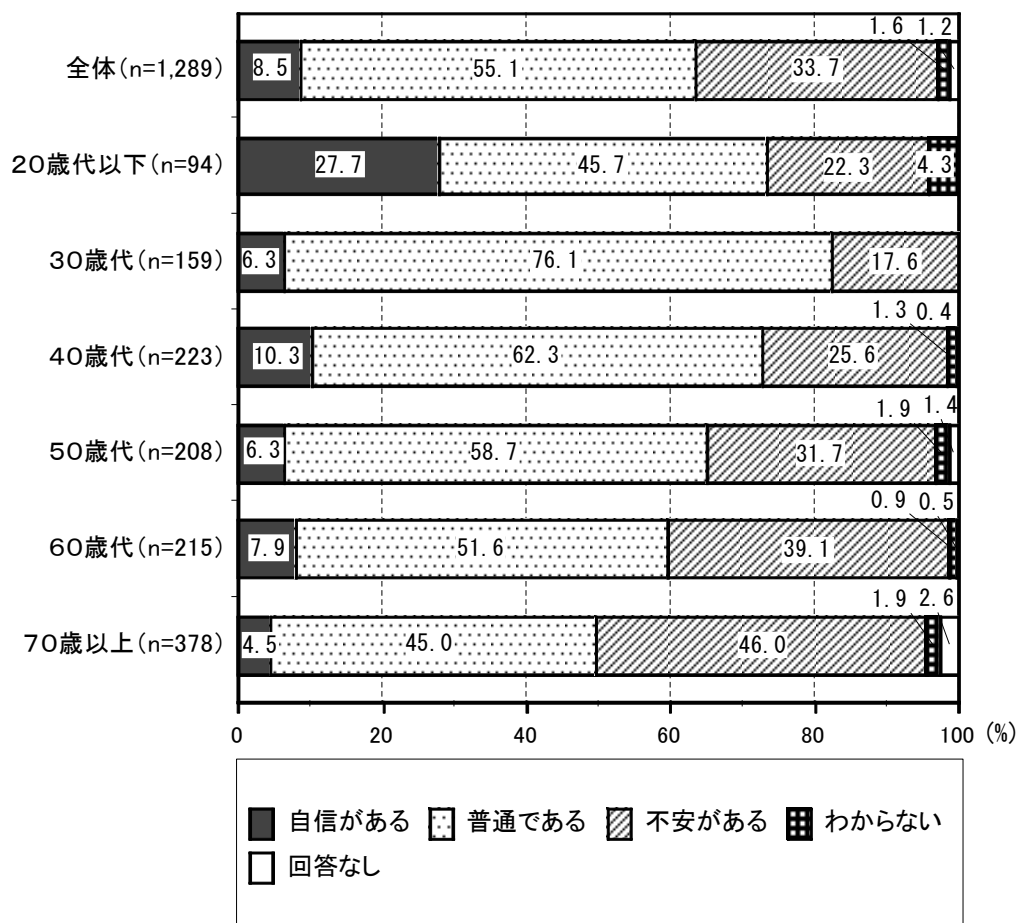
○一方で、「体力には不安がある」という市民も 33.7%と、全体の3分の1を占めています。

【年齢別】

○「体力に自信がある」と回答した市民の割合は、20歳代以下が 27.7%で最も多く、唯一「体力に自信がある」との回答が「不安がある」を上回っています。

○「体力には不安がある」と回答した市民の割合は、年齢層が高くなるほど増加する傾向がみられ、70歳以上では「不安がある」が 46.0%で最も高く、「普通である」の 45.0%を上回っています。

図表 III-4 体力 (年齢別)



(3) スポーツ・運動の実施 (問 18)

問 18 あなたは、何日くらいスポーツ・運動をしますか。【○は1つだけ】

37.0%の市民が“週に1日以上スポーツ・運動をする”、48.3%の市民が“1か月に1日以上、スポーツ・運動をする”と回答しています。

一方で、「スポーツ・運動をしなかった」と回答した市民は38.5%であり、全体の3分の1を超えています。

【全体】

○「週に3日以上」の11.9%と「週に1～2日以上」の25.1%を合わせて、37.0%の市民が“週に1日以上スポーツ・運動をする”と回答しています。さらに、「月に1～3日」の11.3%を合わせて48.3%と、約半数の市民が“1か月に1日以上、スポーツ・運動をする”と回答しています。

○さらに、「3か月に1～2日」の5.2%、「年に1～3日」の6.2%を合わせて、59.7%の市民が“1年間に1日以上スポーツ・運動をする”と回答しています。

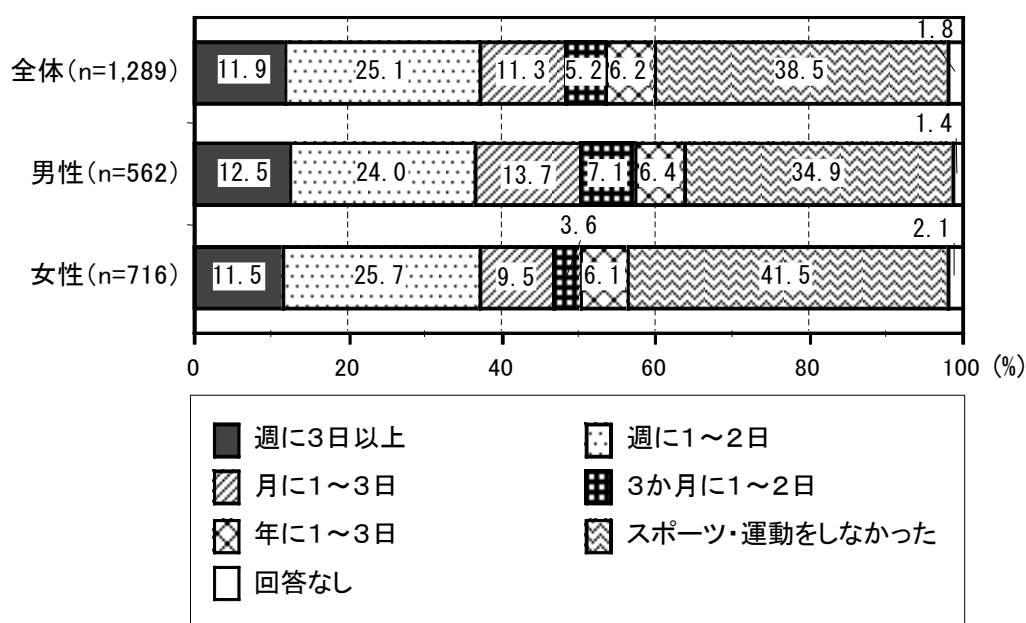
○一方で、「スポーツ・運動をしなかった」と回答した市民は38.5%であり、全体の3分の1を超えています。

【性別】

○「スポーツをしなかった」という市民の割合は、男性が34.9%であるのに対し、女性は41.5%と6.6ポイント高くなっており、男性と比べて「スポーツをする」市民の割合がやや低くなっています。

○一方で、「週に3日以上」、「週に1～2日以上」と回答した割合をみると、男女間で大きな差異はみられず、高い頻度でスポーツに取り組む市民は、性別にかかわらず一定の割合でいることがわかります。

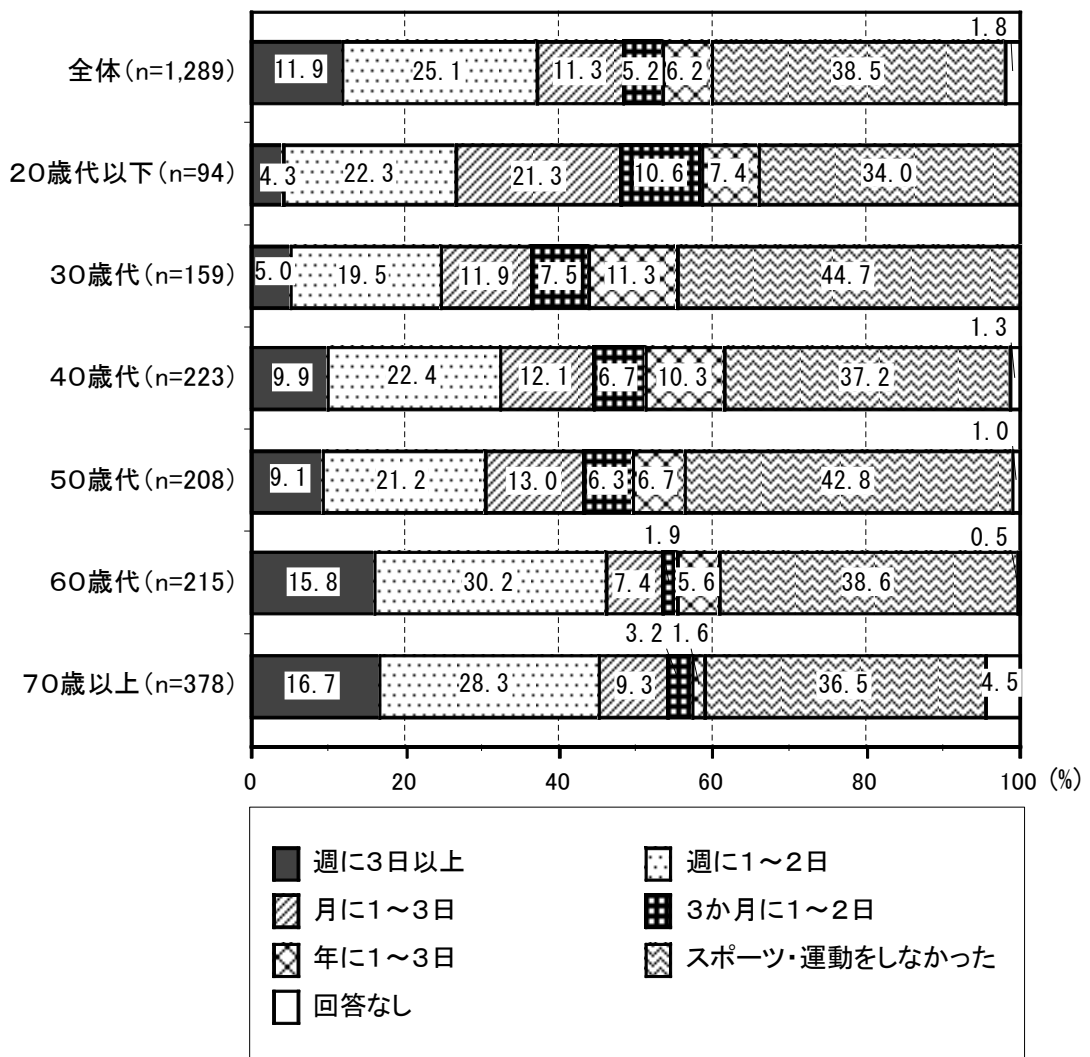
図表 III-5 スポーツ・運動の実施 (性別)



【年齢別】

- 「週に3日以上」と「週に1～2日」を合わせて、“週に1日以上スポーツ・運動をする”と回答した市民の割合は、年齢層が高くなるほど増加する傾向がみられ、年齢による差が大きくなっています。最も低い30歳代では24.5%であり、50歳以下の年齢層では20%から30%台前半にとどまっている一方で、最も高い60歳代では46.0%、70歳以上でも45.0%と、最大で21.5ポイントもの差がみられます。
- 「スポーツ・運動をしなかった」と回答した割合をみると、20歳代以下が34.0%で最も低く、次いで70歳以上の36.5%となっており、最も高い30歳代の44.7%とは最大で10.7ポイントの差がみられます。
- 時間的な余裕がある高齢者層では日常的にスポーツ・運動に取り組む市民の割合が高く、労働者が多いと考えられる30～50歳代ではスポーツ・運動に取り組む頻度がやや低くなっています。

図表 III-6 スポーツ・運動の実施（年齢別）



(4) スポーツ・運動の阻害要因 (問 18-1)

問 18-1

スポーツ・運動をしなかった方におたずねします。あなたがスポーツ・運動をしないのはどのような理由からですか。【○は1つだけ】

「忙しくて時間がないから」が 29.4%で最も多く、次いで「年をとったから」、「スポーツ・運動が好きではないから」、「機会がないから」の順となっています。

【全体】

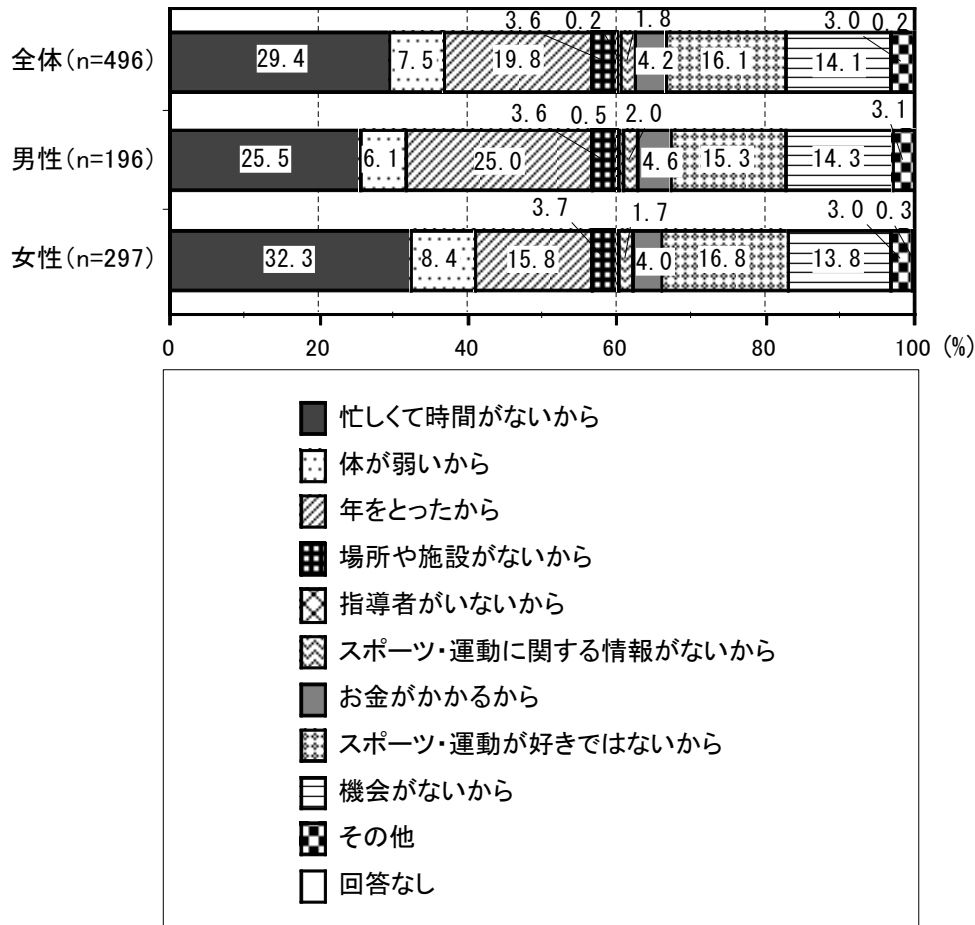
○「スポーツ・運動をしなかった」と回答した 496 人に対して、その理由を尋ねたところ、「忙しくて時間がないから」が 29.4%で最も多く、次いで「年をとったから」が 19.8%、「スポーツ・運動が好きではないから」が 16.1%、「機会がないから」が 14.1%の順となっています。

【性別】

○「スポーツ・運動が好きではないから」と「機会がないから」との回答については、男女間で大きな差異はみられません。

○「年をとったから」については、男性で 25.0%、女性で 15.8%となっており、男性が女性を 9.2 ポイント上回っています。一方で、「忙しくて時間がないから」については、男性が 25.5%であるのに対して、女性が 32.3%と 6.8 ポイント高くなっており、スポーツの主たる阻害要因は性別によって差がみられます。

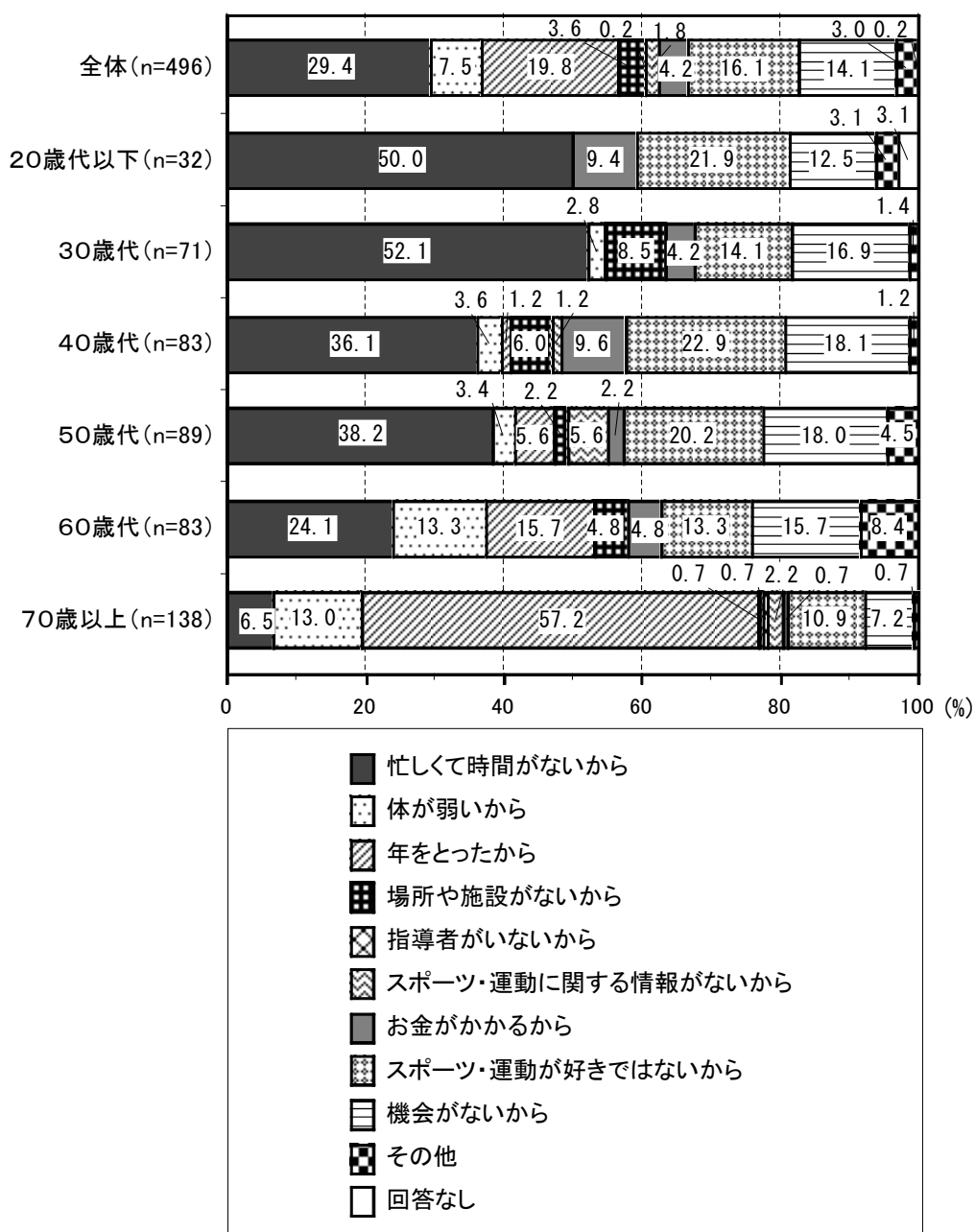
図表 III-7 スポーツ・運動の阻害要因 (性別)



【年齢別】

- 「忙しくて時間がないから」との回答は、20歳代以下から60歳代の各年齢層で割合が最も高くなっており、特に20歳代以下は50.0%、30歳代では52.1%と、若年層では著しく高くなっています。
- 「運動・スポーツが好きではないから」との回答は、40歳代が22.9%で最も多く、次いで20歳代以下が21.9%、50歳代が20.2%と、30歳代を除いて20%を超えており、年齢を問わず理由として挙げられています。
- 「年をとったから」との回答は、50歳代で5.6%、60歳代で15.7%、70歳以上で57.2%と、年齢層が高くなると急激に増加しており、体力的な問題が阻害要因となっていることがわかります。

図表 III-8 スポーツ・運動の阻害要因（年齢別）



(5) スポーツの将来展望 (問 19)

問 19

岩倉市では、スポーツの普及・啓発に努めています。今後、岩倉市がどのようなスポーツ・運動が盛んなまちになれば良いと思いますか。

【○は1つだけ】

「健康づくりのための軽い運動」との回答が 41.8%で最も多く、次いで「個人のレクリエーションや息抜きの運動」の順となっています。

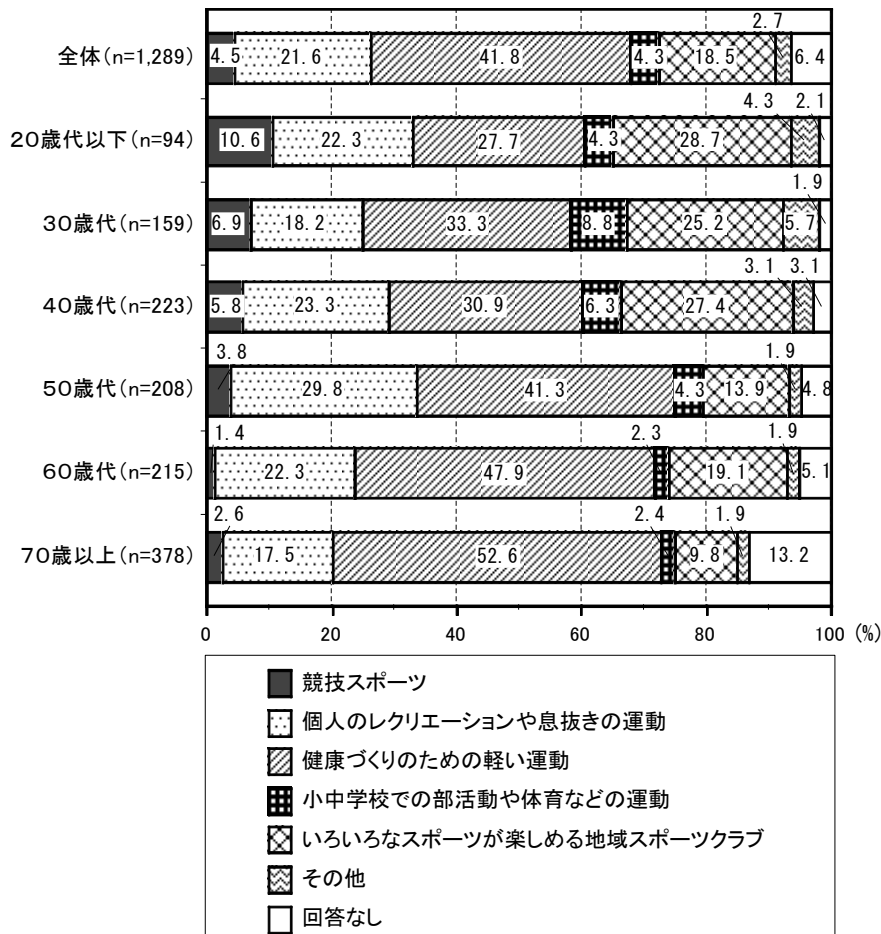
【全体】

○「健康づくりのための軽い運動」との回答が 41.8%で最も多く、次いで「個人のレクリエーションや息抜きの運動」が 21.6%、「いろいろなスポーツが楽しめる地域スポーツクラブ」が 18.5%の順となっています。

【年齢別】

- 「個人のレクリエーションや息抜きの運動」との回答は、各年齢層とも 20%程度の割合となっており、幅広い年齢層から支持を集めています。
- 「健康づくりのための軽い運動」と回答した市民の割合は、高い年齢層ほど増加する傾向がみられ、70歳以上では 52.6%と半数を超えています。
- 20歳代以下は、「いろいろなスポーツが楽しめる地域スポーツクラブ」と回答した市民の割合が 28.7%と、「健康づくり」の 27.7%を上回っている点が特徴です。

図表 III-9 スポーツの将来展望 (年齢別)



(6) 健康維持・増進のための行動 (問 20)

問 20

あなたは、健康維持増進のため普段どのようなことを行っていますか。

【あてはまるものすべてに○】

91.0%の市民は何らかの形で健康維持・増進を行っています。

健康維持・増進のための行動は、「食生活に注意している」が 63.5%で最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」、「日常生活の中でできるだけ歩くなどしている」、「休息や規則正しい日常生活を送っている」、「ウォーキング・ジョギング・体操など軽い運動を定期的に行っている」の順となっています。

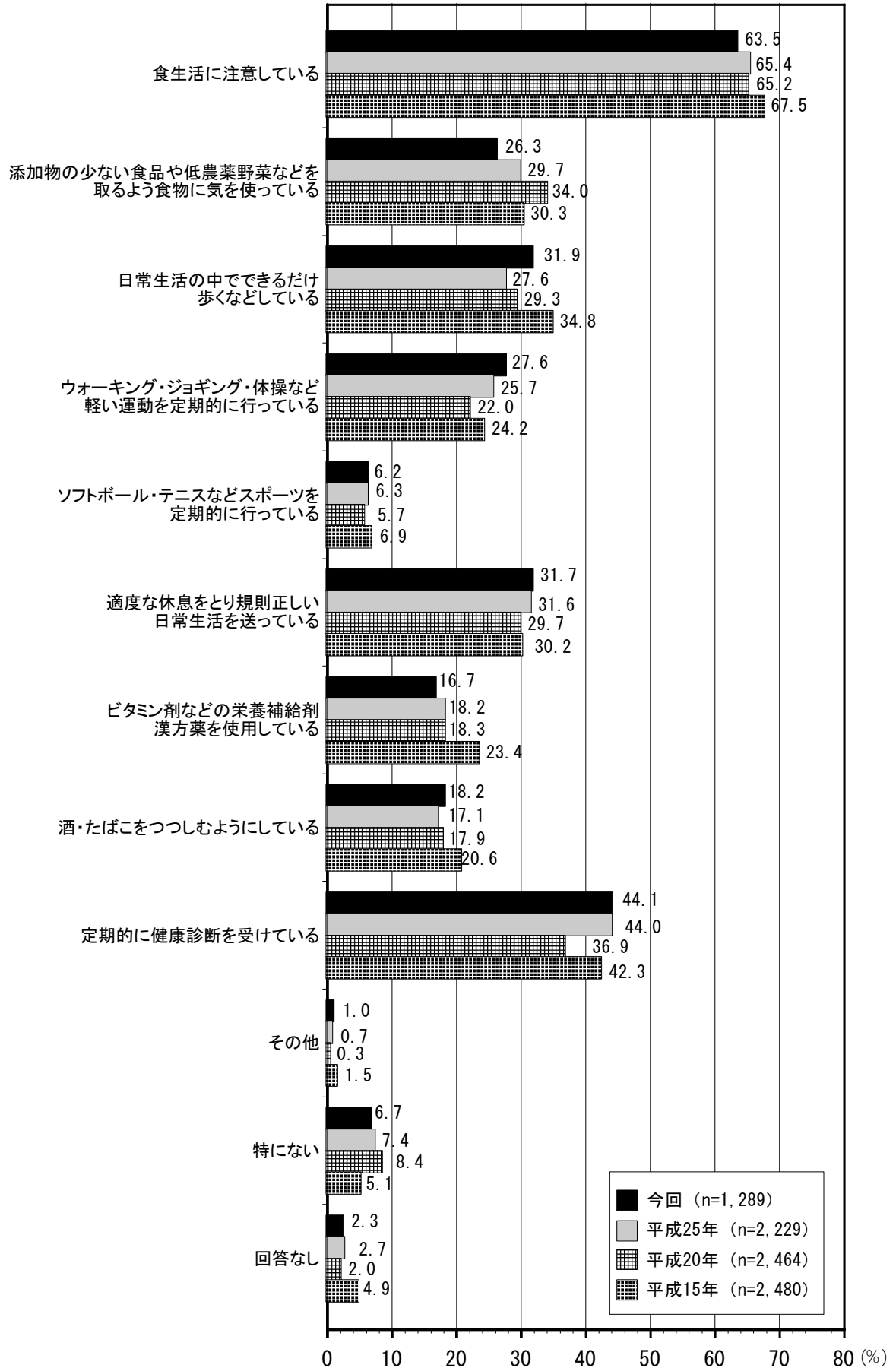
【全体】

- 「特になし」の 6.7%と、「回答なし」の 2.3%を合わせた 9.0%を除く 91.0%の市民は、何らかの形で健康維持・増進を行っていることがわかります。
- 健康維持・増進のための行動は、「食生活に注意している」が 63.5%で最も高くなっています。次いで、「定期的に健康診断を受けている」が 44.1%、「日常生活の中でできるだけ歩くなどしている」が 31.9%、「休息や規則正しい日常生活を送っている」が 31.7%、「ウォーキング・ジョギング・体操など軽い運動を定期的に行っている」が 27.6%の順となっています。

【経年比較】

- 平成 25 年調査と比較すると、「日常生活の中でできるだけ歩くなどしている」が 4.3 ポイント増加しています。
- 平成 15 年調査からの推移をみると、「ビタミン剤などの栄養補給剤・漢方薬を使用している」との回答は、平成 15 年調査の 23.4%から 16.7%へと 6.7 ポイント減少しており、他の項目と比べて、減少の幅がやや大きくなっています。

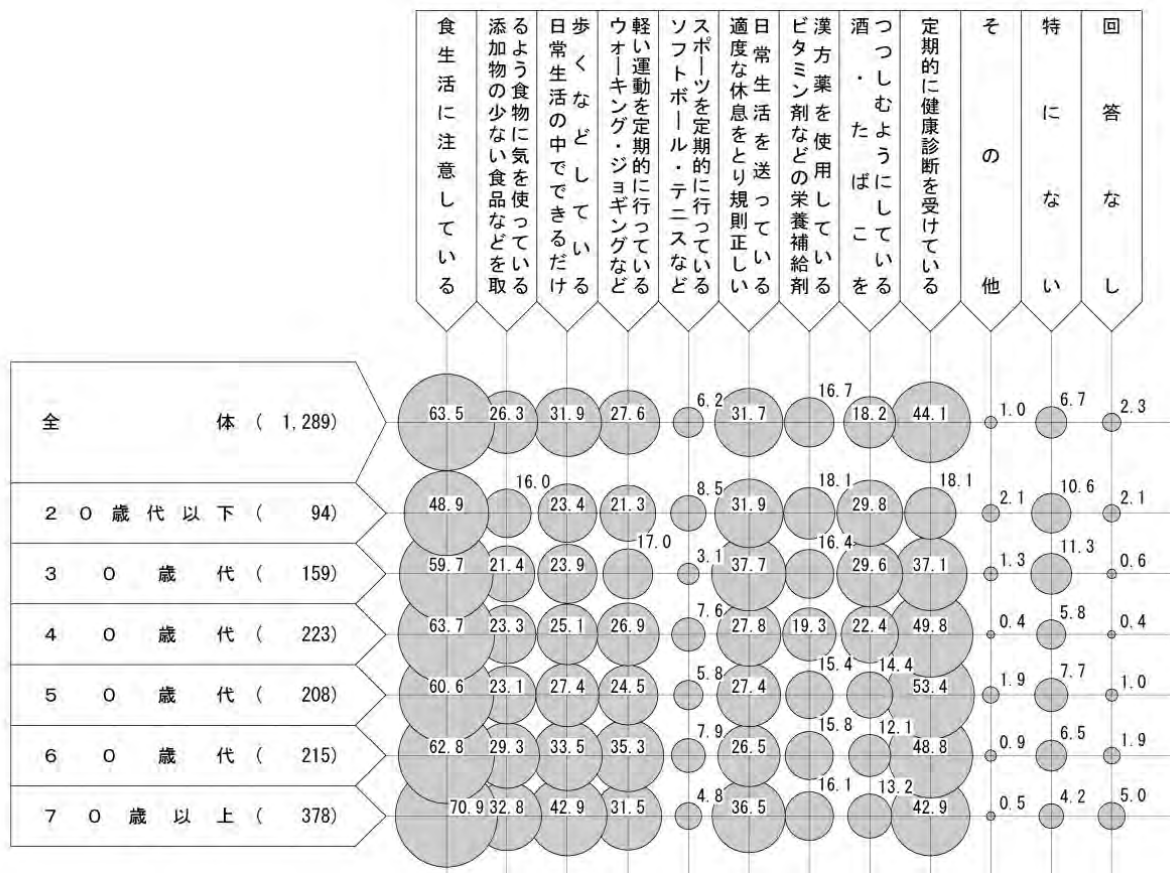
図表 III-10 健康維持・増進のための行動（経年比較）



【年齢別】

- 「食生活に注意している」との回答は年齢層が高くなるほど増加する傾向がみられ、70歳以上が70.9%で最も高く、最も低い20歳代以下の48.9%と22.0ポイントの差がみられます。また、「日常生活の中でできるだけ歩くなどしている」との回答についても、同様の傾向がみられます。
- 一方で、「酒・たばこをつつしむようにしている」との回答は、若年層ほど割合が高く、20歳代以下では29.8%、30歳代でも29.6%であるのに対し、60歳代では12.1%、70歳以上でも13.2%と、最大17.7ポイントの差がみられます。

図表 III-11 健康維持・増進のための行動（年齢別）



(7) 食生活での心がけ (問 21)

問 21

あなたが普段の食生活で、心がけていることはありますか。

【あてはまるものすべてに○】

89.4%の市民は、食生活で心掛けていることがあると回答しています。

食生活での心がけは、「1日3回欠かさず食事をする」が61.8%で最も高く、次いで「食べすぎないように気を付ける」、「決まった時間に食事をする」、「栄養バランスを考えて食べる」の順となっています。

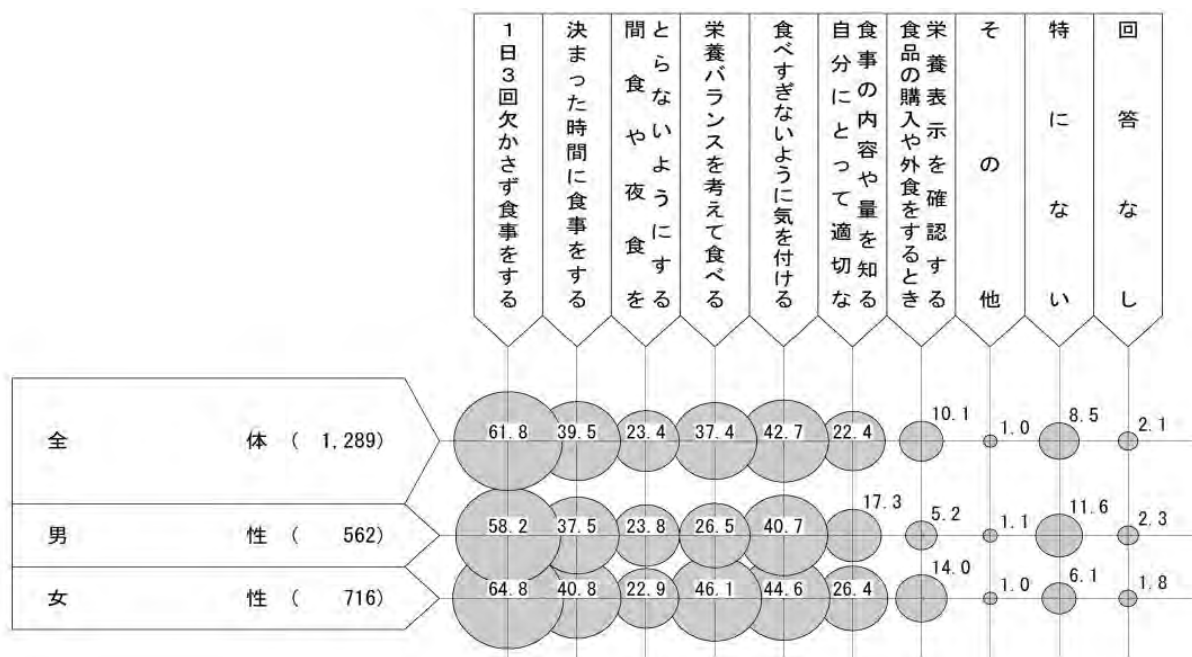
【全体】

- 「特になし」の8.5%と、「回答なし」の2.1%を合わせた10.6%を除く89.4%の市民は、食生活で心掛けていることがあると回答しています。
- 食生活での心がけは、「1日3回欠かさず食事をする」が61.8%で最も高く、次いで「食べすぎないように気を付ける」の42.7%、「決まった時間に食事をする」の39.5%、「栄養バランスを考えて食べる」の37.4%の順となっています。

【性別】

- 全般的に、女性の方が男性よりも回答割合が高くなる傾向がみられます。
- 性別によって差がみられる項目としては、「栄養バランスを考えて食べる」が女性は46.1%であるのに対して男性は26.5%と、女性が男性よりも19.6ポイント高くなっています。
- また、「自分にとって適切な食事の内容や量を知る」は女性が26.4%であるのに対して男性は17.3%で9.1ポイント、「食品の購入や外食をするとき、栄養表示を確認する」は女性の14.0%に対して男性は5.2%で8.8ポイント、それぞれ女性が男性を上回っています。

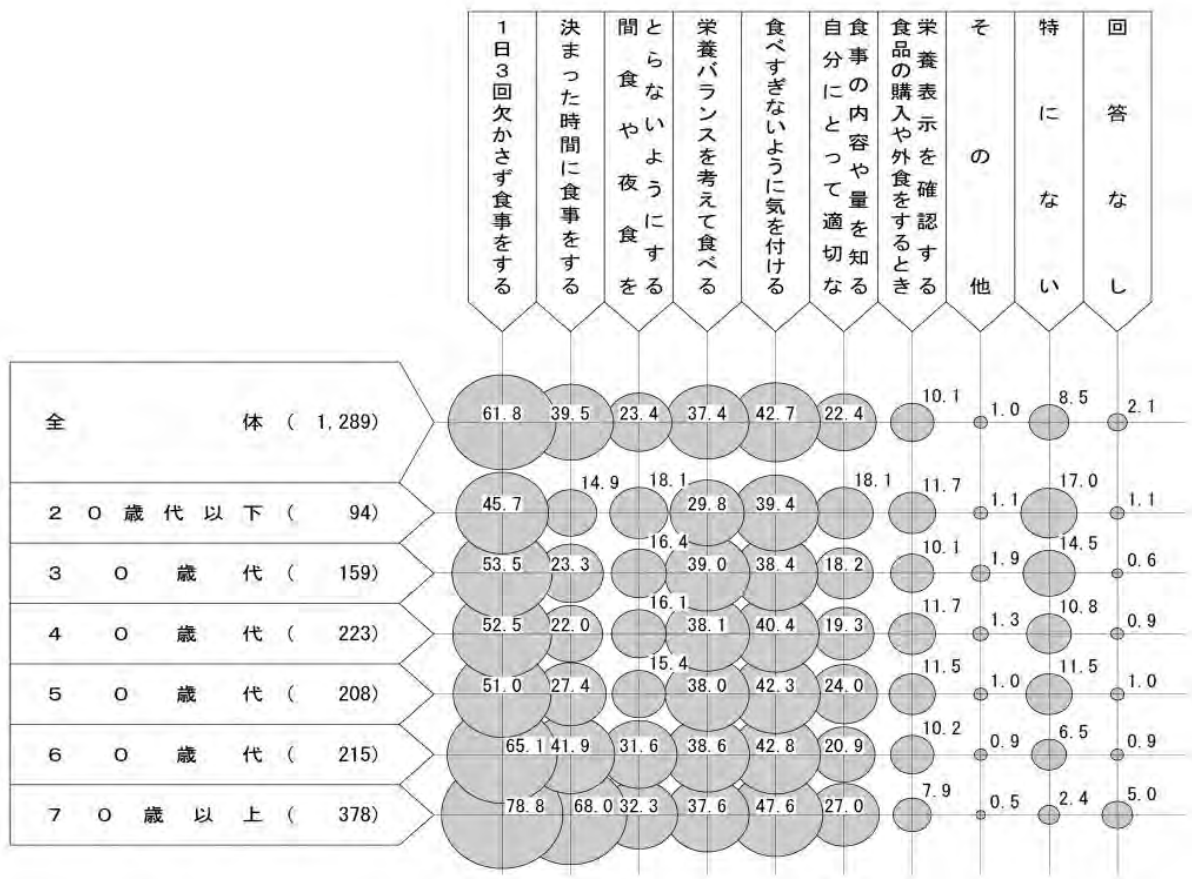
図表 III-12 食生活での心がけ (性別)



【年齢別】

- 年齢別でみると、高い年齢層ほど回答の割合が高くなっている項目が複数あり、特に「1日3回欠かさず食事をする」は70歳以上が78.8%で最も高く、最も低い20歳代以下の45.7%と33.1ポイント、「決まった時間に食事をする」については、70歳以上の68.0%に対して20歳代以下は14.9%と53.1ポイントもの大きな差がみられます。年齢が低いほど、食事の時間や回数に対して心掛けているという回答の割合は少なくなる傾向がみられます。
- 一方で、「食べすぎないように気を付ける」、「食品の購入や外食をするとき、栄養表示を確認する」のように、年齢による大きな差がみられない項目も存在しています。

図表 III-13 食生活での心がけ（年齢別）



(8) 食育についての関心 (問 22)

問 22

あなたは食育について、どのようなことに関心がありますか。

【〇は3つまで】

88.4%の市民は、食育について関心を持っていると回答しています。

食育についての関心としては、「生活習慣病の予防や健康づくりのための食生活」が58.8%で最も高く、次いで「食品の安全性に関すること」、「子どもたちの心身の健全な発育のための食生活」、「食べ残しや食品廃棄に関すること」の順となっています。

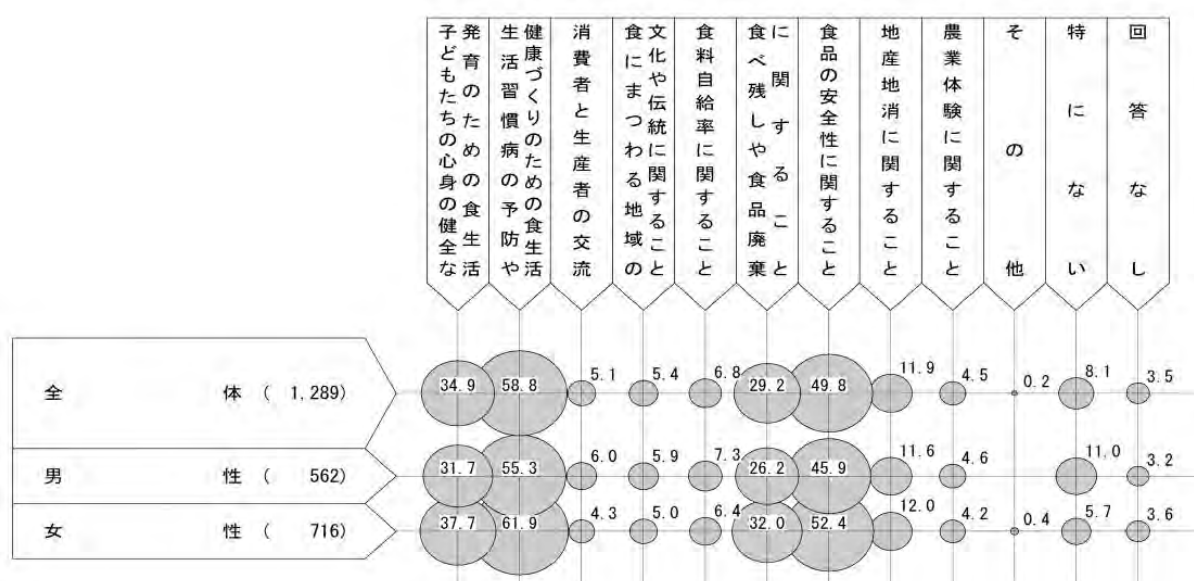
【全体】

- 「特になし」の8.1%と、「回答なし」の3.5%を合わせた11.6%を除く88.4%の市民は、食育について関心を持っていると回答しています。
- 食育についての関心としては、「生活習慣病の予防や健康づくりのための食生活」が58.8%で最も高く、次いで「食品の安全性に関すること」が49.8%、「子どもたちの心身の健全な発育のための食生活」が34.9%、「食べ残しや食品廃棄に関すること」が29.2%の順となっており、主として食を通じた健康づくりや教育に関する項目が上位となっています。

【性別】

- 全般的に、女性の回答割合が高い項目が大半を占めていますが、「消費者と生産者の交流」、「食にまつわる地域の文化や伝統に関すること」、「食料自給率に関すること」、「農業体験に関すること」といった農業や食文化に関する項目では、男性の回答割合が女性の回答割合を上回っています。

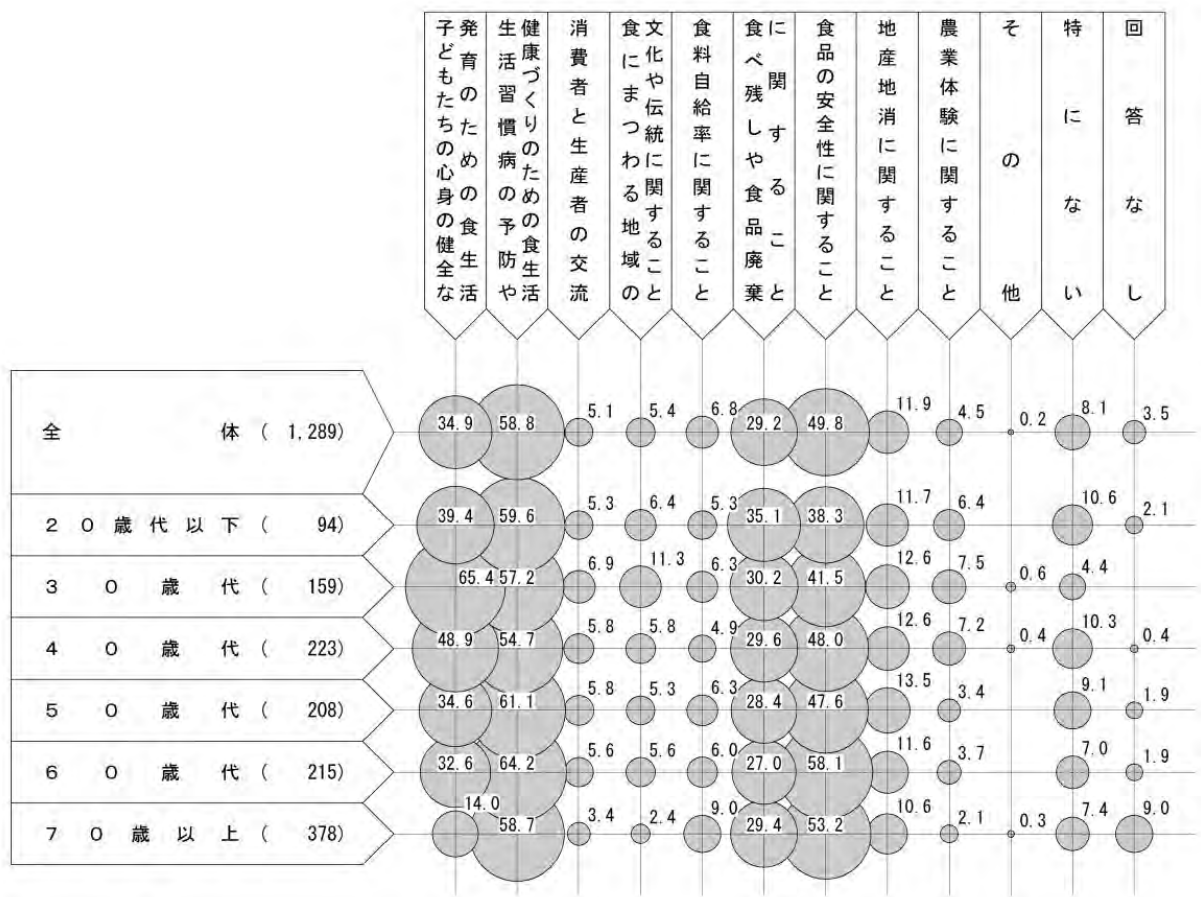
図表 III-14 食育についての関心 (性別)



【年齢別】

- 全体的にみると、年齢による差が小さい項目も多くみられ、食育についての関心は、個人の興味や問題意識によるところが大きいと考えられます。
- 年齢別でみると、「子どもたちの心身の健全な発育のための食生活」との回答の割合は、30歳代が65.4%で最も高く、次いで40歳代の48.9%の順となっており、子育てをしている市民が多い世代で高くなっていると考えられます。また、「食にまつわる地域の文化や伝承に関すること」も、30歳代は唯一10%を超えています。
- 一方で、「食品の安全性に関すること」は、年齢層が高いほど回答の割合が多くなる傾向がみられ、60歳代が58.1%で最も高く、70歳以上も53.2%と半数を超えており、最も低い20歳代以下の38.3%とは、最大で19.8ポイントもの差がみられます。

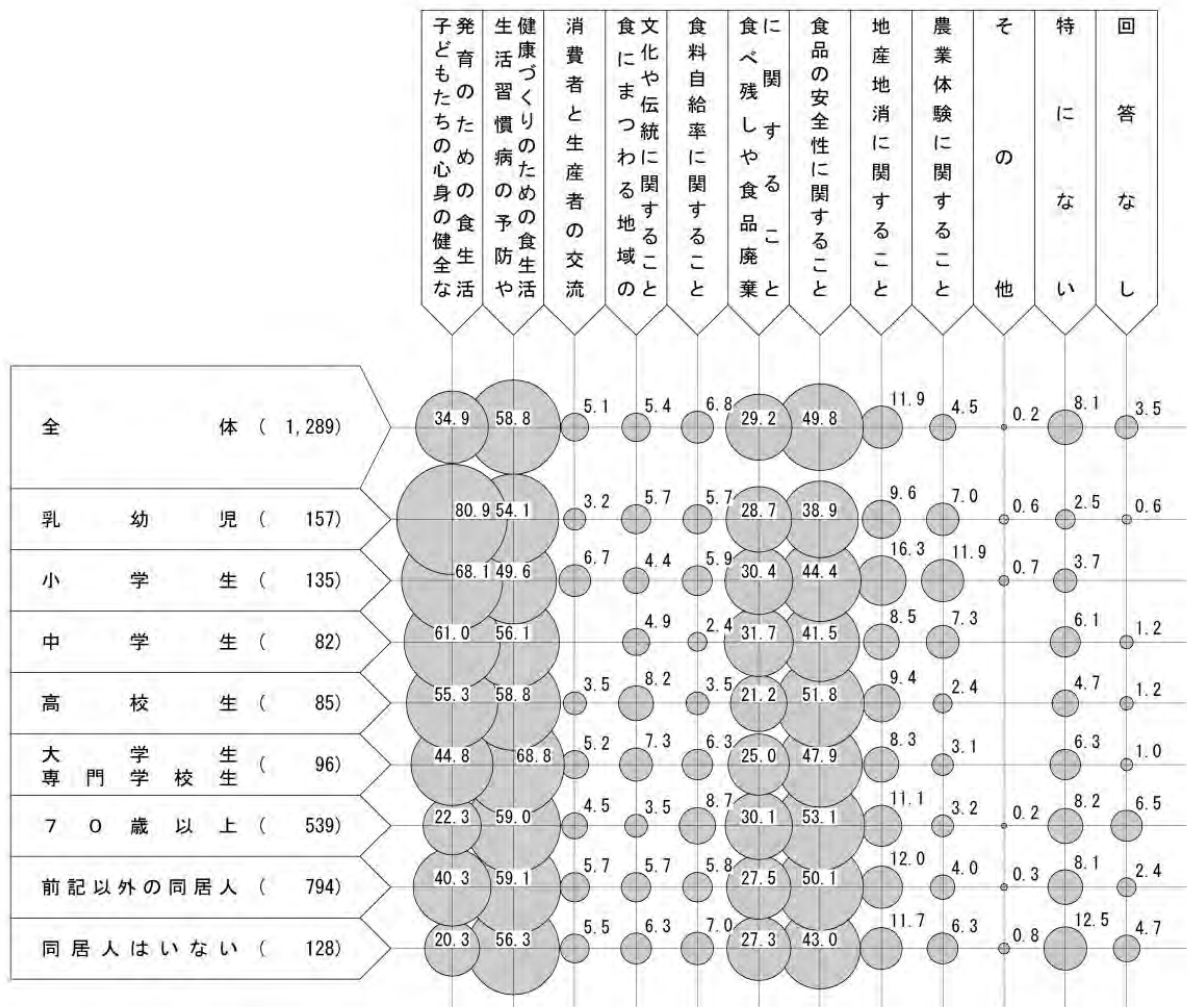
図表 III-15 食育についての関心（年齢別）



【世帯の構成者別】

- 世帯の構成者別でみると、「子どもたちの心身の健全な発育のための食生活」との回答の割合は、年齢の低い子どもと同居している場合に多く、「乳幼児」では80.9%、「小学生」は68.1%、「中学生」は61.0%、「高校生」は55.3%と、それぞれ半数を超えています。
- 「生活習慣病の予防や健康づくりのための食生活」については、「大学生・専門学校生」と同居している場合が68.8%で最も高く、全体平均を10.0ポイント上回っています。
- また、「小学生」と同居している場合、全体平均と比べて、「農業体験に関すること」が7.4ポイント高くなっている点は、特徴として挙げられます。

図表 III-16 食育についての関心（世帯の構成者別）



(9) 力を入れるべき健康づくりの施策 (問 23)

問 23

岩倉市では、次のような健康づくりの施策を実施しています。今後どの施策によりいっそう力を入れるべきだと思いますか。【○は3つまで】

86.8%の市民は、力を入れるべき健康づくりの施策があると回答しています。

力を入れるべき健康づくりの施策としては、「健康診断やがん検診の充実」が60.5%で最も高く、次いで「講座・広報などを通じて健康に関する知識を得る機会を充実させる」、「気軽にできる健康体操教室の充実」の順となっています。

【全体】

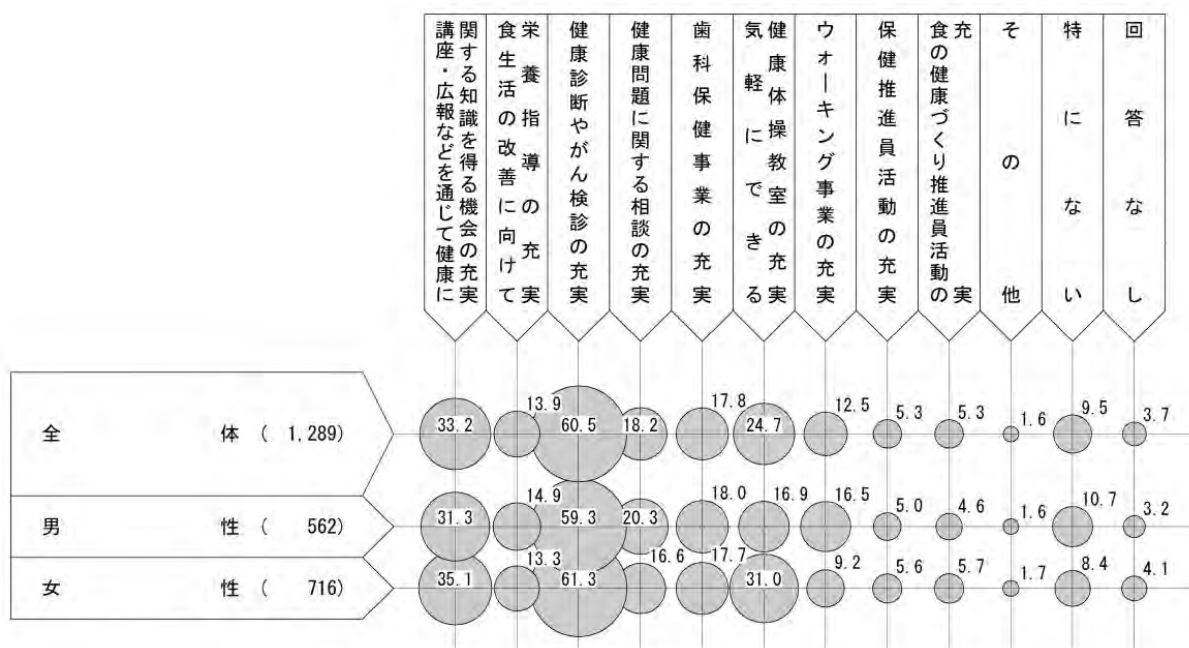
○「特になし」の9.5%と、「回答なし」の3.7%を合わせた13.2%を除く86.8%の市民は、力を入れるべき健康づくりの施策があると回答しています。

○力を入れるべき健康づくりの施策としては、「健康診断やがん検診の充実」が60.5%で最も高く、次いで「講座・広報などを通じて健康に関する知識を得る機会を充実させる」が33.2%、「気軽にできる健康体操教室の充実」が24.7%の順となっています。

【性別】

○性別による差がみられる項目として、「気軽にできる健康体操教室の充実」は、女性が31.0%で男性の16.9%より14.1ポイント高い一方で、「ウォーキング事業の充実」については、男性が16.5%で、女性の9.2%より7.3ポイント高くなっています。

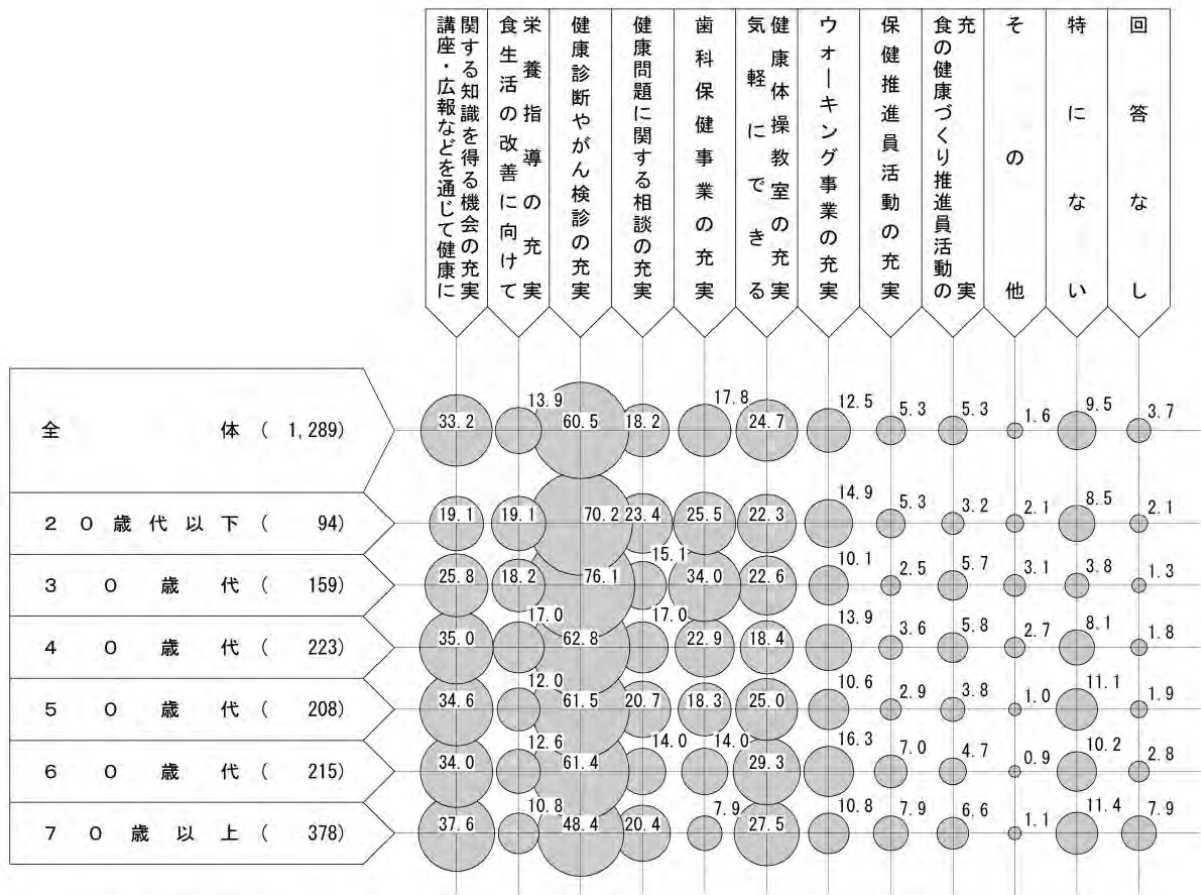
図表 III-17 力を入れるべき健康づくりの施策 (性別)



【年齢別】

- 年齢別でみると、「健康診断やがん検診の充実」との回答の割合は、30歳代が76.1%で最も高く、次いで20歳代以下の70.2%の順となっており、若い年齢層ほど割合が高くなっています。また、「歯科保健事業の充実」は30歳代、「食生活の改善に向けた栄養指導の充実」は20歳代以下が最も高く、いずれも若い年齢層で回答の割合が高くなっています。
- 一方で、「講座・広報などを通じて健康に関する知識を得る機会の充実」は、年齢層が高いほど回答の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上が37.6%で最も高く、最も低い20歳代以下の19.1%と、18.5ポイントの差がみられます。

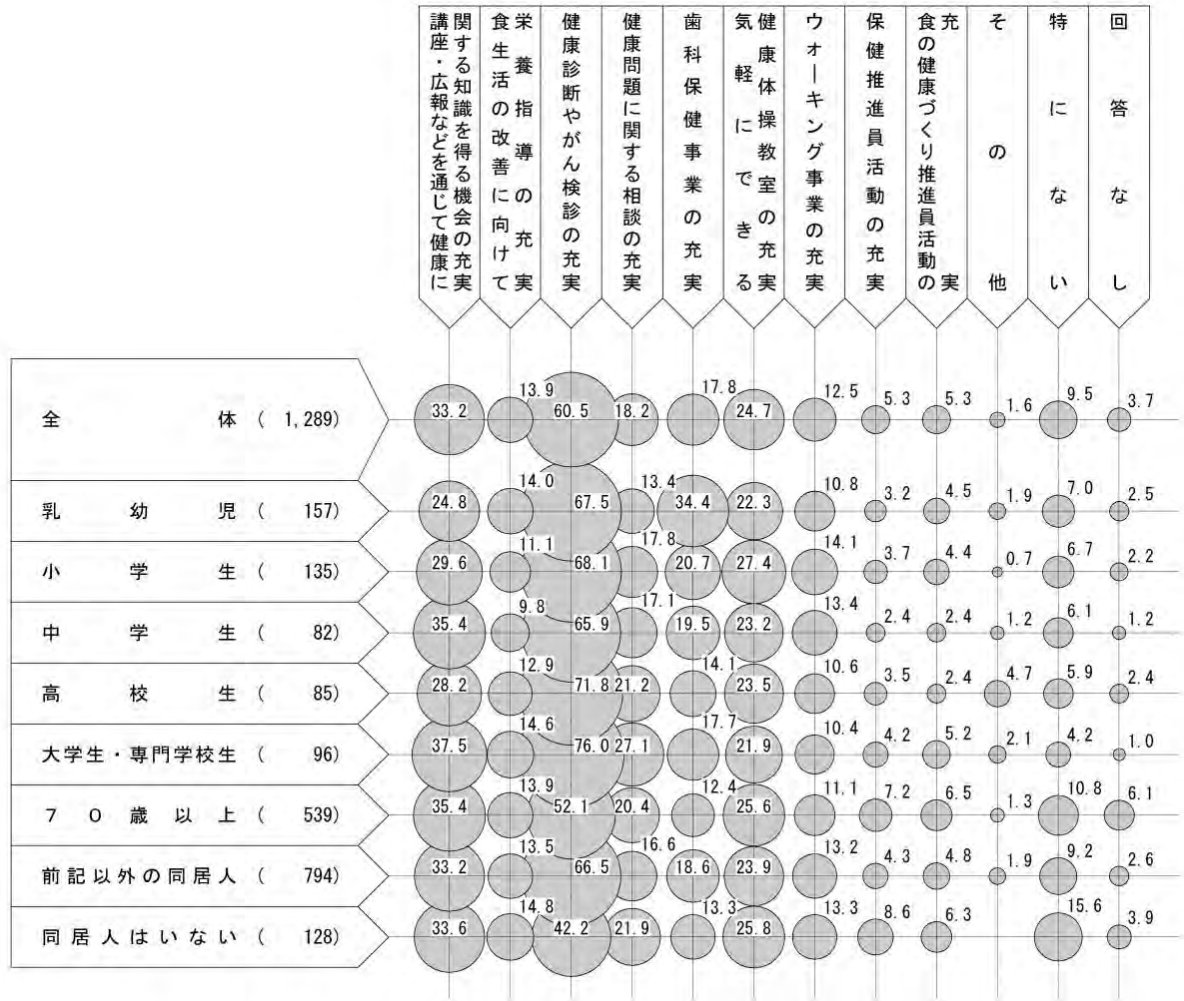
図表 III-18 力を入れるべき健康づくりの施策（年齢別）



【世帯の構成者別】

- 世帯の構成者別でみると、世帯の構成者によって差異がみられる項目は多くありません。
- ただし、乳幼児がいる場合は、「歯科保健事業の充実」が 34.4%と全体平均の 17.8%を 16.6 ポイント上回っており、際立って高くなっています。

図表 III-19 力を入れるべき健康づくりの施策（世帯の構成者別）



(10) 子育てに関する施策への要望 (問 24)

問 24

子育てしやすい環境を整えるために、岩倉市ではどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。【○は3つまで】

84.4%の市民は、子育てに関する施策への要望があると回答しています。

子育てに関する施策への要望については、「子育てしながら働き続ける環境の整備」が28.0%で最も多く、次いで「安心な子どもの遊び場などの整備」、「休日保育や一時保育・病児保育など多様な保育サービスの充実」、「子どもを犯罪・交通事故などから守る地域環境の整備」の順となっています。

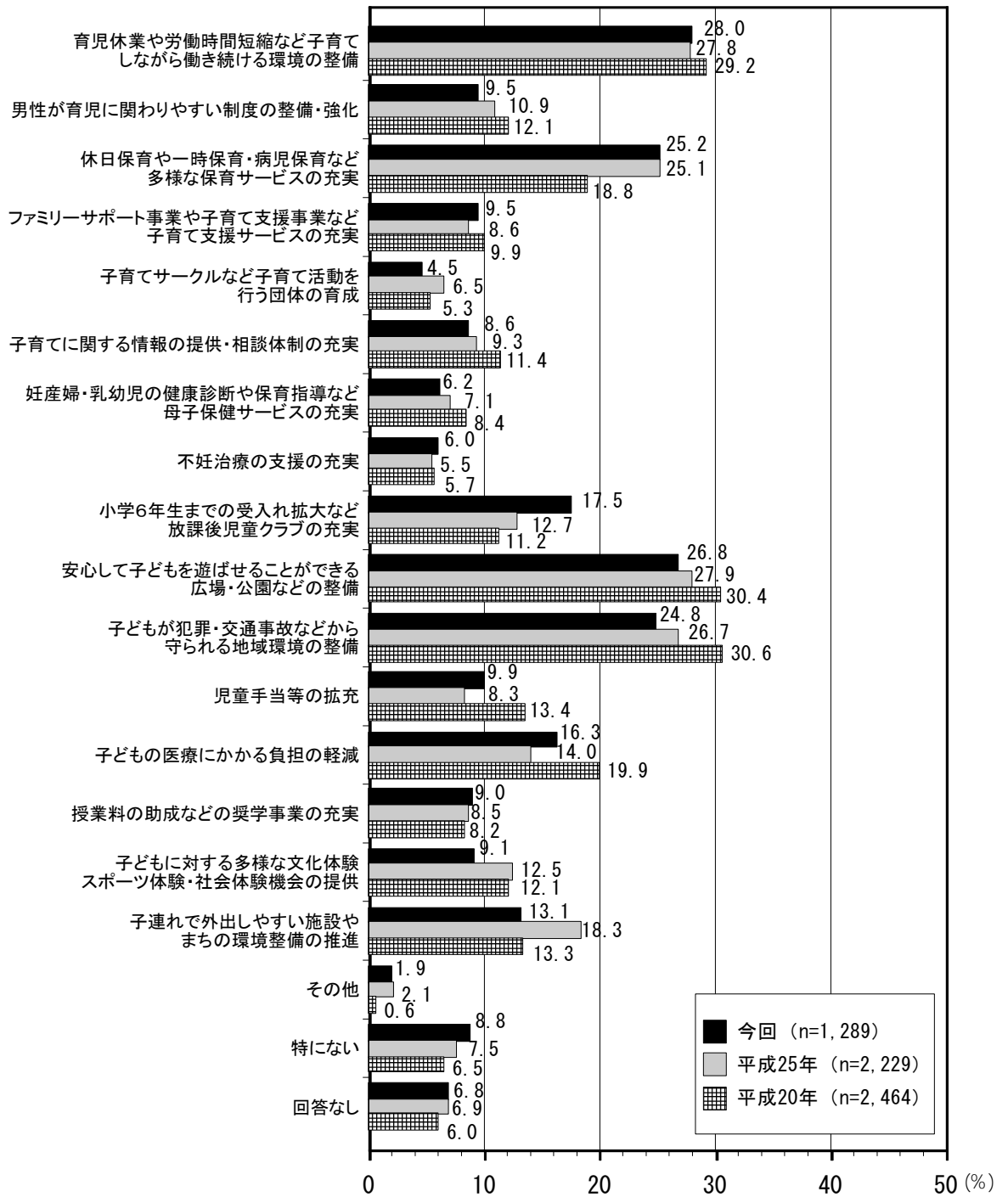
【全体】

- 「特にない」の8.8%と、「回答なし」の6.8%を合わせた15.6%を除く84.4%の市民は、子育てしやすい環境を整えるために力を入れるべきことがあると回答しています。
- 子育てに関する施策への要望としては、「子育てしながら働き続ける環境の整備」が28.0%で最も多くなっています。次いで、「安心な子どもの遊び場などの整備」が26.8%、「休日保育や一時保育・病児保育など多様な保育サービスの充実」が25.2%、「子どもを犯罪・交通事故などから守る地域環境の整備」は24.8%と、子どもの保育と安全の担保に関する項目が上位を占めています。
- 以下、「小学6年生までの受入れ拡大など放課後児童クラブの充実」が17.5%、「子どもの医療にかかる負担の軽減」が16.3%、「子連れで外出しやすい施設やまちの環境整備の推進」が13.1%とそれぞれ10%を超えています。
- 保育等のサービスの充実のみならず、子どもの安全に関する項目の割合が高くなっている点が特徴であるといえます。

【経年比較】

- 平成20年調査と比較して、「休日保育や一時保育・病児保育など多様な保育サービスの充実」は18.8%から25.2%に6.4ポイント、「小学校6年生までの受け入れ拡大など放課後児童クラブの充実」は11.2%から17.5%へ6.3ポイント、子どもの保育等に関する項目が、それぞれ増加しており、要望が高まっているといえます。
- 一方で、「安心して子供を遊ばせることができる広場・公園などの整備」や「子どもが犯罪・交通事故などから守られる地域環境の整備」といった子どもの安全に関する要望項目の回答割合は低下する傾向がみられます。

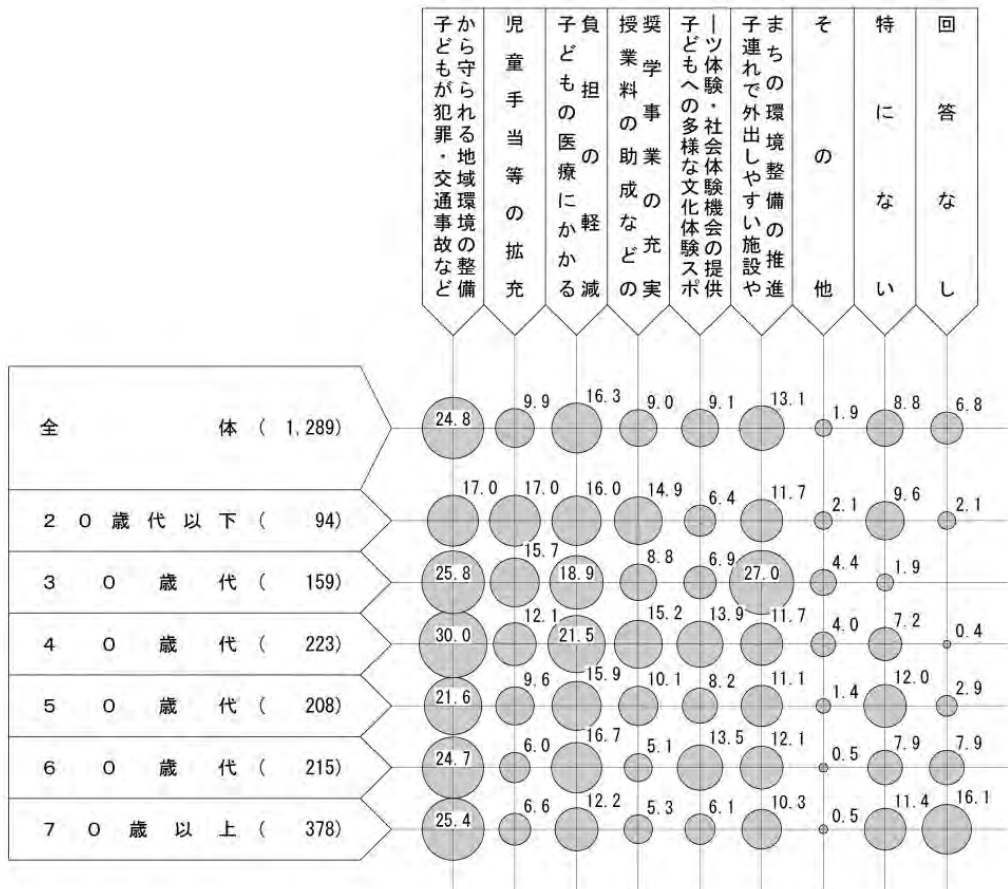
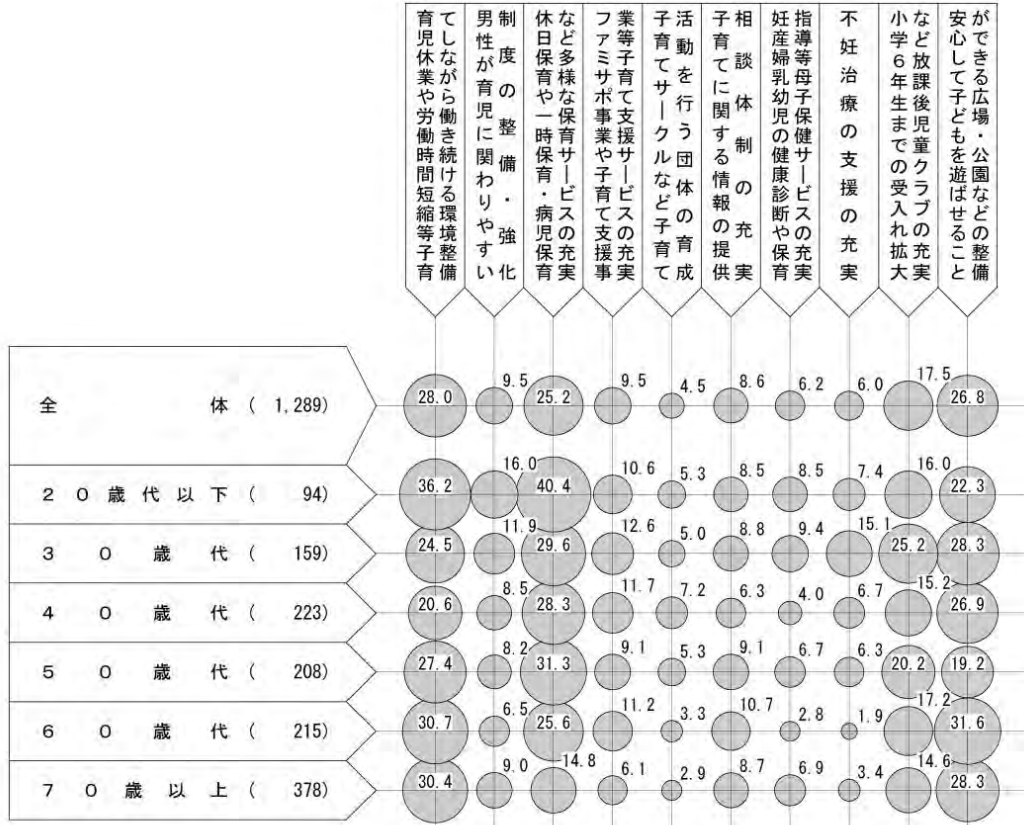
図表 III-20 子育てに関する施策への要望（経年比較）



【年齢別】

- 年齢別にみると、各年齢層のライフステージや子どもの状況等に応じて、回答の割合の高い項目は大きく異なっています。
 - 20歳代以下では、「休日保育や一時保育・病児保育など多様な保育サービスの充実」が40.4%と、全体平均の25.2%より15.2ポイント、「子育てしながら働き続ける環境の整備」も36.2%と全体平均の28.0%から8.2ポイント、「児童手当の充実」は17.0%で全体平均の9.9%よりも7.1ポイント、「男性が育児に関わりやすい制度の整備・強化」も16.0%と全体平均の9.5%より6.5ポイント、それぞれ高くなっており、仕事の育児の両立や男性の育児参加といった、労働や家庭生活と関連した項目が高いことが特徴であるといえます。
 - 30歳代では、「子連れで外出しやすい施設やまちの環境整備の推進」が27.0%と、全体平均の13.1%よりも13.9ポイント、「不妊治療の支援の充実」が15.1%で、全体平均の6.0%より9.1ポイント、「小学校6年生までの受入れ拡大など放課後児童クラブの充実」が25.2%で、全体平均の17.5%よりも7.7ポイント、それぞれ高くなっており、身体の状態や子どもの成長を踏まえた回答がみられるようになっています。
 - 40歳代では、「授業料の助成などの奨学事業の充実」が15.2%で全体平均の9.0%よりも6.2ポイント、「子どもの医療にかかる負担の軽減」は21.5%と全体平均の16.3%より5.2ポイント高くなっており、主として金銭的な支援や負担軽減に関する項目が高い点が特徴であるといえます。
-

図表 III-21 子育てに関する施策への要望（年齢別）



(11) 高齢者福祉に関する施策への要望 (問 25)

問 25

高齢者福祉として、岩倉市ではどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。【〇は3つまで】

92.1%の市民は、高齢者福祉で力を入れるべきことがあると回答しています。

高齢者福祉に関する施策への要望としては、「特別養護老人ホームやデイサービスなど介護サービスを充実する」が40.9%で最も高く、次いで「道路の段差解消など、高齢者が安心して外出できるまちづくり」、「高齢者の就労機会を充実する」の順となっています。

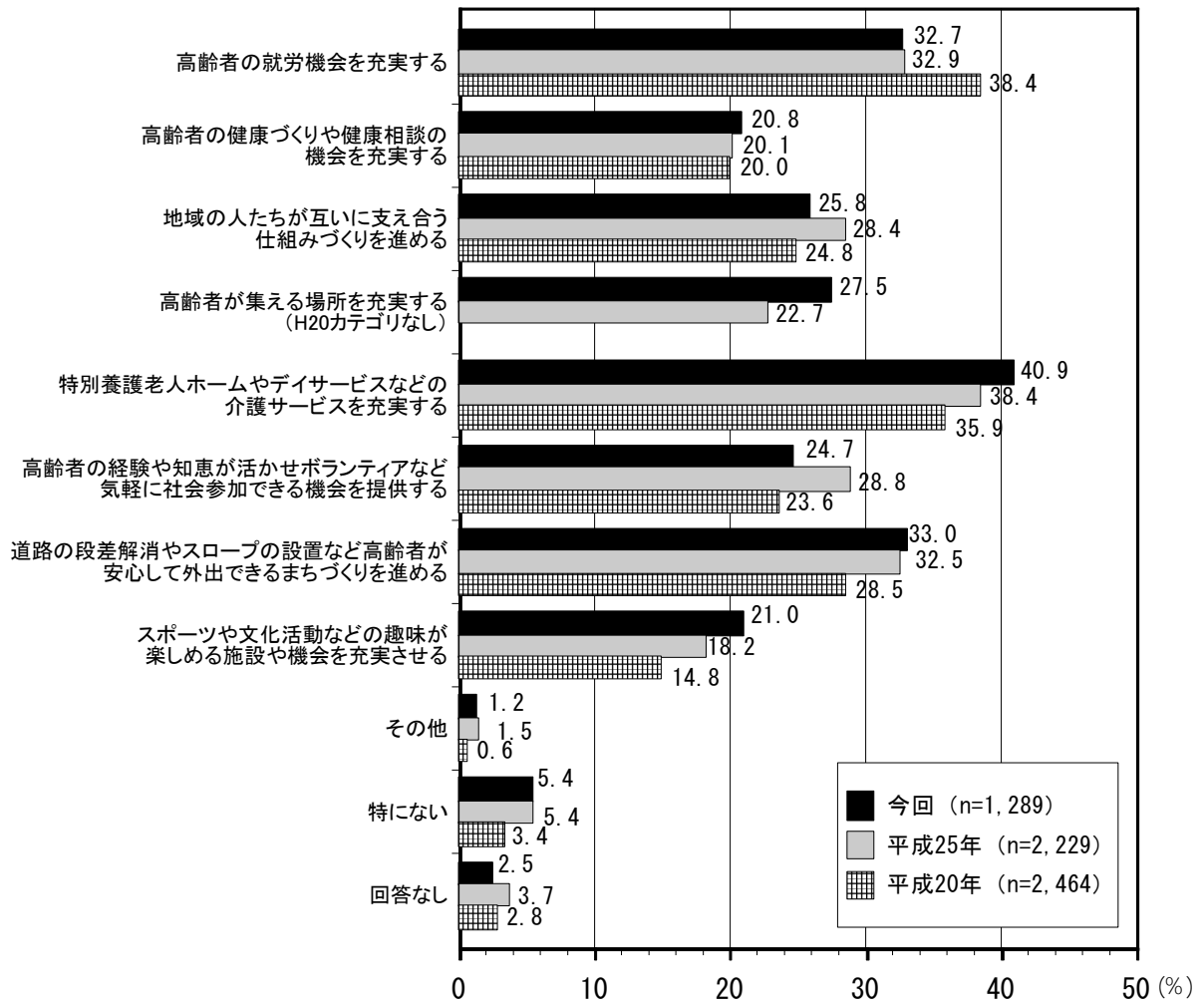
【全体】

- 「特になし」の5.4%と「回答なし」の2.5%を合わせた7.9%を除く92.1%の市民は、高齢者福祉で力を入れるべきことがあると回答しています。
- 高齢者福祉に関する施策への要望としては、全体でも、各項目が20%を超えています。特に「特別養護老人ホームやデイサービスなど介護サービスを充実する」が40.9%で最も高く、次いで「道路の段差解消など、高齢者が安心して外出できるまちづくり」が33.0%、「高齢者の就労機会を充実する」が32.7%の順となっています。

【経年比較】

- 平成20年調査と比較して、「スポーツや文化活動などの趣味が楽しめる施設や機会を充実させる」でも14.8%から21.0%と6.2ポイント、「特別養護老人ホームやデイサービスなどの介護サービスを充実する」も35.9%から40.9%に5.0ポイント、それぞれ増加しており、市民からの要望が高まっているといえます。
- 一方で、「高齢者の就労機会を充実する」については38.4%から32.7%へと5.7ポイント低下しています。これには、雇用定年の延長といった雇用制度の改革が実現されつつあることが、背景にあるものと考えられます。

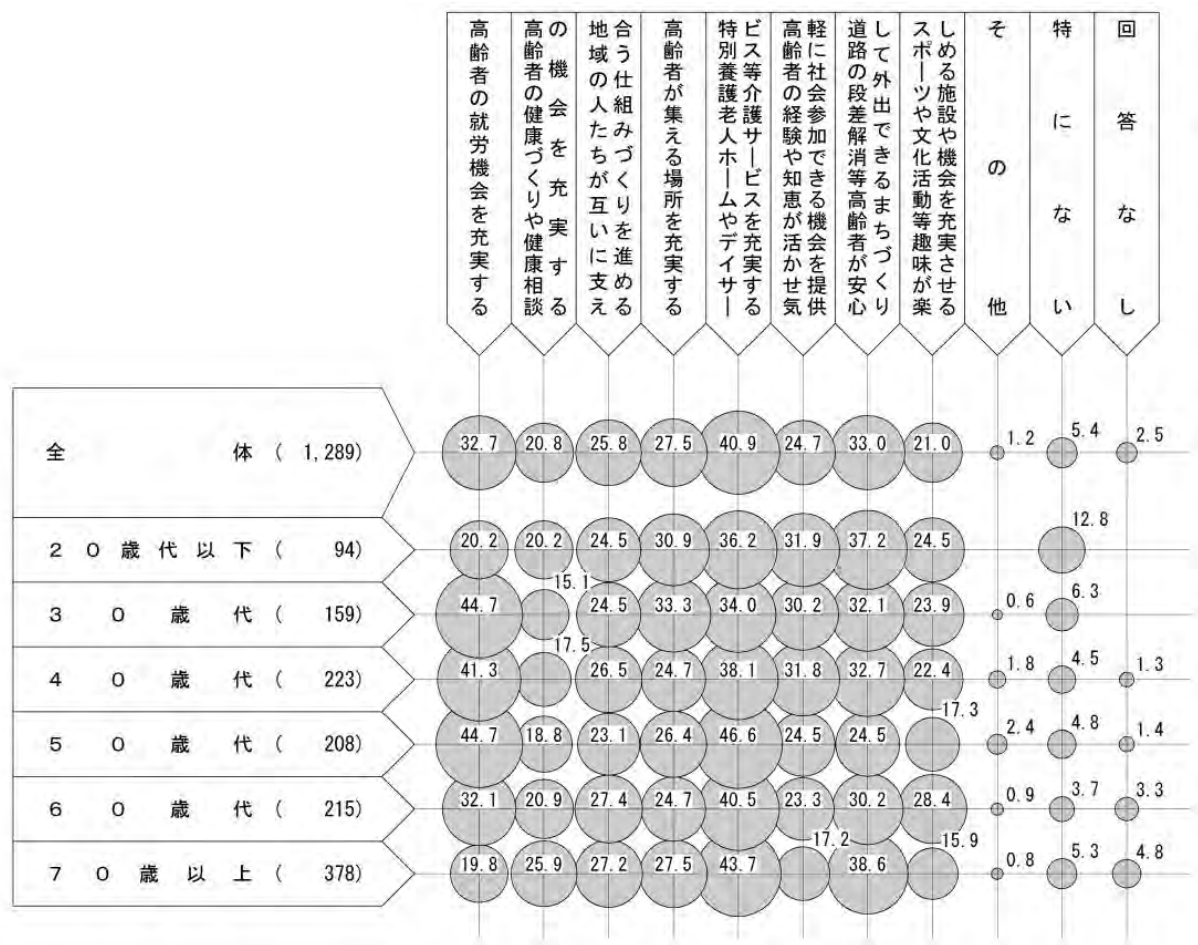
図表 III-22 高齢者福祉に関する施策への要望（経年比較）



【年齢別】

- 「高齢者の就労機会を充実する」は、30歳代から50歳代では40%を超えている一方で、60歳代では32.1%、70歳以上以上では19.8%と、当事者である高齢者との間にギャップがみられます。同様に、「高齢者の経験や知恵が活かせる、気軽に社会参加できる機会を提供する」についても、20歳代以下～40歳代で30%を超えている一方で、60歳代では23.3%、70歳以上では17.2%となっています。
- 「道路の段差解消など高齢者が安心して外出できるまちづくり」は70歳以上が38.6%、「高齢者の健康づくりや健康相談の機会を充実する」は25.9%で、それぞれ各年齢層の中で最も高くなっています。

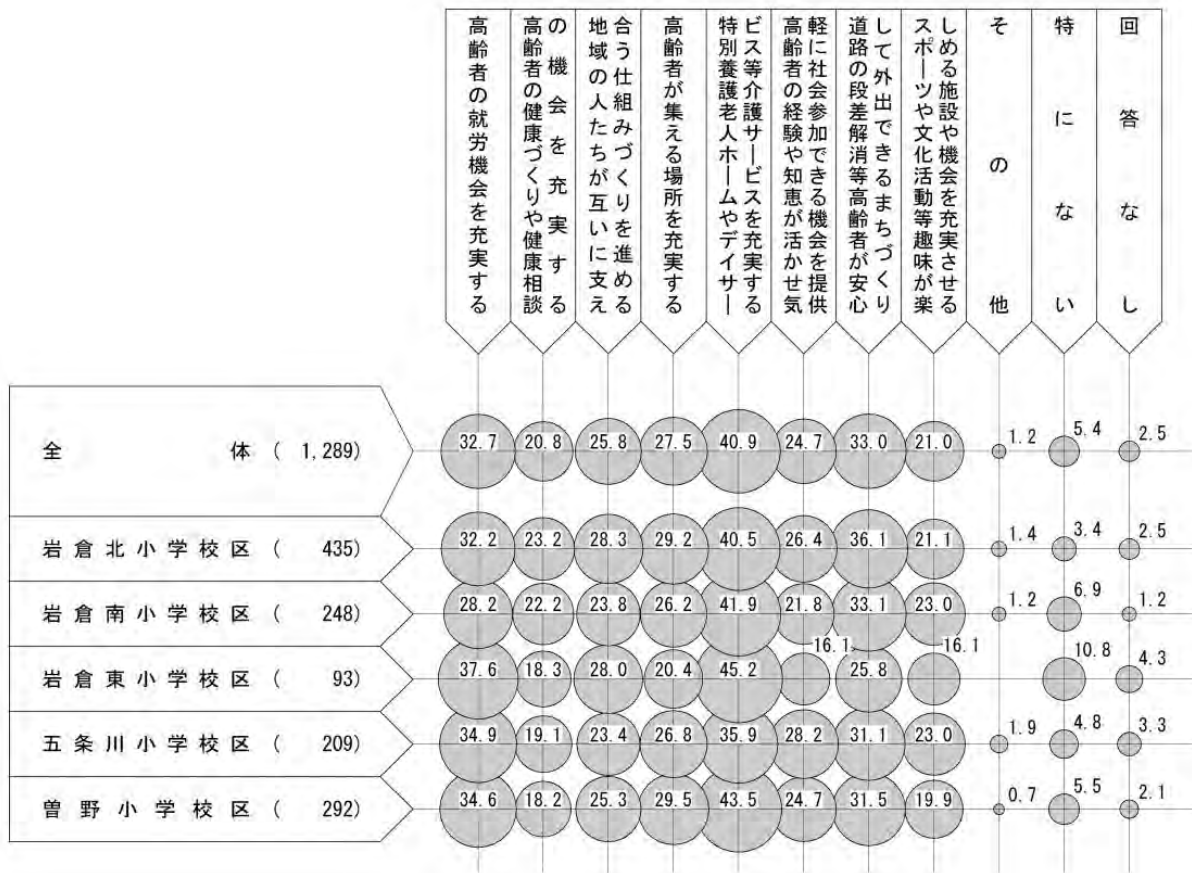
図表 III-23 高齢者福祉に関する施策への要望（年齢別）



【小学校区別】

○小学校区別では大きな差はみられませんが、岩倉東小学校区は「特になし」が10.8%と唯一10%を超えており、他の項目についても回答の割合がやや低い傾向がみられます。

図表 III-24 高齢者福祉に関する施策への要望（小学校区別）



(12) 地域福祉に関する施策への要望 (問 26)

問 26

高齢化が進行する中で、身近な地域における市民相互の助け合い活動が、今後ますます重要になってくると考えられます。あなたは、市内の地域福祉活動を活発にするために、どのようなことが必要だと思いますか。

【○は3つまで】

87.8%の市民は、地域福祉活動を活発にするために必要なことがあると回答しています。

地域福祉活動に関する施策への要望としては、「思いやりの心、優しい心を育てるなど、学校や地域で福祉教育を行う」が38.3%で最も多く、次いで「障がい、認知症などの悩みを持つ人への理解のための地域づくり」、「助け合いの場や活動についての情報を得やすくする」の順となっています。

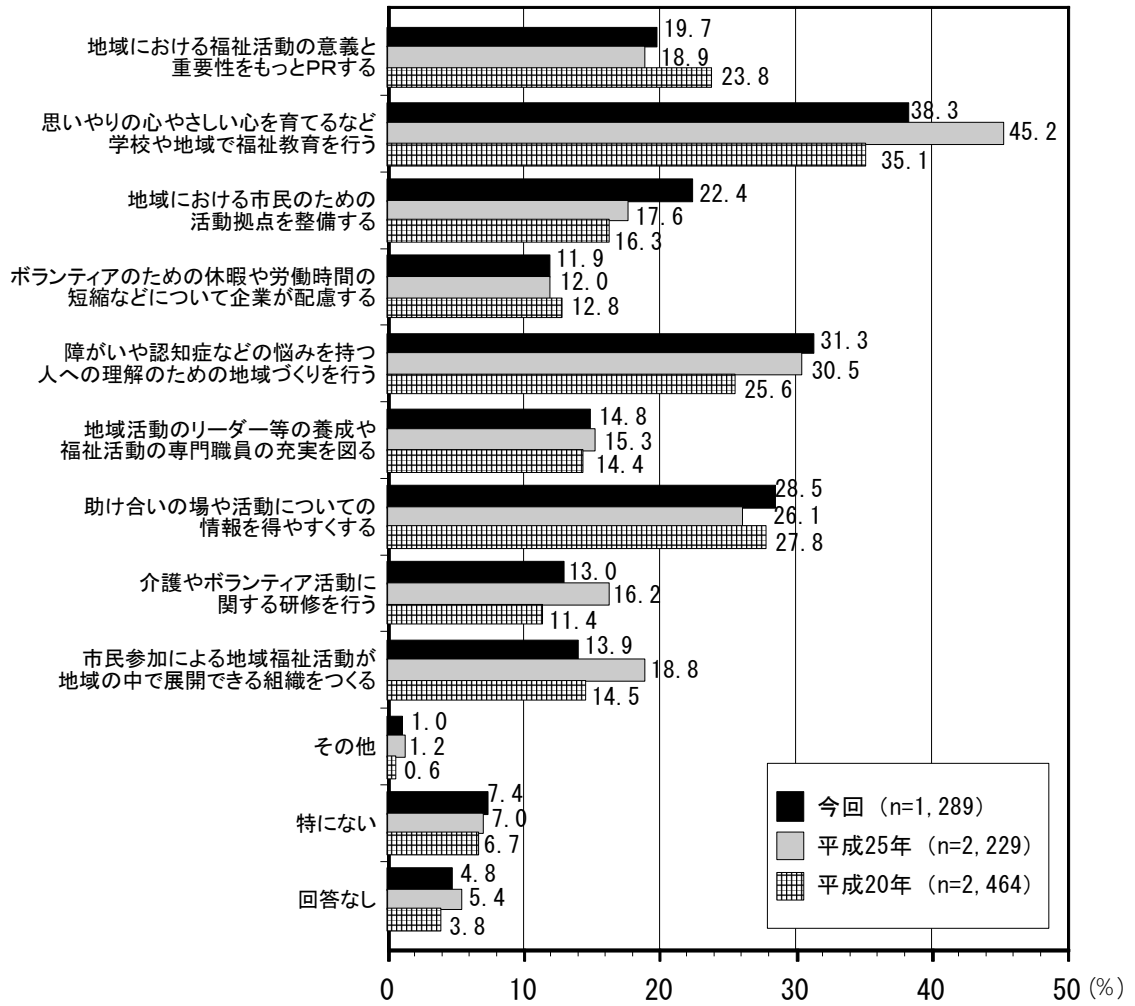
【全体】

- 「特になし」の7.4%と「回答なし」の4.8%を合わせた12.2%を除く87.8%の市民は、地域福祉活動を活発にするために必要なことがあると回答しています。
- 地域福祉活動に関する施策への要望としては、「思いやりの心、優しい心を育てるなど、学校や地域で福祉教育を行う」が38.3%で最も多く、次いで「障がい、認知症などの悩みを持つ人への理解のための地域づくり」が31.3%、「助け合いの場や活動についての情報を得やすくする」が28.5%の順となっています。

【経年比較】

- 平成20年調査と比較して、「地域における市民の活動拠点を整備する」が16.3%から22.4%と6.1ポイント、「障がいや認知症などの悩みを持つ人への理解のための地域づくりを行う」も25.6%から31.3%に5.7ポイント、それぞれ一貫して増加を続けており、市民の要望が高まっているといえます。
- 平成20年調査と比較すると大幅に減少した項目はみられません。一方で、平成25年調査と比較すると、「思いやりの心、やさしい心を育てるなど、学校や地域で福祉教育を行う」については45.2%から38.3%へと6.9ポイント、「市民参加による地域福祉活動が地域の中で展開できる組織を作る」も18.8%から13.9%へと4.9ポイント低下している点が目立っています。

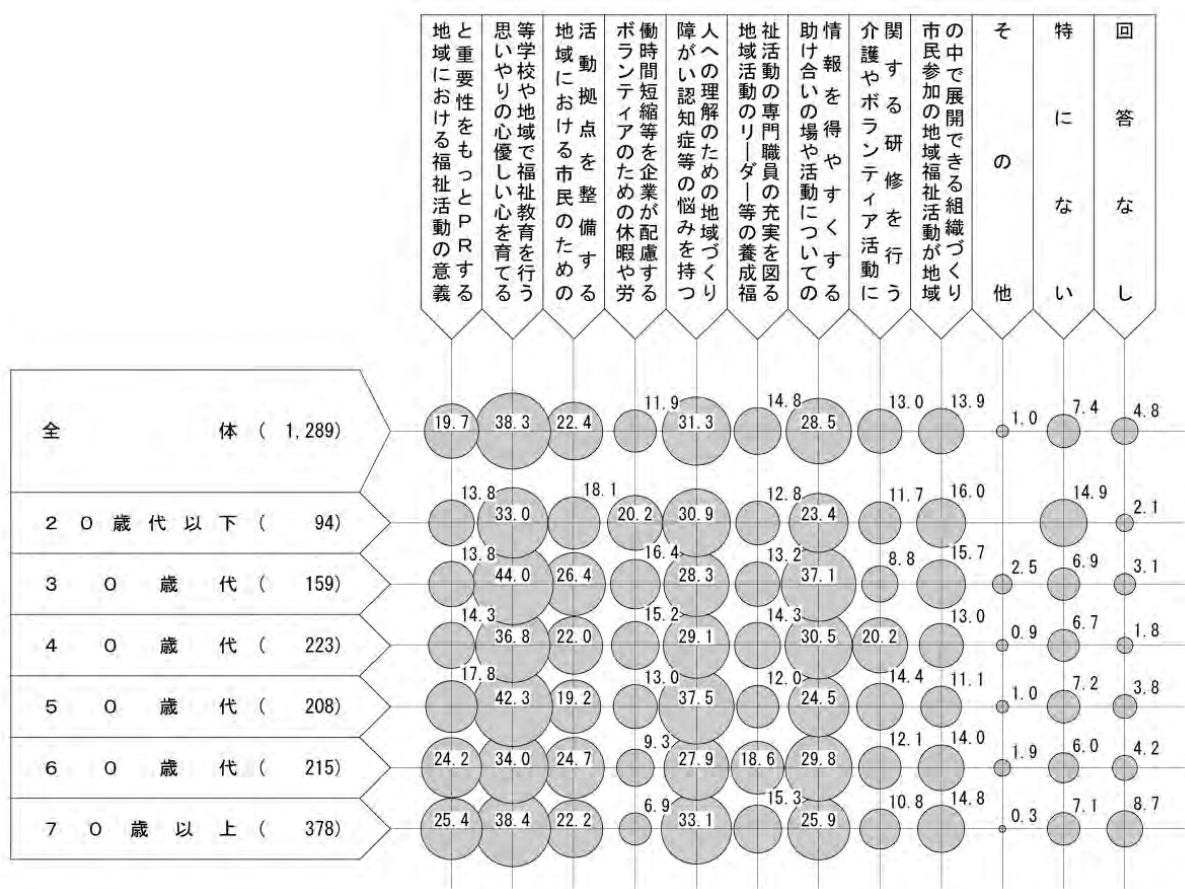
図表 III-25 地域福祉に関する施策への要望（経年比較）



【年齢別】

- 年齢別で見ると、20歳代以下では「ボランティアのための休暇や労働時間短縮など企業が配慮する」が20.2%と、全体平均の11.9%と比べて8.3ポイント高くなっており、年齢層が若いほど回答の割合が高くなっています。
- 30歳代では、「助け合いの場や活動についての情報を得やすくする」が37.1%と全体平均の28.5%より8.6ポイント、40歳代では、「介護やボランティア活動に関する研修を行う」が20.2%と全体平均の13.0%より7.2ポイントとそれぞれ高くなっています。

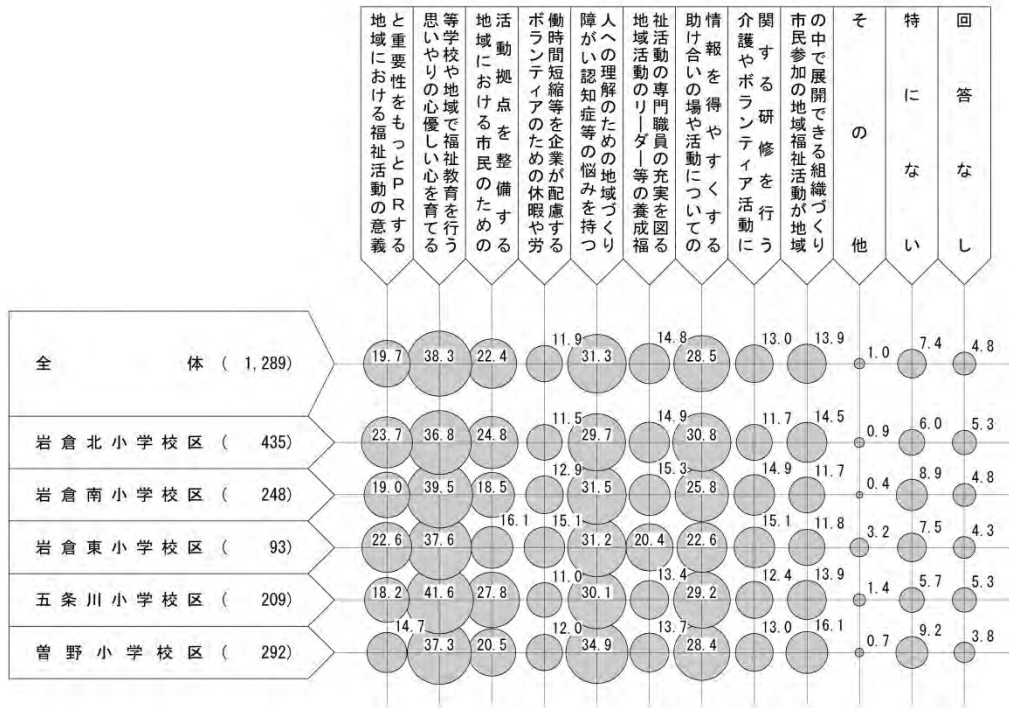
図表 III-26 地域福祉に関する施策への要望（年齢別）



【小学校区別】

- 小学校区別では、小学校区ごとに大きな差がみられる項目は多くありませんが、岩倉東小学校区では、「地域活動のリーダー等の養成、福祉活動の専門職員の充実を図る」が20.4%と全体平均の14.8%よりも5.6ポイント高くなっています。
- 五条川小学校区でも、「地域における市民のための活動拠点を整備する」が27.8%と、全体平均の22.4%よりも5.4ポイント高くなっている点は特筆されます。

図表 III-27 地域福祉に関する施策への要望（小学校区別）



IV. 生涯學習、男女共同參画、文化

IV. 生涯学習、男女共同参画、文化

(1) 生涯学習の目的・動機 (問 27)

問 27 生涯学習にはどのような目的があると思いますか。【○は1つだけ】

「自分の人生をより豊かにするため」が51.3%と半数を超え、次いで「日常生活など暮らしで役立つ知識や能力を身につけるため」となっています。

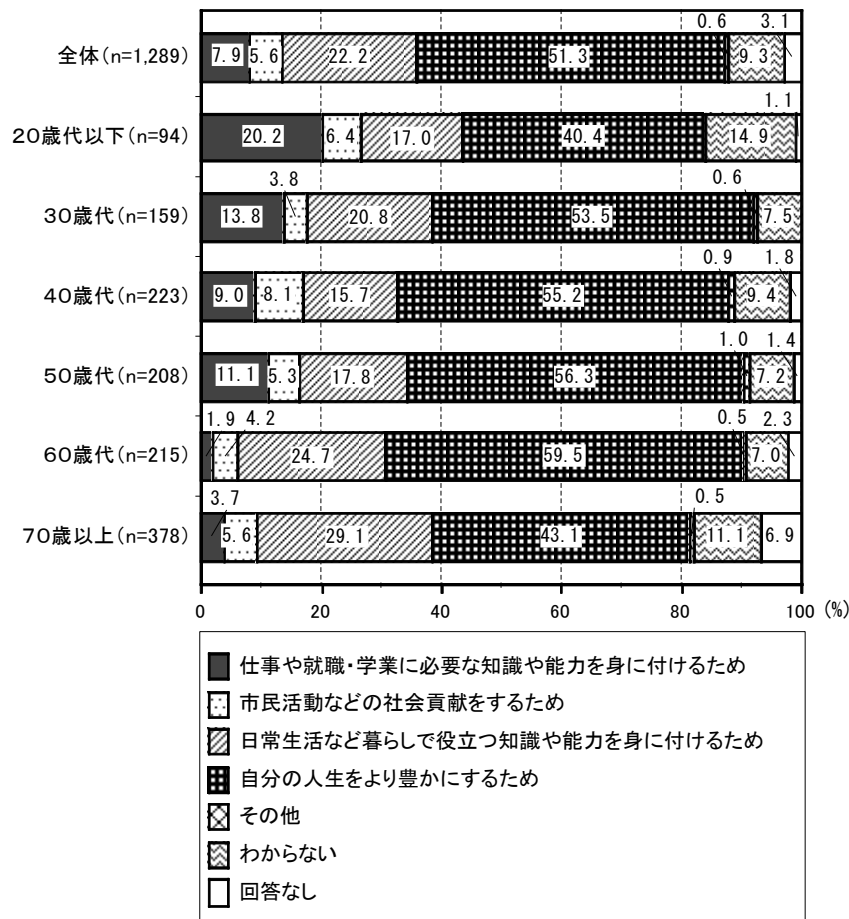
【全体】

- 「自分の人生をより豊かにするため」が51.3%と半数を超え、次いで「日常生活など暮らしで役立つ知識や能力を身につけるため」が22.2%となっています。
- また、「市民活動などの社会貢献をするため」といった他者への貢献という目的については5.6%となっています。

【年齢別】

- 「仕事や就職・学業に必要な能力を身につけるため」については、20歳代で20.2%と全体平均の7.9ポイントと比べて12.3ポイント高くなっており、年齢が高くなるにしたがってその割合は減少する傾向がみられます。
- 「自分の人生をより豊かにするため」については、60歳代が59.5%で最も高く、最も低い20歳代以下の40.4%と19.1ポイントの差がみられます。

図表 IV-1 生涯学習の目的・動機 (年齢別)



(2) 生涯学習の参加状況と参加意向 (問 28)

問 28

現在、どのような生涯学習活動や生涯学習講座に参加していますか。
また、今後どのような生涯学習活動や生涯学習講座に参加したいですか。
【あてはまるものをすべて選んで回答欄に番号を記入】

22.4%の市民が、何らかの生涯学習活動を行っているとは回答しています。

行っている活動としては「身体を動かして健康を高めるもの」が 12.2%で最も高く、「趣味として自分の生きがいになるもの」が続いています。

参加意向については、全般的に、参加状況と比較して回答割合が高くなっています。希望する学習内容はきわめて多岐にわたっています。

① 参加状況

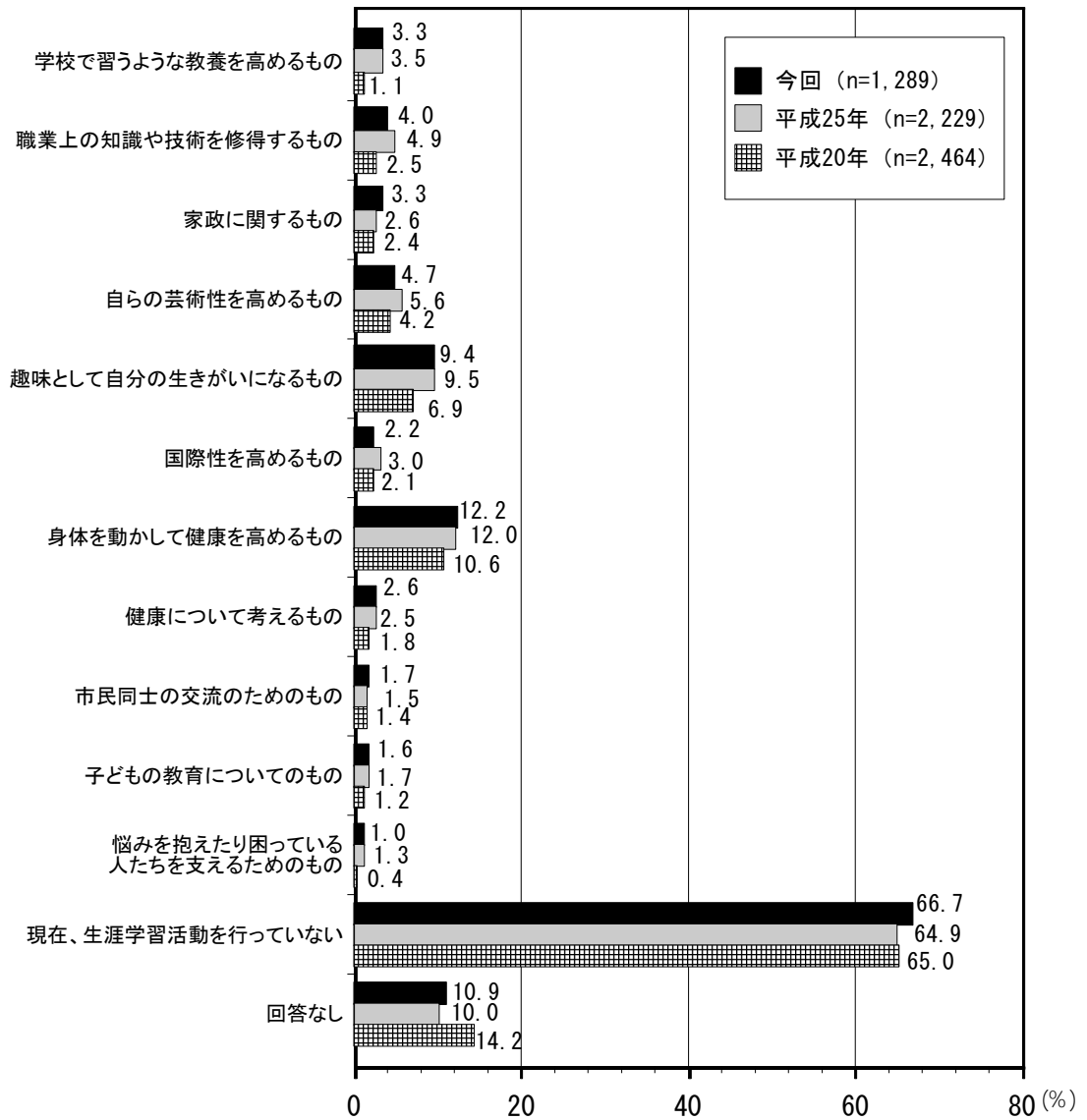
【全体】

- 「現在生涯学習を行っていない」が 66.7%と、「回答なし」の 10.9%を合わせた 77.6%を除く 22.4%の市民が、何らかの生涯学習活動を行っているとは回答しています。
- 行っている活動としては「身体を動かして健康を高めるもの」が 12.2%で最も高く、「趣味として自分の生きがいになるもの」の 9.4%が続いています。

【経年比較】

- 平成 20 年調査及び平成 25 年調査と比較すると、全体的に回答割合が横ばい、または微増の項目が多くなっています。
- 「現在、生涯学習活動を行っていない」との回答は、平成 20 年調査では 65.0%であったのに対し、平成 25 年調査では 64.9%、今回調査でも 66.7%と、大きく変化しておらず、「回答なし」の割合を踏まえても、市民の生涯学習への参加に関するトレンドは、最近 10 年で大きく変化していないものと考えられます。

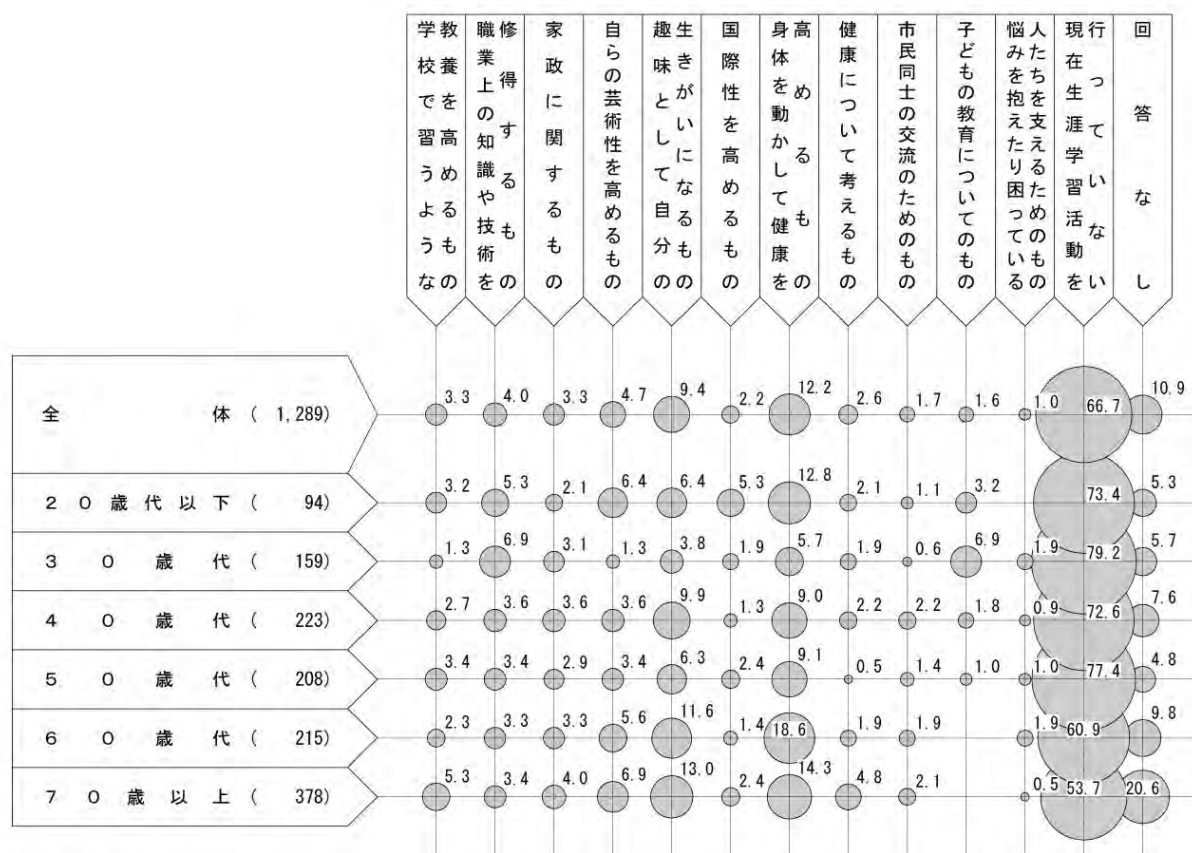
図表 IV-2 生涯学習の参加状況（経年比較）



【年齢別】

- 年齢別で大きな差がある項目は多くありませんが、20歳代以下の「国際性を高めるもの」、30歳代の「職業上の知識や技術を修得するもの」と「子どもの教育についてのもの」、60歳代の「身体を動かして健康を高めるもの」、70歳以上の「学校で習うような教養を高めるもの」と「健康について考えるもの」といった項目が、他の年齢層と比較してやや高くなっています。
- 「現在生涯学習活動を行っていない」との回答は、20歳代以下から50歳代では70%を超えており、特に労働や子育てなどに時間を割く必要が高いと考えられる30歳代では79.2%と、全体平均の66.7%と比べ12.5ポイント高くなっています。

図表 IV-3 生涯学習の参加状況（年齢別）



② 参加意向

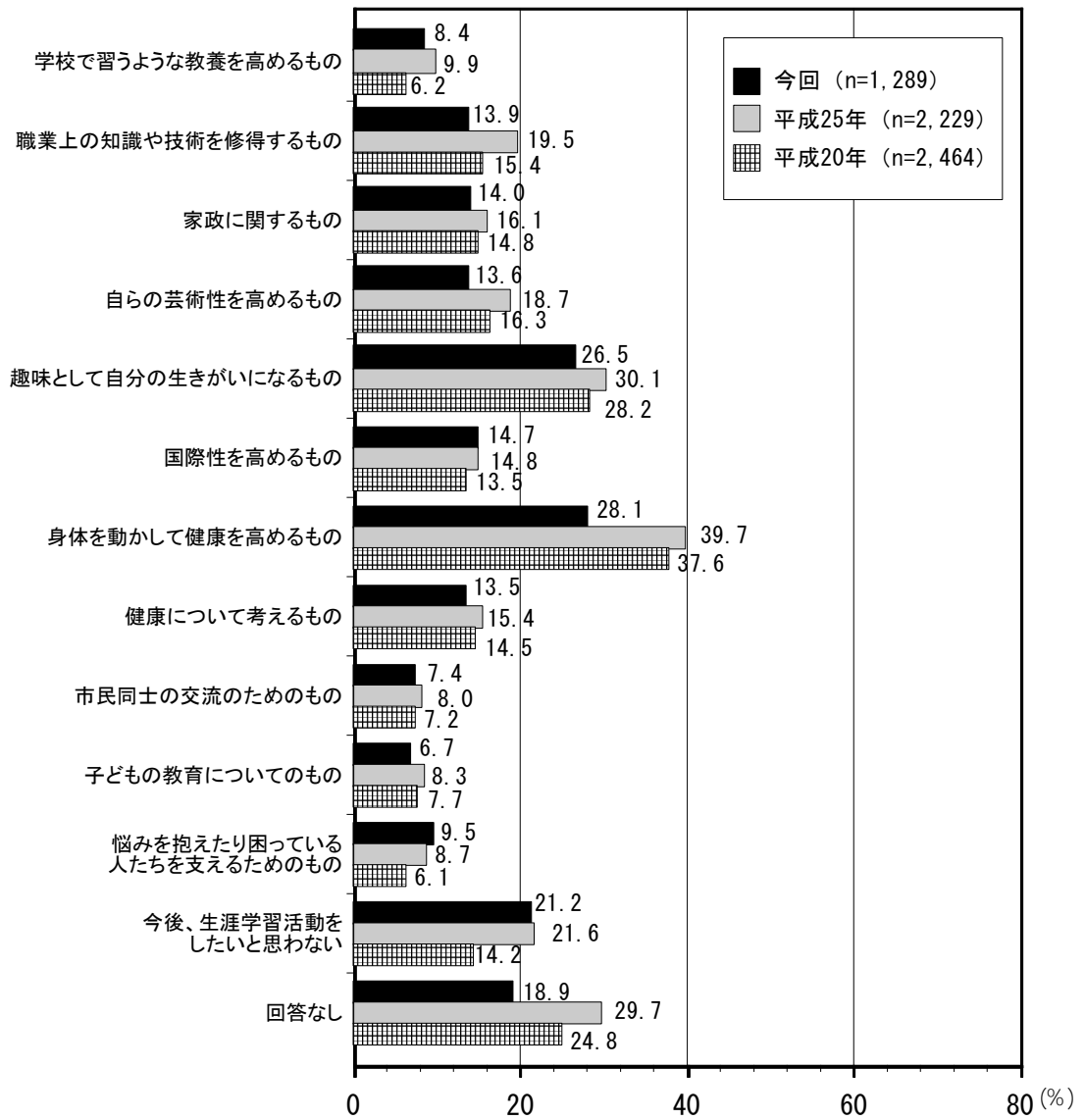
【全体】

- 全般的に、参加状況と比較して回答割合が高くなっています。
 - 「身体を動かして健康を高めるもの」が 28.1%で最も高く、次いで「趣味として自分の生きがいとなるもの」が 26.5%で続いています。以下、5項目が 13～14%で並んでおり、希望する学習内容はきわめて多岐にわたっています。
-

【経年比較】

- 平成 20 年調査及び平成 25 年調査と比較すると、全体的に回答割合が横ばい、または減少した項目が大半を占めています。
 - 「身体を動かして健康を高めるもの」は平成 20 年調査で 37.6%、平成 25 年調査で 39.7%であったものが、今回調査では 28.1%と大きく低下している点が目立ちます。
 - 平成 25 年調査と比較すると、「職業上の知識や技術を修得するもの」が 19.5%から 13.9%へと 5.6 ポイント、「自らの芸術性を高めるもの」が 18.7%から 13.6%へと 5.1 ポイント、それぞれ減少しています。
 - 一方で、「今後生涯学習活動をしたくない」との回答は、平成 20 年調査では 14.2%であったのに対し、平成 25 年調査では 21.6%、今回調査でも 21.2%となっており、平成 15 年調査から 7.0 ポイント増加しています。「生涯学習をしていない」との回答は大きく変化していなかったことを踏まえると、生涯学習の潜在的需要のボリュームは小さくなる傾向にあるといえます。
-

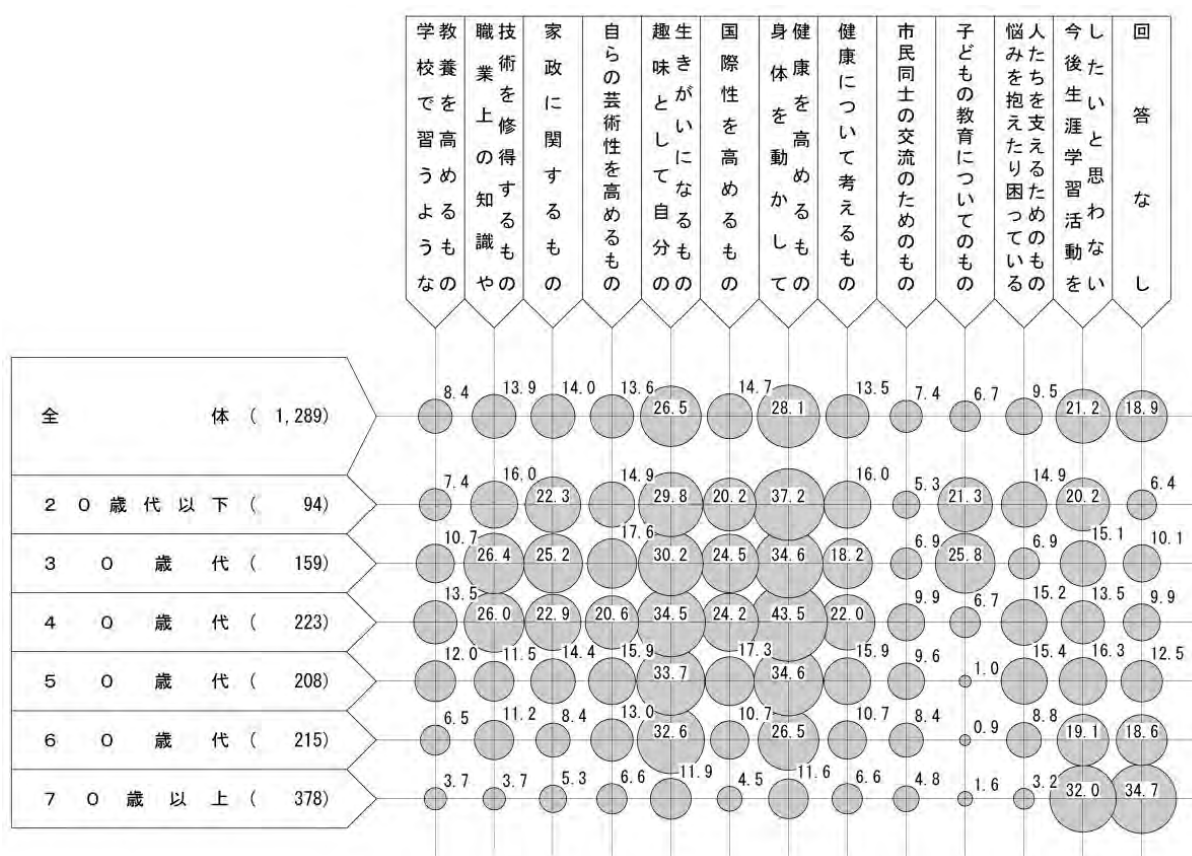
図表 IV-4 生涯学習の参加意向（経年比較）



【年齢別】

- 年齢別でみると、「職業上の知識や技術を修得するもの」については、30歳代が26.4%、40歳代が26.0%と、全体平均の13.9%と比べて、最大で12.5ポイント高くなっており、特に働き盛りの年齢層で高くなっています。
- 「子どもの教育についてのもの」は30歳代が25.8%、20歳代以下が21.3%と、他の年齢層と比べて際立って高くなっています。
- 「身体を動かして健康を高めるもの」については、40歳代が43.5%と、全体平均の28.1%より15.4ポイント高くなっています。
- 一方で、「今後生涯学習活動をしたくない」との回答は70歳以上が32.0%と、全体平均の21.2ポイントよりも10.8ポイント高くなっていますが、全般的に幅広い世代において、生涯学習への参加意向を持つ市民は少なくないといえます。

図表 IV-5 生涯学習の参加意向（年齢別）

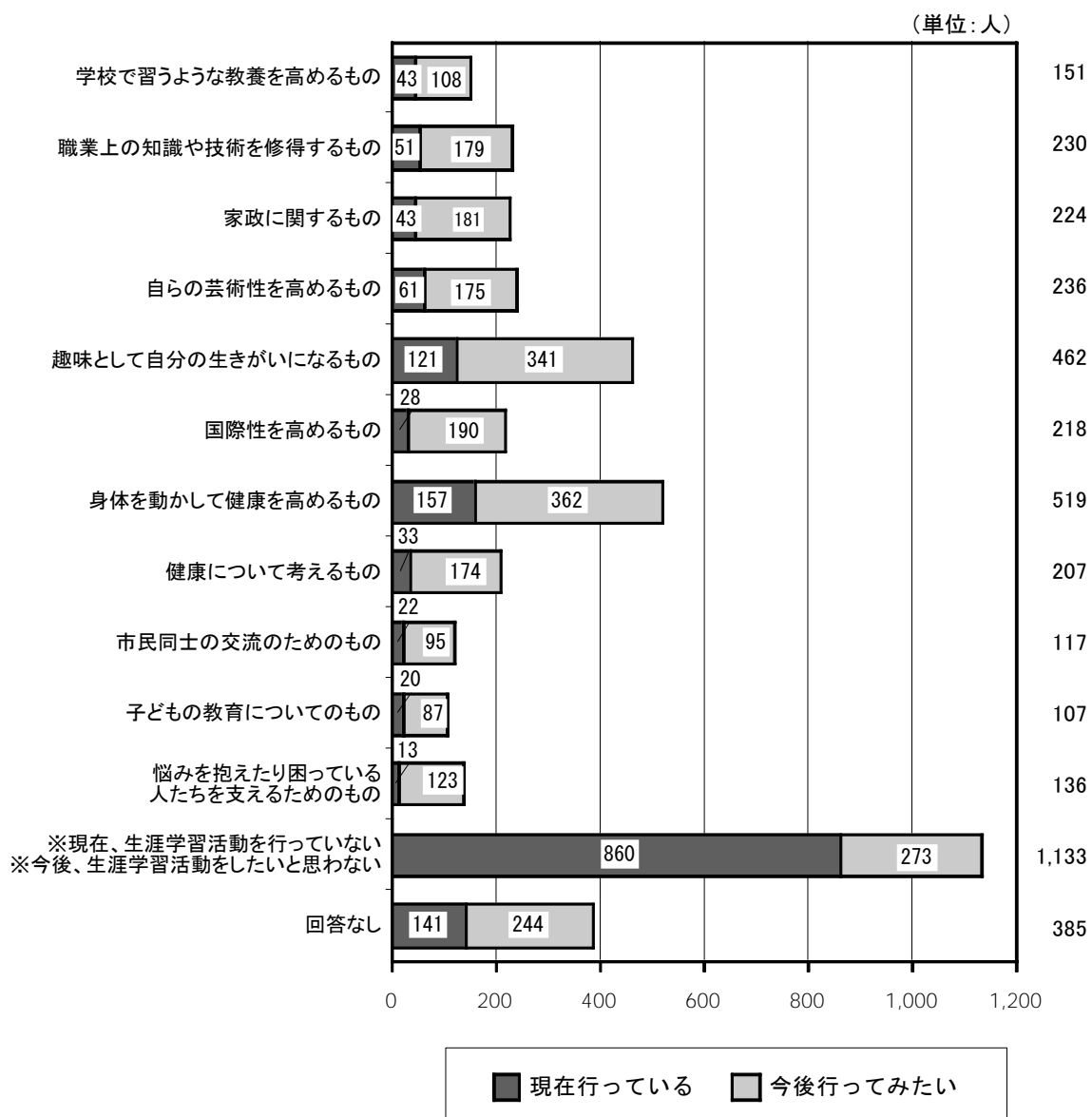


【参加状況と参加意向の合算】

- 「現在しているもの（参加状況）」と「今後したいもの（参加意向）」回答者数を合計し、生涯学習に対するニーズの状況を実人数に換算してみると、「身体を動かして健康を高めるもの」が519人で最も多く、「趣味として自分の生きがいになるもの」が462人で続いており、この2項目が際立って多くなっています。
- 以下、「自らの芸術性を高めるもの」が236人、「職業上の知識や技術を修得するもの」が230人、「家政に関するもの」が224人の順となっており、技能を養うものの回答が多くなっています。
- 「現在、生涯学習活動を行っていない」と「今後、生涯学習活動をしたくない」との回答者数を比較すると、「今後、今後生涯学習活動をしたくない」との回答者数の方が少なく、生涯学習に取り組みたいと考える市民は少なくないものといえます。

図表 IV-6 生涯学習の参加状況と参加意向（合算）

(n=1,289)



(3) 男女共同参画に関する施策への要望（問 29）

問 29

岩倉市では、男女共同参画型社会の実現をめざしています。女性の地位向上や社会参加を進めるために、どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。【〇は3つまで】

81.6%の市民は、女性の地位向上や社会参加を進めるために力を入れるべき施策があると回答しています。

女性の方が男性より5ポイント以上高い項目は、女性の負担軽減や能力開発といった、生活上の課題に密接に関連するものが多くなっています。

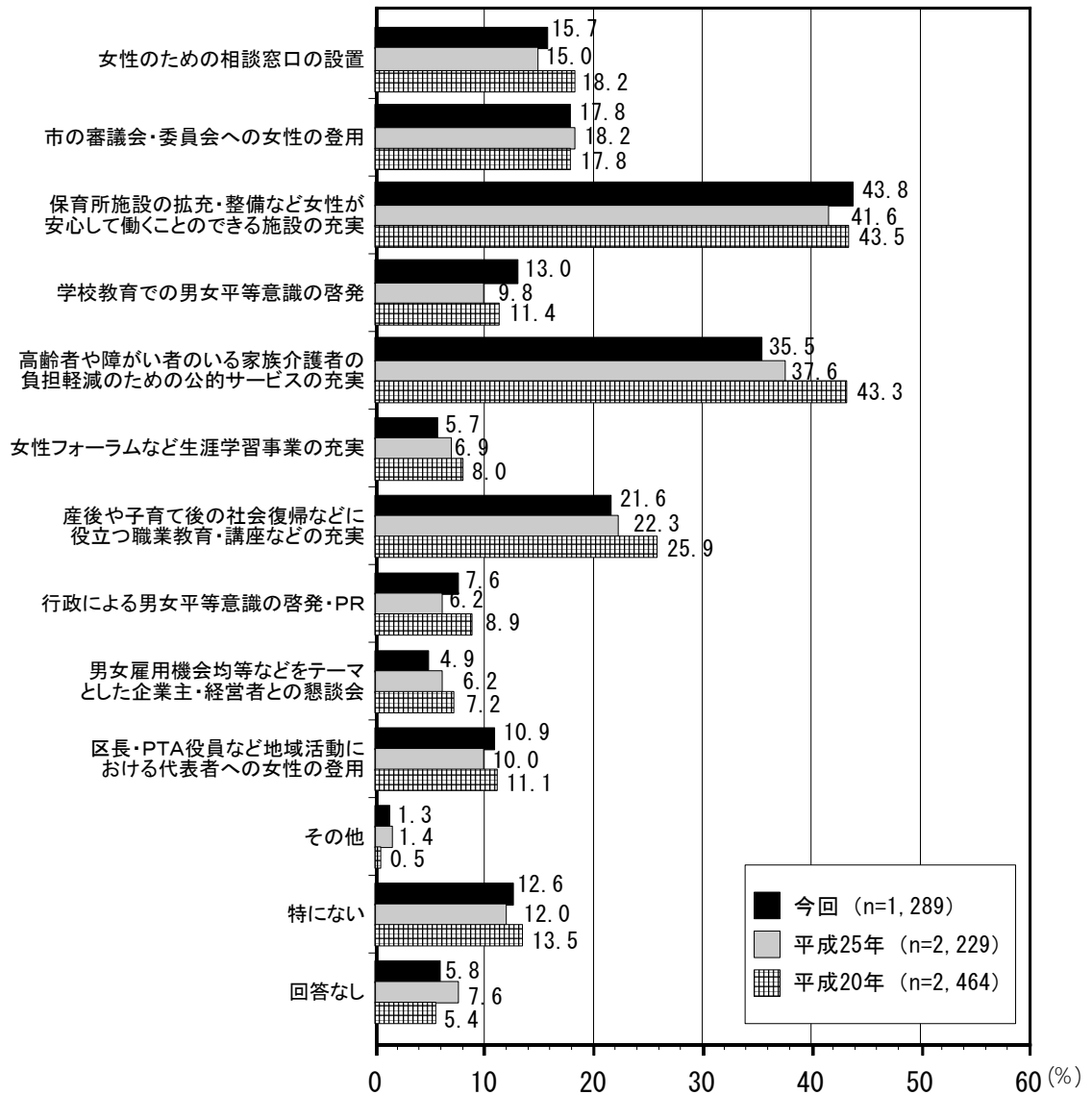
【全体】

- 「特にない」の12.6%と、「回答なし」の5.8%を合わせた18.4%を除く81.6%の市民は、女性の地位向上や社会参加を進めるために力を入れるべき施策があると回答しています。
- 男女共同参画に関する施策への要望としては、「保育所施設の拡充・整備など女性が安心して働くことのできる施設の充実」が43.8%で最も高く、次いで「高齢者や障害者のいる家族介護者の負担軽減のための公的サービスの充実」が35.5%、「産後や子育て後の社会復帰などに役立つ職業教育・講座などの充実」が21.6%の順となっています。

【経年比較】

- 平成20年度調査からの変化をみると、大半の項目は大きな変動がみられませんが、「高齢者や障害者のいる家族介護者の負担軽減のための公的サービスの拡充」が43.3%から35.5%へ7.8ポイント減少した点が目立っています。
-

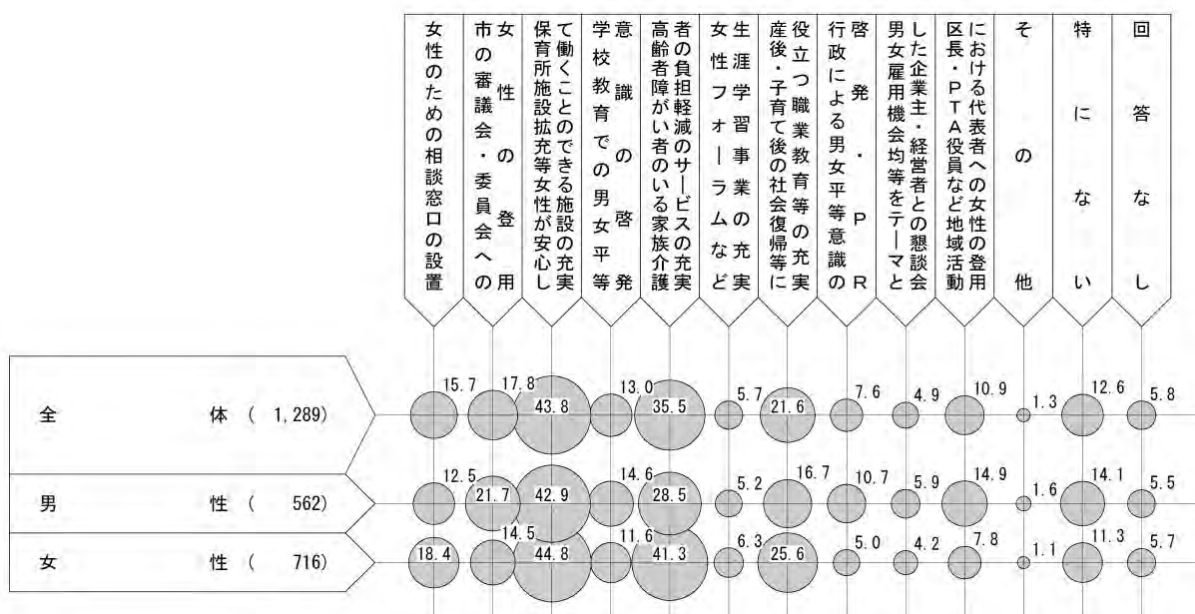
図表 IV-7 男女共同参画に関する施策への要望（経年比較）



【性別】

- 性別で見ると、女性の方が男性より5ポイント以上高い項目は、「女性のための相談窓口の設置」、「高齢者や障害者のいる家族介護者の負担軽減のための公的サービスの充実」、「産後や子育て後の社会復帰などに役立つ職業教育・講座などの充実」といった、女性の負担軽減や能力開発といった、生活上の課題に密接に関連する項目が多くなっています。
- 一方で、男性の方が女性よりも5ポイント以上高い項目は、「市の審議会・委員会等への女性の登用」、「行政による男女平等意識の啓発・PR」、「区長・PTA役員など地域活動における代表者への女性の登用」といった、女性の活躍の場の創出や意識啓発に関する項目が多くみられます。

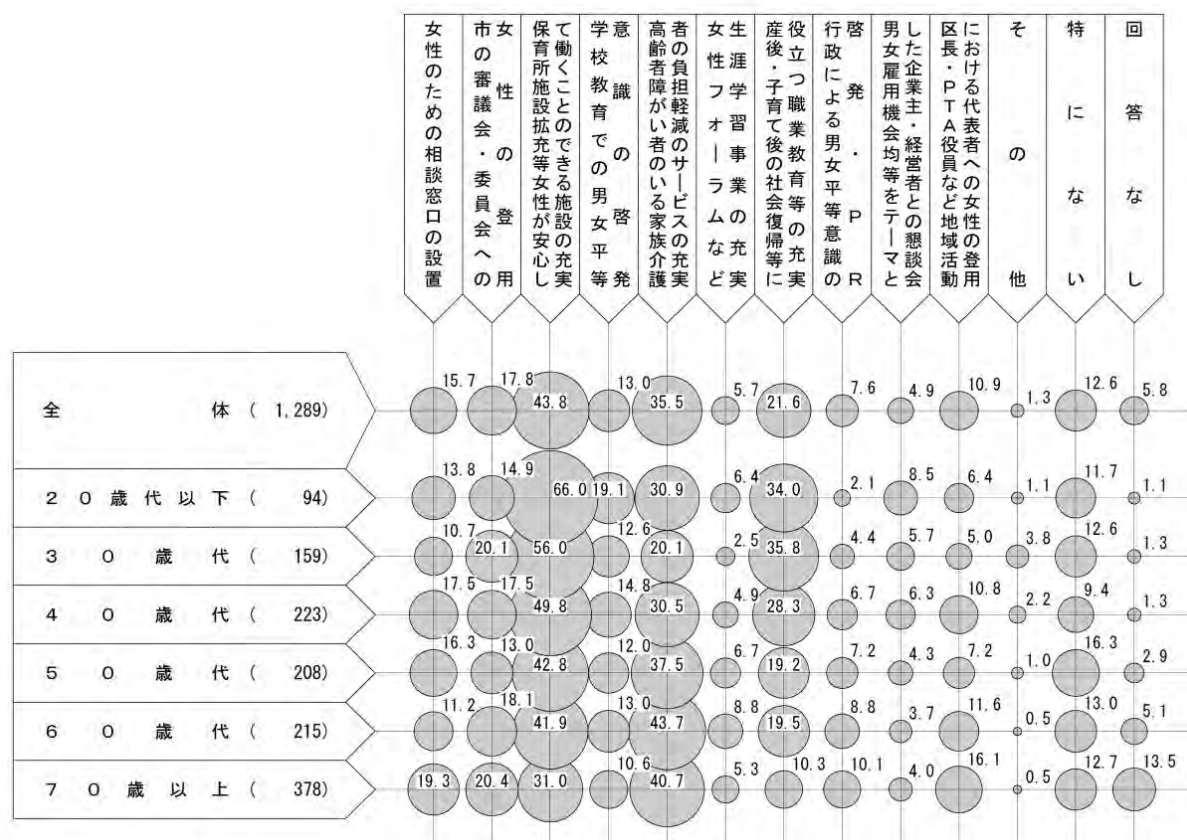
図表 IV-8 男女共同参画に関する施策への要望（性別）



【年齢別】

- 年齢によって大きな差がみられる項目と、そうでない項目がはっきりと分かれています。
- 「保育所の施設の拡充・整備など女性が安心して働くことができる施設の充実」は20歳代以下が66.0%とほかの年齢層と比較して高く、唯一半数を超えています。
- 「産後や子育て後の社会復帰などに役立つ職業教育・講座などの充実」は30歳代が35.8%と、全体平均の21.6%を14.2ポイント上回っており、20歳代以下の34.0%とともに、20～30歳代で高くなっています。
- 「高齢者や障がい者のいる家族介護者の負担軽減のための公的サービスの充実」は60歳代が43.7%で最も高く、全体平均の35.5%を8.2ポイント上回っており、年齢が高くなるほど、回答割合も高くなる傾向がみられます。
- 「区長・PTA役員など地域活動における代表者への女性の登用」は70歳以上以上が16.1%で最も高く、年齢が高くなるほど回答割合も高くなる傾向がみられます。

図表 IV-9 男女共同参画に関する施策への要望（年齢別）



(4) 多文化共生に関する施策への要望 (問 30)

問 30

岩倉市では、異なる文化の人々が一緒に生活できるまちをめざしています。

そのためにどのような施策に力を入れていくべきと思いますか。

【○は3つまで】

82.2%の市民が、力を入れていくべき施策があると回答しています。

多文化共生に関する施策への要望としては、「保育園や学校などで子どもや青少年の交流の機会を増やす」が31.0%で最も高く、次いで「学校教育における国際交流や言語教育を充実させる」と、青少年の交流や教育に関する項目が上位となっています。

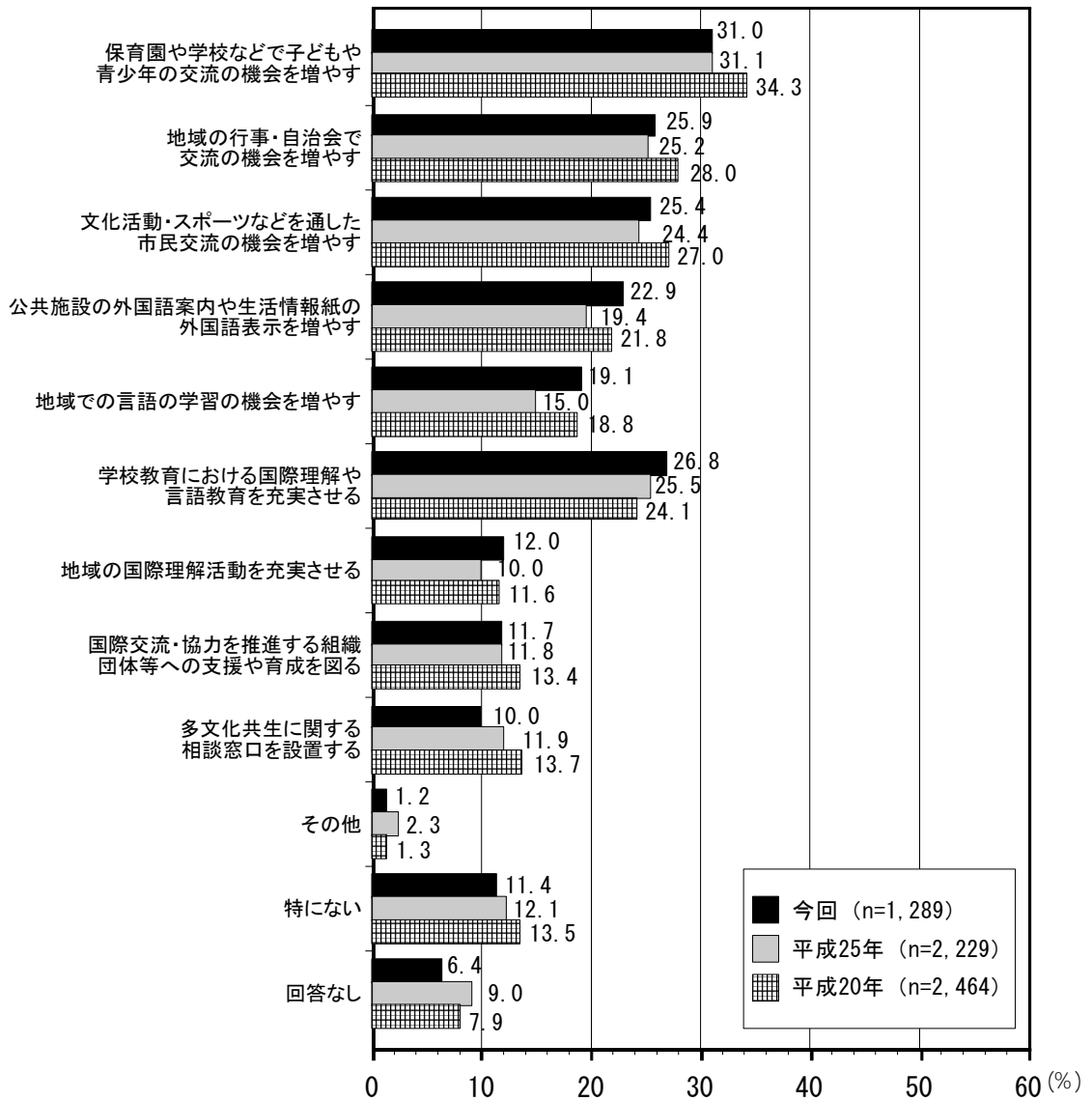
【全体】

- 「特になし」の11.4%と、「回答なし」の6.4%を合わせた17.8%を除く82.2%の市民が、力を入れていくべき施策があると回答しています。
- 多文化共生に関する施策への要望としては、「保育園や学校などで子どもや青少年の交流の機会を増やす」が31.0%で最も高く、次いで「学校教育における国際交流や言語教育を充実させる」が26.8%で、青少年の交流や教育に関する項目が上位となっています。
- 以下、「地域の行事・自治会で交流の機会を増やす」が25.9%、「文化活動・スポーツなどを通じた市民交流の機会を増やす」は25.4%、「公共施設の外国語案内や生活情報誌の外国語表示を増やす」は22.9%となっています。

【経年比較】

- 平成20年調査及び平成25年調査と比較して5ポイント以上の大幅な増減はみられません。
-

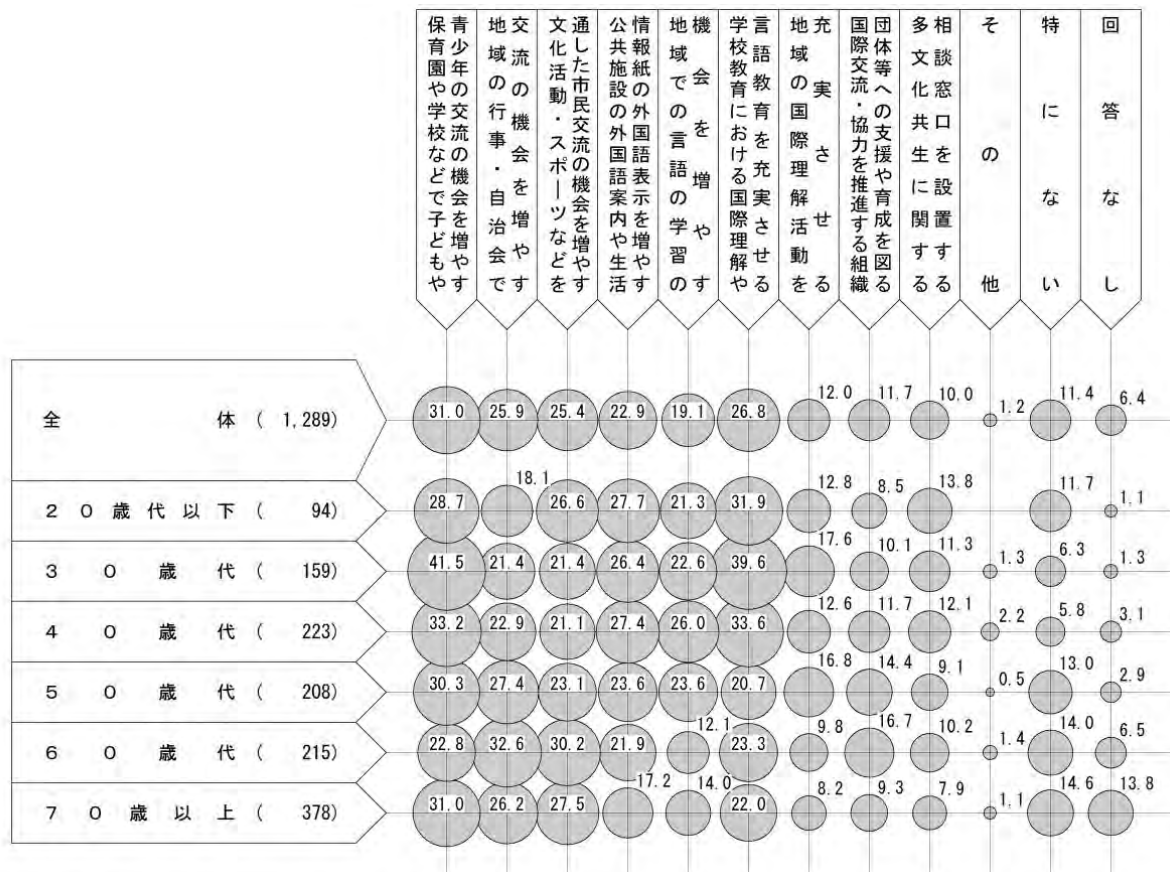
図表 IV-10 多文化共生に関する施策への要望（経年比較）



【年齢別】

- 年齢別でみると、乳幼児や小学生との同居割合が高い 30 歳代では、「保育園や学校などで子どもや青少年の交流の機会を増やす」が 41.5%、「学校教育における国際交流や言語教育を充実させる」も 39.6%と、青少年の交流や教育に関する事項について、全体平均と比べてそれぞれ 10 ポイント以上高くなっています。
- 「公共施設の外国語案内や生活情報誌の外国語表示を増やす」については、20 歳代以下が 27.7%で最も高く、他の年齢層でも 20%を超えている一方で、70 歳以下では 17.2%と、他の年齢層と比較してやや低くなっています。
- 「学校教育における国際理解や言語教育を充実させる」との回答は、40 歳代以下の年齢層では 30%を超えており、特に 30 歳代では 39.6%と、最も低い 50 歳代の 20.7%と 18.9 ポイントの差がみられます。

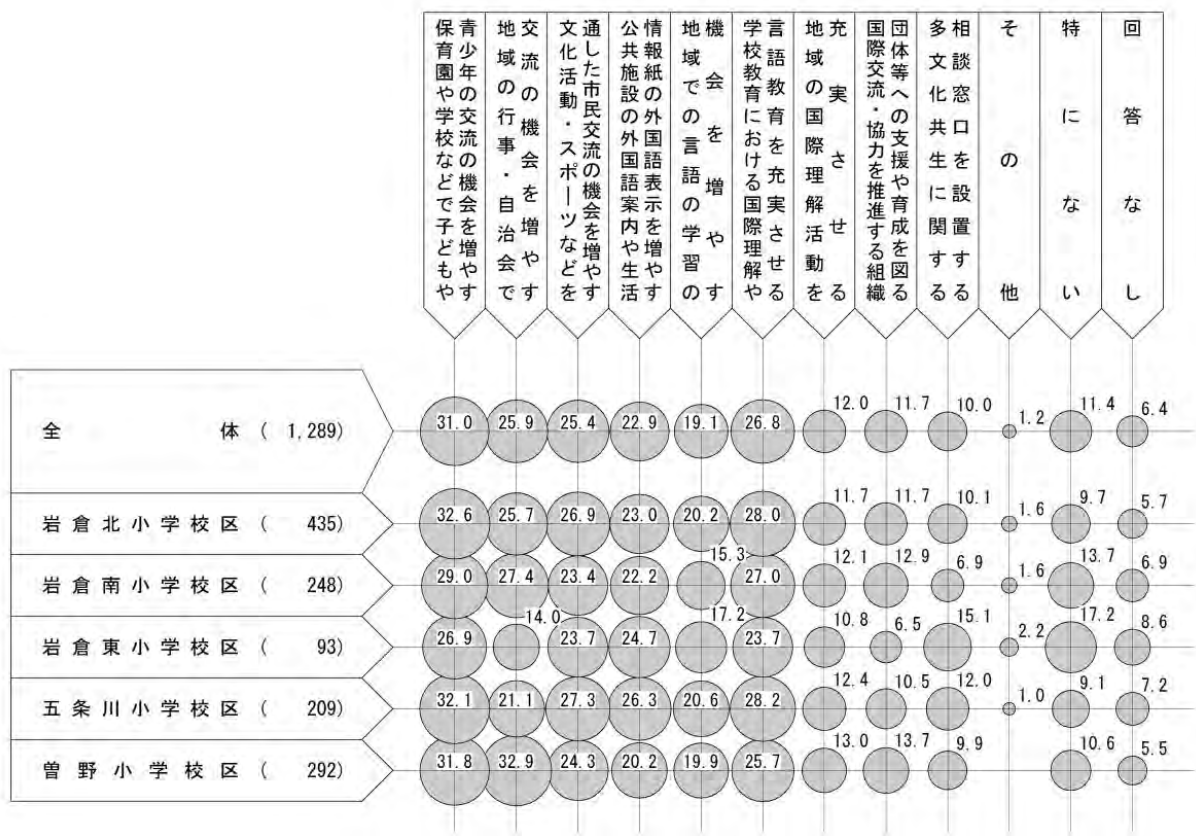
図表 IV-11 多文化共生に関する施策への要望（年齢別）



【小学校区別】

- 小学校区別でみると、小学校区によって大きな差異がみられる項目は多くありませんが、岩倉東小学校区では、「地域の行事・自治会で交流の機会を増やす」が14.0%と、全体平均の25.9%と比べて11.9ポイント低く、「特になし」との回答についても17.2%と、全体平均の11.4%より5.8ポイント高くなっている点は特徴的です。
- 一方で、「多文化共生に関する相談窓口を設置する」については、全体平均が10.0%であるのに対して、岩倉東小学校区では、15.1%とやや高くなっている点も特筆されます。

図表 IV-12 多文化共生に関する施策への要望（小学校区別）



(5) 平和事業に関する認知状況 (問 31)

問 31

岩倉市では、次のような平和事業を行っています。あなたは、これらの事業についてご存知ですか。【○は3つまで】

59.8%の市民は、いずれかの平和事業を知っていると回答しています。

知っている事業としては、「戦没者追悼式」が 30.7%で最も高く、次いで「小中学生を広島・長崎に派遣する平和祈念事業」、「核兵器廃絶都市宣言」の順となっています。

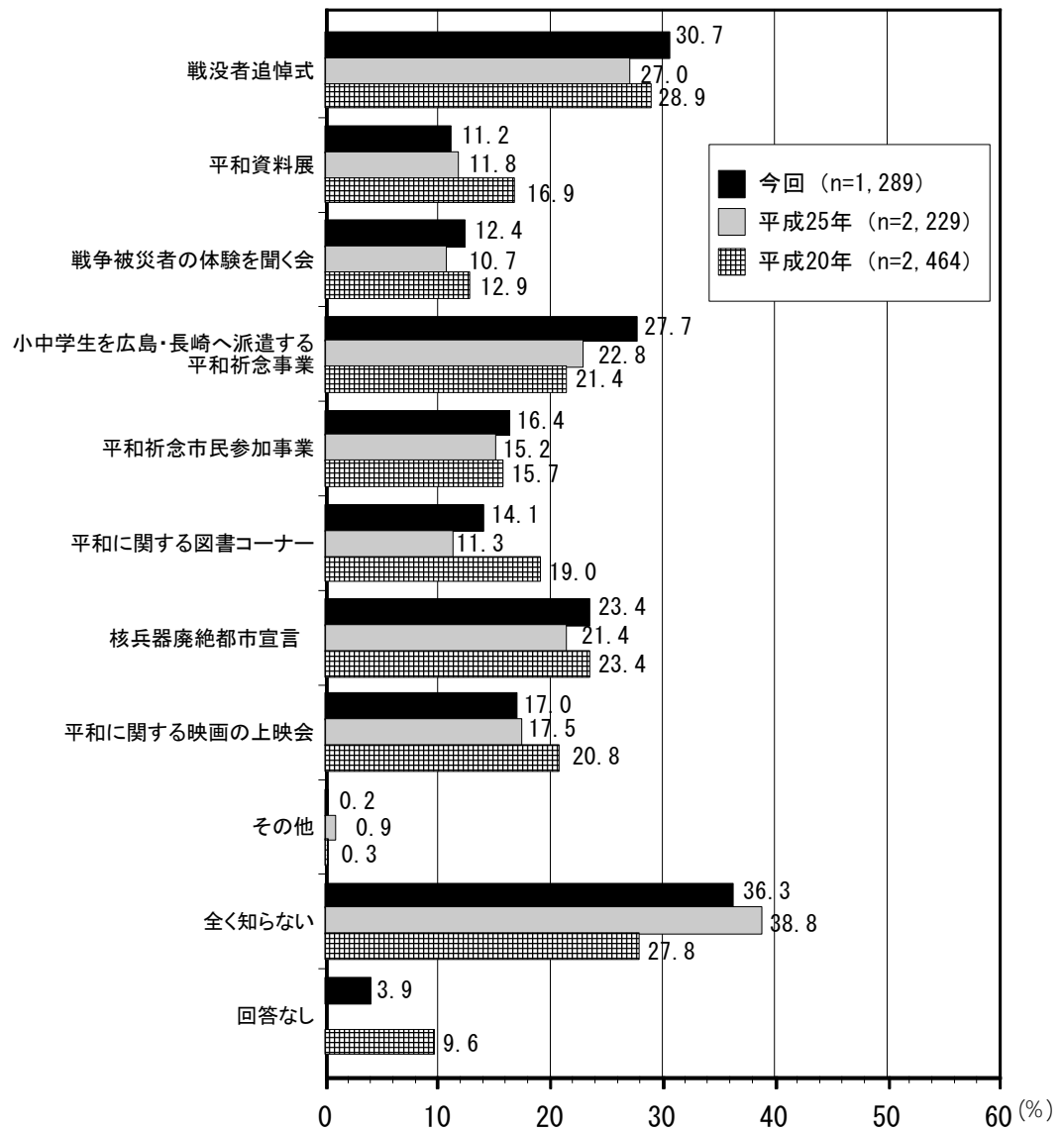
【全体】

- 「特になし」(知っている事業はない)との回答は 36.3%であり、これと回答なしの 3.9%を合わせた 40.2%を除く 59.8%の市民は、いずれかの平和事業を知っていると回答しています。
- 知っている事業としては、「戦没者追悼式」が 30.7%で最も高く、次いで「小中学生を広島・長崎に派遣する平和祈念事業」が 27.7%、「核兵器廃絶都市宣言」が 23.4%の順となっています。

【経年比較】

- 平成 20 年調査と比較して、「小中学生を広島・長崎に派遣する平和祈念事業」は 21.4%から 27.7%と 6.3 ポイント増加しています。一方で、「平和資料展」が 16.9%から 11.2%へと 5.7 ポイント、平和に関する図書コーナーが 19.0%から 14.1%へ 4.9 ポイントそれぞれ減少しており、対照的な結果となっています。
 - 「全く知らない」との回答は、平成 20 年調査では 27.8%であったものが、平成 25 年調査で 38.8%となり、今回調査でも 36.3%と、増加の傾向が続いており、平和事業を全く知らない市民の割合は高まっています。
-

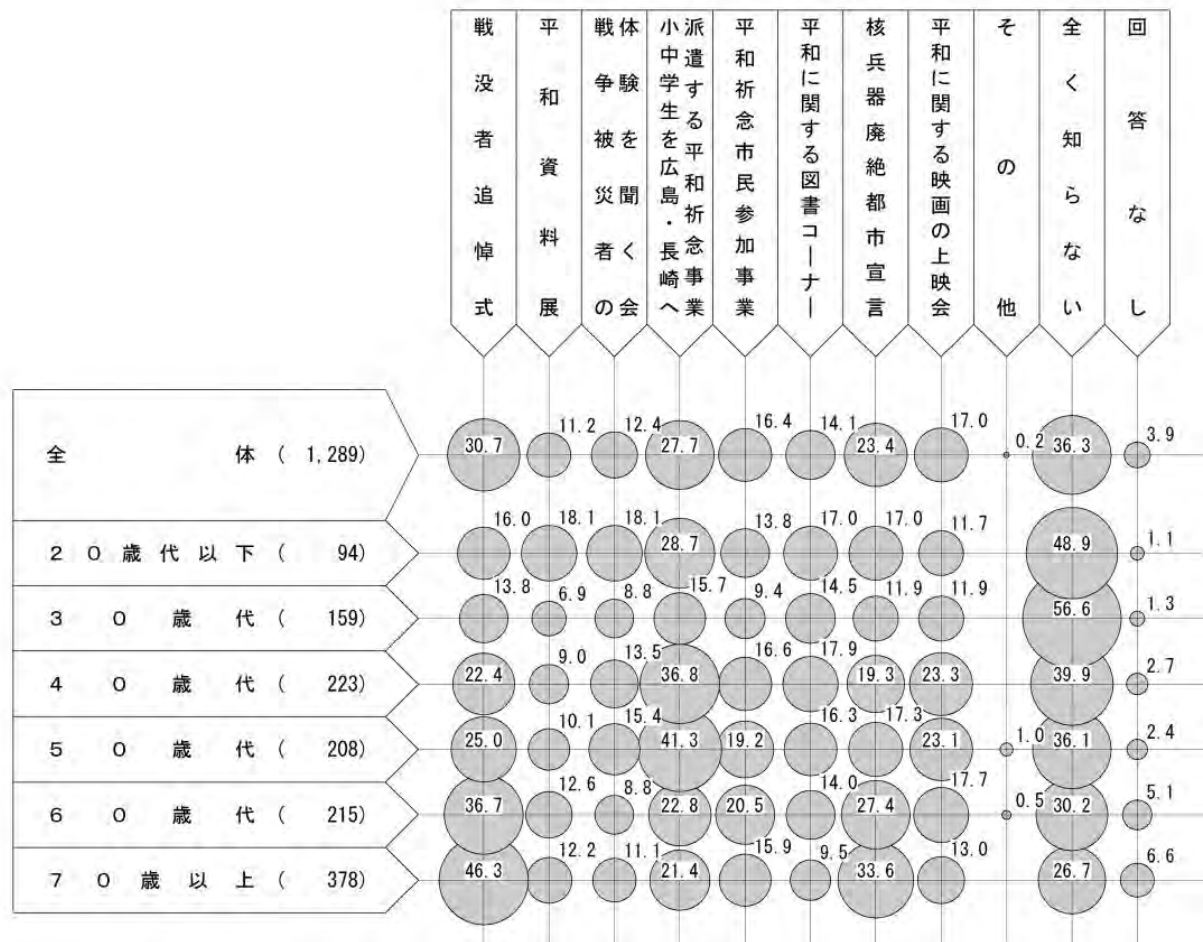
図表 IV-13 平和事業に関する認知状況（経年比較）



【年齢別】

- 年齢別にみると、「戦没者追悼式」、「核廃絶都市宣言」については、70歳以上で回答割合が最も高くなっています。
- また、「平和資料展」及び「戦争被災者の体験を聞く会」については、20歳代以下がともに18.1%で最も高くなっており、学校などにおける経験を記憶していることがその理由として考えられます。
- 「小中学生を広島・長崎へ派遣する平和祈念事業」は、50歳代が41.3%で最も高く、次いで40歳代が36.8%となっており、小中学生との同居率が高く、小中学生の保護者にあたる年齢層において高いものと考えられます。

図表 IV-14 平和事業に関する認知状況（年齢別）



V. 環境、防災、まちづくり

V. 環境・防災・まちづくり

(1) 環境のための取組の実施状況 (問 32)

問 32

毎日の暮らしの中で、環境のためにどのような工夫や努力を行っていますか。【○は1つだけ】

95.5%の市民は、環境のための工夫や努力を行っているとは回答しています。

環境のための取組としては、「地域のごみの分別ルールを守る」が 81.2%と最も多く、「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶等はリサイクルに回している」、「過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋を持参する」、「食べ残しなどによる生ごみの減量化に努める」は、半数以上の市民が行っていると回答しています。

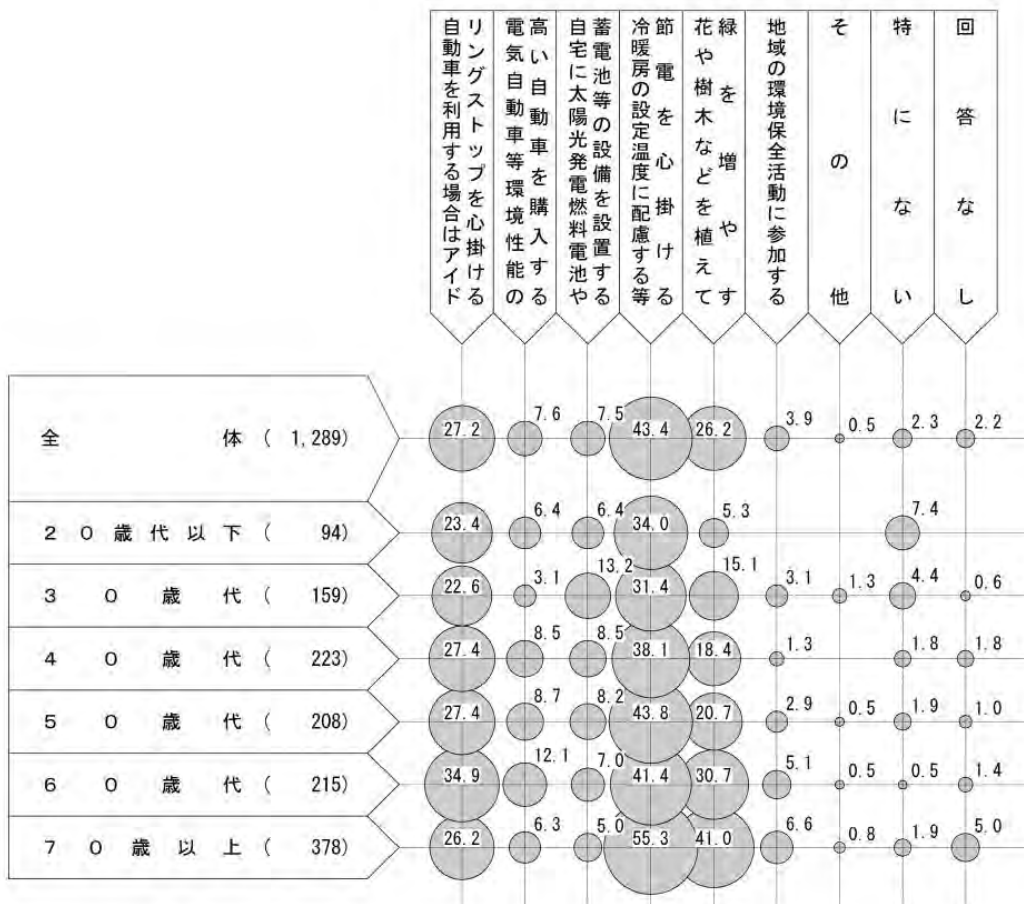
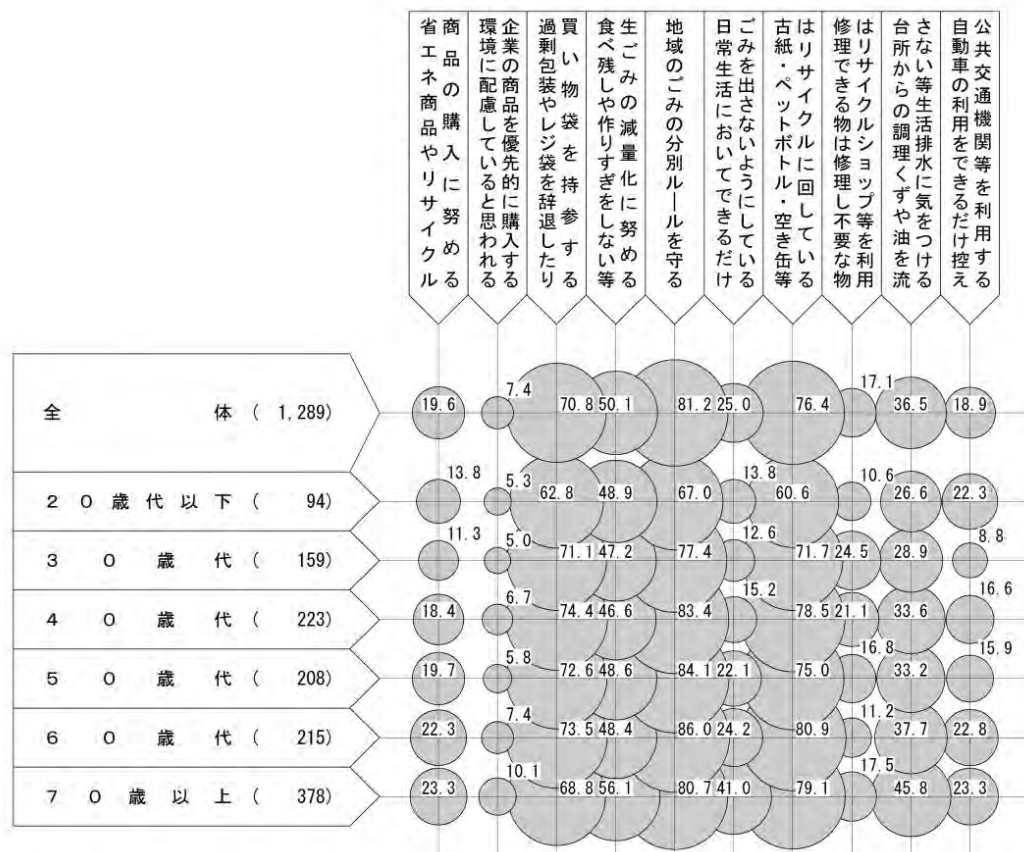
【全体】

- 「特になし」の 2.3%と、「回答なし」の 2.2%を合わせた 4.5%を除く 95.5%の市民は環境のための工夫や努力を行っているとは回答しています。
- 環境のための取組としては、「地域のごみの分別ルールを守る」が 81.2%と最も多く、次いで「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶等はリサイクルに回している」が 76.4%、「過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋を持参する」が 70.8%、「食べ残しなどによる生ごみの減量化に努める」が 50.1%の順となっており、これらの取組については、半数以上の市民が行っていると回答しています。
- 一方で、「地域の環境保全活動に参加する」は 3.9%や「エコラベルなど、環境に配慮していると思われる企業の商品を優先的に購入する」が 7.4%、「自宅に太陽光発電、燃料電池や蓄電池などの設備を設置する」が 7.5%、「電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など環境性能の高い自動車を購入する」が 7.6%といった項目については、10%以下となっています。

【年齢別】

- 全体的な傾向として、高い年齢層ほど、取組む市民の割合は増加する傾向がみられます。
- 特に、「花や樹木などを植えて緑を増やす」は、最も高い 70 歳以上が 41.0%であるのに対して、20 歳代以下は 5.3%と 35.7 ポイントもの差がみられます。また、「冷暖房の設定温度に配慮するなど、節電を心掛ける」は最も高い 70 歳以上の 55.3%に対して 20 歳代以下は 34.0%、「地域のごみ分別ルールを守る」は 60 歳代が 86.0%であるのに対して 20 歳代以下では 67.0%、「台所から調理くずや油を流さない、洗剤の使用量を抑えるなど、生活排水に気を付ける」では 70 歳以上の 45.8%に対して 20 歳代以下は 26.6%と、それぞれ 20 ポイント以上の差がみられます。
- 一方で、「修理できる物は修理し、不要なものはリサイクルショップなどを利用する」は 24.5%、「自宅に太陽光発電、燃料電池や蓄電池などの設備を設置する」は 13.2%で、それぞれ 30 代が最も高くなっている点も特徴として挙げられます。

図表 V-1 環境のための取組の実施状況（年齢別）



(2) 災害のための取組の実施状況 (問 33)

問 33

あなたは地震や台風などの災害や緊急時のために、現在どのような備えをしていますか。【○は1つだけ】

84.6%の市民は、災害や緊急時のために備えをしていると回答しています。

災害のための取組の実施状況としては、「食料や飲料水、日用品などの準備をしている」が50.4%で、唯一半数を超えています。

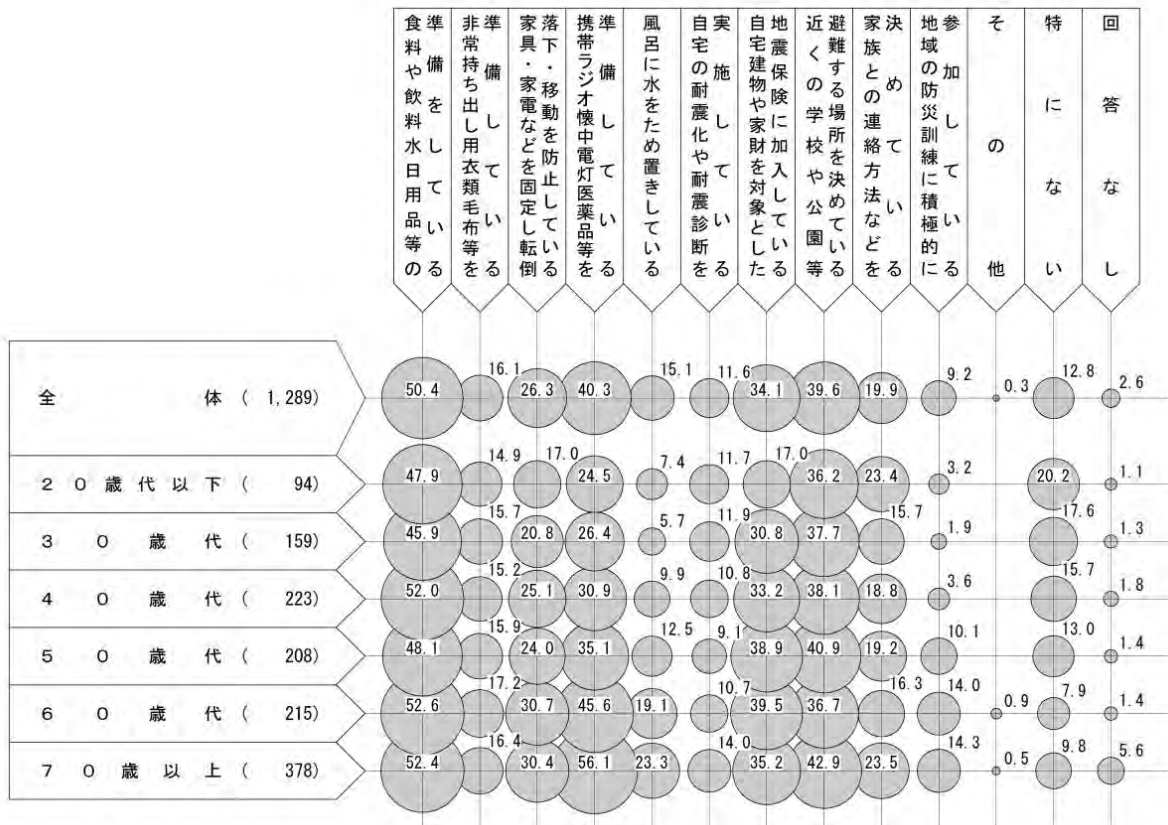
【全体】

- 「特にない」の12.8%と、「回答なし」の2.6%を合わせた15.4%を除く84.6%の市民は、災害や緊急時のために備えをしていると回答しています。
- 災害のための取組の実施状況としては、「食料や飲料水、日用品などの準備をしている」が50.4%で、唯一半数を超えています。次いで「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が40.3%、「近くの学校や公園など、避難する場所を決めている」が39.6%、「自宅建物や家財を対象とした地震保険に加入している」が34.1%の順となっています。

【年齢別】

- 全体的な傾向として、「食料や飲料水、日用品などの準備をしている」、「非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している」といったように、年齢による大きな差がみられない項目も複数存在しています。
 - 「地域の防災訓練に積極的に参加している」は、70歳以上が14.3%で最も高く、最も低い30歳代の1.9%と12.4ポイントの差がみられます。
 - 「家具・家電などを固定し、転倒、落下、移動を防止している」は、60歳代が30.7%で最も高く、最も低い20歳代以下の17.0%と13.7ポイント、「自宅や家財を対象とした地震保険に加入している」は最も高い60歳代が39.5%であるのに対し、最も低い20歳代以下では17.0%で22.5ポイントもの差がみられます。
-

図表 V-2 災害のための取組の実施状況（年齢別）



(3) 岩倉駅東地区のあり方 (問 34)

問 34

岩倉市では、岩倉市の玄関口である岩倉駅東地区の整備を進めてきました。あなたは、岩倉駅東地区がこれから、どのようになると良いと思いますか。
【〇は3つまで】

87.7%の市民は、岩倉駅東地区のあり方について、何らかの考えを持っています。〇岩倉駅東地区のあり方については、「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」が45.5%で最も高く、次いで「道路が整備されて交通の流れがスムーズになる」、「駅のまわりが賑やかになり、まちに活気が生まれる」の順となっており、主に利便性や賑わいに対する期待が大きいといえます。

また、回遊性や美観、安全性といった面に対する回答の割合も高く、多様な面にわたって期待されていると考えられます。

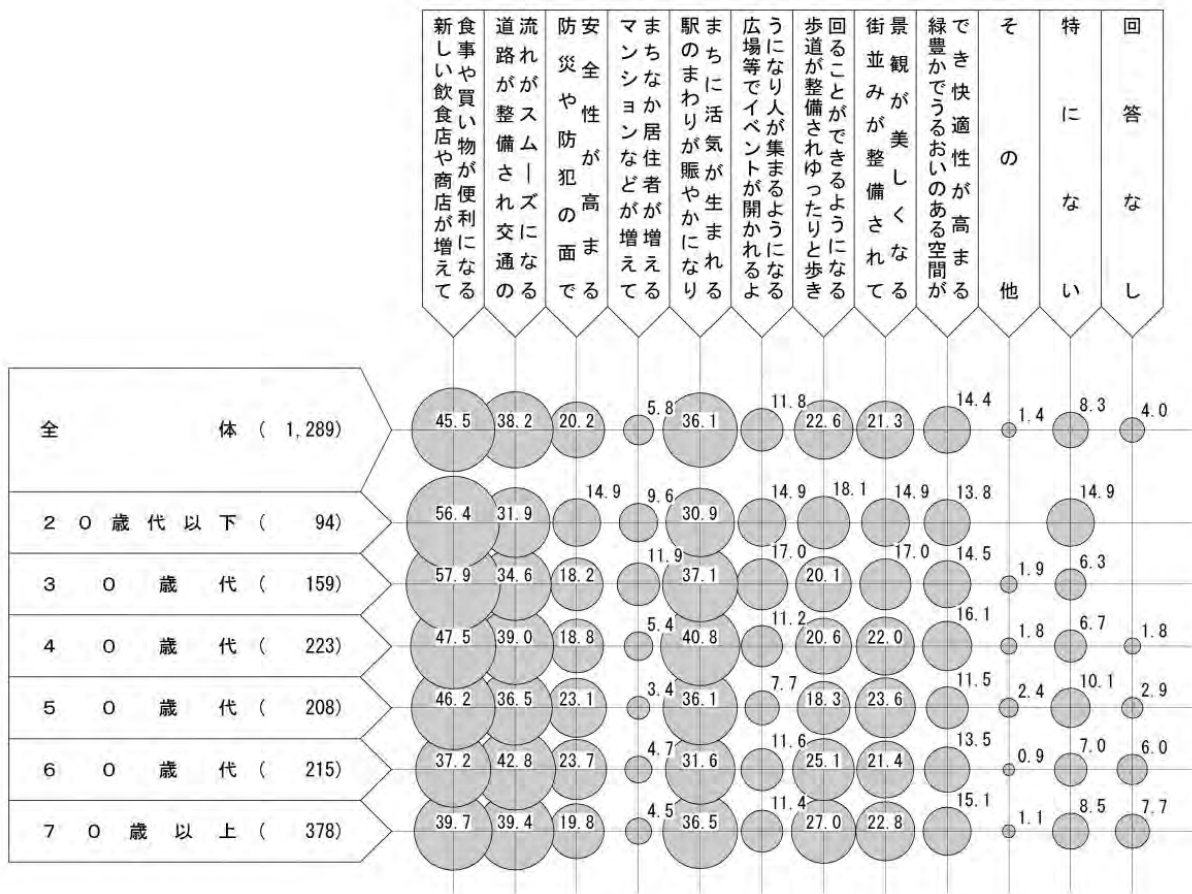
【全体】

- 「特になし」の8.3%と、「回答なし」の4.0%を合わせた12.3%を除く87.7%の市民は、岩倉駅東地区のあり方について考えを持っています。
 - 岩倉駅東地区のあり方については、「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」が45.5%で最も高く、次いで「道路が整備されて交通の流れがスムーズになる」は38.2%、「駅のまわりが賑やかになり、まちに活気が生まれる」が36.1%の順となっており、主に利便性や賑わいに対する期待が大きいといえます。
 - また、「歩道が整備されてゆったりと歩き回ることができるようになる」が22.6%、「街並みが整備されて景観が美しくなる」は21.3%、「防災や防犯の面で安全性が高まる」が20.2%となっており、回遊性や美観、安全性といった面に対する回答の割合も高く、多様な面にわたって期待されていると考えられます。
-

【年齢別】

○年齢別にみると、「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」は、若年層ほど割合が高くなる傾向がみられ、30歳代が57.9%で最も高く、最も低い60歳代の37.2%と20.7ポイントの差がみられます。また、「マンションなどが増えてまちなか居住者が増える」については、30歳代が11.9%、20歳代も9.6%と、他の年齢層と比べてやや高くなっています。

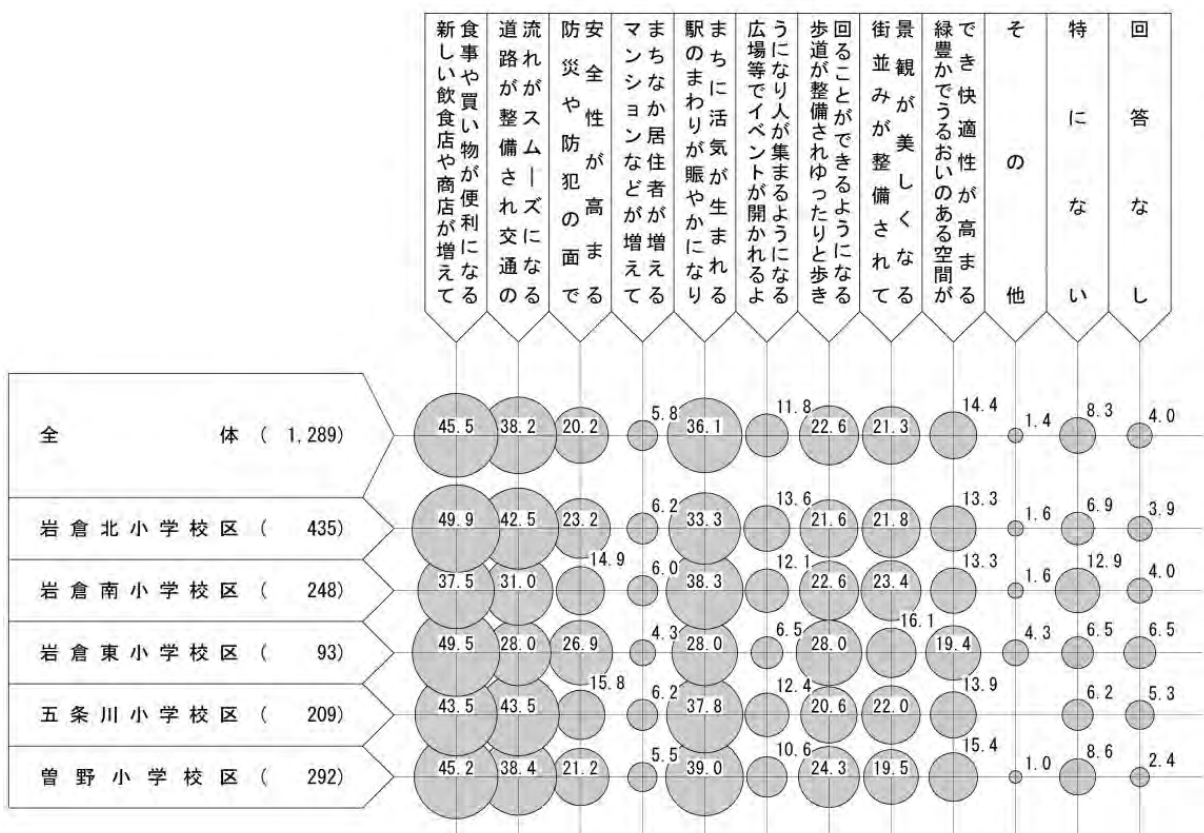
図表 V-3 岩倉駅東地区のあり方（年齢別）



【小学校区別】

- 「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」は、岩倉北小学校区が 49.9%、岩倉東小学校区が 49.5%であるのに対して、岩倉南小学校区では 37.5%と 12.4 ポイントの差がみられます。
- 「道路が整備されて交通の流れがスムーズになる」については、五条川小学校区が 43.5%、岩倉北小学校区が 42.5%であるのに対して、岩倉東小学校区では 28.0%と、15.5 ポイントもの差がみられます。
- 「防災や防犯の面で安全性が高まる」については、岩倉東小学校区が 26.9%で最も高く、最も低い岩倉南小学校区の 14.9%と 12.0 ポイントの差がみられます。
- 「駅のまわりが賑やかになり、まちに活気生まれる」との回答は、曾野小学校区が 39.0%で最も高く、次いで岩倉南小学校区の 38.3%、五条川小学校区の 37.8%の順で、岩倉東小学校区では 28.0%と唯一 20%台となっており、他の小学校区と比べてやや低くなっています。主として岩倉駅から遠い小学校区では、まちの活気という象徴的な役割も期待されているものと考えられます。
- 全体的にみて、利便性に関する項目は岩倉北小学校区、安全性や快適性に関する項目は岩倉東小学校区で高くなる傾向があるといえます。

図表 V-4 岩倉駅東地区のあり方（小学校区別）



(4) 岩倉駅東地区への関わり方 (問 35)

問 35

あなたは、岩倉駅東地区のまちにどのように関わりたいと思いますか。
【○は3つまで】

65.3%の市民は、何らかの形で岩倉駅東地区に関わると回答しています。

「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」が57.6%で最も高く、次いで「岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ」の26.5%となっています。

割合としては低いものの、主体的に関わりたいという意向を持つ市民は、数十人単位で存在するものと推測されます。

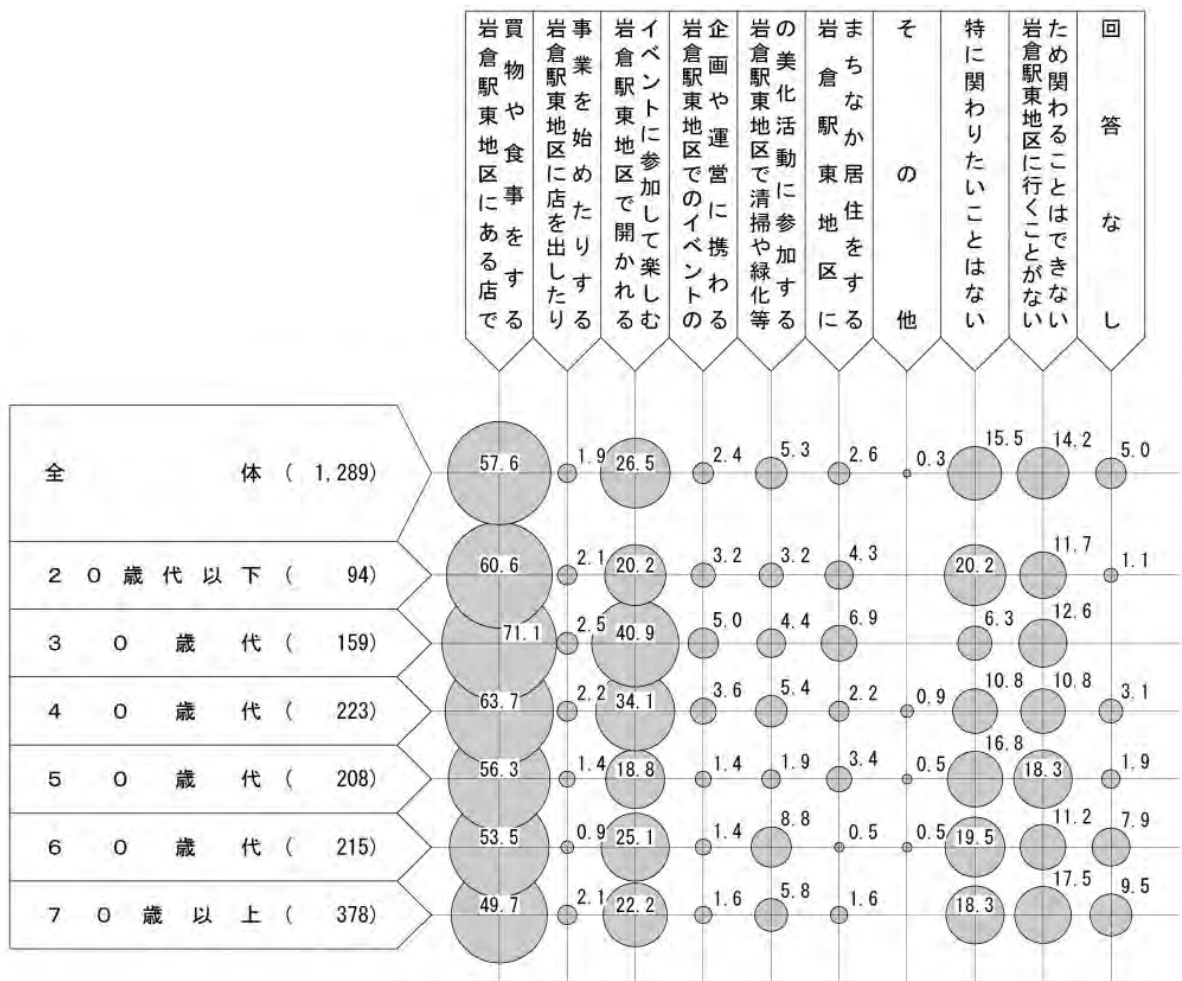
【全体】

- 「特に関わりたいことはない」の15.5%と、「岩倉駅東地区に行くことがないため、関わることはできない」が14.2%、回答なしの5.0%を合わせた34.7%を除く65.3%の市民は、何らかの形で岩倉駅東地区に関わると回答しています。
 - 「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」が57.6%で最も高く、次いで「岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ」の26.5%となっています。
 - 割合としては低いものの、実際の人数に換算すると、「イベントの企画や運営に携わる」、「店を出したり事業を始めたりする」といった、主体的に関わりたいという意向を持つ市民は、数十人単位で存在するものと推測されます。
-

【年齢別】

- 年齢別でみると、「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」は30歳代が71.1%で最も高く、最も低い70歳以上の49.7%と21.4ポイントの差となっており、通勤通学等で駅を利用する機会が多い若年層や壮年者層ほど割合が高くなる傾向がみられます。
- 「岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ」については、30歳代は40.9%と他の年齢層と比べて高くなっており、「特に関わりたいことはない」との回答も6.3%と他の年齢層と比べて低いことから、岩倉駅東地区のまちとの関わりに対する意欲が高い年齢層であるといえます。

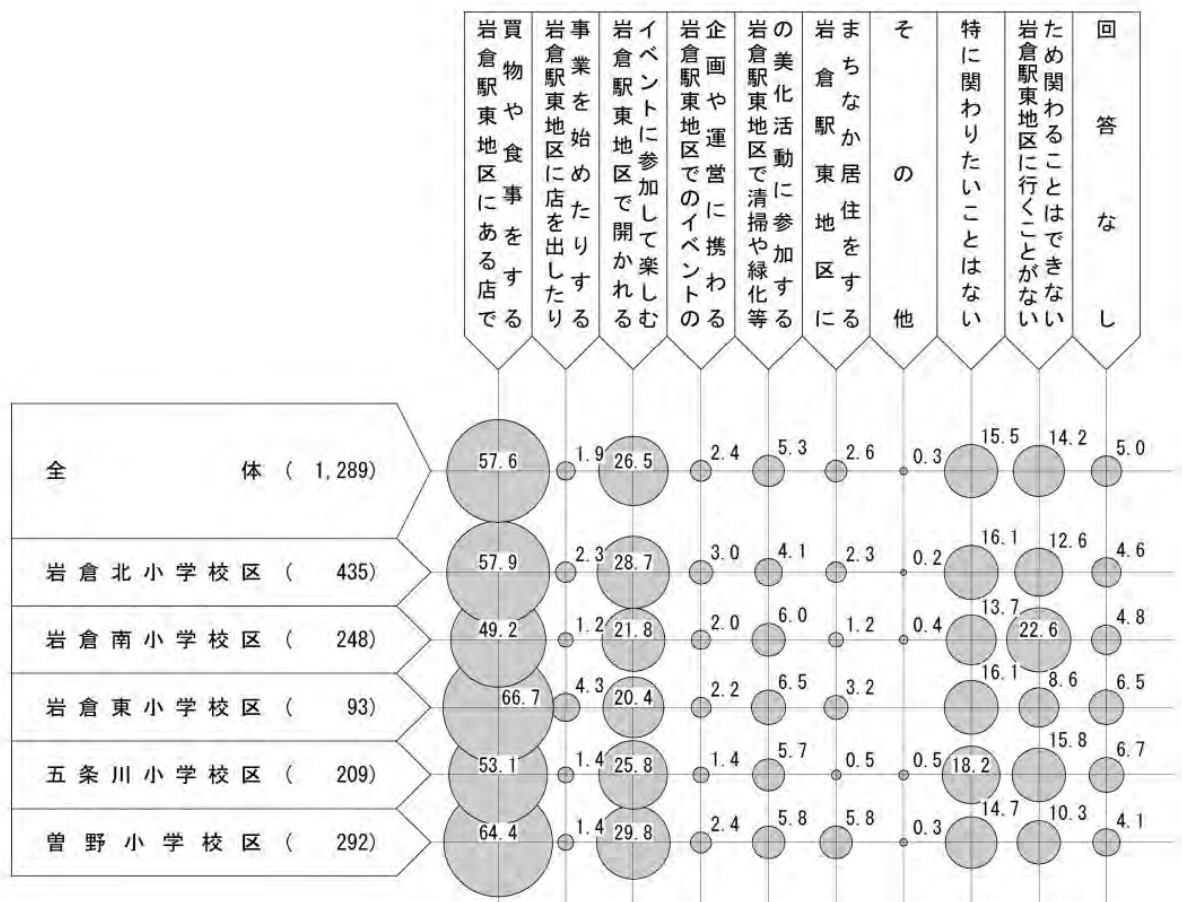
図表 V-5 岩倉駅東地区への関わり方（年齢別）



【小学校区別】

- 小学校区別でみると、「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」は岩倉駅東小学校区が 66.7%で最も高く、次いで曾野小学校区の 64.4%の順となっており、最も低い岩倉南小学校区の 49.2%とは、最大で 17.5 ポイントの差がみられます。
- 「岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ」については、曾野小学校区が 29.8%で最も高く、次いで岩倉北小学校区の 28.7%の順となっており、岩倉東小学校区が 20.4%で最も低くなっています。
- 「岩倉駅東地区に行くことがないため、関わることはできない」との回答は、小学校区の範囲が広い岩倉南小学校区では 22.6%と、他の小学校区と比較して高くなっていることが特徴として挙げられます。
- 全体的な傾向として、曾野小学校区は岩倉駅東地区への関わりの意欲が比較的高く、岩倉東小学校区は買物や食事などの日常利用を重視しているといえます。

図表 V-6 岩倉駅東地区への関わり方（小学校区別）



VI. 市民協働・行政経営

VI. 市民協働・行政経営

(1) 自治基本条例の認知度（問 36）

問 36 あなたは、「岩倉市自治基本条例」を知っていますか。【○は1つだけ】

25.6%が岩倉市自治基本条例を“知っている”と回答しています。

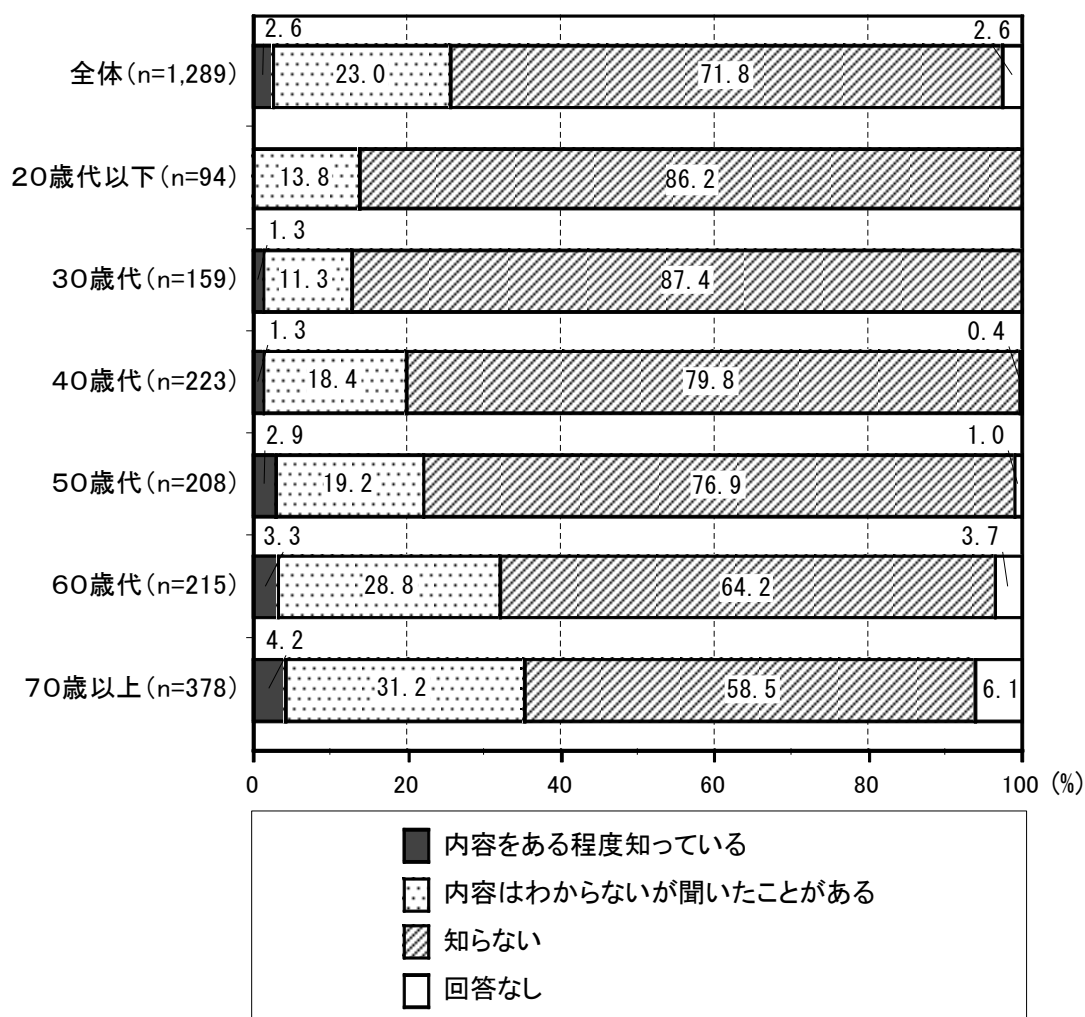
【全体】

○「内容をある程度知っている」が 2.6%、「内容はわからないが聞いたことがある」は 23.0%で、合わせて 25.6%が岩倉市自治基本条例を“知っている”と回答しています。

【年齢別】

○年齢別にみると、“知っている”と回答した割合は、年齢が高くなるにつれて増加する傾向があり、20歳代以下が 13.8%、30歳代は 12.6%であるのに対して、60歳代では 32.1%、70歳以上以上では 35.4%と、最大で 22.8ポイントもの差がみられます。

図表 VI-1 自治基本条例の認知度（年齢別）



(2) 市民参加条例の認知度 (問 37)

問 37 あなたは、「岩倉市市民参加条例」を知っていますか。【○は1つだけ】

27.7%が岩倉市市民参加条例を“知っている”と回答しています。

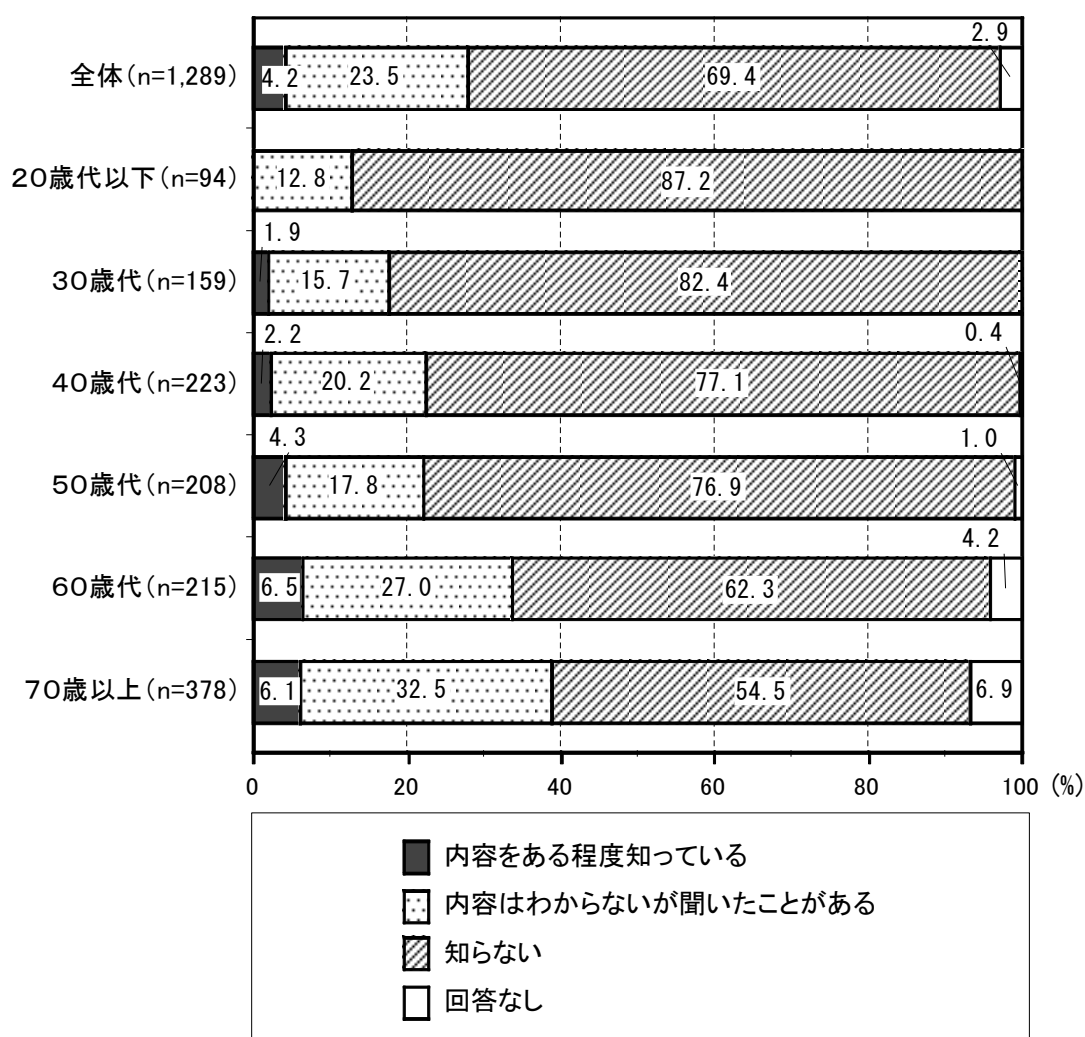
【全体】

○「内容をある程度知っている」が4.2%、「内容はわからないが聞いたことがある」は23.5%で、合わせて27.7%が岩倉市市民参加条例を“知っている”と回答しています。

【年齢別】

○年齢別にみると、“知っている”と回答した割合は、年齢が高くなるにつれて増加する傾向があり、20歳代以下が12.8%、30歳代では17.6%であるのに対して、60歳代は33.5%、70歳以上以上では38.6%と、最大で25.8ポイントの差がみられます。

図表 VI-2 市民参加条例の認知度 (年齢別)



(3) 市民の意見の市政への反映で重要なこと (問 38)

問 38

市民の意見を十分に反映した市政を行っていくために、何が重要だと思いますか。【○は2つまで】

90.6%の市民は、市民の意見を十分に反映した市政を行っていくために重要なことがあると回答しています。重要なこととしては、「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」が36.9%で最も高く、次いで「政策づくりの過程からの情報発信や意見募集」、「市政情報の公開」の順となっています。

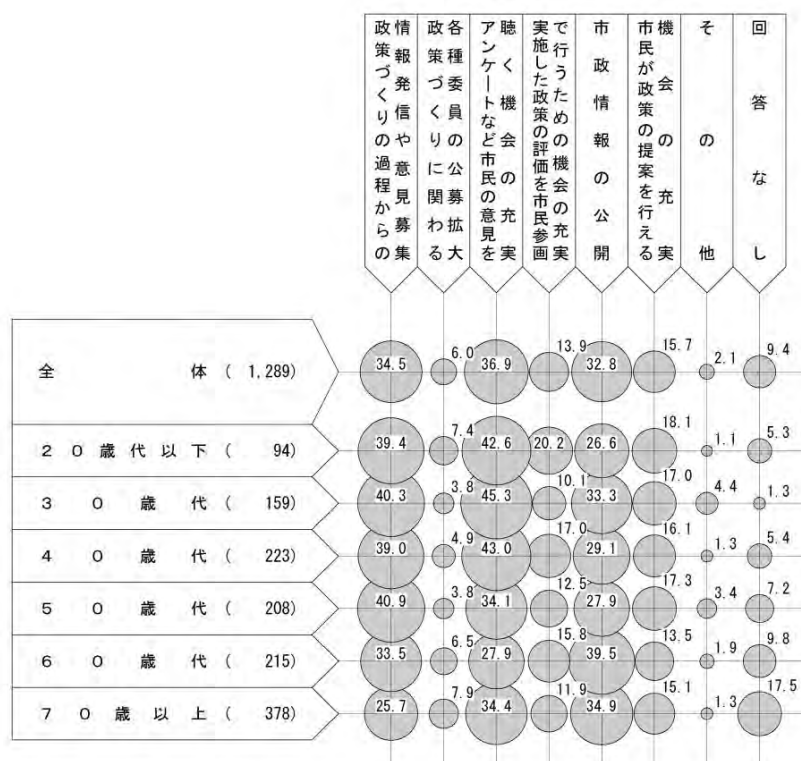
【全体】

- 「回答なし」の9.4%を除いた90.6%の市民は、市民の意見を十分に反映した市政を行っていくために重要なことがあると回答しています。
- 重要なこととしては、「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」が36.9%で最も高く、次いで「政策づくりの過程からの情報発信や意見募集」が34.5%、「市政情報の公開」が32.8%の順となっています。

【全体】

- 年齢による大きな差がみられる項目は多くありませんが、「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」について、30歳代は45.3%と、全体平均の36.9%と比べて8.4ポイント高く、「実施した政策の評価を市民参画で行うための機会の充実」については、20歳代以下で20.2%と、全体平均の13.9%より6.3ポイント高くなっています。
- なお、「回答なし」の割合が、70歳以上では17.5%と高くなっている点に留意する必要があります。

図表 VI-3 市民の意見の市政への反映で重要なこと (年齢別)



(4) 市政への参加経験 (問 39)

問 39

あなたは、これまでに、どのような方法で市政に参加したことがありますか。
【〇はいくつでも】

49.5%の市民が“市政に参加したことがある”と回答しています。

市政への参加経験は、「アンケートなどに回答する」が 46.5%で突出しています。

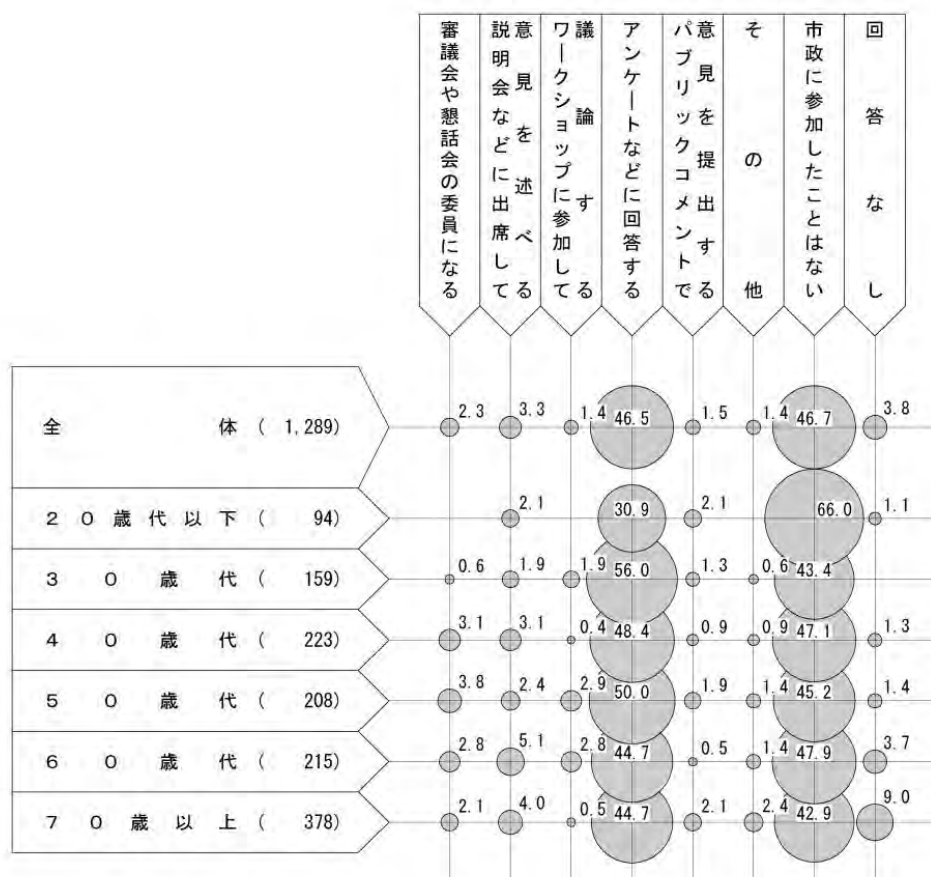
【全体】

- 「市政に参加したことはない」が 46.7%で最も多く、「回答なし」の 3.8%を合わせた 50.5%を除くと 49.5%であり、およそ半数の市民が“市政に参加したことがある”と回答しています。
- 市政への参加経験は、「アンケートなどに回答する」が 46.5%で突出しており、その他の項目については 1%~3%台ときわめて低くなっています。

【年齢別】

- 年齢による大きな差がみられる項目は多くありませんが、「アンケートなどに回答する」は 30 歳代が 56.0%で最も高く、50 歳代の 50.0%とともに半数を超えているのに対して、20 歳代以下では 30.9%と、全体平均の 46.5%と比べて 15.6 ポイント低くなっています。
- 「市政に参加したことはない」との回答は、20 歳代以下が 66.0%で、他の年齢層が 40%台であることと比較して、際立って高くなっています。

図表 VI-4 市政への参加経験 (年齢別)



(5) 市政参加の意向 (問 40)

問 40

あなたは、今後、どのような方法で市政に参加したいと思いますか。
【〇はいくつでも】

65.4%の市民が“市政に参加したい”と回答しており、市政の参加経験がなくとも市政への参加を希望する市民が一定の割合でいることがわかります。

参加の方法としては、「アンケートなどに回答する」が 59.8%で最も多くなっています。

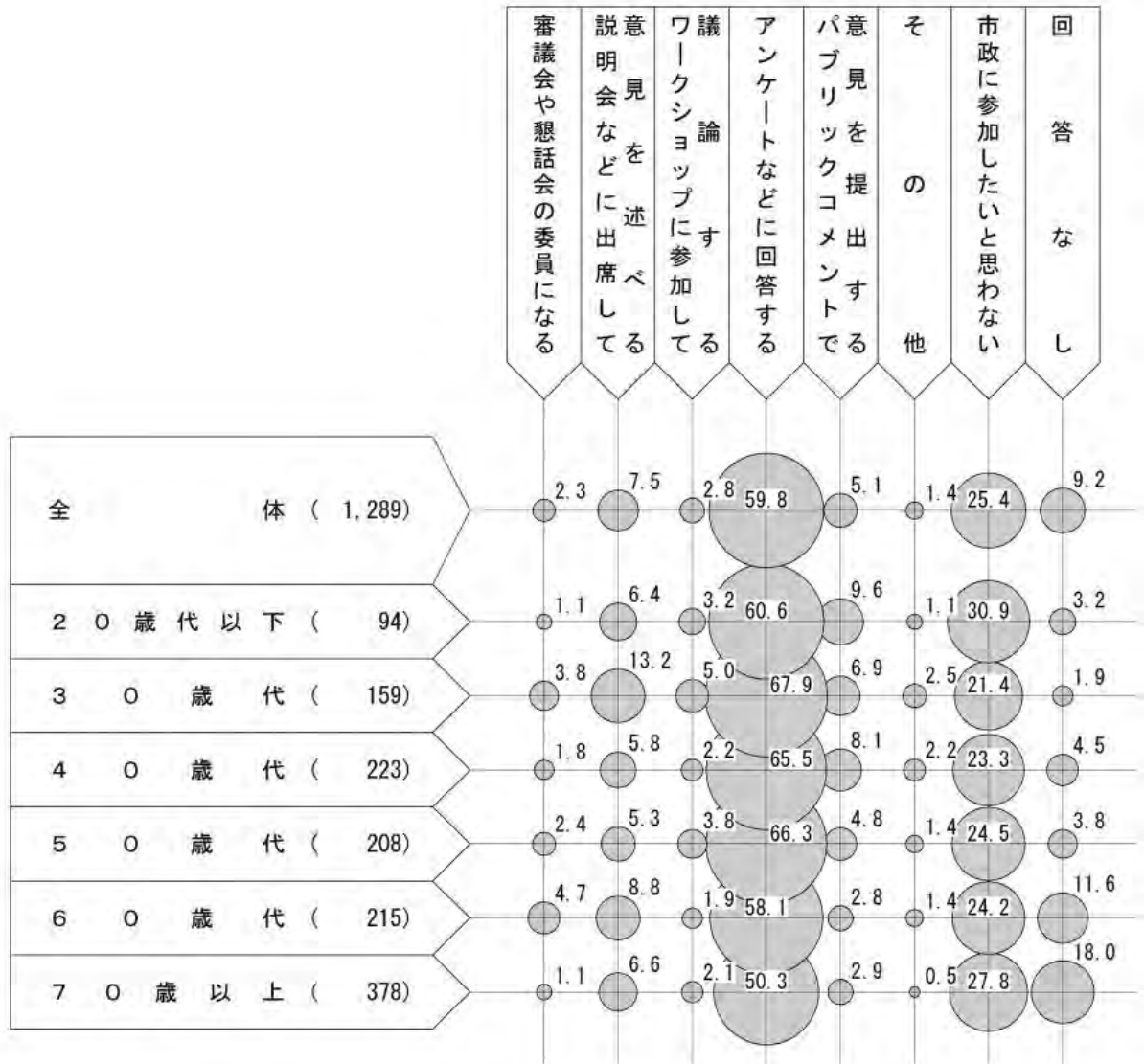
【全体】

- 「市政に参加したいと思わない」は 25.4%で、これと「回答なし」の 9.2%を除いた 65.4%の市民が“市政に参加したい”と回答しています。“市政に参加したことがある”と回答した市民が 49.5%であったことを踏まえると、市政の参加経験がなくとも市政への参加を希望する市民が一定の割合でいることがわかります。
- 参加の方法としては、「アンケートなどに回答する」が 59.8%で最も多く、その他の項目については 2%~7%程度となっていますが、参加経験の設問と比較すると、どの項目も回答の割合は増加しています。

【年齢別】

- 「アンケートなどに回答する」は 30 歳代が 67.9%で最も高く、最も低い 70 歳以上の 50.3%と 17.6 ポイントの差がみられます。
 - 「説明会などに出席して意見をのべる」では 30 歳代が 13.2%と最も高く、「パブリックコメントで意見を提出する」では 20 歳代以下が 9.6%で最も高くなっており、若年層は、意見の提出に対して関心を持っているといえそうです。
 - 「市政に参加したいと思わない」は、最も高い 20 歳代以下でも 30.9%であり、市政への参加経験の設問における「市政に参加したことはない」の項目と比べて、年齢による差は小さくなっています。
 - なお、70 歳以上では「回答なし」が 18.0%と高い点に留意する必要があります。
-

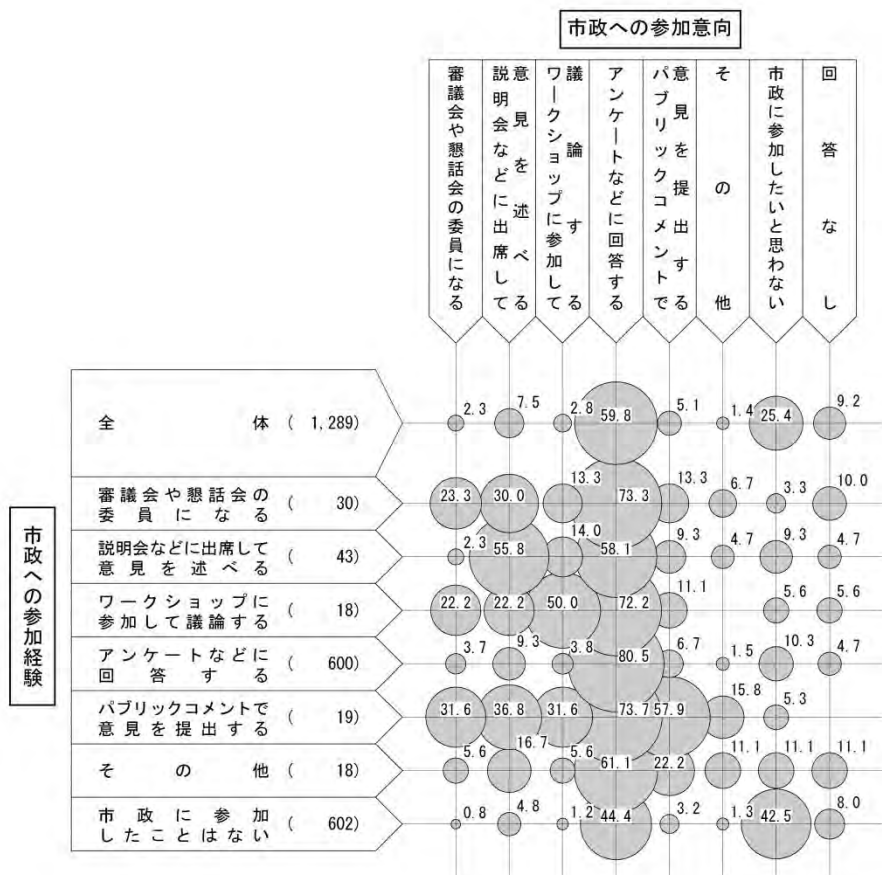
図表 VI-5 市政への参加意向（年齢別）



【市政への参加経験別】

- 市政への参加経験と市政への参加意向との関係性についてみると、参加経験がある場合に、同じ項目の参加意向が半数を超えているのは、「説明会などに出席して意見を述べる」が55.8%、「ワークショップに参加して議論する」が50.0%、「アンケートなどに回答する」が80.5%、「パブリックコメントで意見を提出する」が57.9%の4項目となっています。この4項目については、参加を経験した手法について、再度同じ方法で今後も参加することを希望する市民が、そうでない市民よりも多いことを示しています。
- 何らかの形で市政に参加した経験がある場合、「市政に参加したいと思わない」との回答は、最も高い「その他」でも11.1%と、市政参加の経験がある市民の多くは、市政への参加意向を持っているといえます。
- 「市政に参加したことはない」と回答した市民のうち、「市政に参加したいと思わない」と回答したのは42.5%で、「回答なし」の8.0%を除いた49.5%の市民は、市政への参加経験がないながらも、今後、何らかの形で市政に参加したいと考えていることがわかります。
- 「市政に参加したことはない」と回答した市民のうち、「アンケートなどに回答する」は44.4%で、アンケートでの市政参加を求める割合が高いといえます。

図表 VI-6 市政への参加意向（市政への参加経験別）



(6) 近所づきあいの程度 (問 41)

問 41 あなたは、地域での近所づきあいをどの程度していますか。【○は1つだけ】

50.9%の市民が“近所付き合いがある”と回答しています。一方で、33.9%の市民は、“近所づきあいがない”と回答しています。

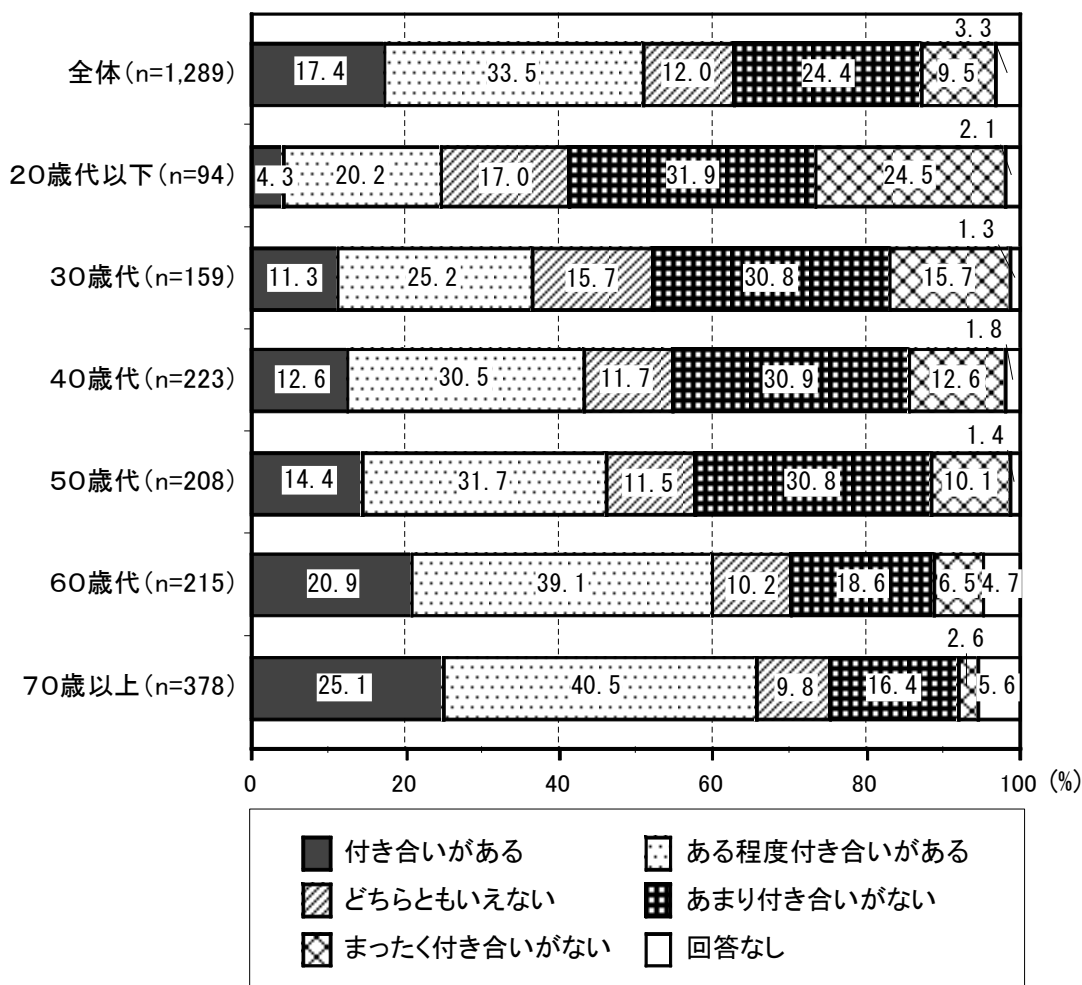
【全体】

- 「ある程度付き合いがある」との回答が 33.5%で最も多く、「付き合いがある」の 17.4%を合わせて 50.9%となり、半数以上の市民が“近所付き合いがある”と回答しています。
- 一方で、「あまり付き合いがない」は 24.4%と 2 番目に多く、「まったく付き合いがない」の 9.5%と合わせて 33.9%の市民は、“近所づきあいがない”と回答しています。

【年齢別】

- “近所づきあいがあある”との回答についてみると、年齢が高くなるほど、その割合は増加しており、20 歳代以下が 24.5%であるのに対し、60 歳以上は 60.0%と半数を超え、70 歳以上では 65.6%で、41.1 ポイントもの大きな差がみられます。

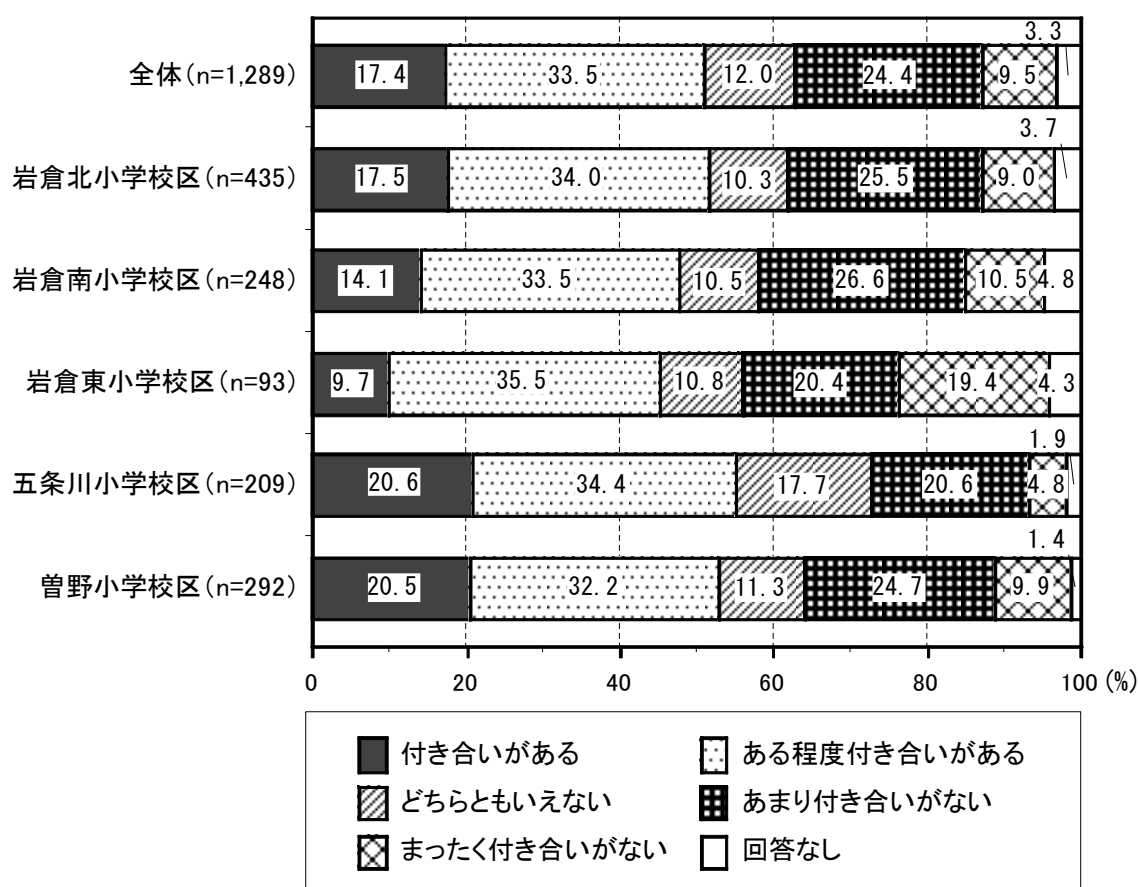
図表 VI-7 近所づきあいの程度 (年齢別)



【小学校区別】

- “近所づきあいがある”との回答についてみると、五条川小学校区が55.0%で最も高く、最も低い岩倉東小学校区の45.2%と9.8ポイントの差がみられます。
- 岩倉東小学校区では、「まったく付き合いがない」との回答が19.4%と、全体平均の9.5%を9.9ポイント上回っており、他の小学校区と比較して、近所付き合いの緊密でないとの回答割合が高くなっています。
- 岩倉小学校区は、回答者に占める高齢者の割合が他の小学校区よりも高かったことを踏まえると、市全体としての年齢別の傾向とは大きく異なり、岩倉東小学校区では高齢者であっても近所付き合いが緊密でない場合も多いものと推測されます。

図表 VI-8 近所づきあいの程度（小学校区別）



(7) 近所づきあいの満足度 (問 42)

問 42 あなたは、地域での近所づきあいに満足していますか。【○は1つだけ】

近所づきあいについて、43.3%の市民が“満足している”と回答しています。

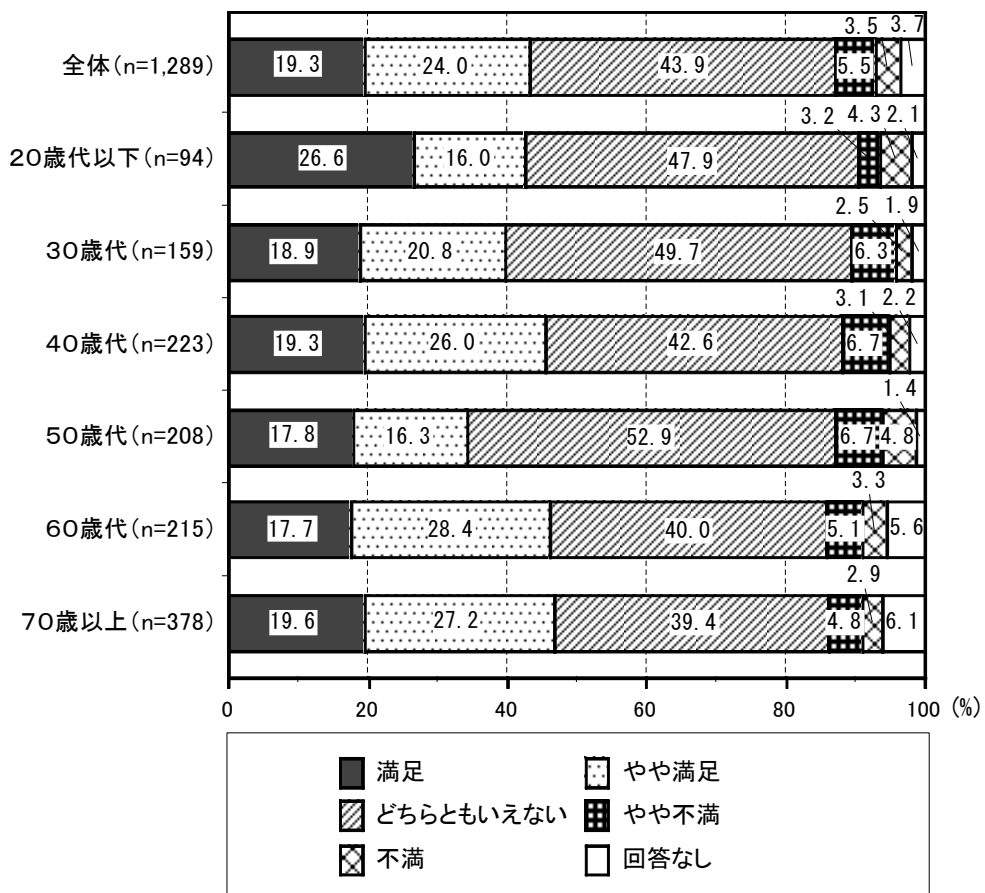
【全体】

- 近所づきあいについて、「満足」が 19.3%、「やや満足」が 24.0%で、これらを合わせた 43.3%の市民が“満足している”と回答しています。また、「どちらともいえない」は 43.9%で、“満足している”とほぼ同水準です。
- 「やや不満」は 5.5%、「不満」は 3.5%で、これらを合わせた“不満がある”との回答割合は 9.0%であり、“満足している”、「どちらともいえない」と比べて低くなっています。

【年齢別】

- 年齢別にみると、「満足」と「やや満足」を合わせて“満足している”と回答した割合は、70歳以上が 46.8%で最も高く、次いで 60歳以上が 46.1%と、最も低い 50歳代の 34.1%と比べて最大で 12.7ポイントの差がみられます。
- 問 41 で近所付き合いが緊密ではなかった 20歳代以下は、「やや不満」が 3.2%、「不満」が 4.3%であり、これらを合わせた“不満がある”との回答は 7.5%と最も低くなっています。そのため、近所付き合いが緊密でない状況を肯定的に考えているものと考えられます。

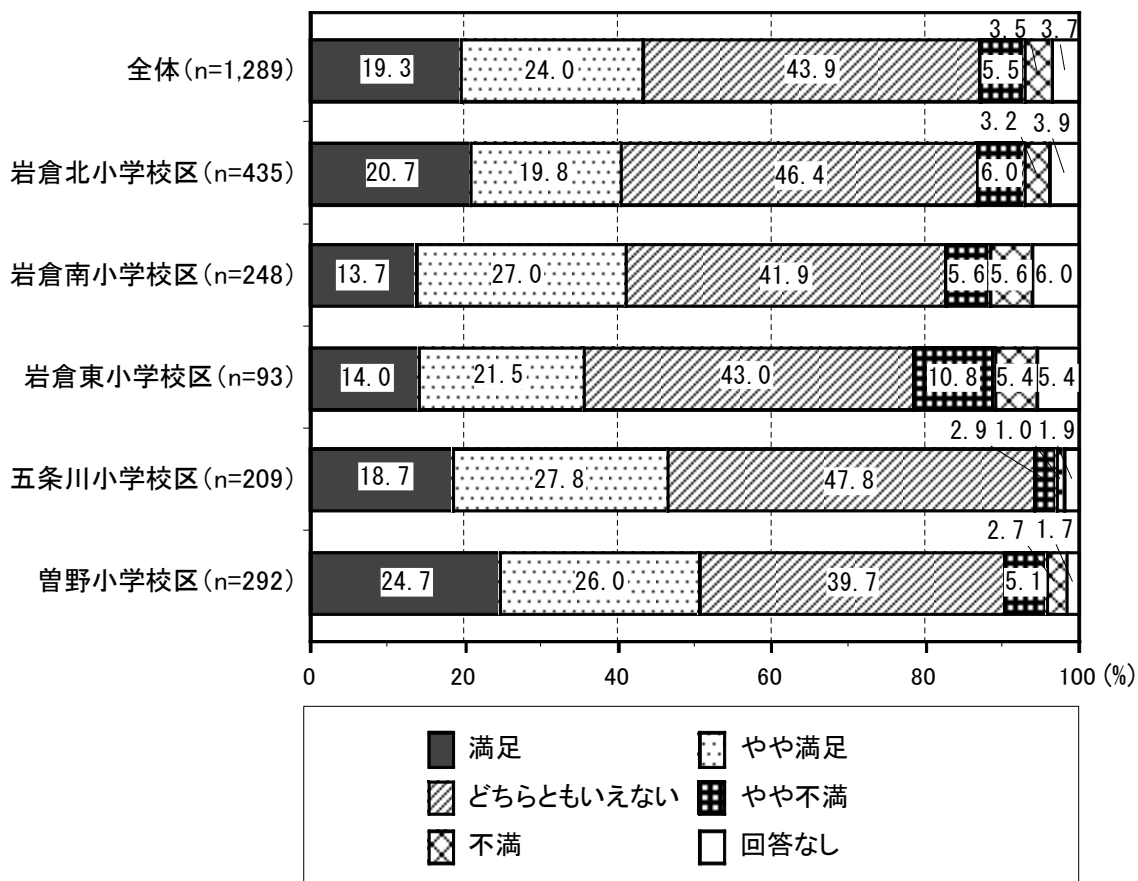
図表 VI-9 近所づきあいの満足度 (年齢別)



【小学校区別】

- “満足している”との回答についてみると、五条川小学校区が46.5%で最も高く、最も低い岩倉東小学校区の35.5%と11.0ポイントの差がみられます。
- 近所付き合いの緊密さが低い岩倉東小学校区では、「やや不満」が10.8%、「不満」が5.4%で、これらを合わせて16.2%が“不満がある”と回答しており、近所付き合いが緊密でない状況に対して不満を感じている市民がやや多いと考えられます。

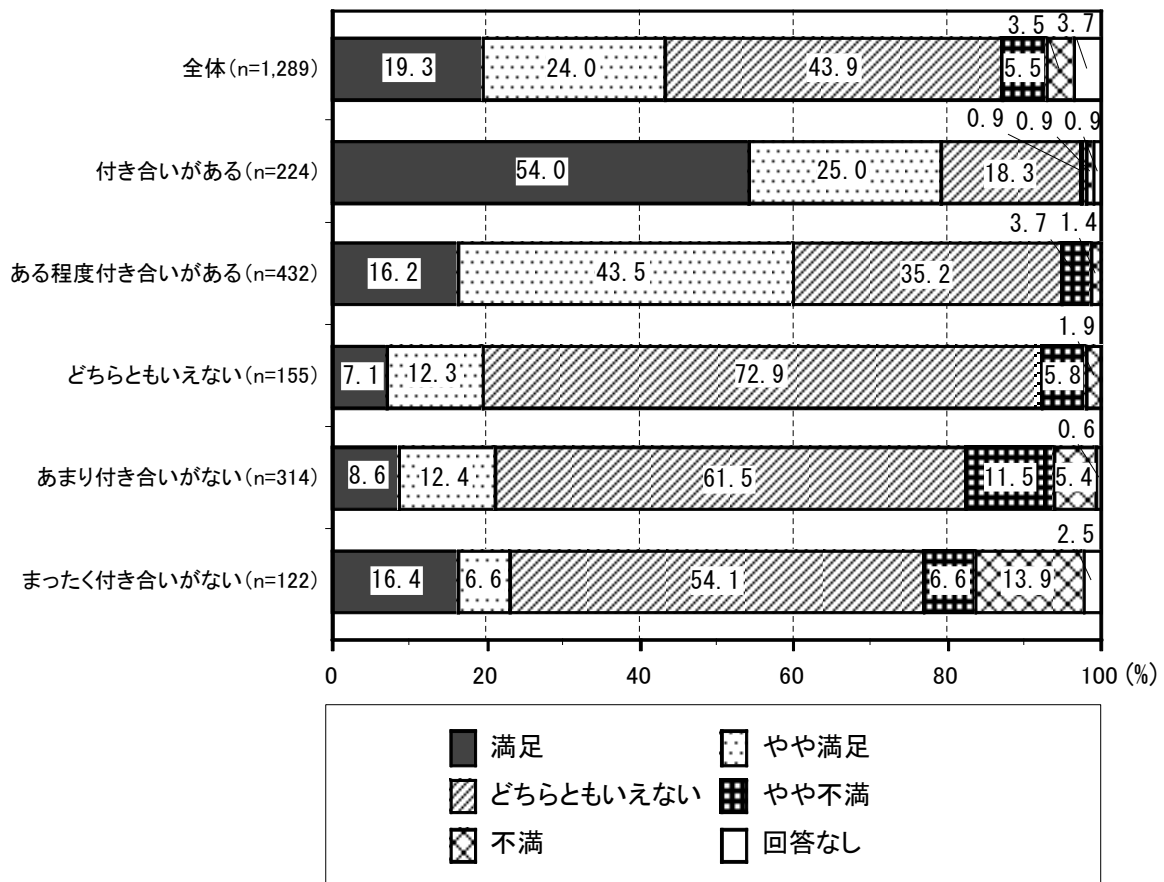
図表 VI-10 近所づきあいの満足度（小学校区別）



【近所付き合いの程度別】

- 近所付き合いの程度別でみると、付き合いが緊密であると「満足」または「やや満足」と回答する割合は高くなっています。
- 「付き合いがある」と回答した市民は、「満足」の54.0%と「やや満足」の25.0%を合わせた79.0%が“満足している”、「ある程度付き合いがある」と回答した市民でも「満足」が16.2%、「やや満足」が43.5%で、合わせて59.7%が“満足している”と回答しています。
- 「まったく付き合いがない」と回答した市民については、「不満」が13.9%、「やや不満」が6.6%で合わせて20.5%と高くなっています。ただし、「満足」が16.4%、「やや満足」は6.6%と、合わせて23.0%は“満足している”と回答しており、近所付き合いがないことを肯定的に捉えている市民がいることも留意する必要があります。
- 総じて、緊密な近所付き合いに対して不満を持つ割合は低く、緊密な近所付き合いは、近所付き合いの満足度の高さとは連関しているものと考えられます。

図表 VI-11 近所づきあいの満足度（近所づきあいの程度別）



(8) 市民活動や地域活動の参加状況 (問 43)

問 43

現在のあなたの市民活動や地域活動の参加状況についておたずねします。
【○は1つだけ】

活動や地域活動に「すでに参加している」との回答は 18.3%で、「参加しようと思っている」という参加意向の 12.2%を含めても、30.5%となっています。

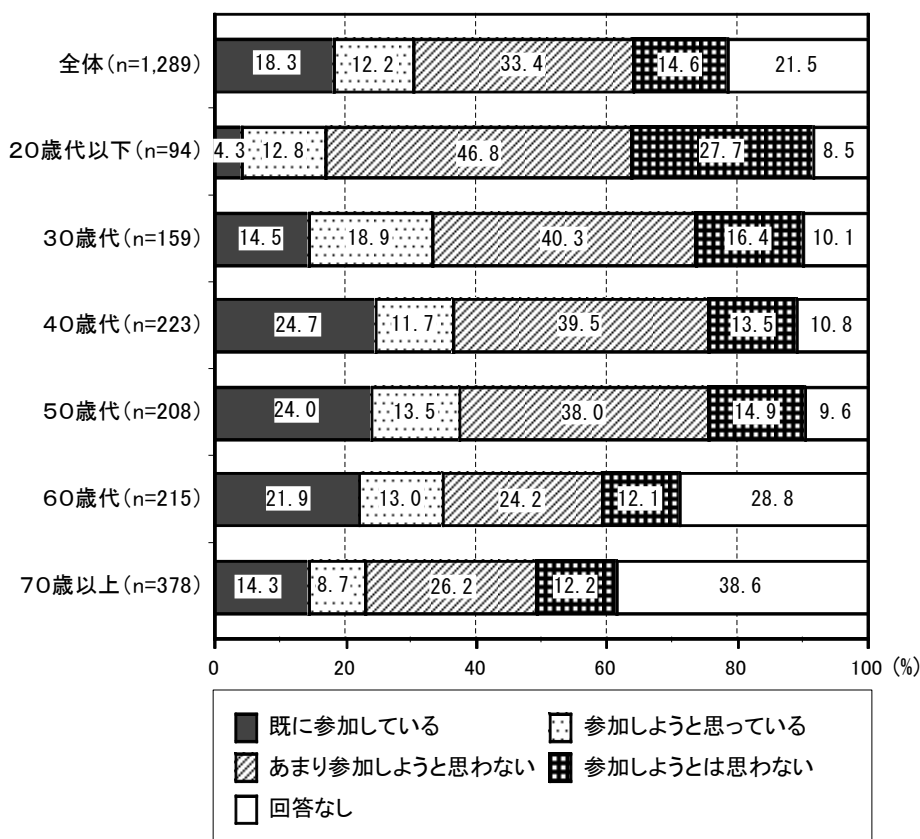
【全体】

- 市民活動や地域活動に「すでに参加している」との回答は 18.3%で、「参加しようと思っている」という参加意向の 12.2%を含めても、30.5%となっています。
- 「あまり参加しようと思わない」の 33.4%と「参加しようと思わない」の 14.6%を合わせると 48.0%であり、半数近くとなっています。

【年齢別】

- 「すでに参加している」との回答は、40歳代が 24.7%で最も高く、50歳代は 24.0%、60歳代も 21.9%と 40~60歳代が他の年齢層よりも高くなっています。20歳代以下は 4.3%で最も低く、40歳代の 24.7%とは 20.4ポイントの差がみられます。
- 一方で、「参加しようと思っている」との回答は 30歳代が 18.9%で最も高く、70歳以上を除いて 10%を超えており、年齢を問わず市民活動・地域活動への参加意向を持つ市民が一定の割合で存在しているといえます。
- なお、「回答なし」が 60歳以上では 28.8%、「70歳以上では」38.6%となっている点には注意が必要です。

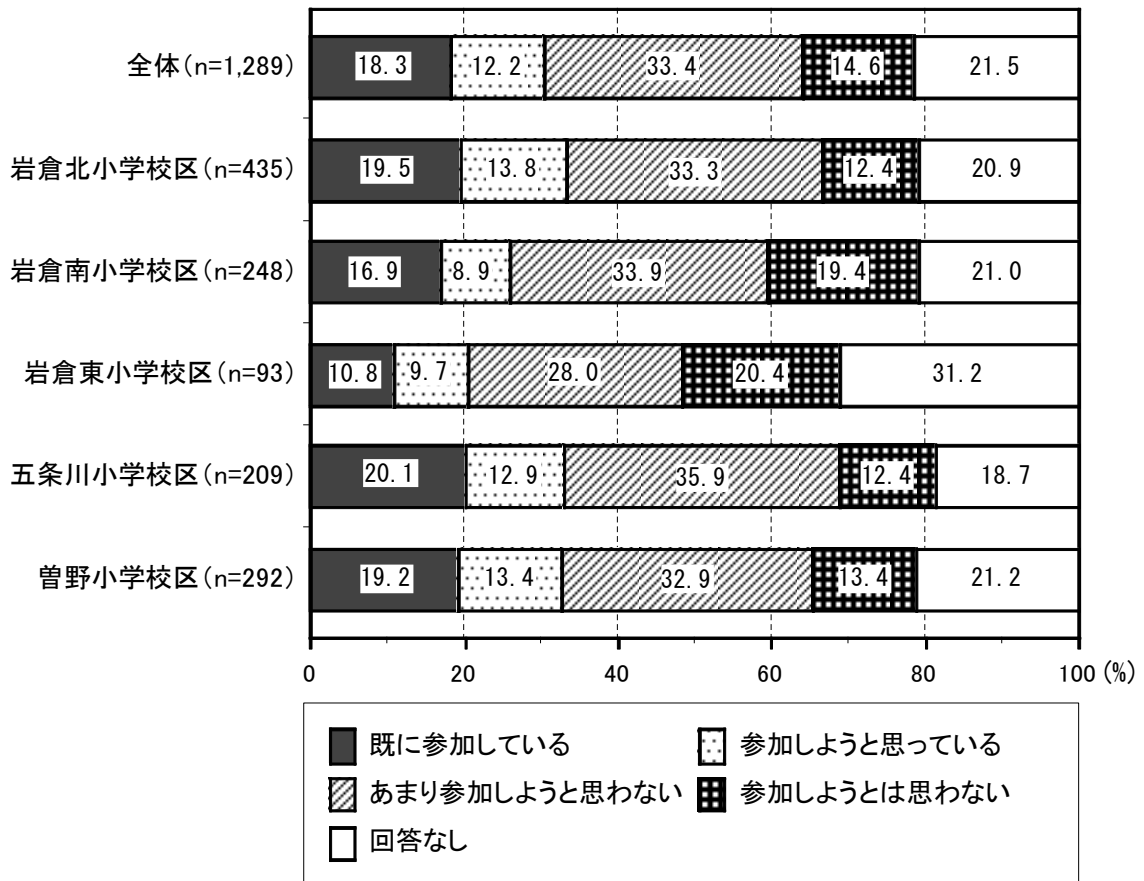
図表 VI-12 市民活動や地域活動の参加状況 (年齢別)



【小学校区別】

- 「すでに参加している」との回答は、五条川小学校区が 20.1%で最も高く、最も低い岩倉東小学校区の 10.8%と、9.3 ポイントの差が生じています。
- 「参加しようと思っている」との回答は、岩倉北小学校区が 13.8%で最も高く、曾野小学校区は 13.4%、五条川小学校区が 12.9%で 10%を超えているのに対し、岩倉東小学校区は 9.7%、岩倉南小学校区では 8.9%となっています。
- 一方で、「あまり参加しようと思わない」と「参加しようとは思わない」を合わせると、岩倉南小学校区では 53.3%と半数を超えているのを除いて、おおむね 45%程度となっています。

図表 VI-13 市民活動や地域活動の参加状況（小学校区別）



① 参加している・参加したい市民活動

問 43

参加している、参加しようと思っている活動は何ですか。

【あてはまるものすべてに○】

【全体】

○「行政区や自治会の活動」が 30.5%で最も高く、「祭りなどの伝統的な行事」が 26.0%、「地域のスポーツクラブ・サークル活動」が 23.4%の順となっています。

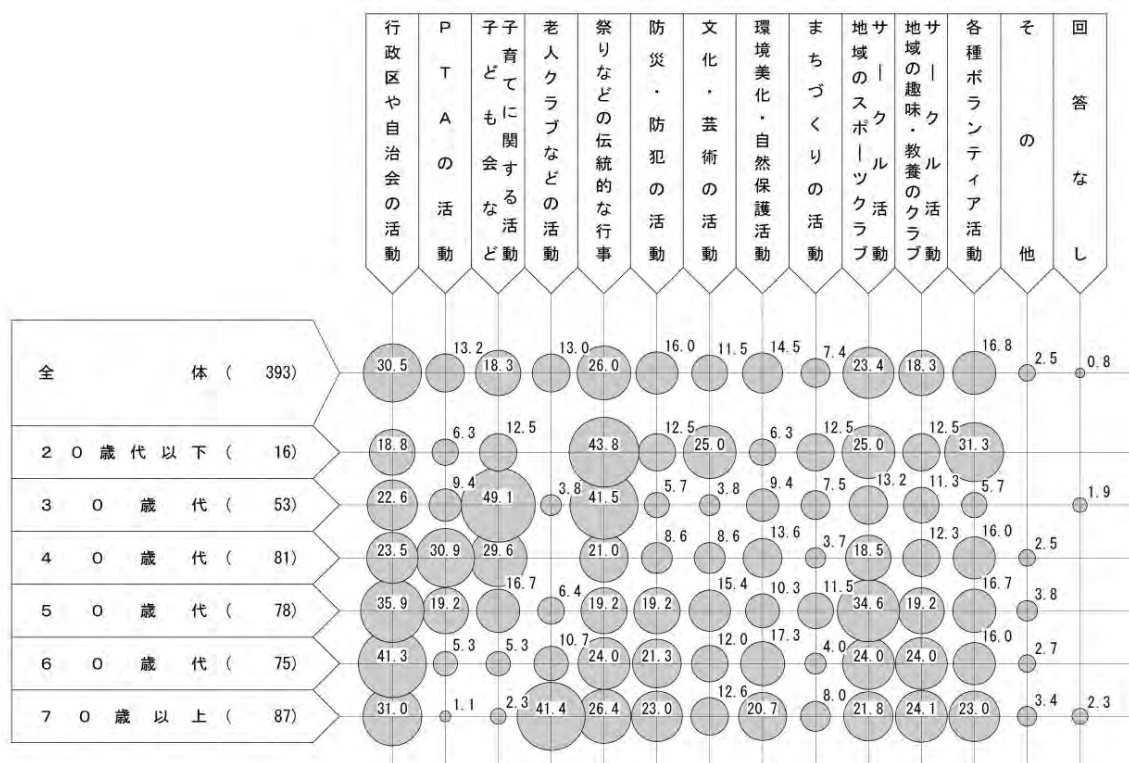
【年齢別】

○20 歳代以下は「祭りなどの伝統的な行事」が 43.8%、「文化・芸術の活動」は 25.0%、「まちづくりの活動」が 12.5%、「各種ボランティア活動」が 31.3%と、4つの項目で最も高くなっています。ただし、「既に参加している」または「参加しようと思っている」との回答の割合自体が低いことを踏まえると、市民活動や地域活動に強い関心を持っている市民が、幅広い項目に関心を持っているため、回答の割合が高くなっているものと考えられます。

○30 歳代は「子ども会など子育てに関する活動」が 49.1%、40 歳代は「PTA の活動」が 30.9%で、子育てや教育に関する活動への参加が、それぞれ最も高くなっています。

○50 歳代では「地域のスポーツクラブ・サークル活動」が 34.6%で、それぞれ最も高く、60 歳代は「行政区や自治会の活動」が 41.3%、70 歳以上は「防災・防犯の活動」が 23.0%、「環境美化・自然保護活動」が 20.7%、「地域の趣味・教養のクラブ・サークル活動」が 24.1%と、高くなっている点が特徴です。

図表 VI-14 参加している・参加したい市民活動（年齢別）

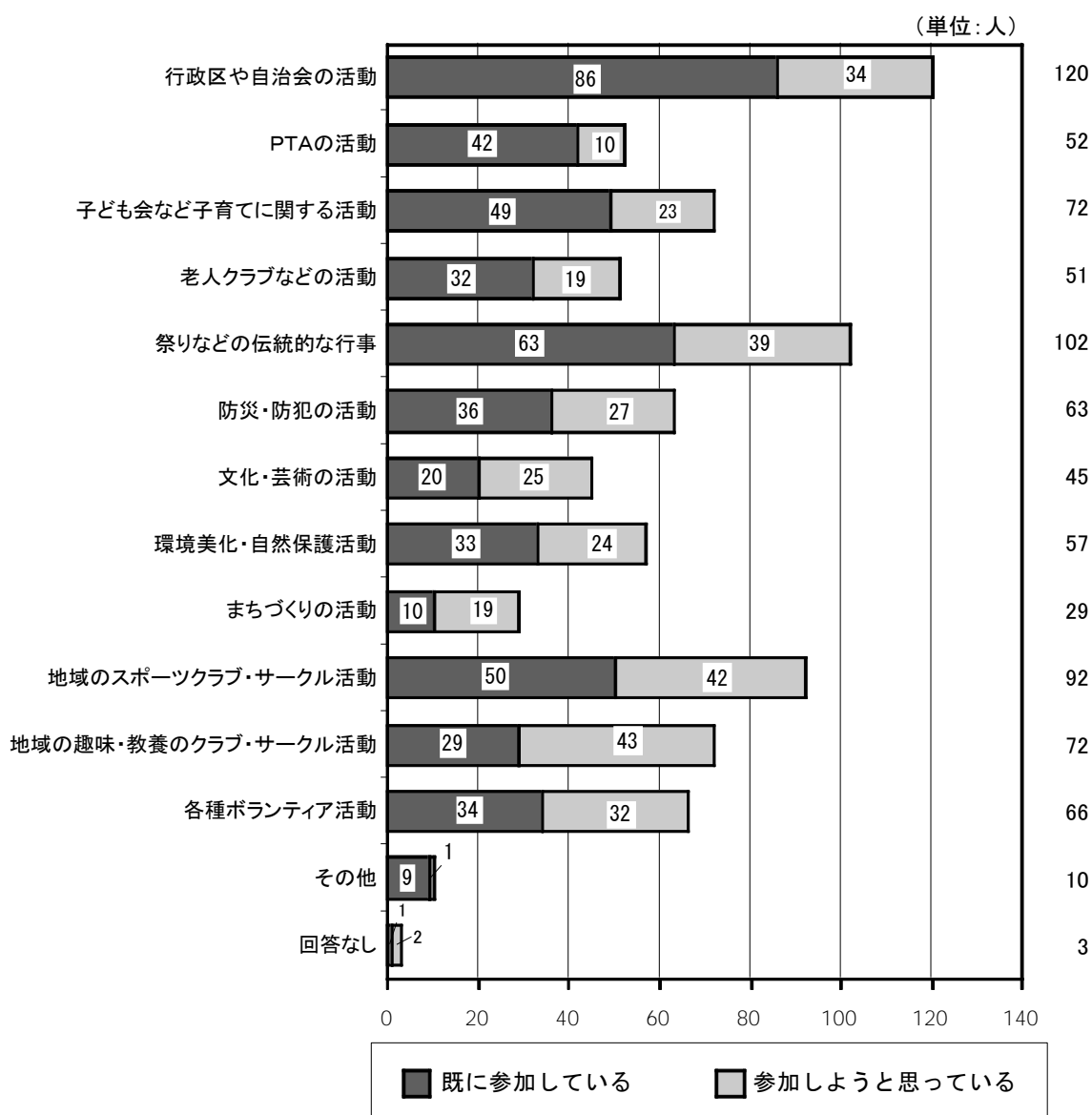


【「既に参加している」と「参加しようと思っている」の合算】

- 「参加しようと思っている」活動に着目すると、「地域の趣味、教養のクラブ・サークル活動」が43人で最も多く、次いで「地域のスポーツクラブ・サークル活動」が42人、「祭りなどの伝統的な行事」が39人、「行政区や自治会の活動」が34人、「各種ボランティア活動」が32人の順となっています。
- 「既に参加している」と「参加しようと思っている」を合わせると、「行政区や自治会の活動」が120人で最も多く、次いで「祭りなどの伝統的な行事」の102人、「地域のスポーツクラブ・サークル活動」が92人の順となっています。
- 「参加しようと思っている」との回答した人数をみると、各項目とも10を超えており、こうした市民を取り込むことが課題です。

図表 VI-15 参加している・参加したい市民活動（合算）

(n=393)



② 参加の阻害要因

問 43

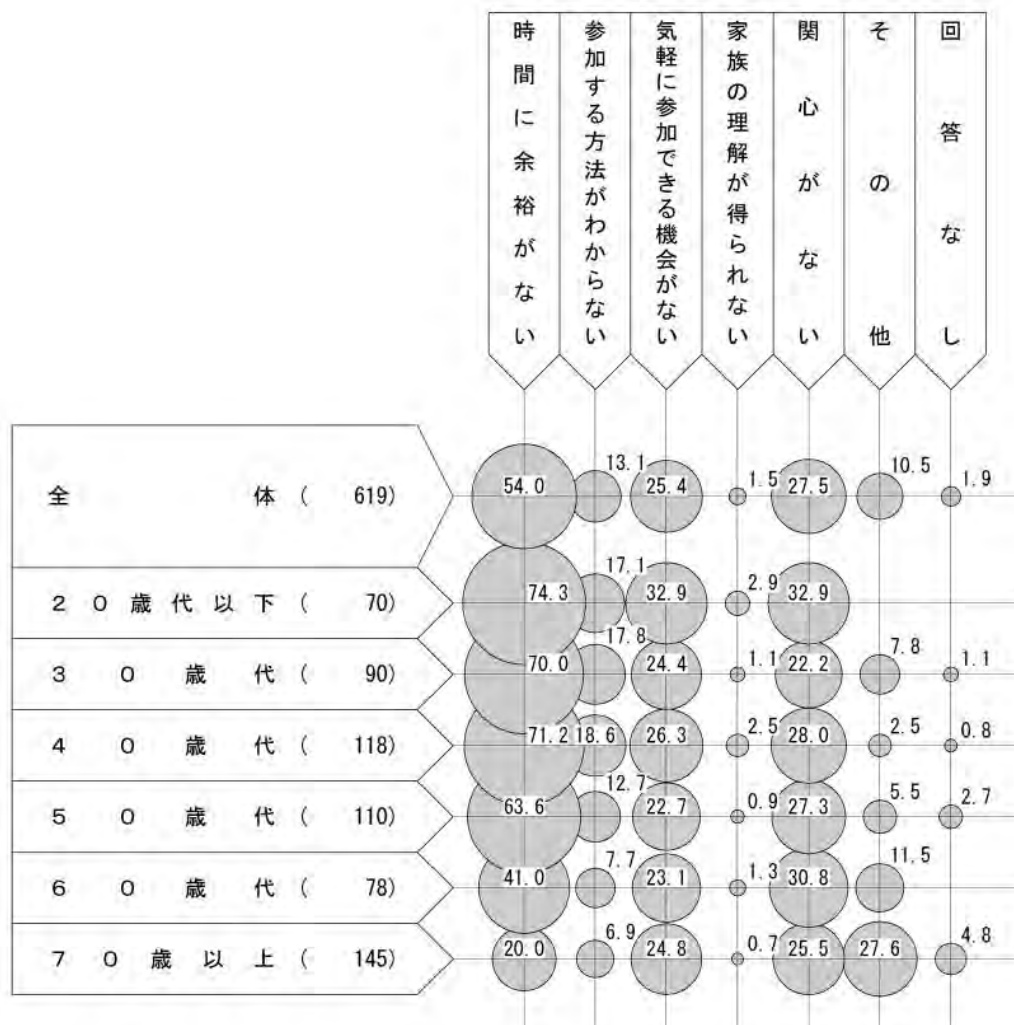
参加しようと思わない理由は何ですか。

【あてはまるものすべてに○】

【全体】

- 参加できない理由としては、「時間に余裕がない」が 54.0%で半数を超えており、次いで「関心がない」が 27.5%、「気軽に参加できる機会がない」は 25.4%の順となっています。
- 20 歳代以下から 40 歳代では、「時間に余裕がない」が軒並み 70%を超えているほか、「参加する方法がわからない」との回答も他の年齢層と比較してやや高く、労働者が多い世代では、時間的な余裕がないことは、活動参加の大きな障壁となっていることがわかります。
- また、20 歳代以下は「気軽に参加できる機会がない」や「関心がない」も 30%を超えており、20 歳代以下については、時間的余裕という問題のほか、市民活動への関わり方という点において、複数の障壁が存在しているといえます。

図表 VI-16 市民活動の参加の阻害要因（年齢別）



(9) 行政経営に対する要望 (問 44)

問 44

岩倉市に対してどのような行政経営を求めますか。

【○は3つまで】

85.6%の市民が、“岩倉市の行政経営に求めることがある”と回答しています。行政経営に対する要望は、「職員の意識改革・資質向上」が 35.1%で最も高くなっています。

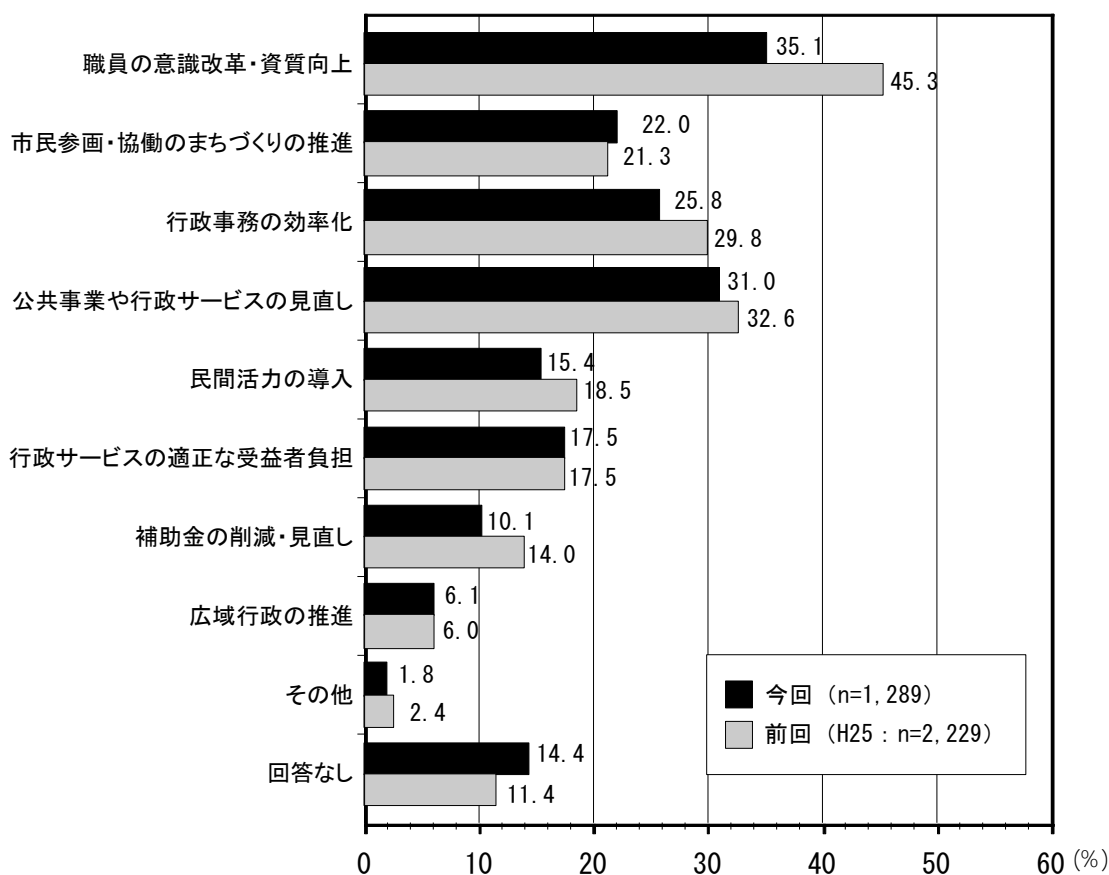
【全体】

- 「回答なし」の 14.4%を除いた 85.6%の市民が、“岩倉市の行政経営に求めることがある”と回答しています。
- 行政経営に対する要望は、「職員の意識改革・資質向上」が 35.1%で最も高く、次いで「公共事業や行政サービスの見直し」が 31.0%、「行政事務の効率化」が 25.8%、「市民参画、協働のまちづくりの推進」が 22.0%の順となっています。

【経年比較】

- 平成 25 年調査と比較して減少した項目が多い中で、「市民参画・協働のまちづくり」は 21.3%から 22.0%に増加し、「行政サービスの適正な受益者負担」が 17.5%で横ばいとなっている点が特徴です。
- 「職員の意識改革・資質向上」については、45.3%から 35.1%へと 10.2 ポイント減少しており、行政に対する要望の傾向は変化しつつあることがみてとれます。

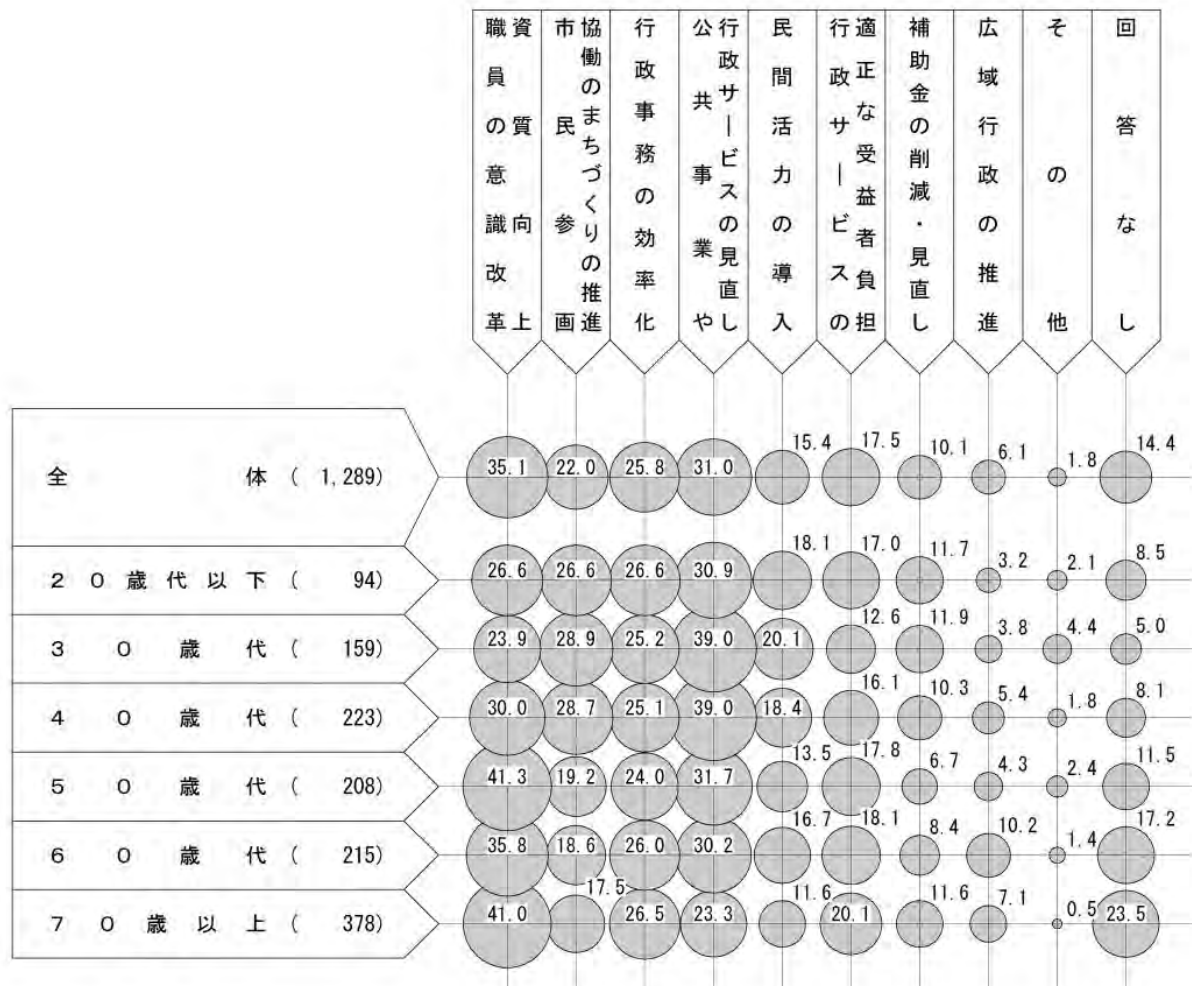
図表 VI-17 行政経営に対する要望 (経年比較)



【年齢別】

- 「職員の意識改革・資質向上」については、50歳代が41.3%、70歳以上も41.0%と高く、最も低い30歳代の23.9%とは17.4ポイントの差がみられます。
- 「市民参画、協働のまちづくりの推進」については、若年層の回答割合が高い傾向がみられ、30歳代が28.9%で最も高く、40歳代は28.7%、20歳代以下も26.6%であるのに対し、最も低い70歳以上では17.5%と、最大で11.4ポイントの差がみられます。若年層では、市民が主体的にまちづくりに参画し、行政と協働することを求める傾向があるといえます。
- また、「公共事業や行政サービスの見直し」についても同様の傾向がみられ、30歳代と40歳代が39.0%で最も高く、70歳以上の23.3%と比べて15.7ポイントの差がみられます。

図表 VI-18 行政経営に対する要望（年齢別）



(10) 行政サービスと市民負担のバランス (問 45)

問 45

行政サービスと市民負担のバランスをどのように考えますか。

【○は1つだけ】

「行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により財源を生みだすべき」が25.0%で最も多いものの、平成25年調査から9.2ポイント減少しています。

「行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない」、「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」は、ともに増加しています

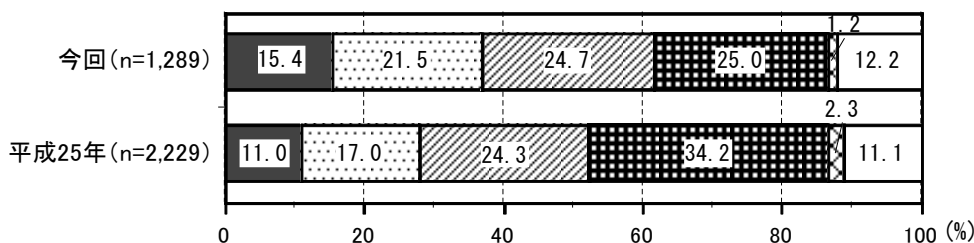
【全体】

- 「行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により財源を生みだすべき」が25.0%で最も多いものの、平成25年調査の34.2%から9.2ポイント減少している点が目立っています。
- 「行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない」11.0%から15.4%、「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」も17.0%から21.5%と、ともに増加しています。
- 「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」との回答は20歳代以下が37.2%で最も多くなっています。

【経年比較】

- 平成25年調査と比べて、「行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により財源を生みだすべき」は、34.2%から25.0%へ9.2ポイント減少しています。
- 「行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない」は11.0%から15.4%に4.4ポイント、「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」も17.0%から21.5%へ4.5ポイント、それぞれ増加しており、負担の増加やサービス縮小を肯定する回答の割合が高まっています。

図表 VI-19 行政サービスと市民負担のバランス (経年比較)

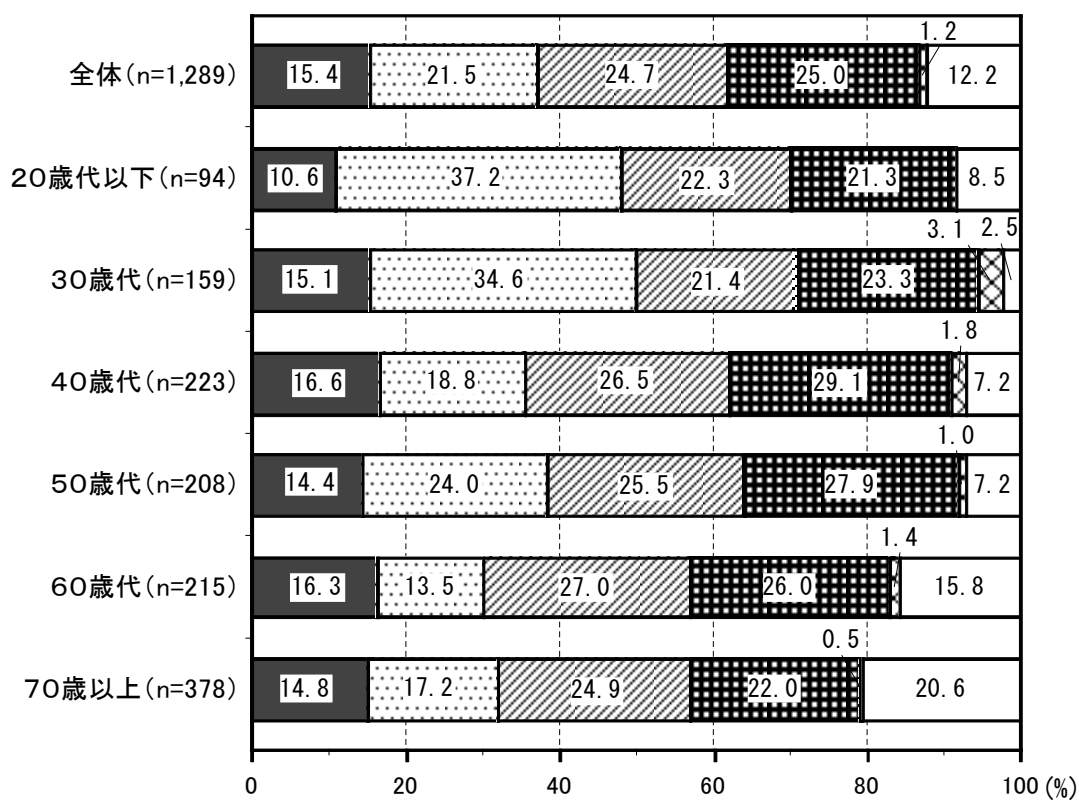


行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない
 市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない
 受益者負担を増やすべきで市民全体の負担を増やすべきではない
 行政サービスの充実のためには徹底した行政改革により財源を生みだすべき
 その他
 回答なし

【年齢別】

- 「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」との回答は、年齢層による差異が大きく、20歳代以下が37.2%で最も高く、30歳代でも34.6%であるのに対して、60歳代では13.5%、70歳以上では17.2%、最大で23.7ポイントの差がみられ、福祉をはじめとする行政サービスの利用機会が多いと考えられる高齢者層の割合が低くなっています。
- おおむね20歳代以下から30歳代では行政サービスの見合わせ、40歳代から50歳代では行政サービス充実のための行政改革、60歳代以上では受益者負担の増加を重視する傾向がみられ、年齢層によって求める方向性が大きく異なっています。
- なお、「無回答」が60歳代で15.8%、70歳以上が20.6%となっている点には留意する必要があります。

図表 VI-20 行政サービスと市民負担のバランス（年齢別）



- 行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない
- ▨ 市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない
- ▧ 受益者負担を増やすべきで市民全体の負担を増やすべきではない
- ▩ 行政サービスの充実のためには徹底した行政改革により財源を生みだすべき
- ⊠ その他
- 回答なし

(11) 情報提供媒体の利用状況 (問 46)

問 46

岩倉市では、次のような方法により市民の皆さまに情報提供をしています。あなたは、日ごろどの程度利用されていますか。

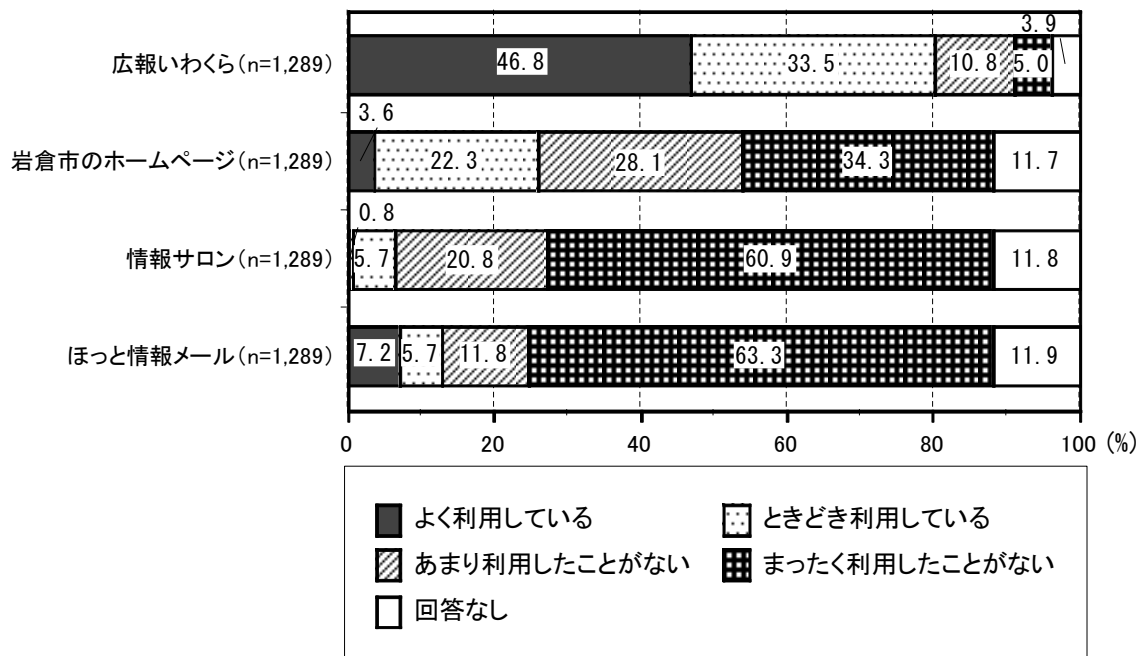
【①～④について、それぞれ1ずつ○】

「よく利用している」と「ときどき利用している」の2つを合わせた“利用率”は、最も高い「広報いわくら」で80.3%、次いで「岩倉市のホームページ」となっています。

【全体】

- 「よく利用している」については、「広報いわくら」が46.8%、「岩倉市のホームページ」が3.6%、「情報サロン」が0.8%、「ほっと情報メール」が7.2%となっています。
- また、「よく利用している」と「ときどき利用している」の2つを合わせた割合（以下、“利用率”という。）は、最も高い「広報いわくら」で80.3%、次いで「岩倉市のホームページ」の25.9%の順となっています。
- その他の媒体の“利用率”は、「情報サロン」が6.5%、「ほっと情報メール」が12.9%となっています。

図表 VI-21 情報提供媒体の利用状況



① 広報いわくら

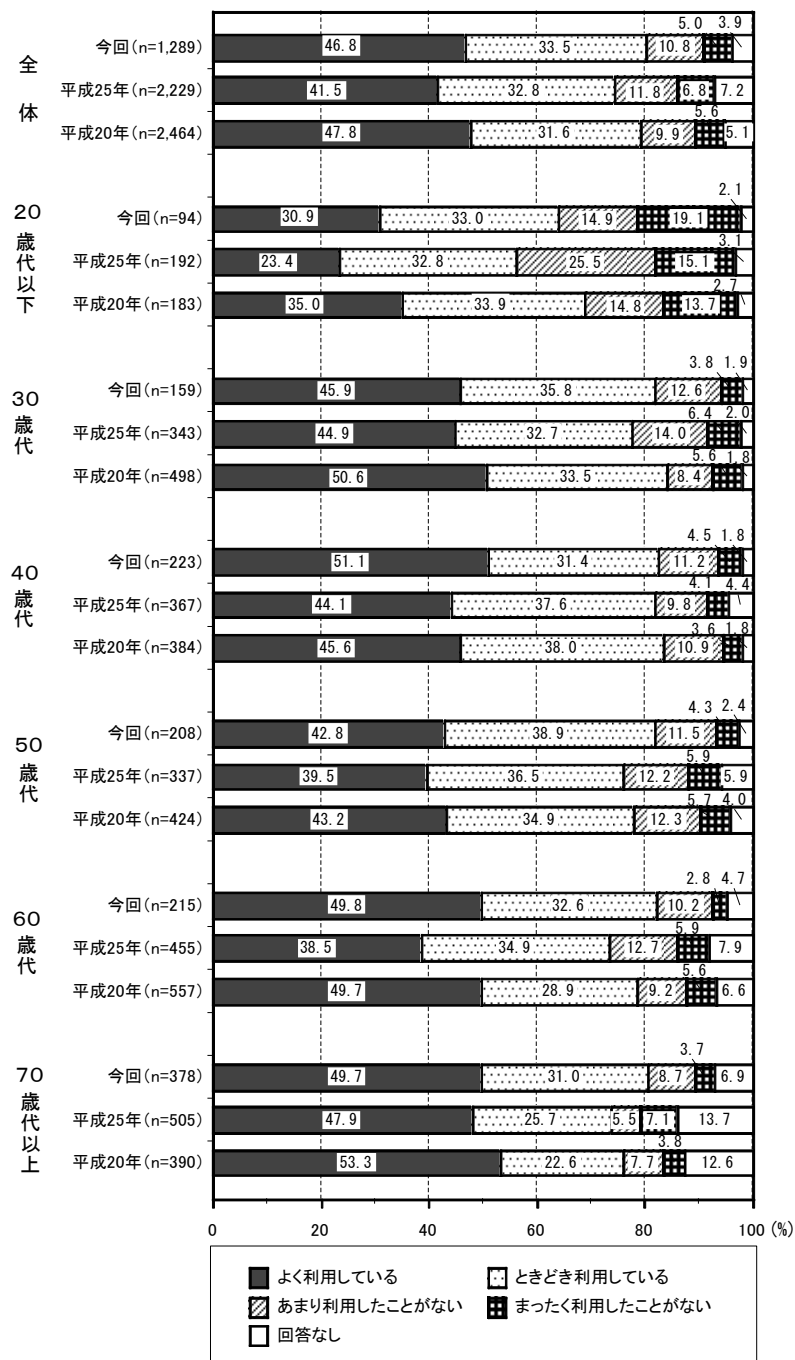
【経年比較】

○平成 25 年調査と比較すると、各年齢層とも“利用率”は上昇傾向にあります。
 平成 20 年調査と比較すると、50 歳代～70 歳以上以上で“利用率”がやや上昇した一方で、40 歳代以下では減少しています。

【年齢別】

○20 歳代以下では“利用率”が 63.9%と、他の世代と比較して低くなっており、「まったく利用したことがない」との回答は 19.1%で、他の世代と比較して 10 ポイント以上高くなっています。

図表 VI-22 「広報いわくら」の利用状況（年齢別）



② 岩倉市のホームページ

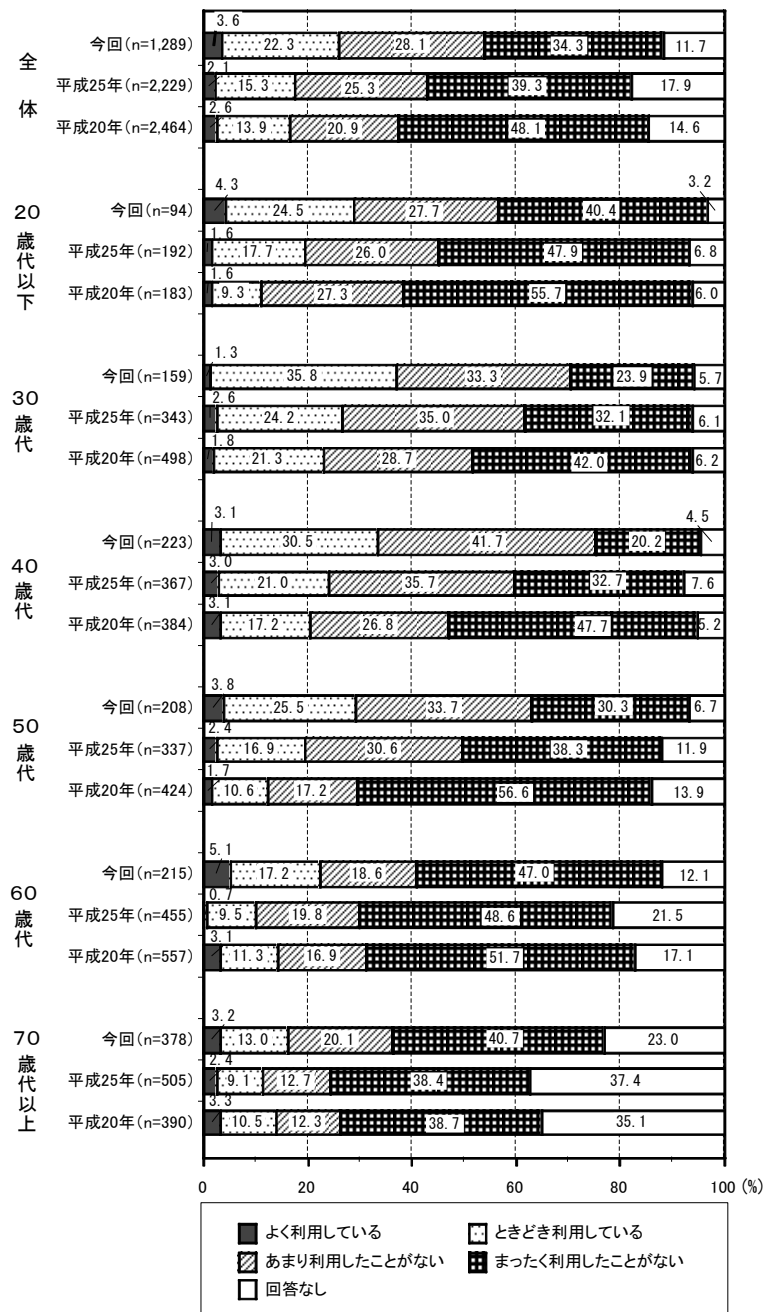
【経年比較】

○平成 20 年調査及び平成 25 年調査と比較すると、各年齢層とも“利用率”は上昇する傾向にあります。特に 20 歳代以下では、“利用率”が平成 20 年調査で 10.9%であったものが今回調査では 28.8%と、17.9 ポイント増加している点が特徴です。

【年齢別】

○“利用率”は 30 歳代が 37.1%で最も高く、次いで 40 歳代の 33.6%、50 歳代の 29.3%、20 歳代以下が 28.8%の順となっており、若年層の利用率が高くなっています。

図表 VI-23 「岩倉市のホームページ」の利用状況（年齢別）



③ 情報サロン

【経年比較】

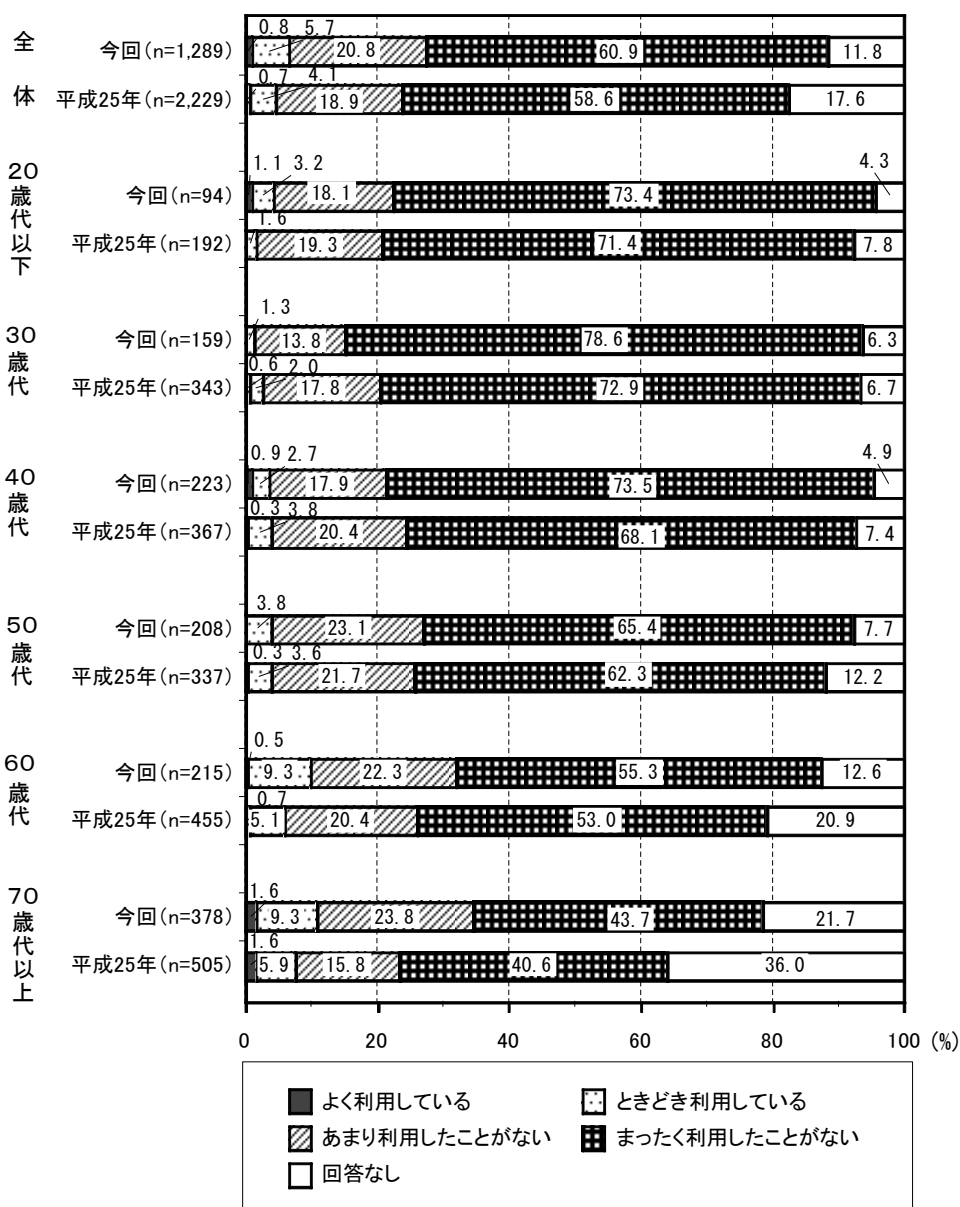
○平成 25 年調査と比較すると、20 歳代及び 60 歳代、70 歳以上では“利用率”が上昇しています。

【年齢別】

○70 歳以上では“利用率”が 10.9%、60 歳代でも 9.8%と、高齢者の“利用率”が高くなっています。

○「まったく利用したことがない」との回答は、30 歳代が 78.6%で最も高く、次いで 40 歳代の 73.5%、20 歳代以下が 73.4%の順となっており、若年層の利用は少なくなっています。

図表 VI-24 「情報サロン」の利用状況（年齢別）

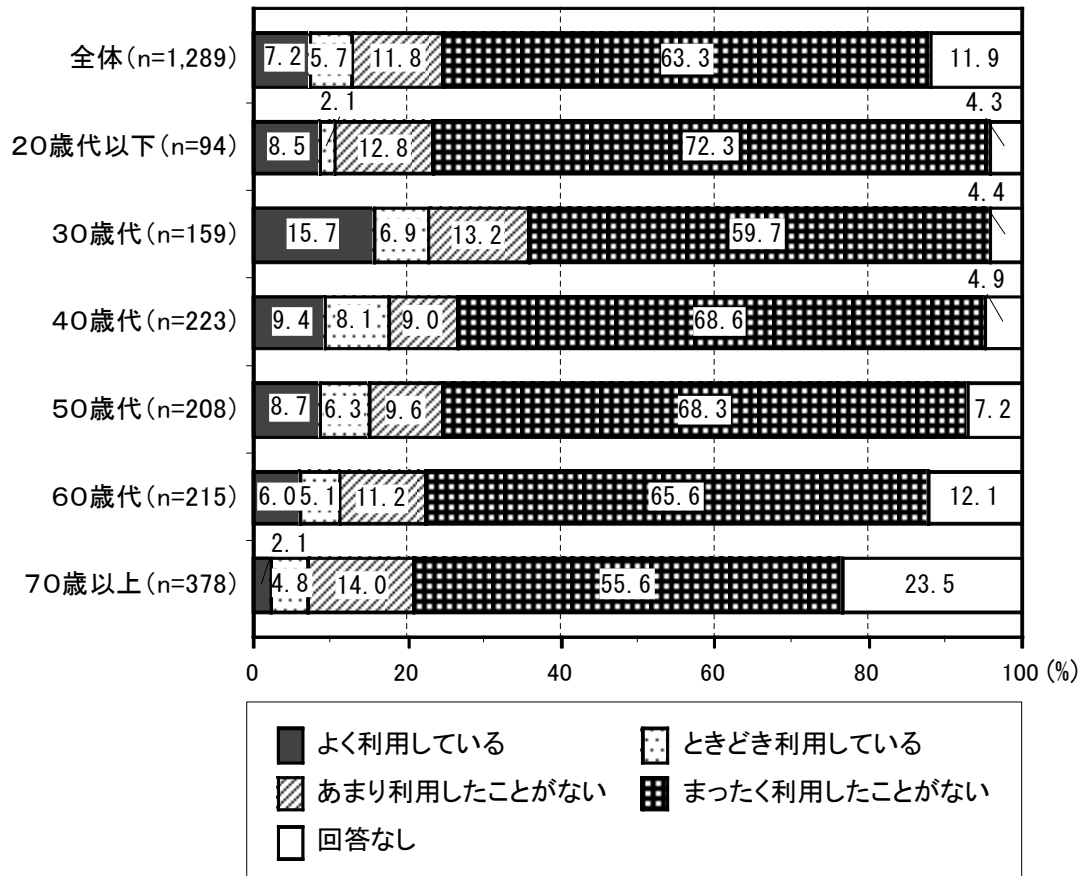


④ ほっと情報メール

【年齢別】

○30歳代では「よく利用している」との回答が15.7%と、他の年齢層と比較して際立って高くなっています。また、「ときどき利用している」を合わせた“利用率”も22.6%と30歳代が最も高く、次いで40歳代の17.5%、50歳代が15.0%の順となっています。

図表 VI-25 「ほっと情報メール」の利用状況（年齢別）



(12) 情報提供に対する要望 (問 47)

問 47

岩倉市に対して、今後どのような情報提供を充実してほしいと思いますか。
【〇は3つまで】

88.9%の市民が、情報提供を充実してほしいと回答しています。

充実してほしい情報としては、「いろいろな災害に備えるために必要な情報」と「救急医療などの医療機関に関する情報」がともに 29.1%で最も高く、安全・安心に関わる項目の割合が高くなっています。

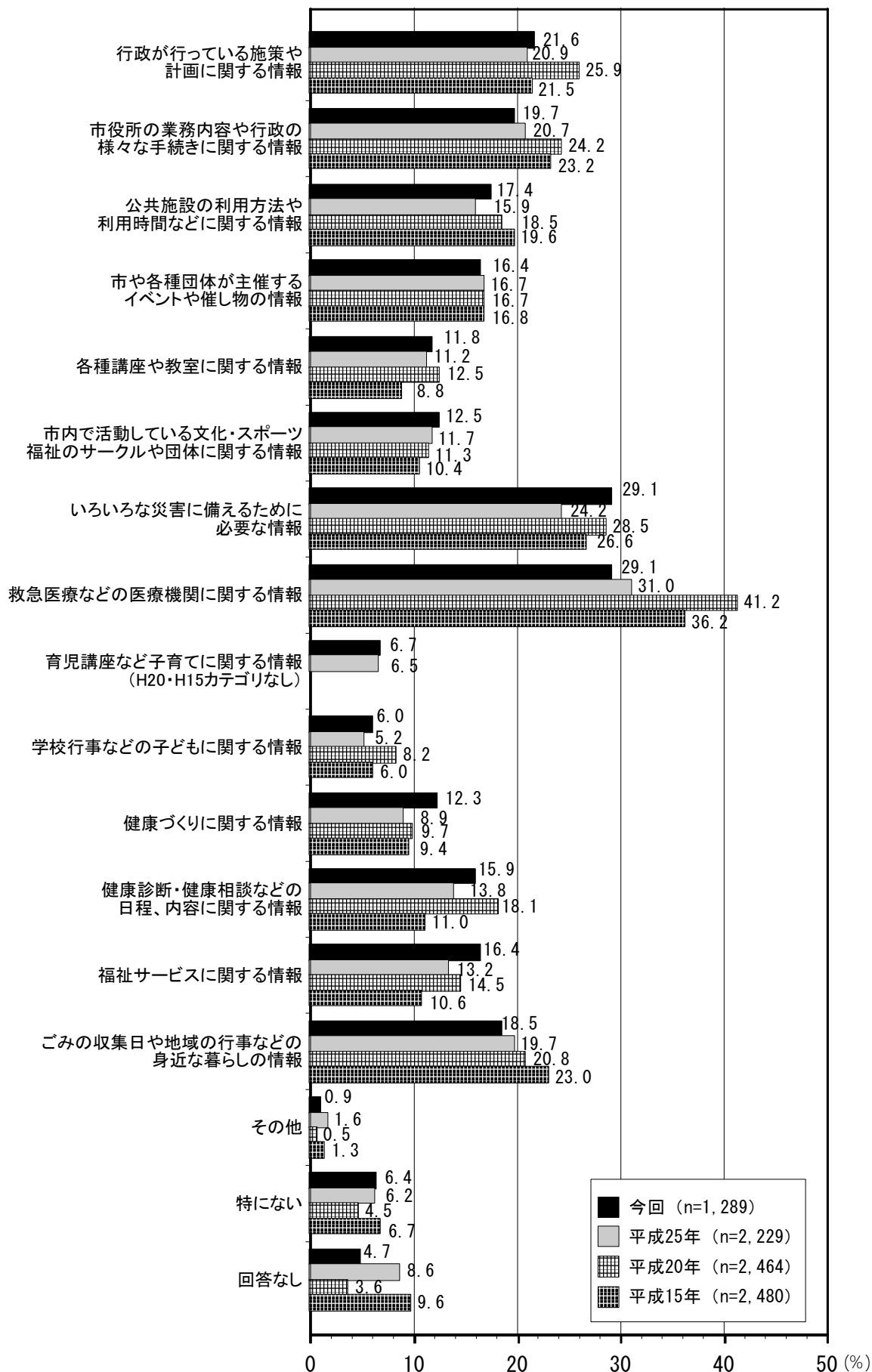
【全体】

- 「特になし」の 6.4%と、「回答なし」の 4.7%を合わせた 11.1%を除いた 88.9%の市民が、情報提供を充実してほしいと回答しています。
- 充実してほしい情報としては、「いろいろな災害に備えるために必要な情報」と「救急医療などの医療機関に関する情報」がともに 29.1%で最も高く、安全・安心に関わる項目の割合が高くなっています。
- 次いで、「行政が行っている施策や計画に関する情報」が 21.6%で市政に関する情報提供を求める市民の割合も高くなっています。
- 以下、「市役所の業務内容や行政の様々な手続きに関する情報」が 19.7%、「ごみ収集日や地域行事などの暮らしの情報」は 18.5%、「公共施設の利用方法や利用時間に関する情報」が 17.4%の順となっており、行政サービスの提供に関する情報が上位を占めています。

【経年比較】

- 医療や防災といった、市民生活の安全・安心に関する項目が上位となっている点については、大きな傾向の変化はみられません。
- 平成 25 年調査と比較して増加した項目をみると、「いろいろな災害に備えるために必要な情報」が 4.9 ポイントで最も、「健康づくりに関する情報」が 3.4 ポイント、「福祉サービスに関わる情報」が 3.2 ポイントの順となっています。
- 長期的にみると、回答割合が低下傾向にある項目と、横ばいまたは微増の項目に大別されます。平成 20 年調査と比較して、回答割合の減少が最も大きかったのは「救急医療などの医療機関に関する情報」で、41.2%から 29.1%まで 12.1 ポイント減少しています。次いで、「市役所の業務内容や行政の様々な手続きに関する情報」が 24.2%から 19.7%へ 4.5 ポイント減少、「行政が行っている施策や計画に関する情報」が 25.9%から 21.6%へ 4.3 ポイント減少の順となっています。

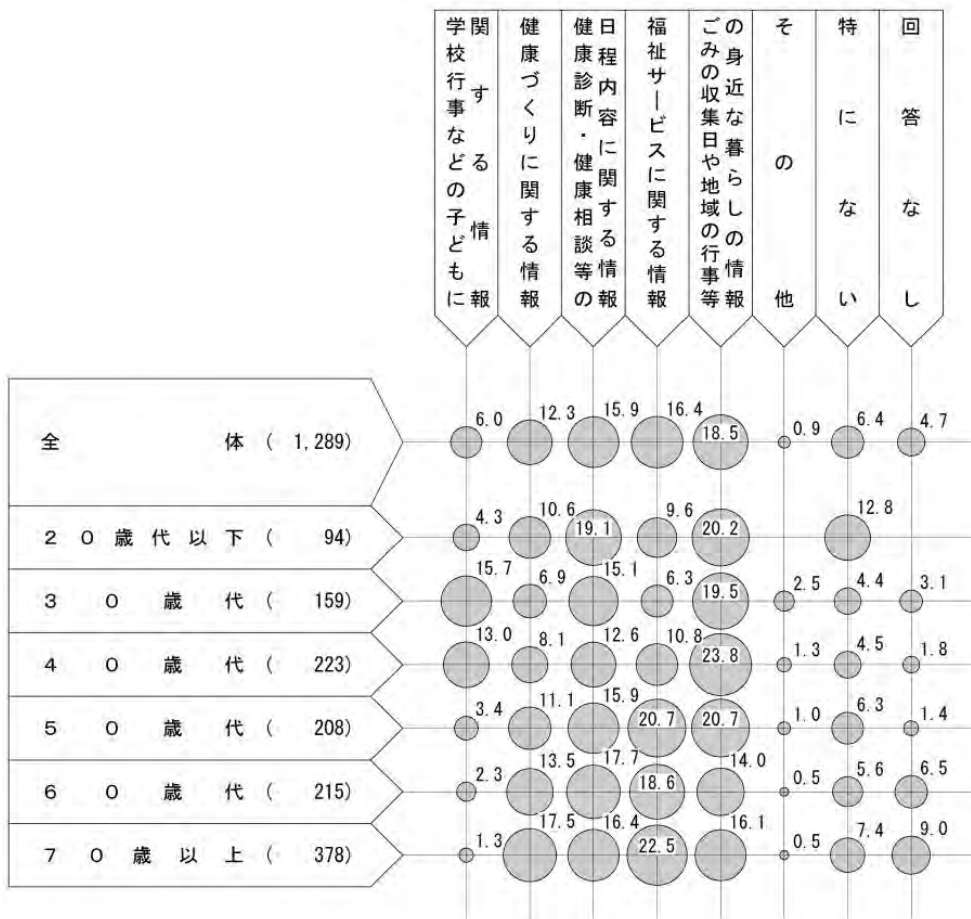
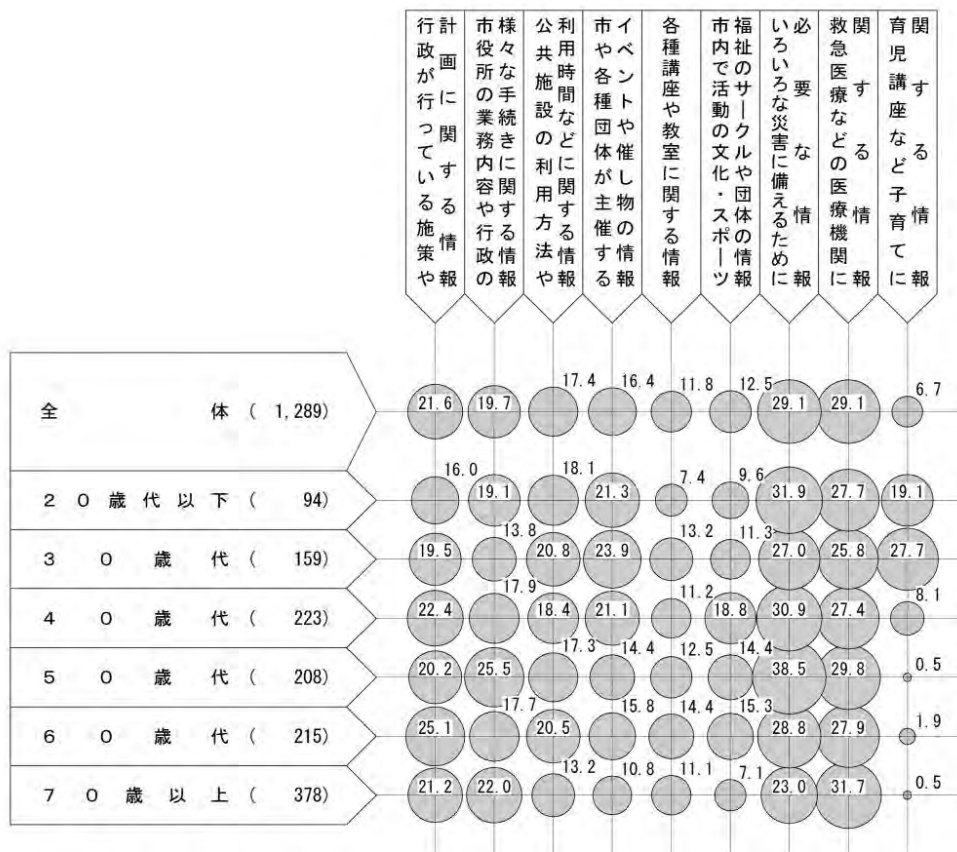
図表 VI-26 情報提供に対する要望（経年比較）



【年齢別】

- 全般的に、年齢層によって差がみられる項目が多く、それぞれのライフステージに合った情報提供が求められています。
 - 「育児講座など子育てに関する情報」は、乳幼児や小学生の子を持つ割合が高い30歳代で27.7%、20歳代以下が19.1%と、全体平均の6.7%と比べて際立って高くなっています。同様に、「学校行事などの子どもに関する情報」は、学齢期の子を持つ割合が高い30歳代で15.7%、40歳代でも13.0%と、全体平均の6.0%と比べて高くなっています。
 - 一方で、「福祉サービスに関する情報」については、70歳以上が22.5%で最も高く、全体平均の16.4%と比べて6.1ポイント高く、最も低い30歳代の6.3%とは16.2ポイントの差がみられます。
 - 「特にない」との回答は20歳代以下が12.8%と唯一10%を超えており、全体平均の6.4%と比べて6.4ポイント高くなっています。
-

図表 VI-27 情報提供に対する要望（年齢別）



Ⅶ. まとめ

—第5次総合計画策定に向けた主な課題—

VII. まとめ—第5次総合計画策定に向けた主な課題

本章では、アンケート調査の結果と社会の動向等から浮かび上がってきた第5次総合計画の策定において考慮すべき主な課題を整理すると、次の①～⑪のとおりです。

表 VII-1 アンケート結果から浮かび上がった主な課題

- | |
|---|
| ①全般的に高まる周辺の生活環境評価と求められる安全・安心に関する生活環境の改善 |
| ②相対的な優位性がさらに低下している岩倉東小学校区への対応と依然として残る地区間格差の改善 |
| ③持続的なまちの発展のための都市開発・住宅地の形成 |
| ④安全・安心施策の充実—防災対策 |
| ⑤安全・安心施策の充実—防犯対策・交通安全対策 |
| ⑥安全・安心施策の充実—誰もが医療が受けられるような情報提供 |
| ⑦超高齢化社会に対応した地域社会づくり—地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会の実現 |
| ⑧人生100年時代を健康で幸せに生きる健幸のまちづくりの実現 |
| ⑨子どもの地域生活の安全確保を含めた子育て支援策の充実 |
| ⑩地球規模の視野に立った環境問題と持続可能な開発目標（SDGs）への対応 |
| ⑪参画と協働のさらなる活性化と市民自治の強化 |

①全般的に高まる周辺の生活環境評価と求められる安全・安心に関する生活環境の改善

- 岩倉市に対する総合的な住みやすさの評価は、少しずつではあるものの平成10年以降一貫して高まっており、“住みよいの評価”は79.5%を占めるに至っています。
- また、お住まい周辺の生活環境に対する市民の評価についても前回調査よりも全般的に高まっており、全26生活環境項目のうち、18項目が前回調査よりもポイントが増加しています。
- 特に、「犯罪・暴力からの安全性」や「騒音・振動など自動車公害の少なさ」、「大気汚染・水質汚濁など工場公害の少なさ」など、生活上の安全・安心に関する事項の評価が前回調査よりもポイントアップしました。
- その一方で、「道路の歩行者の通行の安全性」をはじめ、「道路の広さ」や「道路の自転車の通行の安全性」といった交通安全に関する身近な生活環境評価は依然としてマイナスとなっています。また、「浸水や地震などの地域防災体制」の評価も依然として低い状況にあります。
- このようなこともあり、Ⅱ.の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、暮らしの安全・安心に関する事項が優先度の高い“重点改善施策項目”として多くの市民から重要視されています。
- 具体的には、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」や「地震や浸

水などの防災対策」が多くの市民から重要視されています。また、「犯罪・暴力からの安全性」の評価は高まったものの、その順位は 26 項目中 16 位と中位にとどまっていることもあり、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」についても優先度の高い“重点改善施策項目”として多くの市民から重要視されています。

- 以上のように、総合的な住みやすさや身近な生活環境に対する市民の評価は一般的に高まっていますが、主として安全・安心に関する生活環境の向上が依然として解決すべき課題として残っています。

②相対的な優位性がさらに低下している岩倉東小学校区への対応と依然として残る地区間格差の改善

- （１）で記述したとおり、一般的に身近な生活環境に対する評価は高まっています。
- しかしながら、身近な生活環境の評価は、今でも岩倉東小学校区が高いものの、かつてのような岩倉東小学校区だけが突出して高いという傾向が影を潜めてから久しくなっています。
- また、Ⅱ. の 3. の「（１）住む場所としての評価」でみたように、子育てするまちとしての評価と児童・生徒・学生が生活するまちとしての評価については、5 小学校中最下位になってしまっています。近所付き合いの程度も岩倉東小学校区では、5 小学校中で最も低くなっています。
- さらに、総合的な住みやすさの評価は全市的には一貫して高まっているにもかかわらず、岩倉東小学校区では、平成 15 年調査の 32.7%から今回の調査では 21.5%と、11.2 ポイントも減少しており、5 小学校区の中で最下位になっていません。賃貸住宅が多くを占めている小学校区ではあるとはいえ、定住意向についても 5 小学区の中でも最も低水準になっています。
- 以上のように、かつては群を抜いて生活環境面等の評価が高かった岩倉東小学校区の優位性はさらに低下しています。児童数が少ない状況も続いています。その背景として考えられることは、岩倉東小学校区内にはUR都市機構岩倉団地があり、建物の老朽化と高齢化が年々進行しており、暮らしにくくなってきていることや、依然として外国人居住者が多く居住する学区であり、多文化共生が課題となっていることがあげられます。
- このまま放っておくと、UR都市機構岩倉団地についても全国各地の郊外団地で起こっているような問題がさらに顕在化することが懸念されることから、岩倉団地の再生と居住環境の向上や子育て世代が暮らしやすいまちづくりの推進などが求められます。
- 一方、岩倉東小学校区の評価だけがかなり突出するような傾向が薄れたことは、都市としての成熟度が増す中で、生活環境も平準化してきた側面としてプラスとして捉えることができますが、中には、「歩行者の通行の安全性」をはじめ、「駅・バス停への近さ」や「地元・地域との人間関係」、「喫煙マナー」など、地域間格差が広がっているような生活環境項目もあり、その改善が課題として浮かび上がってきています。

③持続的なまちの発展のための都市開発・住宅地の形成

- Ⅱ. の 3. の「(2) 岩倉市の魅力」でみたように、「交通の便が良い」(70.6%) が岩倉市の最大の魅力になっています。「日常の買い物が便利」(58.2%) も大きな魅力になっています。
- また、Ⅱ. の 3. の「(1) 住む場所としての評価」でみたように、「子育てするまち」や「児童・生徒・学生が生活するまち」として子育て世代の市民を中心に比較的高い評価が得られています。
- このように本市は、名古屋から交通至便なところに位置し、子育て世代にとって住みやすいまちです。
- ところが、実際は、子育て世代(30歳代から40歳代前半)の人口流出が恒常化している状況です。市域が狭く、人口密度が高いために戸建て住宅が取得しにくい本市の構造的な問題がこのような状況を生み出している大きな原因となっているものと考えられます。
- そこで、都市としての発展・活力と持続的な都市経営を図っていくためには、子どもや子育て世代が一定の割合で居住し続けている状況を創り出し、バランスある人口構成を将来にわたって維持・発展させていくことが必要不可欠です。
- このためには、子育て世代が住宅を取得して住み続けられるような市街地開発、住宅地の形成を進めるなど、②で述べた岩倉団地の再生も視野に入れつつ、子育て世代を中心とした移住定住の受け皿を確保していくことが重要な課題の一つであると言えます。
- Ⅴ. 「(3) 岩倉駅東地区のあり方」でみたように、岩倉市の玄関口である岩倉駅東地区の今後のあり方としては、「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」(45.5%) をあげる市民が最も多く、次いで「道路が整備されて交通の流れがスムーズになる」(38.2%) や「駅のまわりが賑やかになり、まちに活気が生まれる」(36.1%) が多く、主に利便性や賑わいに対する期待が大きくなっています。一方、「マンションなどが増えてまちなか居住者が増える」との回答は、30歳代では11.9%みられるものの、全般的に期待は高くありません。
- ところが、商業集積地である名古屋から特急で11分という好立地であるがゆえに、岩倉駅東地区に商業的なにぎわいを創出することは経済原理からすればあまり現実的ではないと考えられます。
- 2027年に開業が予定されているリニア中央新幹線のインパクトとして、本市では、名古屋市内より好条件の居住地と不動産価格等コスト面での優位性を活かして、首都圏からの移住者増加も見据えた積極的な受入誘致の取組について検討を進めていくことが期待されています。
- そこで、市民が期待しているような商業的なにぎわい創出ではなく、こうしたリニアインパクトを活かし、子育て世代を中心とした移住定住の受け皿の整備を行っていくことを視野に岩倉駅東地区のあり方を検討していく必要があると考えられます。

④安全・安心施策の充実－防災対策

- Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」や「地震や浸水などの防災対策」、「犯罪・暴力からの安全性」といった暮らしの基本的要素である安全に関する事項が多く、多くの市民から重要視されています。
- 防災対策については、Ⅴ. の「(2) 災害のための取組の実施状況」でみたように、84.6%の市民は、災害や緊急時のために備えをしていると回答しており、「食料や飲料水、日用品などの準備をしている」についても50.4%の市民が実行しています。
- しかしながら、残りの半数近くの市民は“食料や飲料水、日用品などの準備をしていない”ことを示唆する結果としても捉えることもできます。
- 岩倉市は「東海地震にかかる地震防災対策強化地域」には指定されていませんが、「東南海・南海地震に係る地震防災対策推進地域」(平成15年12月)に指定されており、最大震度6強の揺れが発生すると予測されています。
- こうした大規模災害発生時には、食料・飲料・生活必需品などの備蓄は1週間分が望ましいとされており、こうした自助努力はもとより、減災対策や防災訓練の充実など「災害予防対策」、救援活動など災害発生直後に求められる「応急対策」、災害後しばらくしてから必要となる「復旧対策」など多段階的・多面的な防災対策を引き続き充実する必要があります。

⑤安全・安心施策の充実－防犯対策・交通安全対策

- ①でも述べたように、周辺的生活環境に対する市民の評価のうち「犯罪・暴力からの安全性」に対する評価は上昇しましたが、26項目中16位と高水準の評価が得られているとは言えません。
- 子どもが被害者となるような犯罪が全国的にみて依然として少なくない状況や、凶悪犯罪や振り込め詐欺等の犯罪が全国的に頻発している状況も背景となっており、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」が施策の優先度の上位3番目になっています。
- “地域コミュニティに勝るセイフティネットは無し”と言われてるように、防災と同様に防犯も地域コミュニティや市民の役割が重要であることから、それぞれの地域が地域コミュニティの力を発揮しつつ、警察等とも連携しながら防犯対策を進めていく必要があります。
- また、先にもふれたように、「道路の歩行者の通行の安全性」や「道路の自転車の通行の安全性」といった交通安全に関する身近な生活環境評価は依然としてマイナスとなっているとともに、「子どもの遊び場の安全性」や「通学路の安全性」も高水準の評価が得られているとは言えない状況が続いています。このような状況にあることから、Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」が施策の優先度のトップになっています。
- 市域が狭く、道路整備・道路拡幅やすべての道路における歩道の設置は物理的

にも財政的にも困難であることから、カラー舗装の整備や「ゾーン 30」の設定、道路規制なども含め、ハード・ソフト両面の交通安全対策を引き続き実施していくことが求められます。

⑥安全・安心施策の充実－誰もが医療が受けられるような情報提供

- Ⅱ. の 3. の「(2) 岩倉市の魅力」でみたように、調査を開始以来、一貫して魅力がない点の第 1 位となっていた「医療施設が整っていない」(28.5%) が、平成 20 年の調査以降では一貫して 5 位にとどまっています。しかも、「医療施設が充実している」が、魅力がある点の第 8 位に浮上しています。これは、市内各所で新たな診療所・クリニックが開設されたことや、広報紙等によって医療情報の提供等を行ってきたことが多分に影響しているものと考えられます。
- しかしながらその一方で、Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「医療機関との連携」が 4 番目に優先度の高い施策として多くの市民から重要視されています。また、Ⅵ. の「(12) 岩倉市の情報提供への要望」でみたように、「救急医療などの医療機関に関する情報」は、以前よりもその割合は大幅に低下しているとはいえ、「いろいろな災害に備えるために必要な情報」と並んで最も多くの市民から望まれています。

⑦超高齢化社会に対応した地域社会づくり－地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会の実現

- 団塊世代のすべてが後期高齢者になる 2025 年問題が控えている中、地域包括ケアシステムの構築がいられています。
- “愛知県下でも高齢化率の低いまち”という時代は終焉を迎え、本市の高齢化率は今や愛知県の平均を上回っています。しかも、介護需要が高まる後期高齢者の人口は、ここ数年以内で前期高齢者の人口を上回り、令和 12 年(2030 年)に一旦ピークを迎えるものの、2040 年以降再び増加に転じることが予想されています。また、世帯の小規模化(高齢夫婦世帯や高齢単身世帯の増加)が同時進行しています。
- こうした状況にある中、長い将来にわたって介護需要が増大していくことが懸念されます。
- このようなこともあり、Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「高齢者福祉の充実」が優先度の高い“重点改善施策項目”の第 6 位になっています。また、Ⅲ. の「(11) 高齢者福祉に関する施策への要望」でみたように、「特別養護老人ホームやデイサービスなど介護サービスを充実する」(40.9%)をはじめ、「道路の段差解消など、高齢者が安心して外出できるまちづくり」(33.0%)や「高齢者の就労機会を充実する」(32.7%)などの施策要望が多くなっています。
- このような高齢者問題だけではなく、ダブルケアや 8050 問題への対応、増加傾向にある生活困窮者や障害をかかえている人々の地域社会における包摂が課題であり、「丸ごと」と「わが事」を前提とした「地域共生社会」の実現が求めら

れており、支え合い・助け合いの地域福祉活動の推進とそのため仕組みづくりが大きな課題となっています。

⑧人生 100 年時代を健康で幸せに生きる健幸のまちづくりの実現

- Ⅲ. の「(1) 健康状態」でみたように、「家族全員が健康である」が安定して過半数を占めていますが、高齢化の進行の影響もあって、「病気やけがで通院している家族がいる」との回答は 23.7%と、平成 15 年調査の 18.6%から一貫して増加しており、平成 15 年調査と比較して 5.1 ポイント上昇しています。
- このような状況にある中、多くの市民が食生活への注意や休息、軽い運動などをはじめとした健康維持・増進に心がけています（Ⅲ. の「(6) 健康維持・増進のための行動」）。
- 健康づくりの一側面として、スポーツを行っている頻度についてみると（Ⅲ. の「(3) スポーツ・運動の実施」）、「月に 1 回以上スポーツを行った」という市民は 48.3%と半数近くみられるものの、「スポーツ・運動をしなかった」と回答した市民（38.5%）3 分の 1 を超えており、運動習慣が身につけていない市民は、特に女性や 50 歳以下の年齢層において多くなっています。
- 市民の健康を保つためには、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、健康状態を知った上で、適正な食習慣と運動習慣を身に付け日頃の健康づくりに取り組むことが必要です。そのためには、市民が、個人、家庭、職場、地域などの様々なライフスタイルの中で、健康診査や医療相談等を通じ、定期的に自分の健康状態を知ることが大切です。また、その結果を踏まえ、健康増進活動を個人や集団で日常的に取り組むことが必要です。
- 本市では、平成 30 年（2018 年）12 月 1 日に「健幸都市いわくら」を宣言し、五条川健幸ロード整備や健幸づくり応援事業を実施しています。
- これからも、人生 100 年時代がいわれるこれからの時代を見据え、市民一人ひとりが夢と希望を持って自分らしく充実した人生を健康的に送ることができるようにするために、健康寿命の延伸を目指して、各種保健事業はもとより、生涯スポーツと連携した身体健康づくり、生涯学習と連携した心や知の健康づくり、生きがいの醸成を進めていく必要があります。

⑨子どもの地域生活の安全確保を含めた子育て支援策の充実

- 本市では、第 4 次岩倉市総合計画で「まちづくり戦略 2：子育て世代の移住・定住（世代循環）を促す」を掲げ、また、その後に策定した岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「子育て世代 住みたいまち No. 1 ー子育て世代安心応援戦略ー」を基本目標の一つとして掲げて、私立保育園整備や幼稚園の認定こども園への移行等による保育利用定員の拡大や病後児保育事業の実施、放課後児童クラブ施設整備及び定員拡大など子育て支援施策を展開してきました。
- しかしながら、少子化傾向にありながら、保育需要の拡大は依然として進んでいます。また、子育て世代の移住定住は、今なお重要な課題の一つとして残っています。

- 先にみたように、「子どもの遊び場の安全性」の生活環境評価については、高水準の評価が得られているとは言い難い状況が続いています。
- また、子育てに関する施策としては、「子育てしながら働き続ける環境の整備」(28.0%)や「休日保育や一時保育・病児保育など多様な保育サービスの充実」(25.2%)、「安心な子どもの遊び場などの整備」(26.8%)、「子どもを犯罪・交通事故などから守る地域環境の整備」(24.8%)といったように、子どもの保育と安全の確保に関する項目が上位を占めています(Ⅲ.の「(10)子育てに関する施策への要望」)。
- 以上のことから、子どもの遊び場や地域環境の安全性の確保含めた子育て支援が重要な課題になっていると言えます。

⑩地球規模の視野に立った環境問題と持続可能な開発目標(SDGs)への対応

- 大量生産・大量消費・大量廃棄などを背景に地球温暖化をはじめとした地球規模での環境問題が以前にも増して深刻化しています。
- V.の「(1)環境のための取組の実施状況」でみたように、「地域のごみの分別ルールを守る」(81.2%)をはじめ、「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶等はリサイクルに回している」(76.4%)、「過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋を持参する」(70.8%)、「食べ残しなどによる生ごみの減量化に努める」(50.1%)といった、ごみの分別やリサイクル、買い物袋の持参や生ごみの減量化などの取組についてはかなり定着しています。
- しかしながら、「地域の環境保全活動に参加する」(3.9%)や「環境に配慮する企業の商品を優先的に購入する」(7.4%)、「自宅に太陽光発電、燃料電池や蓄電池などの設備を設置する」(7.5%)、「電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など環境性能の高い自動車を購入する」(7.6%)など、地域の環境保全活動やグリーン購入、機器やエコカー導入などに取り組んでいる市民はあまり定着していない状況にあります。
- プラスチックごみによる海洋汚染問題や地球温暖化対策が世界的な課題となっており、コンパクトなまち岩倉としても国際的な共通目標である持続可能な開発目標(SDGs)に対応していくなど、「Think Globally Act Locally(地球レベルで考え、地球レベルで行動する)」をモットーに環境問題の解決に向けた地域的な取組が求められます。

⑪参画と協働のさらなる活性化と市民自治の強化

- VI.の「(8)市民活動や地域活動の参加状況」でみたように、市民活動や地域活動に「すでに参加している」との回答は18.3%で、「参加しようと思っている」という参加意向の12.2%を含めて、30.5%になっています。そうでないとする市民よりも下回っているものの、平成25年調査よりも僅かながら増加しています。
- これは、第4次総合計画に基づき、市民活動助成制度の創設、自治基本条例や市民参加条例の制定など、市民活動の支援や市民参加を推進してきたことによるものであると考えられます。

- しかしながら、自治基本条例や市民参加条例の認知度は、ともに3割を下回っており、市民へのより一層の浸透が求められます。
- また、VI. の「(10) 行政サービスと市民負担のバランス」でみたように、「行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により財源を生みだすべき」が25.0%で依然として最も多いものの、平成25年調査から9.2ポイント減少しています。一方で、「行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない」、「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」が共に増加しています。
- これは、人口構造が大きく変化し、行政経営が益々厳しくなる中で、一定の負担や痛みを市民も共有することを受容しながら行政経営をしていくことに対する理解が広がったことを示すものと考えられます。
- これまで本市では、「多様な縁で創る 『役立ち感』に満ちた市民社会をめざす」を第4次総合計画の基本理念として掲げ、参画と協働によるまちづくりの進化に努めてきましたが、防災・防犯や環境問題への対応、地域共生社会の実現に象徴される行政だけでは解決できないような地域課題が顕在化する中で、人口減少時代・超高齢社会に耐えうる社会システムを構築し、持続可能な自治体経営・地域経営を推進していくためには、新たな次元の市民参画と市民協働を推進することによって市民自治を強化していく必要があると考えられます。

VIII. 資料編

VIII. 資料編

1. 自由回答件数（分野別）

分野	項目	件数
健康・福祉	健康	12
	市民福祉	19
	社会保障	3
環境・緑地・安全	水辺環境	5
	公園・緑地	21
	環境保全	34
	防災・防犯	30
教育・文化	生涯学習	25
	学校教育	16
交通・都市基盤	交通対策	27
	道路	61
	市街地整備	25
	住宅	4
	景観形成	1
	上水道	1
	下水道	3
産業・交流	農業	3
	工業	1
	商業	16
	消費生活	0
	勤労者福祉	0
	観光・交流	12
協働・行政経営	市民協働・地域コミュニティ	15
	男女共同参画	0
	国際交流・多文化共生	4
	平和行政	1
	広報・広聴	10
	情報公開・個人情報保護	0
	行財政運営	51
その他	市民生活全般	22
	アンケート関連	36
全体		458

2. 自由回答一覧

分野	内容
健康	不妊治療、体外受精に関する助成金制度を導入してほしい。
健康	行政施設が少ない。特に、医療機関が少ない。総合病院が必要。
健康	総合市民病院を設置する。開業医情報の共有化。
健康	救急車を受け入れることができる総合病院を造ってほしい。
健康	地区保健推進委員の指導によるラジオ体操を各公園で行い、誰でも参加できるようにするとよい。
健康	健康で文化的なまちづくりに期待する。
健康	8020の記念品におしゃれな時計が出されていたが、生活に役立つ品がよいと思う。
健康	近くに産婦人科がないので市民病院がほしい。
健康	子宮がん検診を毎年受診できるようにしてほしい。
健康	検診のメニューに有料でもよいので腫瘍マーカーを加えてはどうか。
健康	本町在住であるが、保健推進員のなり手がなく、次期、推進員の確保に苦勞している。参加者が1、2名の毎月の体操教室などでの必要性に疑問を感じる。もう一度、推進員のあり方を再検討してほしい。
健康	財源的に厳しいとは思いますが、公的な病院がないのは不便。
市民福祉	共働きで子育てをしているが、大変ハードに感じている。他市より子育てしやすいのかもしれないが、他市のことを知らないので分からない。
市民福祉	保育園に希望者が必ず入れるようにしてほしい。老人よりも未来ある子どもにやさしい、子育てしやすいまちにしてほしい。
市民福祉	私たち夫婦は高齢で、子供たちも離れて暮らしており、不安な毎日なので何かあった時に駆けつけてくれる人がいるとよいと思う。
市民福祉	老後の生活、障害者の生活が一人になった時不安。
市民福祉	高齢になっても買い物、医療、福祉を充実して、生活できるようにしてほしい。
市民福祉	子どもの一時預かり、リフレッシュ保育の規則と日数を緩くしてほしい。
市民福祉	高齢化社会に向けた雇用の充実。
市民福祉	全学区の学童受け入れ学年を6年生までにしてほしい。
市民福祉	ファミリーサポートはもう少し迅速に対応してほしい。17時以降だと受け入れ者が少ないと言われた。積極的に引き受けてくれる人を募集してほしい。また、30分から使用できるようにしてほしい。
市民福祉	公立保育園に駐車場がほしい。
市民福祉	子育てに優しいまちであってほしい。
市民福祉	子育て支援センターの老朽化をなんとかしてほしい。
市民福祉	子育てに関して相談した際、親御さんに預けたらどうかとアドバイスされたことがあった。自分は県外出身で友人がいないが、市の職員はそのような市民はいないと思っているのだろうか。働かずに家庭保育している親は医者にかかることも息抜きすることもできない。一時保育に枠が取れず民間の託児施設もないが、この点は北名古屋市や江南市に劣っていると思う。地元出身の人が戻って来て住み続けることを望むよう

	なまちづくりなのかと疑問に思う。
市民福祉	少子高齢化対策の議論をお願いする。
市民福祉	各地で障害者の就労継続支援事業所が倒産している。障害者の就労の場を充実すべき。一般企業での障害者枠の拡大。
市民福祉	子育て支援センターの規模が小さく、施設内の遊具や玩具が他市と雲泥の差がある。(工作室、飲食室、おむつ替えのトイレ、幼児用の便座もない)
市民福祉	兄弟で幼稚園や保育園に通う時、上の子が小学3年生までにいないと補助が出ないのはおかしいと思う。上の子の年齢に関係なく、2人目、3人目以降も負担が軽くなるようにしてほしい。
市民福祉	義母は近くで受け入れてもらえなかったのが、犬山の病院に入っている。名古屋市はいろいろな面で充実していると思う。高齢者にやさしいまちづくりをしてほしい。
市民福祉	医療機関を充実させてほしい。
社会保障	生活保護者の手当はもっと厳しくして減額すべき。
社会保障	生活保護受給者の不正受給を徹底監視。
社会保障	年金をもっと出してほしい。
水辺環境	岩倉といえば五条川の桜だと思うが、老木が目立ち景観が悪化していると思う。整備しないと美観が損なわれるのではないかと心配する。
水辺環境	五条川を美しく綺麗に保つ。
水辺環境	岩倉は桜で有名な市なので、市の活性化のため重点的に五条川を整備してほしい。
水辺環境	恵まれた自然環境と五条川、その堤に咲く桜を子子孫孫まで守り続けることが我々の責務だという気持ちを忘れないでほしい。
水辺環境	岩倉市は五条川を代表に、緑や自然あふれる良い町だと思います。しかし、川の増水などの影響を受けやすい町でもあると思います。用水路の整備をしっかりとさせていただけると良いと思います。
公園・緑地	ウォーキングしやすいように緑や景色がよくなるとよい。
公園・緑地	駐車場を完備した公園がほしい。
公園・緑地	どの公園もボール遊びを禁止しているが、バックネットやコンクリート壁の設置を希望する。
公園・緑地	公園にペットを入れないでほしい。予防接種を受けているかどうか分からないので、子どもたちに何かあったら困る。
公園・緑地	公園が幼児向けでないところが多い。現在の遊具はもう少し新しくしてほしい。
公園・緑地	大人から子どもまで、市民がくつろげる大規模で自然豊かな公園を造ってほしい。(ここでは土日にイベントを開催し、屋台などを出す)
公園・緑地	ボール遊びのできる子どもが遊べる公園がない。
公園・緑地	子どもが遊べる公園の遊具を整備してほしい。
公園・緑地	公園にトレーニングができるような道具があるとよい。市民がウォーキングついでに身体づくりができるように。
公園・緑地	竹林公園などでは、自転車や犬などの禁止看板があるにも関わらず守らない人が多い。

公園・緑地	子どもが安心、安全に遊べる公園を増やしてほしい。
公園・緑地	福祉や健康、身近な暮らしについて考えている。
公園・緑地	近くに公園がないので子どもたちを遊ばせる場所がない。
公園・緑地	駅周辺や大きな道路にいろいろな植物を植えてほしい。
公園・緑地	八剣児童遊園をもう少し充実させてほしい。
公園・緑地	せっかく桜があるので、もっとうまく活用して観光客を増やすとよい。
公園・緑地	石仏グラウンド、中央公園などの駐車場の整備をお願いしたい。
公園・緑地	岩倉の宝は桜であり、子子孫孫まで桜並木を存続させるべきだと思う。
公園・緑地	桜並木の老木が増えているように感じる。桜並木を維持してほしい。
公園・緑地	夜間、五条川沿いをウォーキングするが、街灯周りに枝が生い茂って暗くなっている。防犯のためにも枝を剪定してほしい。
公園・緑地	雑草を定期的に刈る。
環境保全	ゴミの日はルールを守らない人がいるので、汚い。
環境保全	駅周辺の喫煙をなんとかしてほしい。歩きタバコも多い。
環境保全	ゴミの収集について、収集可能なものの規制を緩和してほしい。
環境保全	ゴミ収集場所について、鳥や動物によりゴミが散乱するが、不衛生なので行政として標準化を図ってほしい。一宮市は積極的に行っている。
環境保全	ゴミ集積所がネット1枚でお粗末であり、カラスなどが荒らしている。各戸回収にしてはどうか。
環境保全	歩きタバコやタバコのポイ捨て、荒い運転などのマナーが悪いのでなんとかしてほしい。
環境保全	裏の家の木から落ち葉や雨といへの影響があるが、岩倉市には迷惑防止条例はないのか。無いのであればつくってほしい。
環境保全	歩行者、ドライバーによるゴミ投棄が頻繁に行われている。条例をつくりゴミゼロの市にしてほしい。
環境保全	公園などで開催される盆踊りは騒音で困るので、考慮してほしい。
環境保全	鳩やカラスを撃退するために大きな音を鳴らす人がいる。
環境保全	栄町のカラオケ店の騒音がうるさい。
環境保全	駐車場でBBQをやって大騒ぎしていることがあるが、迷惑。
環境保全	飲み屋の騒音やモラルのなさが近隣住民に迷惑を与えているので、指導してほしい。
環境保全	歩きタバコをする人、公園の鳩に餌をやる人、傘をさして自転車に乗る人がいる。
環境保全	小学校とその周辺を禁煙にしてほしい。側溝に吸殻を捨てている。
環境保全	屋外拡声器の音量が大きすぎるので、もう少し音量を下げてください。
環境保全	休日、小学校で野球を教えている人などが小学校の校門付近に吸殻を捨てて行く。小学校周辺は禁煙にすべき。また、歩きタバコも禁止してほしい。
環境保全	新規に入居する市民にゴミ分別指導を徹底してほしい。
環境保全	保育園や幼稚園の集合場所になっているので、駅周辺のエリアを禁煙にしてほしい。
環境保全	市内全てを禁煙にすべし。
環境保全	路上喫煙を禁止してほしい。

環境保全	体育館周辺の畑の野焼きに迷惑している。見回りや書面で注意してほしい。
環境保全	東海市、豊橋市などのように、資源回収の方法を変更してほしい。
環境保全	有料ゴミ袋は直ぐに破れてしまう。導入当初は今よりも破れにくかった。
環境保全	岩倉市に住みはじめて1か月ほどだが、ゴミの分別が分からない。
環境保全	住みやすいまちではあるが、雑草やゴミのない清潔なまちづくりをしてほしい。
環境保全	ゴミ処理について、他市ではプラスチックや燃えるゴミなどを一緒に処理できるようなところも増えている。岩倉市でも実施してほしい。
環境保全	回覧板で何度注意してもゴミ出しマナーが守られないので、ゴミ収集所を廃止して各戸の前にゴミを出すようにすれば、マナー違反を減らせると思う。
環境保全	不燃物収集を月1回ではなく、週1回にしてほしい。
環境保全	ビン、缶、ペットボトルの回収が週1回だと助かる。
環境保全	歩きタバコを禁止してほしい。
環境保全	ゴミ収集所にカラスがたくさんいて怖い。夜、収集する地域もあると聞く、検討してほしい。
環境保全	ゴミが道路に散乱していて汚い街だと思う。子どものうちから教育すべき。
環境保全	街灯を増やして防犯カメラを設置する。
防災・防犯	空き巣、車上狙いなどの犯罪が起きていることが心配。
防災・防犯	小学生などの乗った自転車がぶつかってくることがあるが、自転車のマナーについて学校で指導してほしい。
防災・防犯	大雨での浸水を心配している。周囲は土盛りをしている。万一、浸水になった時は助けてほしい。
防災・防犯	防犯対策をしっかりしてほしい。これまでに自転車を3回盗まれた。また、1回は空き巣に入られている。警察署がないので、警察に通報しても直ぐ来てもらえない。
防災・防犯	防犯カメラがあると犯罪を防止できると思うので、街路に設置してほしい。
防災・防犯	災害時、ペットも避難できる場所を確保してほしい。また、公園はペット禁止であり、ペットを遊ばせる場所がないのでドッグランをつくってほしい。
防災・防犯	警察署がないので治安が不安。
防災・防犯	台風27号の時、避難場所で検索したら「指定緊急避難及び指定避難所について」のページになり、避難場所に繋がらなかった。災害情報は解りやすくしてほしい。また、水害時の曾野小はふさわしいのか心配。
防災・防犯	幼稚園、保育園、小学校の子どもたちや老人に交通マナーを教育すべき。
防災・防犯	路上駐車など保育園に子どもを送迎している親のマナーが悪い。
防災・防犯	駅周辺で路上駐車が多い。
防災・防犯	耐震対策について、個人まかせではなく一歩踏み込んだ施策が必要。
防災・防犯	災害時の避難場所や避難訓練をやっているのかといったことを知らない。駅のホームやバス停に掲示してほしい。
防災・防犯	駅に向かう車はマナーが悪く、横断歩道に人がいてもスピードを減速しない。
防災・防犯	大規模地震の時は陸路からの支援物資に期待できないので、岩倉の東方にある航空自衛隊の基地と連携する必要がある。

防災・防犯	岩倉団地には交番が必要。
防災・防犯	引っ越ししたばかりだが、交通ルールを守らないモラルの低い人が目立つように感じた。
防災・防犯	各ゴミ集積場の回収作業が遅い。迅速にしてほしい。まるでスラム街である。
防災・防犯	夕方以降、人通りも少なく道も暗く不安なので、街灯、防犯カメラ等を増やしてほしい。
防災・防犯	毎日、五条川をウォーキングしているが、道幅いっぱい広がって歩いている人たちや対向者とぶつかりそうになることがある。歩行のルールを広報等で呼びかけてほしい。
防災・防犯	子どもも大人も安心して道を歩けるように整備してほしい。高齢者が車道を歩いているのをよく見かけるが、危ないと思うことがある。
防災・防犯	路上駐車が多いので、防災、防犯の観点からも減らすことが必要。
防災・防犯	台風、大雨のたびに五条川の氾濫を心配している。安心して住めるように対策してほしい。
防災・防犯	街灯を整備し、パトロールを強化してほしい。
防災・防犯	高齢者の自転車マナーが悪く、運転していてもヒヤヒヤするので、自転車のマナー改善のを指導する場を設けてはどうか。
防災・防犯	小学校の登下校時に起きている犯罪に危機感を感じている。市は具体的にどのような防犯対策をしているのだろうか。集団登校でも最後は一人になるので、もう少し見守りを強化すべきで、何らかの対策は必要だと思う。
防災・防犯	自転車の通行ルールを厳しくしてほしい。
防災・防犯	最近、空き地だったところに住宅が建ち、交通量が増えたのでカーブミラーを設置するなどしてほしい。街は変化していくので、道路が安全かどうか定期的に調べてほしい。
防災・防犯	五条川は小さい川だが、上流の雨水が流れ込むため川が溢れそうになる。防災の点からも整備を願いたい。
防災・防犯	自転車で交通ルールを守らない人が多いと感じる。交通ルールやマナーの啓発に力を入れてほしい。
生涯学習	定年退職したら、市民講座を受けたいと思う。
生涯学習	図書館は大きくして、駐車場も広くしてほしい。
生涯学習	生涯学習センターについて、学びの場、交流の場、活動の場であるはずのこの施設の利用率は低い。アンケートで、なぜ、使われないのかを調査してほしい。もっとPRしたり、高校生以下に無料で開放したり、利用者討論会を開くなどすべきではないか。
生涯学習	マラソン大会を復活してほしい。
生涯学習	児童館は存続してほしい。短時間の子は学校、長時間の子は児童館にしてほしい。
生涯学習	図書館、市民プラザなど公共施設の駐車場は足りない。
生涯学習	図書館の充実。
生涯学習	生涯学習センターの講座時間を見直してほしい。日中の講座ばかりで、仕事をしていると行けないため。

生涯学習	古代東海道 新溝駅は中区古渡ではなく、岩倉たることを証明し織田家本家は伊勢守家であることをPRする。
生涯学習	図書館の児童図書を増やしてほしい。
生涯学習	図書館の本がもう少し増えとうれしい。
生涯学習	図書館を充実してほしい。図書館の充実なくして子どものレベル向上はない。
生涯学習	図書館が小さいと感じる。本が充実していない。学習用途での利用には期待できない。
生涯学習	息子が小さい時、図書館をよく利用していたが、シリーズ物の一部が欠けていたりしたことがあり、残念に思うことがあった。
生涯学習	図書館の本は古いので、新刊を増やしてほしい。
生涯学習	スポーツクラブを誘致し、屋内プールを造ってほしい。
生涯学習	岩倉城の城下町らしさを活かしてほしい。
生涯学習	スポーツジムを充実する。
生涯学習	教育環境、育児に関して全てがおこなわれている。図書館も規模が小さく、設備が古いままであり冷暖房完備の学習ルームもない。
生涯学習	岩倉市民マラソンを10キロメートルにしてほしい。
生涯学習	イベント、スポーツの機会がもっとあるとよい。
生涯学習	市民プールがあればと思う。
生涯学習	ジュニアオーケストラに5年在籍していたが、途中、受益者負担ということで月謝が上がった。受益者負担の意味を間違えていると思う。教育活動にその言葉を持ち込まれると全て負担しなければならなくなる。公立オーケストラの意味がない。
生涯学習	旧岩倉街道沿いの街並みなど、歴史的に価値のある地域、建物が多く、史跡などもあるので街並み整備など、かつての賑わいを取り戻してほしい。
生涯学習	中央公園で球技をする人たちは駐車場に困っている。スポーツ施設に駐車場がないのはいかがなものか。早急に市として対応願いたい。
学校教育	小学校の外のトイレが和式だと高齢者や妊婦、幼児が大変だと思う。
学校教育	小学校へのクーラー設置を早急にしてほしい。
学校教育	小中学校にエアコンを設置してほしい。
学校教育	小学校、小学校の学童に力を入れてほしい。長期休暇の時期に給食を提供してほしい。他市との差別化を図ることで小学生を持つ親が家を買おうとした時、岩倉を選択すると思う。
学校教育	7月に小学1年生の男の子が高温のため亡くなったと聞いた。学校の教室にも早急にエアコンを設置してほしい。
学校教育	ゆめみーるになってから時々、給食がおいしくないと子どもが言っている。
学校教育	中学校まで重い荷物を持って30分歩かなくてはならないので、自転車通学の範囲を広げてほしい。
学校教育	市内の小中学校の教員が児童、生徒らに「岩倉はお金がない」と授業中、平気で言っている。教育者が子どもに言うことではない。
学校教育	児童館で学童の預かりをするため、一般の子ども居場所がない。
学校教育	小中学校の建物の古さや空調設備の送れなど、児童たちを気の毒に思う。

学校教育	岩倉市の小中学校に来年度からエアコンが設置されるとの新聞記事を見た。よろこばしいことだと思う。
学校教育	子どもの教育の充実。
学校教育	未就園児を対象にした催しは見かけるが、それ以上の年齢の催しはあまり見かけない。
学校教育	小中学校に早くエアコンを設置してほしい。
学校教育	岩倉北小学校の体育館の床を直してほしい。
学校教育	小中学校の冷暖房を早急に設置してほしい。
交通対策	巡回バスを無料化してほしい。
交通対策	デマンドタクシーの予約が取れないので増やしてほしい。
交通対策	バスの本数が減ったので不便になった。
交通対策	民間バスの空き時間を利用して市バスを運行してほしい。
交通対策	乗り合いバスの運営など交通手段を見直して、高齢者がまちに出やすい環境を整備してほしい。
交通対策	車がないと不便な場所の高齢者に配慮し、市全体の公共交通機関を充実する。
交通対策	車社会には、どの公共施設も駐車場が少なすぎる。
交通対策	コミュニティバスを走らせてほしい。
交通対策	石仏駅の東口に改札をつくってほしい。
交通対策	乗合タクシーは助かる。(岩倉で子育てしたいと思える)
交通対策	駅に売店がほしい。
交通対策	石仏駅東側の整備を検討してほしい。利用者は増えているように感じる。東側の交差点は車が多く、歩行者は危険。
交通対策	市内各施設のアクセスとして巡回バスを走らせてほしい。
交通対策	石仏駅では高齢者が階段に苦勞している。また、屋根も穴があり、改札も少なく不便。早く改善してほしい。
交通対策	大山寺駅の自転車置き場に屋根を付け、広くしてほしい。
交通対策	東地区のまちづくりについて、岩倉駅から離れたところだと車や自転車を使ってわざわざ行こうとは思わないので、低料金で循環するバスを走らせてはどうか。
交通対策	私の母は80歳を超えているが、週3回仕事に行っている。以前は職場まで送っていたが、私が引っ越ししたため今は送ることができない。いーわくんを利用したくても、1週間前に予約しなければならず、タクシーを使っているが料金が高すぎて困っている。何とかならないか。
交通対策	車が使えないので医療機関に行くのが不便。いーわくんを利用したが、帰りの時間が分からないので利用しづらい。病院、スーパーに行くのに低料金のバスがあるとよい。
交通対策	車がないと何処にも行けないので、各地域に市バスを運行させてほしい。
交通対策	駅までのバスがないので不便。
交通対策	市が運営している送迎バスを依頼しても断られる高齢者がいる。しかも、毎日総合体育文化センターの駐車場で昼寝しているのを見かける。送迎バスの運行をタクシー会社に委託してはどうか。

交通対策	石仏駅の東側からホームへの出入りができるようにしてほしい。
交通対策	駅東に自転車置き場がないため、ふれあい広場に通勤、通学の自転車がなくなった。時々、見回りが必要。
交通対策	石仏駅の改札を逆側にもつくってほしい。
交通対策	コミュニティバスを運行してほしい。
交通対策	80歳を超えた高齢のため、外出に困っている。駅まで15分～20分かかる。いーわくんは病院にしか使えないので買い物に困る。
交通対策	小牧や北名古屋のように巡回バスを走らせてほしい。
道路	道路が狭いので、整備してほしい。
道路	通学路にふさわしくない危険な道路が多く、鞆を引いて歩けない道路があるので整備してほしい。
道路	岩倉市は道路も徐々にきれいになり、住みやすくなった。
道路	名草線拡大工事で、交差点の信号がなくなったり、マンションの駐車場が減ったりと、付近の住民にとっては不便になった。暮らしやすさを優先してほしい。
道路	岩倉駅西口の一時停止の標識が見づらい。
道路	朝の名草線の車のマナーは悪すぎる。
道路	道路を整備するなどして、子どもの住みやすい安全なまちにしてほしい。
道路	歩道でガタガタのところがあり、危険なので整備してほしい。
道路	北小学校区は犬山線西側に子どもがたくさんいるが、道路も狭く危険。
道路	ガタガタの道が多いので直してほしい。
道路	街灯を増やしてほしい。
道路	道路の除草をしてほしい。
道路	名草線には、路上駐車などで通行人が危ない箇所があるので、何とかしてほしい。
道路	一方通行が多いと思う。
道路	道路整備。
道路	夜、街路が暗いので街灯を増設してほしい。
道路	街灯を増やしてほしい。
道路	広い道では自転車専用の道路がほしい。歩行者も安全に通れる道にしてほしい。
道路	安全なまちづくりとするため、道路整備は必要。
道路	一方通行が多くて不便。検討してほしい。
道路	毎日、自転車通勤しているので自転車道がほしい。
道路	駅西側の一方通行の道路を逆走する車が多い。
道路	細く入り組んだ道が通学路になっている。安全な歩道の確保は最優先されるべき。また、名草線以外北部と中心部を結ぶ主要道路がないため、朝、夕の渋滞が激しい。
道路	街の中心はきれいになっているが、八剣公園南の側溝は以前から直すようにたのんでいるが、いまだにできていない。毎年、桜まつりでは駐車場のことで迷惑を被っているのだから、それくらいしてくれてもよいのではないか。
道路	道路を整備する。
道路	道路の亀裂が多くあるので、快適に走行できるようにしてほしい。

道路	道路が狭く、道路標識や表示がわかりにくい。
道路	違反する車が多く、危ない。
道路	桜通り線が早くできるとよい。
道路	ゆうか幼稚園の東側の道路を整備してほしい。
道路	岩倉駅の迎いの車は歩道に乗り上げ、歩行者や自転車の通行を妨げている。
道路	「魚初」の横の道に置いてある石と箱物の作品は横断のじゃま。
道路	駅東は送迎の車が多いので、送迎車のスペースを増やしてほしい。タクシー乗り場乗降場所を改善してほしい。道路に車を停めていることがあるので、通ることができないことがある。
道路	曾野町下街道付近の道路はなぜ、舗装されないのか。危ないので至急、改善願う。
道路	駅の東西に一般車両の駐車場が必要。無意味なモニュメントは無駄。
道路	家の前の側溝を車が通ると大きな音がするので、窓も開けられない。
道路	道路が狭いので整備してほしい。
道路	道が狭く、自転車も多いのでカーブミラーを増やしてほしい。
道路	通勤、通学に使用する狭い道路を事故が起きる前に一方通行にしてほしい。
道路	道路がデコボコで狭く、街灯もなく夜は真っ暗。また、道路脇の雑草も処理されていない。
道路	道路、歩道の整備。
道路	一方通行が多すぎる。
道路	平日の朝、小牧方向の道の渋滞がひどい。
道路	同じ道を何度も直しているのを見かけるが、家の前の道は何十年も舗装がされていない。
道路	水路側のアスファルトが経年劣化しているところがある。
道路	家の前の道路はデコボコしており、大型車が通ると大きな音がする。
道路	道が狭いのに大型車が多く走っていて危ない。
道路	石仏駅周辺の下水道整備を進めてほしい。
道路	岩倉駅北側の踏切は道幅が狭いため、横断するのが危ないので道幅を広げてほしい。
道路	道路の一方通行が多すぎる。
道路	155号線、バス路線の渋滞緩和のため、小牧方面に抜ける橋を整備してほしい。
道路	道が狭く、車が走りにくい。
道路	ただでさえ道がせまいのに、道路脇の除草作業をしてくれないと安全に歩けない。
道路	幹線道路は整備されているが、並行する歩道の整備は放置されている。車道は舗装され高くなっていくが、歩道はそのままなので傾斜が強くなっている。高齢者には歩きづらいところもある。実態を見てほしい。
道路	岩倉駅から五条川を通り、岩倉団地へ行く通りが毎朝渋滞する。もう少し改善してほしい。
道路	駅周辺のみだけでなく、市内道路を整備してほしい。
道路	街灯は古かったり、少なかったりで夜道が暗いので、なんとかしてほしい。
道路	旭町に住んでいるが、歩道が狭すぎて危険を感じる。多くの通行人が車道まで出てき

	ている。特に、自転車に乗った高齢者は自分たちが優先だと思っているようで、安心して運転できない。
道路	道路のデコボコをなんとかしてほしい。
道路	桜通り線について、現時点の拡張でよいのでは。これ以上の延長に意味があるかは疑問。
道路	また、工場地域ではしかたがないと思いますが、子どもの通学時間帯、トラックの駐車時間などが重なり、交通量が多い道へ路上に出て1年生だけで帰る姿をよくみかけ、とても心配です。
市街地整備	岩倉市は名古屋に出ることができるので便利であるが、車がない者にとっては不便。街は活気がなく、市内に買い物をするよい店がない。
市街地整備	岩倉駅周辺は歩道、街灯がきれいになったが、市全体で見ると雑然とした景観になっている。税金が一部の地区だけに使われているように思う。今、農地であっても高齢化に伴い、宅地化されるので市として計画を立てておくべきだと思う。
市街地整備	岩倉駅西口の整備は早急にすべきだと思う。駅周辺の駐輪場も整備が必要で、街灯をもっと整備すべき。また、買い物をしたいと思う店がすくなく、ハトやカラスが異常に多い。
市街地整備	北口区浅野燃糸工場跡地がそのままの状態となっているが、荒れ放題となっており近隣住民は大変迷惑している。建物も大変危険なので、早急に片付けてほしい。また、跡地には公園を造ってほしい。
市街地整備	都市ガスが少ない。
市街地整備	岩倉駅東地区は全く活気がない。街並み、景観整備のため地区の協力を得、商店街として再生するためのプランを検討してほしい。
市街地整備	遊休農地を活用し企業誘致を図ってほしい。
市街地整備	土地の有効活用。
市街地整備	駅近くに住んでいるが、公共施設が集中していることもあり、住みやすく感じている。
市街地整備	岩倉駅東地区の整備が順調に進んでいることを期待する。
市街地整備	バス通りの名鉄踏切の陸橋化はできないのだろうか。駅東開発のみで岩倉は発展するだろうか。東西を自由に往来できるようにすることで可能性が広がるのではないだろうか。
市街地整備	東側開発に力を入れるより、土地に余裕のある名草線以西に力をいれるべき。イオンなどの誘致ができないなら、市民が楽しめ、市外から来て楽しんでもらえる場をつくるべき。名草線西側をもっと有効利用してほしい。
市街地整備	岩倉には引っ越してきたばかりだが、道が狭かったり、空き家が多かったりで暗いイメージを持った。
市街地整備	西地区についてもまちづくりを検討してもらいたい。
市街地整備	空き家をなくして区画整理をしてほしい。岩倉市内にマイホームを建てたいが、マッチする土地がない。
市街地整備	岩倉駅をもっと活気のある場所にしてほしい。周囲に興味のある店が少ない。
市街地整備	空き地に雑草が茂っている。事故等の原因になるのでは。

市街地整備	都市計画を高齢化社会を見据えて行い、コンパクトなまちにしてほしい。
市街地整備	石仏駅前にコンビニや飲食店、スーパーなどを充実し、もっと活性化させてほしい。また、ベビーカーの利用が不便なので、エレベーターを設置し、屋根を付けてほしい。
市街地整備	駅東口に力を入れているが、西口にも取り組む必要がある。
市街地整備	岩倉駅東側の再開発のスピードをアップしてほしい。
市街地整備	駅東部分だけでなく、市内全体、犬山線から東側全体の整備が遅れている。
市街地整備	高層ビルや建物など都市化を進めるだけでなく、東部に広がる田園地帯、田園風景も残してほしい。
市街地整備	住宅地を整備し、商業施設を拡充することで住みやすいまちになると思う。
市街地整備	岩倉東地区の整備について、開発整備の速度が遅いと感じる。賑わいのある街が早くできるよう進めてもらいたい。
住宅	高齢化に伴い空き家が増えているので対策をしてほしい。
住宅	畑や田んぼがあり自然豊かでよいが、住宅を増やすなどして人を増やし、活気のある市にしてほしい。
住宅	子育て世代が近隣の市に転居すると聞くが、定住を促進するため土地を安くしたり、子育てをしやすくするなどしてはどうか。遊休農地がたくさんあるのでそこを活用してほしい。
住宅	空き家対策。
景観形成	開発の名のもと、街中を変えるのはよくないと思う。昔の名残や歴史ある岩倉の街並みがなくなるは残念。
上水道	名古屋市の水道水で髪を洗うと仕上がりがきれいになるが、岩倉市の水道水で洗うとバサバサになる。消毒の仕方が硬水、軟水の違いからだろうか。
下水道	石仏駅のバリアフリー化、公共下水道整備の計画が進んでいない。
下水道	市内の開放型下水路をなくし、余剰地を緑化してほしい。
下水道	下水道整備や浸水に対する政策を進めてほしい。
農業	農地を所有するが作農していない人たちの苦悩を理解し、市街化調整区域を見直してほしい。
農業	荒れた畑など有効活用できる土地が多くあると思う。市民菜園などに利用できないのか。
農業	用水路の水流が弱く、夏場は臭く蚊が発生するのでコンクリートの蓋をしてほしい。
工業	小さい市のため企業が少なく感じる。
商業	環境、交通の便など岩倉は住みよいまちだと思う。緑が少なくなるのは嫌だが、税収のため工場や大型商業施設誘致も必要だと思う。
商業	名鉄とユニーに頼り過ぎている。大型商業施設を誘致する。
商業	桜まつりで市外から多くの人があるが、駅から五条川までの間に商店などが少なく、郷土資料が活用できていないと思う。
商業	岩倉には銭湯や健康ランドのようなものがないので、造ってほしい。
商業	24時間営業のスーパーがあるとよいと思う。
商業	五条川小学校区内にドラッグストアがあると便利。

商業	飲食店を充実し、他市からの人が来てくれるよう宣伝し、売上が伸びるようにしてほしい。
商業	石仏駅近くには薬局がないので、ドラッグストアをつくってほしい。
商業	アピタにもっと魅力ある専門店を入れてほしい。
商業	飲食店が少なく、閉店時間が早い。客は名古屋方面に流れていく。
商業	駅の周りに店は多くあるが、外れの方になると何も無い。店をつくってほしい。
商業	市の面積が小さいので、商業施設を増やして活性化したほうがよい。
商業	最近、いろいろな店がなくなっている。
商業	駅前にあまり人が集まる施設がないと思う。もう少し、飲食店を充実してほしい。
商業	学生が遊べる映画館、カラオケ、ボーリング場がない。
商業	商業施設、買い物など、飲食する場が少ないと思う。活気のある街になるよう期待する。
観光・交流	岩倉の桜まつりは有名だが、市外の人にもっと知ってもらえたらと思う。旅行会社とタグを組んで、桜まつりをPRしてはどうか。地産地消のビュッフェレストランのような店があるとよいと思う。
観光・交流	他市から人を呼べるようなイベントがあるとよいと思う。
観光・交流	イベント、特徴あるモニュメントなどを世界に発信して、もう少しパツとした岩倉にしてほしい。一人ひとりの力が発揮できる、豊かな心の人々が住む街にしてほしい。
観光・交流	土日に過ごせる場所をつくってほしい。
観光・交流	桜まつりの期間をもう少し早めたほうがよいのでは。
観光・交流	史跡や伝統工芸を活かしたイベントや情報発信を増やす。
観光・交流	市の行事がたくさんあるのはよい。
観光・交流	名古屋に近いので、その特性を活かした施設を造るとよいのでは。
観光・交流	市内盆踊り大会は今年、2日間を3日間にしたが、各町内は高齢者が多く準備や後片付けで大変だった。各町内会盆踊りの練習は中止してはどうか。
観光・交流	まちづくりの手法として、地域活性化やにぎわいの創造が挙げられるが、それだけでは地域住民が求める「まち」が実現するかどうか疑問。できたとしても、喧騒、環境悪化、秩序の乱れなどが顕在化するのでは。まちづくり手法はもう一度考え直してみる必要があると思う。
観光・交流	市の行事があるたびに駐車場がなく、参加できない事がある。もっと参加しやすい場をつくってほしい。
観光・交流	健康づくり、観光で市外から観光客誘致を拡大すべき。
市民協働・地域コミュニティ	今後は、一市民として市政について勉強しようと思う。
市民協働・地域コミュニティ	町内会費を強制し過ぎ。
市民協働・地域コミュニティ	まちづくりに参加している人、していない人との差があると思う。
市民協働・地域コミュニティ	町内会活動は時勢に合わなくなっていると思う。ボランティア、市民活動などに

コミュニティ	振り分け行政が全てまかなえばよいと思う。若い人に長く住んでほしいなら、このような面倒なものはなくせばよいと思う。
市民協働・地域コミュニティ	便利で快適になったことで活躍の場を失った人や物がたくさんあると思う。何が大切か考え直して、生きがいのあるまちにしてほしい。
市民協働・地域コミュニティ	7年くらい前に転入してきたがよいまちだと思う。市役所が先頭きって住民を引っ張らないのがよいと思う。
市民協働・地域コミュニティ	小さいまちなので顔見知りも増え、皆が気軽にあいさつできるまちになるとよいと思う。
市民協働・地域コミュニティ	人口密度が高い割に他人との付き合いが薄いと感じる。これを解消するのがいいわくんだと思う。いいわくん好き同士、仲良くなれると思う。
市民協働・地域コミュニティ	市民参画のため、市民の声に耳を傾ける姿勢で参画のハードルを下げる努力をし、百年の計を見据える政策をとってもらいたい。
市民協働・地域コミュニティ	この町ではこんな活動をしているといった、特色あるまちづくりがあるとよいと思う。高齢者が目標にしたりして、生きがいが増えるとよいと思う。
市民協働・地域コミュニティ	市政への参加はいろいろな事情で参加できない人もいると思う。町内会の当番や組長などは会社員にとっては辛いことだと思う。強制的に参加を求められても、参加できずにそれが負担で転居したほうがよいのかとも思う。
市民協働・地域コミュニティ	仕事がシフト制のため、市民討議会への参加は難しい。
市民協働・地域コミュニティ	近所の人との交流もなく、夏祭りもない地区なので地区の中での交流はない状態。憩いの場がほしい。
市民協働・地域コミュニティ	古い考えの人が多く、コミュニケーションがとりづらい。
市民協働・地域コミュニティ	市民がもっと参画できるまちづくりをしてほしい。
国際交流・多文化共生	問題が起きた時に即、対応ができるように、外国人居住者とコミュニケーションがとれる場所や人を明確にしてほしい。
国際交流・多文化共生	気軽にあいさつできるまちづくりを目指してほしい。そのためには、マイノリティーである外国人とのコミュニケーションがとれるように、英語以外の語学講座を生涯学習のメニューに加えてほしい。また、市議員の方は率先してあいさつをしてほしい。
国際交流・多文化共生	外国籍の人が馴染めるような祭りなどをしたらよい。
国際交流・多文化共生	外国人が多いので、ゴミの捨て方を周知をしてほしい。
平和行政	このアンケートの問 31 に折り鶴の作成というのがあるが、私も小中学校の時に学校で折った記憶がある。一人1円でもよいので、募金に変えたほうがよいと思う。
広報・広聴	市内の無線放送は聞き取りにくく、内容が分からない。避難誘導が心配。
広報・広聴	防災無線放送について、午後5時の時報は便利だが内容が聞き取れない。
広報・広聴	久々に市のホームページを見て多くの情報が掲載されていることに驚かされた。個人

	番号制度により事務手続き、選挙の投票などの電子化が図られる中で、パソコンに疎い高齢者はどうするのかと思う。
広報・広聴	情報や意見の共有、SNSでの発信等で何らかの協力ができるので、スマートフォンやタブレットの活用を進めるとよいと思う。
広報・広聴	今後は一人ひとりの健康、防災、防犯などが重要になると思う。市としての提案をもっと市民にPRしてほしい。
広報・広聴	他市での具体的な防災、文化活動などの好事例を情報提供してはどうか。
広報・広聴	火災、防犯、災害など緊急時の防災放送を分かりやすく放送してほしい。
広報・広聴	現代は情報があふれているが、高齢者や外国人は役立つ情報を受け取ることができているのだろうか。
広報・広聴	児童館から放送が流れるが、何を言っているのか分からない。
広報・広聴	パソコン、スマホの時代だが、それらを持たない者もいるので、きめ細やかな情報提供を願う。
行財政運営	市民の意見を聞き、市政に反映させる施策には賛同する。
行財政運営	市職員、特に税務課の職員の対応は悪い。職員の教育をすべき。
行財政運営	マイナンバーカードを使った、コンビニでの証明書発行ができるようにしてほしい。
行財政運営	市役所での手続きは不便なので、ネットで出来るようにしてほしい。
行財政運営	明治39年合併の岩倉町エリアにも目を向けてほしい。
行財政運営	財政規模が小さな市なので、受益者負担を前面に出すべき。
行財政運営	どこに相談してよいのか分からない事などを役所の相談窓口でもしてもらえると助かる。
行財政運営	岩倉市の財政は厳しいと認識している。アンケートの中にある施策を行うことも必要だが、税収の増加策も考えるべきではないか。まだ、土地もあると思うので企業誘致を進めてほしい。
行財政運営	子ども、年配への配慮も結構だが、税金を納めても何ら恩恵を受けない世代への政策も少しは考えてほしい。
行財政運営	市民税が高すぎる。
行財政運営	岩倉は住みやすいと思うので、これからも各サービスを充実してほしい。
行財政運営	住みやすいまちだと思う。益々、良くなってほしい。
行財政運営	税金の使途の透明性。
行財政運営	市民にやさしい、思いやりのある対応を願う。
行財政運営	議会をクォータ制にして、もっと魅力のあるまちにしてほしい。
行財政運営	まちづくりは一度とりかかると変更が難しいので、計画段階でよく話し合い住民の意見も反映できるようにしないといけない。
行財政運営	市政の中核を担う人はこの市をどのような市にしたいと考えているのか。私には見えて来ない。伸び盛りの市町を視察してもらいたい。
行財政運営	市長は車以外で何度このまちを見回ったことがあるだろうか。自転車や歩いてでないとは分からないことはあると思う。避難の時に困ることも分かると思う。たまにはまちを見回してほしい。

行財政運営	市役所の窓口が昼休みに利用できるのはありがたい。市役所駐車場の利用時間延長を希望。
行財政運営	今はメール、パソコンで間にある方法が増えているが、それらの機器がなく使い方も解らない年配者は、時々不安を感じる。
行財政運営	過去のまちづくりを振り返ってみると、ゴージャスな市庁舎の建設、駅東再開発による生涯学習センターの設置など、ハコモノへの多額の税金投入。竹林公園の整備や無駄な装飾品が配備された音楽ロードなど、本当に市民が必要とするものかハテナマークがつくようなものに税金が使われてきたと思う。これから少子化なので公共施設の再配備は必要と言いながら、なぜ、道路だけは増やし続けるのか。「岩倉しやすい」に紹介されている岩倉の魅力である保育園の充実を崩す施策は理解できない。
行財政運営	小さなまちを活かして、他とは違うところをつくっていいとよい。
行財政運営	小さな市だからこそ、奇抜なアイデアが実行できると思う。他市との差別化を図る事も必要。
行財政運営	他市との合併を協議する。(一宮市、江南市、稲沢市)
行財政運営	クラウドファンディングで何かを行えばよい。
行財政運営	岩倉市は緑豊かで名古屋に近く住みやすいと思うが、以前住んでいた豊田市に比べて受けられるサービスが少ないように感じる。
行財政運営	地理的な面は恵まれているが、市としてのサービスはもう少しあるほうがよい。
行財政運営	市の規模が小さく、市政として出来る限界があると思う。小牧市や名古屋市との合併を考えてほしい。
行財政運営	犬山市在住の義父が亡くなった時、手続きのため役所に行ったが、市民課のテーブルに通され各課の担当者が入れ替わりながら手続きをしてくれ、座ったままで手続きが完了した。岩倉市にも同様のサービスがあるかは知らないが、なければつくったほうが市民は助かる。
行財政運営	保険センターの職員に一部失礼な人がおり、センター全体の評価を下げているように感じる。
行財政運営	他市町より市民税が高い。
行財政運営	現状維持で終わらせたいのか。本気で進めて改善したいのか。目先の利益か。後世への種まきか。
行財政運営	税金を無駄にせず計画的な政策でまちづくりをしてほしい。
行財政運営	偏った世帯の意見ではなく、幅広い情報収集をすべき。
行財政運営	役所の職員は縦社会の言動、行動をとる感がある。行政に携わる者であれば狭い視野で市民の声を聞いてはいけない。自身の職域を越えて行動すべき。
行財政運営	税金が高すぎる。経費はできるだけ抑え、企業を誘致するなどして住みやすいまちづくりを希望する。
行財政運営	中期、長期産業発展計画と都市環境整備計画の実施。
行財政運営	近隣地区との合併推進を検討。
行財政運営	市民税が高いと感じる。
行財政運営	市役所は暑い。

行財政運営	職員の一部にやらされている感のある人がいる。
行財政運営	昔よりは区画整理も進み、治安もましになってきているが、もう少し、他市を見習ってほしい。
行財政運営	福祉サービスにしても生涯学習にしても、スタートさせるだけでなく、如何に運用されているかチェックするシステムがなければ、よいサービスになるとは思えない。
行財政運営	市の各受付では質問をすると何人かの人と変わって、やっと解ることがある。時には不愉快な気持ちになることもある。
行財政運営	市職員の資質の向上に努めてほしい。
行財政運営	市役所の駐車場にひどい止め方をしている車を見かけるので、有料にすべき。
行財政運営	市の借金を減らし、財政建て直しを願う。
行財政運営	助成金の見直しが必要。
行財政運営	保健センターのトイレをリフォームし、きれいにしてほしい。
行財政運営	企業を誘致して税金を得ることで、市の財政を豊かにして市民生活が豊かになると思う。
行財政運営	市内を隅々までよく見てほしい。
市民生活全般	県、国の機関の誘致。
市民生活全般	大企業、高等教育機関を誘致する。
市民生活全般	毎朝、駅であいさつをしている男性は何をしているのだろうか。あいさつするより、ゴミ拾いをしたほうが街のためになると思う。
市民生活全般	商工業を支援すれば、市の産業は活性化し税収も増える。働く人も増え、さらに税収が増える。また、働く人の家族も住むようになる。儲かる企業なら跡取りも来て、事業承継にもつながる。そうした税収で福祉、教育、子育てをさらに充実させることができる。そんなまちづくりをしてほしい。
市民生活全般	岩倉市は住みやすいと思う。独居老人だが、近所の人たちは親切で買い物も交通も便利で毎日感謝して過ごしている。
市民生活全般	「まち」の器、箱をどれだけ体裁よくしても、「人」である市民のマナーが悪く、洗練されていないと、市のイメージはいつまでたっても上がらない。
市民生活全般	コンパクトなまちだけに市民皆が市に愛着を持っていると思う。
市民生活全般	関西から転勤して 15 年以上になるが、ちょうどよいサイズで人口も多すぎず、街の景観もよく、非常に住みやすいと思う。これからも住み続けたい。
市民生活全般	高齢者を大切に、子ども、学生を増やし、活気ある市を目指してほしい。
市民生活全般	岩倉は何もないまちだが、よい所だと思う。
市民生活全般	岩倉市の売りは名古屋市などへの利便性だと思うが、現在の状況では近隣の市町に住んだほうがよいと考える。
市民生活全般	安全、安心、健康に一層、力をいれてほしい。
市民生活全般	岩倉に引っ越してきたが、都市部や岐阜方面にも近く、緑も多くとても心穏やかに暮らしている。
市民生活全般	以前のことを思うと随分、住みやすく便利になったと思う。
市民生活全般	岩倉市の地域活性化まちづくりに観光資源の活用、山車、桜祭り、遺跡などの活用に

	関する施策、防犯、防災に関する施策があればよいと思う。
市民生活全般	岩倉に嫁いで 25 年になるが、住みやすい岩倉が好き。交通の便もよく、催し物が多く、学習講座もある。
市民生活全般	岩倉を終の棲家にはしたくない。
市民生活全般	社会の仕組みを変えてほしい。
市民生活全般	今後、岩倉市の人口増加を望むならば、他地域からの転入を考えている人たちに魅力的だと思われるようにしなければならない。
市民生活全般	昨年、岩倉に引っ越してきたが、地域性があるのか、自ら進んで行動しないと馴染めず全体的に保守的なイメージを受けた。
市民生活全般	一般市民として岩倉市の発展を応援したい。
市民生活全般	もっと活気のあるまちにしてほしい。
アンケート関連	幼稚園から中学校まで市内に通ったが、現在は市外に働きに出ている。昼間の市内のことは分からないので、日中のことを知っている人の意見を参考にしてほしい。
アンケート関連	アンケートは項目が多く、全てに精通していないと答えるのが難しいと感じた。
アンケート関連	アンケートは質問が多すぎる。もっと、簡単なアンケートにしてほしい。
アンケート関連	アンケートにペットと暮らしやすいという項目がなく不満。不妊や親と離れて暮らしている者に対しての配慮に欠けている。
アンケート関連	アンケートは高齢者には送らないでほしい。
アンケート関連	アンケートは内容が多すぎる。
アンケート関連	アンケートは年齢を考えて送ってほしい。時間が掛かり過ぎる。
アンケート関連	手書きの市民アンケートは分析に多くの工数が掛かると思うので、手書きとネットを組み合わせる方法も検討すべきだと思う。
アンケート関連	前回の交通実態調査は「市の丸投げ」といった感じがしたが、今回の調査は実態に合った設問だったのでよかった。
アンケート関連	アンケートは年齢を考慮してもらいたい。
アンケート関連	アンケートは内容が広すぎる。的を絞って答えやすいようにしてはどうか。
アンケート関連	このアンケートはネット上でやれば経費も抑えられ、集計もしやすいと思う。
アンケート関連	岩倉に移住して間もないため、分からないことが多くアンケートにうまく答えられない。
アンケート関連	現状を維持するためには、時代の移り変わりに合わせて、10 年後、20 年後の岩倉市を考える必要があり、このようなアンケートはとてもよいと思った。
アンケート関連	未来のため、18 歳未満の子どもにもアンケートを実施してほしい。
アンケート関連	忙しいので、アンケートは途中でやめた。
アンケート関連	アンケートに参加することでいろいろな事が分かり、行政への関心が高まった。
アンケート関連	アンケートの質問が多すぎる。用紙が厚過ぎて 3 つ折りしづらい。
アンケート関連	アンケートは質問項目をコンパクトにまとめてほしい。
アンケート関連	アンケートの返信用封筒をもっと大きくしてほしい。
アンケート関連	アンケートの返信用封筒が小さい。
アンケート関連	アンケートについて、QR コード、ホームページなどの電子化でコストの削減や効率

	化ができるのではないか。
アンケート関連	職場と自宅の往復が多く、まちづくりについてあまり考えたことがないが、アンケートをきっかけに岩倉のことをもっと知りたいと思った。
アンケート関連	アンケートは勉強になった。
アンケート関連	アンケートの問が多すぎる。
アンケート関連	意向調査の依頼をしているにも関わらず、「9月10日までに投函してね」の言葉。岩倉市のレベルの低さを物語っている。市の職員は仕事をしっかりすることを切望する。
アンケート関連	アンケートは内容が解らず、記入しにくかった。もっと解りやすくしてほしい。また、子どもと老人以外の働く人のことが少ない。
アンケート関連	このアンケートは文字量や問が多く、年配者には負担だと思う。
アンケート関連	アンケートでは、まちづくりという枠の中に子どもの教育といった視点が入っていないと感じた。大人の生涯学習や高齢者の生きがいも大事ではあるが、これからの市を担う子どもたちの教育環境を真剣に考えてほしい。
アンケート関連	ホームに入居中であるが、市では住居に住んでいるか知らないのか。
アンケート関連	アンケートの質問が多すぎて疲れた。
アンケート関連	忙しく、市政に関わる時間がない。今回のアンケートのように意見などを出せる場がもっとあると嬉しい。
アンケート関連	このアンケートの結果で向上することがあるよう期待する。
アンケート関連	アンケートは設問が多く、疲れた。アンケート結果は広報に掲載してほしい。
アンケート関連	アンケートは無作為に選んだと書いてあるが、何度もアンケートを書いている。送付先の選び方を考えてほしい。
アンケート関連	今年のアンケートはいつもの倍近い量がある。書いているうちに嫌になった。

3. 調査票

《ご回答いただいた調査票は、「茶色の返信用封筒」に入れてください。》

岩倉市市民意向調査

ご協力のお願い

日ごろから、市政の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

岩倉市では、総合的かつ計画的な市政運営を行うためのまちづくりの指針となる第4次総合計画（2011年度～2020年度）を策定し、多様な縁で作る「役立ち感」に満ちた市民社会をめざしたまちづくりを推進してきました。今年度から、これに続く第5次岩倉市総合計画（2021年度～2030年度）の策定作業を進めています。

この市民意向調査は、総合計画の策定にあたり、市民のみなさまに現在の生活の状況や今後のまちづくりなどについてのお考えなどをお聞きし、これまでの市政全般の成果を検証するとともに、総合計画の策定に必要な資料を得ることを目的として実施しています。

調査対象は、市内にお住まいの満18歳以上の方の中から、無作為に選んだ4,000人の方です。この調査は無記名形式で行い、回答は統計的に処理されますので、ご回答いただいた調査票から個人が特定されることはありません。また、調査結果はこの調査の目的以外に使用することはありません。

なお、本調査の結果については、広報紙等を通じて市民の皆さまにお知らせします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成30年8月 岩倉市長 久保田 桂朗

ご回答に当たってのお願い

●ご記入の際に

- 1 封筒の宛名のご本人がお答えください。
- 2 事情によって、ご本人が回答できない場合は、ご家族の方でお答えください。
- 3 ご回答は、質問ごとの説明に従い、このアンケート調査票に直接ご記入ください。

●調査票の返送について

無記名のまま同封の「茶色の返信用封筒」に入れて、**9月10日（月）まで**に郵便ポストへ投函してください。

●調査についてのお問い合わせ

岩倉市総務部秘書企画課企画政策グループ（市役所5階）

TEL : 0587-38-5805（直通）

FAX : 0587-66-6100

E-mail : hishokikaku@city.iwakura.lg.jp

1	あなたやご家族について
---	-------------

問1 あなたの性別を教えてください。【〇は1つだけ】

1 男性	2 女性
------	------

問2 あなたの年齢を教えてください。【〇は1つだけ】

1 20歳代以下	3 40歳代	5 60歳代	
2 30歳代	4 50歳代	6 70歳以上	

問3 あなたのお住まいは、どの小学校区にありますか。【〇は1つだけ】

1 岩倉北小学校区	3 岩倉東小学校区	5 曾野小学校区
2 岩倉南小学校区	4 五条川小学校区	

●校区（※校区が分からない方は、下表で番号を確かめてください。）

あ行	旭町		→ 2	た行	大山寺町		→ 5		
	石仏町	岩塚・島海道・五山寺・たりの一部（14～52番地）	→ 1		大山寺本町		→ 5		
		上記以外	→ 4			大山寺元町		→ 5	
		泉町	→ 1				大市場町		→ 5
	稲荷町	大摩、細畑、樋先、高畑、半田の一部（新堀用排水路より西側）	→ 2		大地新町			→ 2	
		上記以外	→ 5			大地町		→ 2	
		井上町	→ 4				中央町		→ 2
	か行	神野町			→ 4	な行		中野町	
		川井町			→ 2		中本町	南葭原、東葭原、南加路桶、葭原の一部（5番地以上）	→ 3
		北島町			→ 2			野寄町	上記以外
五条町		→ 5		→ 2					
さ行		西市町		→ 1	は行		東新町		→ 3
	栄町		→ 1	東町		仙奈・掛目	→ 3		
	下本町	西沼	→ 2			本町	上記以外	→ 1	
		燈明庵	→ 3				一丁田		→ 5
		上記以外	→ 5	上記以外				→ 1	
	昭和町	1・2丁目（行政区 下本町）	→ 2		ま行	南新町		→ 2	
		3丁目（行政区 稲荷町）	→ 5	宮前町		→ 1			
	新柳町		→ 1	や行	八剱町	脇之本	→ 3		
	鈴井町		→ 1			上記以外		→ 4	
	曾野町		→ 5					→ 4	

問4 あなたの職業を教えてください。【〇は1つだけ】

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 会社員 | 6 家事専業 |
| 2 公務員 | 7 学生 |
| 3 自営業 | 8 無職 |
| 4 農業 | 9 その他 (_____) |
| 5 パート・アルバイト | |

問5 あなたの世帯のタイプは次のどれに属しますか。【〇は1つだけ】

- | | |
|--|----------------------|
| 1 単身世帯 | 4 2世代同居世帯 (親と子どもの世帯) |
| 2 夫婦のみの世帯 | 5 3世代同居世帯 |
| 3 1世代世帯 (夫婦のみの世帯を除く。
例: 兄弟のみ・姉妹のみの世帯など) | 6 4世代以上同居世帯 |
| | 7 その他 (_____) |

問6 岩倉市にお住まいになって何年になりますか。【〇は1つだけ】

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 3年未満 | 4 10年以上20年未満 |
| 2 3年以上5年未満 | 5 20年以上30年未満 |
| 3 5年以上10年未満 | 6 30年以上 |

問7 あなたの家では、どのような方が同居されていますか。あなた自身を含めてお答えください。

【あてはまるものすべてに〇】

- | | |
|-------|----------------|
| 1 乳幼児 | 5 大学生・専門学校生 |
| 2 小学生 | 6 70歳以上 |
| 3 中学生 | 7 1～6以外の同居人がいる |
| 4 高校生 | 8 同居人はいない |

2 岩倉市の住みやすさについて

問8 お住まいの周辺の生活環境について、おたずねします。

【①～⑳について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

区分	項目	満足度		
		満足	どちらか に満足	不満
健康・福祉	① 医院・診療所までの近さ	1	2	3
環境・ 防災防犯	② 身近な子どもの遊び場の多さ	1	2	3
	③ 身近な公園・緑地の多さ	1	2	3
	④ 子どもの遊び場の安全性	1	2	3
	⑤ 付近の緑の豊富さ	1	2	3
	⑥ ごみの収集場所の近さ	1	2	3
	⑦ 騒音・振動などの自動車公害の少なさ	1	2	3
	⑧ 大気汚染・水質汚濁などの工場公害の少なさ	1	2	3
	⑨ 路上や公共の場所での喫煙マナー	1	2	3
	⑩ 空き地などの雑草の手入れの状態	1	2	3
	⑪ 浸水や地震などの地域防災体制	1	2	3
	⑫ 近隣の側溝などの水はけの良さ	1	2	3
	⑬ 犯罪・暴力からの安全性	1	2	3
	生涯学習・ 教育	⑭ 通学路の安全性	1	2
⑮ 小・中学校までの近さ		1	2	3
都市基盤	⑯ 電車の駅・バスの停留所までの近さ	1	2	3
	⑰ 電車・バスの運行本数の多さ	1	2	3
	⑱ 電車・バスの車内の混み具合	1	2	3
	⑲ 道路の歩行者の通行の安全性	1	2	3
	⑳ 道路の自転車の通行の安全性	1	2	3
	㉑ 道路の広さ	1	2	3
	㉒ 道路の舗装状況	1	2	3
	㉓ 日常の買い物の便利さ	1	2	3
	㉔ お住まいの日当たりや風通しの良さ	1	2	3
	㉕ 建物の立て込み具合(災害時などの安全性)	1	2	3
協働	㉖ 地元・地域における人間関係の良さ	1	2	3

問9 岩倉市のまちの魅力について、おたずねします。

【魅力がある点と魅力がない点それぞれについて、あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。】

区分	魅力がある点		魅力がない点	
健康 福祉	1	医療施設が充実している	1	医療施設が充実していない
	2	高齢者の福祉サービスが充実している	2	高齢者の福祉サービスが充実していない
	3	子育て支援サービスが充実している	3	子育て支援サービスが充実していない
	4	障がい者の福祉サービスが充実している	4	障がい者の福祉サービスが充実していない
環境 防災防犯	5	緑などの自然環境に恵まれている	5	緑が少なく、自然環境が乏しい
	6	防災対策がいきとどいている	6	防災対策がいきとどいていない
	7	防犯面において安心できる	7	防犯面における不安が多い
生涯学習 教育	8	文化・教育施設が充実している	8	文化・教育施設が充実していない
	9	市民の文化・芸術活動が盛んである	9	市民の文化・芸術活動が盛んではない
	10	文化財など歴史的遺産に恵まれている	10	文化財など歴史的遺産に恵まれていない
	11	スポーツ・レクリエーション活動が盛んである	11	スポーツ・レクリエーション活動が盛んではない
	12	スポーツ施設が充実している	12	スポーツ施設が充実していない
都市基盤	13	交通の便が良く、通勤・通学に便利である	13	交通の便が悪く、通勤・通学に不便である
	14	道路の整備状況が良い	14	道路の整備状況が悪い
	15	農地が多く住宅地など開発の余地がある	15	市域が狭く開発の余地が少ない
	16	まちに活気がある	16	まちに活気がない
	17	市の面積・人口が適当な規模でまとまりがある	17	市の面積が狭い割に人口が多く雑然としている
	18	日常の買物が便利である	18	日常の買物が不便である
	19	農地と住宅がうまく調和し、田園環境に恵まれている	19	農地と住宅地と工場が混在し、まとまりがない
産業	20	優良農地が多い	20	優良農地が少ない
	21	働く場所がある	21	働く場所がない
	22	桜まつりやふれ愛まつりなど、市内のイベントが活発に行われている	22	市内のイベントが活発に行われていない
協働	23	市民活動が盛んである	23	市民活動が盛んではない
	24	人々が親切で人間味がある	24	人々が不親切で人間味がない
	25	人間関係が良い	25	人間関係が良くない
その他	26	その他()	26	その他()

問10 岩倉市が行っている施策について、満足度と重要度をおたずねします。
【①～⑳について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

区分	項目	満足度					重要度				
		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	あまり重要でない	重要でない
健康・福祉	① 健康づくりへの支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	② 医療機関との連携や医療情報の提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③ 高齢者の福祉サービスの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④ 子育て支援サービスの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑤ 障がい者の福祉サービスの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑥ 地域福祉活動の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑦ 子ども・障がい者などの医療費の助成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
環境・防災防犯	⑧ 五条川や桜並木などの自然環境の保全	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑨ 公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑩ 公害(騒音・振動・水質汚濁など)の防止	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑪ 二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑫ ごみ収集・処理体制	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑬ 地震や浸水などの防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑭ 消防・救急体制	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑮ 地域の防犯活動への支援や防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
生涯学習・教育	⑯ 歩行者や自転車などが安全に移動できる交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑰ 生涯学習の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑱ 遺跡・文化財の保護継承	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑲ 文化・芸術の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑳ 図書館の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉑ 青少年の健全育成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉒ スポーツの普及と振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
都市基盤	㉓ 小・中学校の教育活動の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉔ 電車・バスなどの公共交通の利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉕ 自動車の移動が便利な道路網	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉖ 計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉗ まち並みや沿道などの景観整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉘ 安全な水道水の安定した供給の確保	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉙ 下水道整備などの生活排水処理	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

区分	項目	満足度					重要度				
		満 足	や や 満 足	ど ち ら か と も い え な い	や や 不 満	不 満	非 常 に 重 要	重 要	普 通	あ ま り 重 要 で な い	重 要 で な い
産業	㉔ 農地の保全活用などの農業振興策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉕ 地産地消などの食の安心・安全	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉖ 産業振興 (既存企業への支援や新たな企業の誘致)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉗ 小売商業の振興 (日常生活に必要な事業者への支援など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉘ 消費生活相談体制	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉙ 観光・交流の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
協働	㉚ NPO・市民活動団体への支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉛ 地域コミュニティ活動への支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉜ 市政への市民参画(市民意見の反映)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉝ 男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉞ 平和活動の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉟ 市政情報の提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問 11 次の観点から岩倉市を見た場合、どのように感じますか。

【①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

項目	評価		
	1 良い	2 普通	3 悪い
① 子育てするまち	1 良い	2 普通	3 悪い
② 児童、生徒、学生が生活するまち	1 良い	2 普通	3 悪い
③ 家庭を預かる主婦(主夫)が生活するまち	1 良い	2 普通	3 悪い
④ 家族で休日や余暇を過ごすまち	1 良い	2 普通	3 悪い
⑤ 高齢者が生活するまち	1 良い	2 普通	3 悪い
⑥ 健康で幸せに暮らすまち	1 良い	2 普通	3 悪い

問 12 総合的にみて岩倉市は住みよいまちだと思いますか。【○は1つだけ】

1 住みよい	4 どちらかといえば住みにくい
2 どちらかといえば住みよい	5 住みにくい
3 どちらともいえない	

問 13 これからも岩倉市に住み続けたいと思いますか。【〇は1つだけ】

1 永住したい	3 できれば移転したい	5 わからない
2 当分住み続けたい	4 移転する予定である	

永住したい、当分住み続けたい理由は何ですか。
【〇は3つまで】

- 1 愛着がある
- 2 自分の家や土地がある
- 3 近くに親戚や親しい人がいる
- 4 自然環境が良い
- 5 通勤・通学に便利
- 6 日常の買い物に便利
- 7 交通の便が良い
- 8 地域の間関係が良い
- 9 家族の都合
- 10 居住環境が良い
- 11 子育て環境が良い
- 12 災害が少ない
- 13 犯罪が少ない
- 14 その他 ()

できれば移転したい、移転する予定である理由は何ですか。【〇は3つまで】

- 1 愛着がない
- 2 自分の家や土地がない
- 3 近くに親戚や親しい人がいない
- 4 自然環境が悪い
- 5 通勤・通学に不便
- 6 日常の買い物に不便
- 7 交通の便が悪い
- 8 地域の間関係が悪い
- 9 家族の都合
- 10 居住環境が悪い
- 11 子育て環境が悪い
- 12 災害が多い
- 13 犯罪が多い
- 14 その他 ()

問 14 お住まいの周辺の住環境について問題であると感じていることはありますか。
【あてはまるものすべてに〇】

- 1 住宅地の中に工場などの建物が混在している
- 2 低層住宅地に中高層住宅が立地している
- 3 農地が住宅に変わるなど身近な緑が減少している
- 4 道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている
- 5 建物の形態がばらばらで、美しくない
- 6 その他 ()
- 7 特にない

問 15 地域の住環境を保全するため、建物の用途や高さの制限など、まちづくりのルールを定めることについてどのようにお考えですか。【〇は1つだけ】

- 1 現在の住環境を保全するため、ぜひ必要である
- 2 みんながルールづくりに賛成するなら、それに従う
- 3 現在の規制で十分であり、必要ない
- 4 厳しい規制をかけることにより、土地利用の自由度が阻害されるので反対である
- 5 その他 ()
- 6 わからない

3 健康・福祉について

問 16 現在のあなたやご家族の健康状態はいかがですか。【あてはまるものすべてに○】

- | |
|-----------------------|
| 1 家族全員が健康である |
| 2 あまり健康でない家族がいる |
| 3 病気やけがで通院している家族がいる |
| 4 病気やけがで入院している家族がいる |
| 5 病気やけがで自宅療養している家族がいる |

問 17 あなたは、ご自分の体力についてどのように感じていますか。【○は1つだけ】

- | | |
|---------|---------|
| 1 自信がある | 3 不安がある |
| 2 普通である | 4 わからない |

問 18 あなたは、何日くらいスポーツ・運動をしますか。【○は1つだけ】

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 週に3日以上 | 4 3か月に1～2日 |
| 2 週に1～2日 | 5 年に1～3日 |
| 3 月に1～3日 | 6 スポーツ・運動をしなかった |

問 18-1 スポーツ・運動をしなかった方におたずねします。あなたがスポーツ・運動をしないのはどのような理由からですか。【○は1つだけ】

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 忙しくて時間がないから | 6 スポーツ・運動に関する情報がないから |
| 2 体が弱いから | 7 お金がかかるから |
| 3 年をとったから | 8 スポーツ・運動が好きではないから |
| 4 場所や施設がないから | 9 機会がないから |
| 5 指導者がいないから | 10 その他 (_____) |

問 19 岩倉市では、スポーツの普及・啓発に努めています。今後、岩倉市がどのようなスポーツ・運動が盛んなまちになれば良いと思いますか。【○は1つだけ】

- | |
|---------------------------|
| 1 競技スポーツ |
| 2 個人のレクリエーションや息抜きの運動 |
| 3 健康づくりのための軽い運動 |
| 4 小中学校での部活動や体育などの運動 |
| 5 いろいろなスポーツが楽しめる地域スポーツクラブ |
| 6 その他 (_____) |

問 20 あなたは、健康維持増進のため普段どのようなことを行っていますか。
【あてはまるものすべてに○】

- 1 食生活に注意している（栄養の偏り、食べ過ぎなど）
- 2 添加物の少ない食品や低農薬野菜などを取るよう、食物に気を使っている
- 3 日常生活の中でできるだけ歩くなどしている
- 4 ウォーキング・ジョギング・体操など軽い運動を定期的に行っている
- 5 ソフトボール・テニスなどスポーツを定期的に行っている
- 6 適度な休息をとり、規則正しい日常生活を送っている
- 7 ビタミン剤などの栄養補給剤、漢方薬を使用している
- 8 酒・たばこをつつしむようにしている
- 9 定期的に健康診断を受けている
- 10 その他（ _____ ）
- 11 特にない

問 21 あなたが普段の食生活で、心がけていることはありますか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 1日3回、欠かさず食事をする
- 2 決まった時間に食事をする
- 3 間食や夜食をとらないようにする
- 4 栄養バランスを考えて食べる
- 5 食べすぎないように気を付ける
- 6 自分にとって適切な食事の内容や量を知る
- 7 食品の購入や外食をするとき、栄養表示を確認する
- 8 その他（ _____ ）
- 9 特にない

問 22 あなたは食育*について、どのようなことに関心がありますか。【○は3つまで】

- 1 子どもたちの心身の健全な発育のための食生活
- 2 生活習慣病の予防や健康づくりのための食生活
- 3 消費者と生産者の交流
- 4 食にまつわる地域の文化や伝統に関すること
- 5 食料自給率に関すること
- 6 食べ残しや食品廃棄に関すること
- 7 食品の安全性に関すること
- 8 地産地消に関すること
- 9 農業体験に関すること
- 10 その他（ _____ ）
- 11 特にない

*食育：自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習などの取組。

問 23 岩倉市では、次のような健康づくりの施策を実施しています。今後どの施策によりいっそう力を入れるべきだと思いますか。【〇は3つまで】

- | | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 健康教室・講座・広報などを通じて健康に関する知識を得るための機会の充実 |
| 2 | 食生活の改善に向けて栄養指導の充実 |
| 3 | 健康診断やがん検診（胃がん、子宮頸がん、乳がん、肺がん、大腸がん）の充実 |
| 4 | 健康問題に関する相談の充実 |
| 5 | 歯科保健事業（歯科健診・相談、フッ化物塗布など）の充実 |
| 6 | 気軽にできる健康体操教室の充実 |
| 7 | ウォーキング事業の充実 |
| 8 | 保健推進員*活動の充実 |
| 9 | 食の健康づくり推進員*活動の充実 |
| 10 | その他（ _____ ） |
| 11 | 特にない |

*保健推進員：地域での健康づくりの担い手、また保健センターと地域とのパイプ役。地区単位で、健康づくり教室、栄養教室、健康体操、歩け歩け運動などを開催している。

*食の健康づくり推進員：保健センターや地域で食を通した健康づくりを進めるため、正しい食生活の啓発活動に取り組んでいる。

問 24 子育てしやすい環境を整えるために、岩倉市ではどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。【〇は3つまで】

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 1 | 育児休業や労働時間短縮など子育てしながら働き続ける環境の整備 |
| 2 | 男性が育児に関わりやすい制度の整備・強化 |
| 3 | 休日保育や一時保育、病児保育など多様な保育サービスの充実 |
| 4 | ファミリーサポート事業や子育て支援事業など子育て支援サービスの充実 |
| 5 | 子育てサークルなど子育て活動を行う団体の育成 |
| 6 | 子育てに関する情報の提供・相談体制の充実 |
| 7 | 妊産婦、乳幼児の健康診断や保育指導など母子保健サービスの充実 |
| 8 | 不妊治療の支援の充実 |
| 9 | 小学6年生までの受入れ拡大など放課後児童クラブの充実 |
| 10 | 安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備 |
| 11 | 子どもが犯罪、交通事故などから守られる地域環境の整備 |
| 12 | 児童手当等の拡充 |
| 13 | 子どもの医療にかかる負担の軽減 |
| 14 | 授業料の助成などの奨学事業の充実 |
| 15 | 子どもに対する多様な文化体験・スポーツ体験・社会体験機会の提供 |
| 16 | 子連れで外出しやすい施設やまちの環境整備の推進 |
| 17 | その他（ _____ ） |
| 18 | 特にない |

問 25 高齢者福祉として、岩倉市ではどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。
【〇は3つまで】

- 1 高齢者の就労機会を充実する
- 2 高齢者の健康づくりや健康相談の機会を充実する
- 3 地域の人たちが互いに支え合う仕組みづくりを進める
- 4 高齢者が集える場所を充実する
- 5 特別養護老人ホームやデイサービスなどの介護サービスを充実する
- 6 高齢者の経験や知恵が活かせ、ボランティアなど気軽に社会参加できる機会を提供する
- 7 道路の段差解消やスロープの設置など、高齢者が安心して外出できるまちづくりを進める
- 8 スポーツや文化活動などの趣味が楽しめる施設や機会を充実させる
- 9 その他 (_____)
- 10 特にない

問 26 高齢化が進行する中で、身近な地域における市民相互の助け合い活動が、今後ますます重要になってくると考えられます。あなたは、市内の地域福祉活動を活発にするために、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

- 1 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする
- 2 思いやりの心、やさしい心を育てるなど、学校や地域で福祉教育を行う
- 3 地域における市民のための活動拠点を整備する
- 4 ボランティアのための休暇や労働時間の短縮などについて企業が配慮する
- 5 障がいや認知症などの悩みを持つ人への理解のための地域づくりを行う
- 6 地域活動のリーダー等の養成や福祉活動の専門職員の充実を図る
- 7 助け合いの場や活動についての情報を得やすくする
- 8 介護やボランティア活動に関する研修を行う
- 9 市民参加による地域福祉活動が地域の中で展開できる組織をつくる
- 10 その他 (_____)
- 11 特にない

4 生涯学習について

問 27 生涯学習にはどのような目的があると思いますか。【〇は1つだけ】

- 1 仕事や就職・学業に必要な知識や能力を身に付けるため
- 2 市民活動などの社会貢献をするため
- 3 日常生活など暮らして役立つ知識や能力を身に付けるため
- 4 自分の人生をより豊かにするため
- 5 その他 (_____)
- 6 わからない

6 多文化共生*・平和について

*多文化共生：国籍や民族などの異なる人たちが、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生活すること。

問 30 岩倉市では、異なる文化の人々が一緒に生活できるまちをめざしています。そのためにどのような施策に力を入れていくべきと思いますか。【〇は3つまで】

- 1 保育園や学校などで子どもや青少年の交流の機会を増やす
- 2 地域の行事・自治会で交流の機会を増やす
- 3 文化活動・スポーツなどを通じた市民交流の機会を増やす
- 4 公共施設の外国語案内や生活情報紙の外国語表示を増やす
- 5 地域での言語の学習の機会を増やす
- 6 学校教育における国際理解や言語教育を充実させる
- 7 地域の国際理解活動を充実させる
- 8 国際交流・協力を推進する組織・団体等への支援や育成を図る
- 9 多文化共生に関する相談窓口を設置する
- 10 その他 (_____)
- 11 特にない

問 31 岩倉市では、次のような平和事業を行っています。あなたは、これらの事業についてご存知ですか。【あてはまるものすべてに〇】

- 1 戦没者追悼式
- 2 平和資料展
- 3 戦争被災者の体験を聞く会
- 4 小中学生を広島・長崎へ派遣する平和祈念事業
- 5 平和祈念市民参加事業（折鶴の作成）
- 6 平和に関する図書コーナー
- 7 核兵器廃絶都市宣言
- 8 平和に関する映画の上映会
- 9 その他 (_____)
- 10 全く知らない

7 環境について

問 32 毎日の暮らしの中で、環境のためにどのような工夫や努力を行っていますか。
【あてはまるものすべてに○】

- 1 省エネ商品やリサイクル商品の購入に努める
- 2 エコラベルなど、環境に配慮していると思われる企業の商品を優先的に購入する
- 3 過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋を持参する
- 4 食べ残しや作りすぎをしないなど、生ごみの減量化に努める
- 5 地域のごみの分別ルールを守る
- 6 日常生活において、できるだけごみを出さないようにしている
- 7 古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルに回している
- 8 修理できるものは修理し、不要なものはバザーやリサイクルショップなどを利用する
- 9 台所からの調理くずや油を流さない、洗剤の使用量を抑えるなど、生活排水に気をつける
- 10 自動車の利用をできるだけ控え、公共交通機関や自転車などを利用する
- 11 自動車を利用する場合はアイドリングストップを心掛けたり、空ぶかしをしない
- 12 電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など環境性能の高い自動車を購入する
- 13 自宅に太陽光発電、燃料電池や蓄電池などの設備を設置する
- 14 冷暖房の設定温度に配慮するなど、節電を心掛ける
- 15 花や樹木などを植えて緑を増やす
- 16 地域の環境保全活動に参加する
- 17 その他 (_____)
- 18 特にない

8 防災について

問 33 あなたは地震や台風などの災害や緊急時のために、現在どのような備えをしていますか。
【あてはまるものすべてに○】

- 1 食料や飲料水、日用品などの準備をしている
- 2 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している
- 3 家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している
- 4 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している
- 5 風呂に水をため置きしている
- 6 自宅の耐震化や耐震診断を実施している
- 7 自宅建物や家財を対象とした地震保険（地震共済を含む）に加入している
- 8 近くの学校や公園など、避難する場所を決めている
- 9 家族との連絡方法などを決めている
- 10 地域の防災訓練に積極的に参加している
- 11 その他 (_____)
- 12 特にない

9 岩倉駅東地区のまちづくりについて

問 34 岩倉市では、岩倉市の玄関口である岩倉駅東地区の整備を進めてきました。あなたは、岩倉駅東地区がこれから、どのようになると良いと思いますか。【〇は3つまで】

- 1 新しい飲食店や商店が増えて、食事や買い物が便利になる
- 2 道路が整備され、交通の流れがスムーズになる
- 3 防災や防犯の面で安全性が高まる
- 4 マンションなどが増えて、まちなか居住者が増える
- 5 駅のまわりが賑やかになり、まちに活気が生まれる
- 6 広場などでイベントが開かれるようになり、人が集まるようになる
- 7 歩道が整備され、ゆったりと歩き回ることができるようになる
- 8 街並みが整備されて景観が美しくなる
- 9 緑豊かでうるおいのある空間ができ、快適性が高まる
- 10 その他 (_____)
- 11 特にない

<岩倉駅東地区の整備について>

岩倉市の玄関口である岩倉駅東地区では、中心市街地の再生とにぎわい創出のため、市街地再開発事業などを行ってきました。2009年には、北街区市街地再開発事業により新たな道路や駅前広場、再開発ビルが完成し、駅直近の木造密集住宅地が解消されました。岩倉駅周辺では軽トラ市をはじめとして様々なイベント開かれるようになるなど、にぎわいの創出が進められています。

また、岩倉駅東地区には狭い道路と老朽化した木造建築物が、残る箇所もあることから、防災機能の強化や居住環境向上を目指して、都市計画道路桜通線の整備に2014年から着手しており、現在は用地買収を進めています。

整備イメージ



問 35 あなたは、岩倉駅東地区のまちにどのように関わりたいと思いますか。【〇は3つまで】

- 1 岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする
- 2 岩倉駅東地区に店を出したり、事業を始めたりする
- 3 岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ
- 4 岩倉駅東地区でのイベントの企画や運営に携わる
- 5 岩倉駅東地区で清掃や緑化などの美化活動に参加する
- 6 岩倉駅東地区にまちなか居住をする
- 7 その他 (_____)
- 8 特に関わりたくないことはない
- 9 岩倉駅東地区に行くことがないため、関わることはできない

10 市民参画や協働によるまちづくりについて

問 36 あなたは、「岩倉市自治基本条例*」を知っていますか。【〇は1つだけ】

- 1 内容をある程度知っている
- 2 内容はわからないが、聞いたことがある
- 3 知らない

*岩倉市自治基本条例：岩倉市における自治の基本となるルールであり、平成 25 年 4 月 1 日から施行されています。自治の基本的な考え方、市民・行政・議会などの役割や責務、協働の仕組み、わかりやすい市政運営の手段などを定めています。

問 37 あなたは、「岩倉市市民参加条例*」を知っていますか。【〇は1つだけ】

- 1 内容をある程度知っている
- 2 内容はわからないが、聞いたことがある
- 3 知らない

*岩倉市市民参加条例：市民の意見を広く市政に反映させることや協働によるまちづくりを推進するためのルールであり、平成 28 年 4 月 1 日から施行されています。より多くの市民の意見を反映していくための具体的な方法や協働のまちづくりへの支援策などを定めています。

問 38 市民の意見を十分に反映した市政を行っていくために、何が重要だと思いますか。

【〇は2つまで】

- 1 政策づくりの過程からの情報発信や意見募集
- 2 政策づくりに関わる各種委員の公募拡大
- 3 アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実
- 4 実施した政策の評価を市民参画で行うための機会の充実
- 5 市政情報の公開
- 6 市民が政策の提案を行える機会の充実
- 7 その他（ _____ ）

問 39 あなたは、これまでに、どのような方法で市政に参加したことがありますか。

【〇はいくつでも】

- 1 審議会や懇話会などの委員になる
- 2 意見交換会などに出席して意見を述べる
- 3 ワークショップに参加して議論する
- 4 アンケートなどに回答する
- 5 パブリックコメントで意見を提出する
- 6 その他（ _____ ）
- 7 市政に参加したことはない

問 40 あなたは、今後、どのような方法で市政に参加したいと思いますか。【〇はいくつでも】

- | |
|----------------------|
| 1 審議会や懇話会などの委員になる |
| 2 意見交換会などに出席して意見を述べる |
| 3 ワークショップに参加して議論する |
| 4 アンケートなどに回答する |
| 5 パブリックコメントで意見を提出する |
| 6 その他 (_____) |
| 7 市政に参加したいと思わない |

問 41 あなたは、地域での近所づきあいをどの程度していますか。【〇は1つだけ】

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| 1 付き合いがある | 3 どちらともいえない | 5 まったく付き合いがない |
| 2 ある程度付き合いがある | 4 あまり付き合いがない | |

問 42 あなたは、地域での近所づきあいに満足していますか。【〇は1つだけ】

- | | | |
|--------|-------------|------|
| 1 満足 | 3 どちらともいえない | 5 不満 |
| 2 やや満足 | 4 やや不満 | |

問 43 現在のあなたの市民活動や地域活動の参加状況についておたずねします。【〇は1つだけ】

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 既に参加している | 3 あまり参加しようとは思わない |
| 2 参加しようと思っている | 4 参加しようとは思わない |

- 参加している、参加しようと思っている活動は何ですか。
【あてはまるものすべてに〇】
- | |
|------------------------|
| 1 行政区や自治会の活動 |
| 2 P T Aの活動 |
| 3 子ども会など子育てに関する活動 |
| 4 老人クラブなどの活動 |
| 5 祭りなどの伝統的な行事 |
| 6 防災・防犯の活動 |
| 7 文化・芸術の活動 |
| 8 環境美化・自然保護活動 |
| 9 まちづくりの活動 |
| 10 地域のスポーツクラブ・サークル活動 |
| 11 地域の趣味・教養のクラブ・サークル活動 |
| 12 各種ボランティア活動 |
| 13 その他 (_____) |

- 参加しようと思わない理由は何ですか。
【あてはまるものすべてに〇】
- | |
|-----------------|
| 1 時間に余裕がない |
| 2 参加する方法がわからない |
| 3 気軽に参加できる機会がない |
| 4 家族の理解が得られない |
| 5 関心がない |
| 6 その他 (_____) |

11 行政経営について

問 44 岩倉市に対してどのような行政経営を求めますか。【〇は3つまで】

- 1 職員の意識改革・資質向上
- 2 市民参画・協働のまちづくりの推進
- 3 行政事務の効率化
- 4 公共事業や行政サービス*の見直し
- 5 民間活力の導入（民営化・民間委託等）
- 6 行政サービスの適正な受益者負担*
- 7 補助金の削減・見直し
- 8 広域行政の推進
- 9 その他（ _____ ）

*行政サービス：国や地方公共団体が、集めた税金等を用いて地域住民に対して行う奉仕活動や役務のこと。

*受益者負担：行政サービスを行う際、特にその利益を受けるもの（受益者）がその利益に応じてその経費を負担すること。

問 45 行政サービスと市民負担のバランスをどのように考えますか。【〇は1つだけ】

- 1 行政サービスの充実のために、市民全体の負担が増えるのは仕方がない
- 2 市民全体の負担が増えるのであれば、行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない
- 3 受益者負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきではない
- 4 行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により、財源を生み出すべき
- 5 その他（ _____ ）

12 市政の情報提供について

問 46 岩倉市では、次のような方法により市民の皆さまに情報提供をしています。あなたは、日ごろどの程度利用されていますか。【①～④について、それぞれ1つずつ選んで〇をつけてください。】

	よく利用している	ときどき利用している	あまり利用したことがない	まったく利用したことがない
① 広報いわくら	1	2	3	4
② 岩倉市のホームページ	1	2	3	4
③ 情報サロン（市役所1階）	1	2	3	4
④ ほっと情報メール	1	2	3	4

問 47 岩倉市に対して、今後どのような情報提供を充実してほしいと思いますか。
【〇は3つまで】

- 1 行政が行っている施策や計画に関する情報
- 2 市役所の業務内容や行政の様々な手続きに関する情報
- 3 公共施設の利用方法や利用時間などに関する情報
- 4 市や各種団体が主催するイベントや催し物の情報
- 5 各種講座や教室に関する情報
- 6 市内で活動している文化・スポーツ・福祉のサークルや団体に関する情報
- 7 いろいろな災害に備えるために必要な情報
- 8 救急医療などの医療機関に関する情報
- 9 育児講座など子育てに関する情報
- 10 学校行事などの子どもに関する情報
- 11 健康づくりに関する情報
- 12 健康診断・健康相談などの日程、内容に関する情報
- 13 福祉サービスに関する情報
- 14 ごみの収集日や地域の行事などの身近な暮らしの情報
- 15 その他 (_____)
- 16 特にない

◆岩倉市のまちづくりについて、ご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。



岩倉市PR大使い〜わくん

ご協力ありがとうございました。
「茶色の返信用封筒」に入れて、
9月10日(月)までに投函してね。

図表目次

図表 0-1	調査票の回収状況（年齢別）	2
図表 0-2	調査票の回収状況（小学校区別）	2
図表 0-3	標本誤差の範囲（年齢別）	3
図表 0-4	標本誤差の範囲（小学校区別）	3
図表 0-5	小学校区の位置	4
図表 I-1	性別（小学校区別）	5
図表 I-2	年齢（小学校区別）	6
図表 I-3	居住する小学校区	7
図表 I-4	職業（小学校区別）	8
図表 I-5	世帯のタイプ（経年変化）	9
図表 I-6	世帯のタイプ（年齢別）	10
図表 I-7	世帯のタイプ（小学校区別）	11
図表 I-8	居住年数（小学校区別）	13
図表 I-9	同居人（年齢別）	14
図表 I-10	同居人（小学校区別）	15
図表 II-1	周辺生活環境の評価	18
図表 II-2	周辺生活環境の評価（経年比較）	20
図表 II-3	周辺生活環境の評価（経年比較）	21
図表 II-4	前回（平成 25 年調査）から増加・減少した項目数（小学校区別）	22
図表 II-5	周辺生活環境の小学校区間の格差（経年比較）	23
図表 II-6	周辺生活環境評価の評点（小学校区別）	24
図表 II-7	周辺生活環境評価の分析（岩倉北小学校区）	25
図表 II-8	周辺生活環境評価の分析（岩倉南小学校区）	26
図表 II-9	周辺生活環境評価の分析（岩倉東小学校区）	27
図表 II-10	周辺生活環境評価の分析（五条川小学校区）	28
図表 II-11	周辺生活環境評価の分析（曾野小学校区）	29
図表 II-12	周辺生活環境評価の平均値との差（小学校区別）	30
図表 II-13	周辺生活環境の評価（住みやすさの評価別）	37
図表 II-14	回答数の総数と 1 人あたりの回答数の推移（平成 20 年調査基準）	39
図表 II-15	岩倉市の魅力がある点の上位 10 項目（経年比較）	40
図表 II-16	岩倉市の魅力がある点	41
図表 II-17	岩倉市の魅力がある点（年齢別）	42
図表 II-18	岩倉市の魅力がある点（小学校区別）	43
図表 II-19	岩倉市の魅力がない点の上位 10 項目（経年比較）	44
図表 II-20	岩倉市の魅力がない点	45
図表 II-21	岩倉市の魅力がない点（年齢別）	46
図表 II-22	岩倉市の魅力がない点（小学校区別）	47
図表 II-23	評価と得点	48
図表 II-24	施策に対する満足度の上位 10 項目	49

図表 II-25	施策に対する満足度の下位 10 項目	49
図表 II-26	施策に対する満足度	50
図表 II-27	施策に対する満足度（経年比較）	51
図表 II-28	施策に対する満足度（小学校区別）	52
図表 II-29	施策に対する満足度（住みやすさの評価別）	53
図表 II-30	施策に対する重要度の上位 10 項目	54
図表 II-31	施策に対する重要度の下位 10 項目	54
図表 II-32	施策に対する重要度	55
図表 II-33	施策に対する重要度（年齢別）	56
図表 II-34	施策に対する重要度（小学校区別）	57
図表 II-35	施策に対する重要度（住みやすさの評価別）	58
図表 II-36	施策に対する優先度の上位 20 項目（重要度と満足度の差）	60
図表 II-37	施策に対する優先度（重要度と満足度の差）	61
図表 II-38	ポートフォリオ分析	63
図表 II-39	ポートフォリオ分析図の見方	63
図表 II-40	施策の優先度（小学校区別）	64
図表 II-41	住む場所としての評価（経年比較）	66
図表 II-42	住む場所としての評価（今回調査：小学校区別）	67
図表 II-43	住む場所としての評価（平成 25 年調査：小学校区別）	68
図表 II-44	住む場所としての評価（平成 20 年調査：小学校区別）	68
図表 II-45	「子育てするまち」としての評価（年齢別）	69
図表 II-46	「子育てするまち」としての評価（世帯の構成者別）	69
図表 II-47	「児童・生徒・学生が生活するまち」としての評価（年齢別）	70
図表 II-48	「児童・生徒・学生が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）	70
図表 II-49	「主婦・主夫が生活するまち」としての評価（年齢別）	71
図表 II-50	「主婦・主夫が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）	71
図表 II-51	「家族で休日や余暇を過ごすまち」としての評価（年齢別）	72
図表 II-52	「家族で休日や余暇を過ごすまち」としての評価（世帯の構成者別）	72
図表 II-53	「高齢者が生活するまち」としての評価（年齢別）	73
図表 II-54	「高齢者が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）	73
図表 II-55	「健康で幸せに暮らすするまち」としての評価（年齢別）	74
図表 II-56	「健康で幸せに生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）	74
図表 II-57	総合的な住みやすさの評価（小学校区別 経年比較）	76
図表 II-58	総合的な住みやすさの評価（年齢別）	77
図表 II-59	総合的な住みやすさの評価（居住年数別）	78
図表 II-60	定住意向（小学校区別 経年比較）	80
図表 II-61	定住意向（年齢別）	81
図表 II-62	定住意向（居住年数別）	82
図表 II-63	定住理由（定住意向別）	83

図表 II-64	移転理由（移転意向別）	84
図表 II-65	住環境の問題点（経年比較）	86
図表 II-66	住環境の問題点（小学校区別）	87
図表 II-67	まちづくりのルールに対する考え（小学校区別 経年比較）	89
図表 II-68	まちづくりのルールに対する考え（年齢別）	90
図表 II-69	まちづくりのルールに対する考え（住環境の問題意識別）	91
図表 III-1	健康状態（経年比較）	93
図表 III-2	健康状態（年齢別）	94
図表 III-3	健康状態（世帯の構成者別）	95
図表 III-4	体力（年齢別）	96
図表 III-5	スポーツ・運動の実施（性別）	97
図表 III-6	スポーツ・運動の実施（年齢別）	98
図表 III-7	スポーツ・運動の阻害要因（性別）	99
図表 III-8	スポーツ・運動の阻害要因（年齢別）	100
図表 III-9	スポーツの将来展望（年齢別）	101
図表 III-10	健康維持・増進のための行動（経年比較）	103
図表 III-11	健康維持・増進のための行動（年齢別）	104
図表 III-12	食生活での心がけ（性別）	105
図表 III-13	食生活での心がけ（年齢別）	106
図表 III-14	食育についての関心（性別）	107
図表 III-15	食育についての関心（年齢別）	108
図表 III-16	食育についての関心（世帯の構成者別）	109
図表 III-17	力を入れるべき健康づくりの施策（性別）	110
図表 III-18	力を入れるべき健康づくりの施策（年齢別）	111
図表 III-19	力を入れるべき健康づくりの施策（世帯の構成者別）	112
図表 III-20	子育てに関する施策への要望（経年比較）	114
図表 III-21	子育てに関する施策への要望（年齢別）	116
図表 III-22	高齢者福祉に関する施策への要望（経年比較）	118
図表 III-23	高齢者福祉に関する施策への要望（年齢別）	119
図表 III-24	高齢者福祉に関する施策への要望（小学校区別）	120
図表 III-25	地域福祉に関する施策への要望（経年比較）	122
図表 III-26	地域福祉に関する施策への要望（年齢別）	123
図表 III-27	地域福祉に関する施策への要望（小学校区別）	124
図表 IV-1	生涯学習の目的・動機（年齢別）	125
図表 IV-2	生涯学習の参加状況（経年比較）	127
図表 IV-3	生涯学習の参加状況（年齢別）	128
図表 IV-4	生涯学習の参加意向（経年比較）	130
図表 IV-5	生涯学習の参加意向（年齢別）	131
図表 IV-6	生涯学習の参加状況と参加意向（合算）	132
図表 IV-7	男女共同参画に関する施策への要望（経年比較）	134

図表 IV-8	男女共同参画に関する施策への要望（性別）	135
図表 IV-9	男女共同参画に関する施策への要望（年齢別）	136
図表 IV-10	多文化共生に関する施策への要望（経年比較）	138
図表 IV-11	多文化共生に関する施策への要望（年齢別）	139
図表 IV-12	多文化共生に関する施策への要望（小学校区別）	140
図表 IV-13	平和事業に関する認知状況（経年比較）	142
図表 IV-14	平和事業に関する認知状況（年齢別）	143
図表 V-1	環境のための取組の実施状況（年齢別）	146
図表 V-2	災害のための取組の実施状況（年齢別）	148
図表 V-3	岩倉駅東地区のあり方（年齢別）	150
図表 V-4	岩倉駅東地区のあり方（小学校区別）	151
図表 V-5	岩倉駅東地区への関わり方（年齢別）	153
図表 V-6	岩倉駅東地区への関わり方（小学校区別）	154
図表 VI-1	自治基本条例の認知度（年齢別）	155
図表 VI-2	市民参加条例の認知度（年齢別）	156
図表 VI-3	市民の意見の市政への反映で重要なこと（年齢別）	157
図表 VI-4	市政への参加経験（年齢別）	158
図表 VI-5	市政への参加意向（年齢別）	160
図表 VI-6	市政への参加意向（市政への参加経験別）	161
図表 VI-7	近所づきあいの程度（年齢別）	162
図表 VI-8	近所づきあいの程度（小学校区別）	163
図表 VI-9	近所づきあいの満足度（年齢別）	164
図表 VI-10	近所づきあいの満足度（小学校区別）	165
図表 VI-11	近所づきあいの満足度（近所づきあいの程度別）	166
図表 VI-12	市民活動や地域活動の参加状況（年齢別）	167
図表 VI-13	市民活動や地域活動の参加状況（小学校区別）	168
図表 VI-14	参加している・参加したい市民活動（年齢別）	169
図表 VI-15	参加している・参加したい市民活動（合算）	170
図表 VI-16	市民活動の参加の阻害要因（年齢別）	171
図表 VI-17	行政経営に対する要望（経年比較）	172
図表 VI-18	行政経営に対する要望（年齢別）	173
図表 VI-19	行政サービスと市民負担のバランス（経年比較）	174
図表 VI-20	行政サービスと市民負担のバランス（年齢別）	175
図表 VI-21	情報提供媒体の利用状況	176
図表 VI-22	「広報いわくら」の利用状況（年齢別）	177
図表 VI-23	「岩倉市のホームページ」の利用状況（年齢別）	178
図表 VI-24	「情報サロン」の利用状況（年齢別）	179
図表 VI-25	「ほっと情報メール」の利用状況（年齢別）	180
図表 VI-26	情報提供に対する要望（経年比較）	182
図表 VI-27	情報提供に対する要望（年齢別）	184